

(2) 2019年度第2クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	191
人文学部	人類文化学科	196
人文学部	心理人間学科	202
人文学部	日本文化学科	207
外国語学部	英米学科	211
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	219
外国語学部	フランス学科	223
外国語学部	ドイツ学科	226
外国語学部	アジア学科	229
経済学部	経済学科	231
経営学部	経営学科	238
法学部	法律学科	249
総合政策学部	総合政策学科	256
理工学部	システム数理学科	264
理工学部	ソフトウェア工学科	266
理工学部	機械電子制御工学科	268
国際教養学部	国際教養学科	272
短期大学部	英語科	278
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	279
教職センター		281
情報センター		283
外国語教育センター		284
体育教育センター		294
保健センター		296
南山宗教文化研究所		296
人類学研究所		297
社会倫理研究所		297

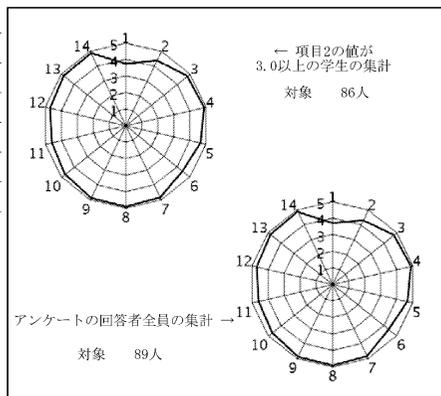
非常勤教員

【所属】

人文学部	人類文化学科	298
人文学部	日本文化学科	300
外国語学部	英米学科	304
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	305
外国語学部	フランス学科	305
外国語学部	ドイツ学科	306
外国語学部	アジア学科	307
経済学部	経済学科	307
経営学部	経営学科	310
法学部	法律学科	312
総合政策学部	総合政策学科	314
共通教育	仏語	314
共通教育	中国語	315
共通教育	日本語	316
共通教育	共通	318
共通教育	体育	330
共通教育	韓国朝鮮語	331
教職センター		331
外国語教育センター		332

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[HC・HJ]
授業コード	10A01-001
教員名	佐藤 啓介
教員コード	102874
登録人数	138
回答数	89
回答率	64.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



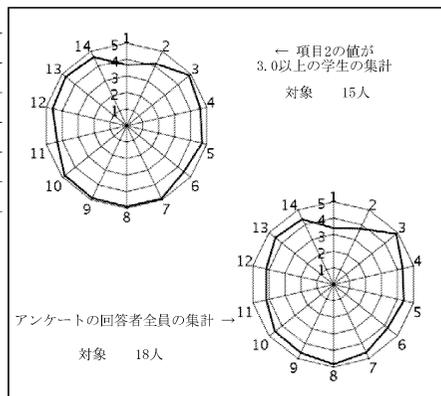
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この科目は、以下の4点を到達目標としていた。「1. 宗教を構成する基本的な要素や、その社会における役割を理解している」「2. 宗教的なものに対する人間の関心や関わりを考えることで、人間そのものへの理解が深まっている」「3. 現代世界において多様な信仰をもつ人々に対する寛容や理解の姿勢を身につけている」「4. 無宗教から宗教を考える視点や、宗教のもつある種の危うさへのまなざしなど、宗教を多角的に考えられる」。授業の全体的な満足度は4.89とかなり高かったが、到達目標に関する項目については、「この授業の到達目標を理解することができましたか」が4.67と一定の数値であったのに対し、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が4.39と、他の項目に比べると相対的にはやや低い数値となった。これは、到達目標が明確な「能力」として示されていないことに一因があるのかもしれない。

②③数値データおよび自由記述からは、授業の内容・進め方・資料など、多くの面で学生の高い評価を得ていることがうかがえ、この方式を維持していくよう努めたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[P]1
授業コード	10A01-013
教員名	VARGHESE, Rejimon
教員コード	100555
登録人数	21
回答数	18
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2019年Q2で宗教論 [P] 1を担当させていただきました。

この授業は、啓示宗教についてでした。とりわけ、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教といった一神教の理解や関連性を巡る授業でした。そのために、まず宗教学とは何か、何故宗教が必要かを取り上げて講義しました。

したがって、シラバスに挙げた目標に到達したを思います。

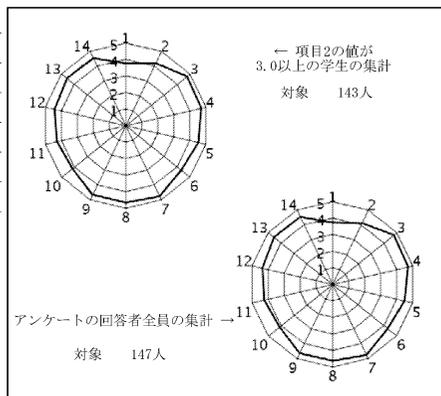
1. 定期試験より受講生は宗教学や宗教の必要性を理解してくれたと思われる。それに、この三つの宗教に属する人々の想いや考えや生活習慣などが理解できたことでHそう。さらに、この三つの宗教に属する信徒と将来における接触も有利になったかと思えます。

2. 受講生の評価や自由記述の結果と見なされる数値データに満足していません。誰もこの授業を悪く評価していません。講義のペースや講師の声は十分適切だったと評価されています。講義ばかりでなく、時折、ビデオも見せて講義内容をもっと解りやすくしました。学生さんの方からの準備態度などは少しいまいだったかに見えます。

3. 次クォーターに、学生の参加や準備態度が増えるような工夫しなければならないと思います。そのために、講師による一方的講義ではなく、講師と学生と間のやりとりが必要となってくると思います。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[P]2
授業コード	10A01-014
教員名	HERA, Marianus Pale
教員コード	102689
登録人数	150
回答数	147
回答率	98.0%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回もこの授業に参加する学生が150名という大教室の授業でした。宗教に対して苦手な学生が多く、この授業へ関心が低かったことは質問1の回答にも現れます（平均点：3.74）。

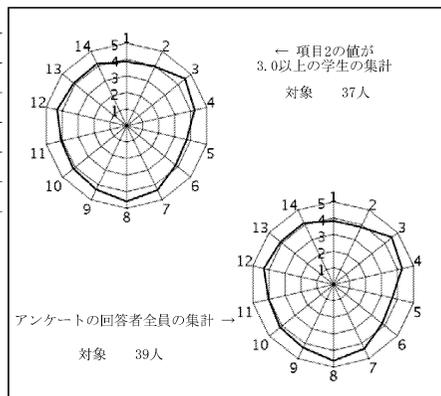
授業内容に関して、ほとんどの学生は万足していますが、数名の学生は入門科目というよりはもっと専門的な内容を期待していたことがわかりました。宗教論は入門科目として設定しているので、ほとんど宗教に関して基礎知識がない学生に合わせるつもりで準備していますが、今後はこのような学生もいることを配慮していくことも必要だということを反省しています。

授業進行に関して、今回は多くの学生は授業内容をWebClassに乗せることを提案しています。ノート取りを通して学ぶという方針で授業計画をしていますが、授業内容をWebClassに乗せる可能性も検討していきたいと思っています。また、ディスカッションなどアクティブラーニングが出来なかったという声も上がっていましたが、大教室でも学生同士の意見交換などが出来るように工夫する必要性を感じています。

興味がない授業にもかかわらず、最終的學生は万足しており、授業の目的を達成していると思います。今後は上記取り上げている学生の意見などをも念頭にしながら、授業改善をはかっていくと思っています。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	思想史に学ぶ人間の尊厳5
授業コード	10D03-005
教員名	渡邊 学
教員コード	017186
登録人数	93
回答数	39
回答率	41.9%
休講回数	0回
補講回数	0回

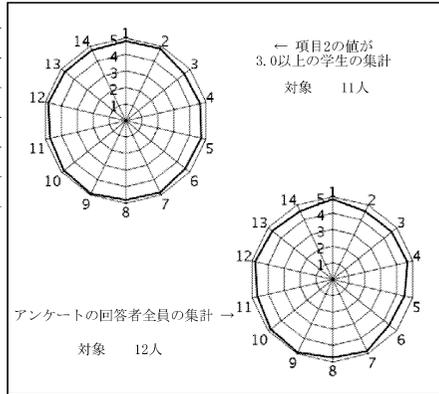


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標はレポートから判断するかがり、だいたい目標を達成することができた。この講義では教科書は使わず、配付資料とPowerPointと板書によって講義を進めた。板書を除いて、それらは、質疑応答のPowerPointを含めて、講義の20～30分前にあらかじめ講義資料をWebClassにすべて掲出した。毎回、講義の初めにリアクションペーパーを配布し、講義の終わりに時間を取って記入させ、毎回、次の講義までにそれぞれに返答を記入し、それに答える形で受講生の質問や要求や感想に答える努力をした。全体で共有すべき質問に関しては、講義においてもとりあげて解説を施した。学生の自由回答には、「わかりやすい」「質疑応答がとても充実していてよかった」「派生した学習が促された」などが挙がっていたからである。他方、「難しい」という意見も一部挙がっていた。反省点としては、教科書を使わなかったためにPowerPointの容量が過剰になったため、一部ノートが取れないという苦情があった。さらにPowerPointを簡略化する可能性も視野に入れたいと思う。さらに、リアクションペーパーのシステムを悪用し、友人にリアクションペーパーを確保させ、1時間近く遅刻してくる学生も散見された。システム上、十分な対策が取れなかった。良心的な学生から「著しい遅刻者に対してもう少し厳しくしてもいいかなと思いました」といった苦情が寄せられた。今後、どのように対応すべきか懸案事項としたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語I講読<全>2
授業コード	11J05-002
教員名	松根 伸治
教員コード	101833
登録人数	20
回答数	12
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



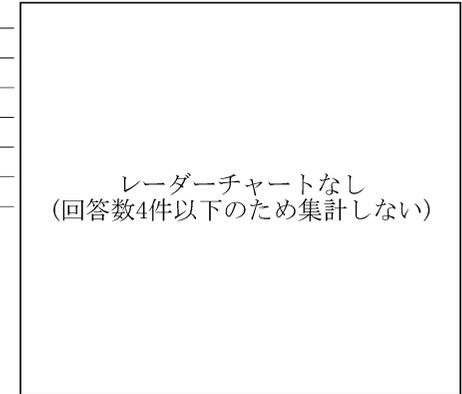
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期の到達目標には、「分詞の用法を身につけている」「ラテン語の文章読解の基本的手順を理解している」の二点をあげていた。授業での問題演習と提出課題の内容から見て、目標はおおむね達成されたものと判断できる。受講生の自己評価の面でも、設問6（到達目標に向けて力がついてきていると思いませんか）の平均は4.42で、まずまずの結果である。具体的な授業の進め方についての評価が比較的高く（設問7から設問12）、工夫を加えた点が評価されているようでよかった。

教科書の進度は例年通りで、とくに現在分詞・過去分詞の用法と奪格別句の理解に重点をおいた。さらに、提出された読解レポートを返却し、それをもとにラテン語原文を読む際の注意点をくわしく確認できたのは効果的だった。学んだ文法事項が実際の読解の場面でのどのように役立つかを少しは実感してもらえたことと、ローマの読書文化などの話題にふれる機会をもったことが、秋以降の学習意欲の持続にもつながると思われる。今後も、授業の組み立てと課題の内容をよく考え、できるだけ単調にならないよう努力したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語III講読<全>
授業コード	11J07-001
教員名	岡寄 隆哲
教員コード	103614
登録人数	8
回答数	2
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
1Qの「ラテン語Ⅲ文法」に引き続いて、ラテン語Ⅰ、Ⅱをとおし一通り学んだ文法の知識をもとに、ラテン語の読み物、文献をかたんなレヴェルから段階的に講読し、初級から中級レヴェルのラテン語の文献に親しむとともに、中級レヴェルまでの文法内容、語彙を確実に身につけて行くという目標にたいし、該当テキストを一定の速度で読み進め、定期的にVocabularyを覚えてもらうためのプリントを配布して書き込んでもらうなどによりあるていどの成果を得られていると考える。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
テキスト講読にあたり、毎回の予習、Vocabularyチェックの問題にたいする準備など、他の授業にくらべてやや予習・準備の負担が大きいと考えられる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
Readingテキストの内容が、進むにつれて文法内容的に高度になって行くにあたり予習の負担も増えることになるが、受講生の文法内容の習得度、現段階での講読能力の度合いなどを正しく見きわめつつ、進度の決定や文法説明などをして行くことが求められる。ラテン語の習得という困難な課題と、それにたいする受講生の勉強量の負担の兼ね合いについて、より適切な判断が必要になる。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教史(古代・中世教会史)＜国際科目群＞
授業コード	21C03-901
教員名	CAVALLAR, Osvaldo
教員コード	018820
登録人数	12
回答数	2
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

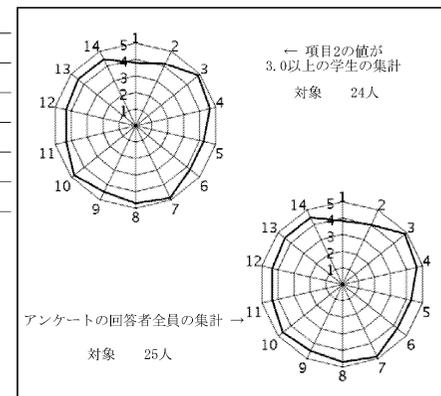
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of the course was to introduce the students to some of the themes of the history of Christianity in Europe from Late Antiquity to the end of Renaissance, for instance monasticism in the East and in the West. The focus this year was on the role Roman legal culture played in the life of the Church and on the diffusion of the Universities in the Middle Ages and their impact on society, e.g., the creation of new professions, and the development of a new mode of learning. Since legal culture may be a bit dray, the other key point was the development of Christian architecture from the Romanesque to the Gothic (there was not enough time to take up Renaissance architecture). The part on architecture could be made a little bit more interactive (e.g., having the students sketch a building in a certain style). A further point that should be consider is the use of documents and training the students to read them critically.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中世哲学史I
授業コード	21C13-001
教員名	井上 淳
教員コード	100301
登録人数	95
回答数	25
回答率	26.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

中世哲学史 I ではキリスト教の誕生から始まり、6世紀のボエティウスまでの思想史を概観する。授業の順序と内容は次のとおりである。キリスト教の誕生、キリスト教の発展、グノーシス主義、ストア学派、アレクサンドリアのフィロン、ロゴス・キリスト論、新プラトン主義（1）、新プラトン主義（2）、アウグスティヌス（1）、アウグスティヌス（2）、アウグスティヌス（3）、ディオニュシオス文書、ボエティウス。時代としては中世以前の古代に属する思想家たちも扱うことになるが、キリスト教思想とのつながりを考慮するならば、どうしても触れておかざるを得ない。お話しする順番も、つながりがより分かりやすいように工夫した。さて評価についてであるが、ほとんどの項目で評価4以上を得ており、まずまずの高評価を得られているように思われる。今回は座席指定を取り入れ、その効果もあって、非常に静かに授業を聞いてもらった。座席指定は、登録が定まった後の第3回目から導入し、それまでの間に前の列を希望する人を知ることができて配慮できたので、その点もよかったと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教史II
授業コード	21C58-001
教員名	MCMULLEN, Matthew
教員コード	103838
登録人数	10
回答数	2
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

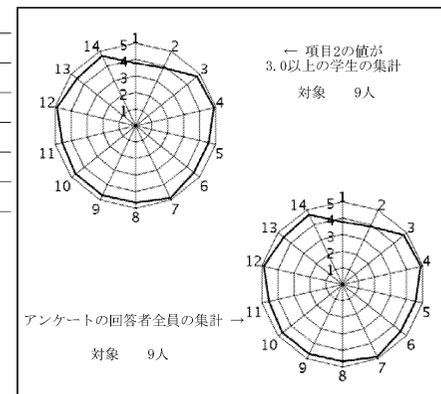
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This year's course was an improvement from last year. I spent more class time on group work and less time lecturing, which I think was more enjoyable for the students. Next year I plan to assign more reading to help prepare for class discussion.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	実践神学B
授業コード	21C77-001
教員名	鳥巢 義文
教員コード	017848
登録人数	18
回答数	9
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標と達成

「説教」の課題と役割について、受講者自身が実践をとおして基本を習得することを目指した。クォーター前半は関連文献の研究によりキリスト教神学における説教の使命を学び、また、福音書を素読する方法を体験してもらった。これにより、受講者は福音書のメッセージを自ら把握し、イエスの時代と現代との間の「生活の座の融合」という視点を学んだ。中盤では、文芸作品の鑑賞をとおして、受講者の日常における「イエスのまなざし」の発見を試みた。後半では、受講者自身が説教を実践し、受講者相互に評価を行った。

② 点検・評価

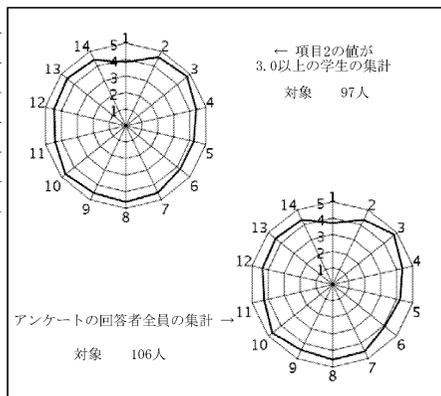
設問5の「目標理解」が4.56ポイントで、設問14の「満足」が4.67ポイントであった。これは、設問1の「履修前の興味」が3.78ポイントであったことを踏まえると、評価されたものといえる。また設問4「構成と速度」、7「取り組みの誠実さ」、12「質問の機会と指導」では、いずれも4.89ポイントと評価された。自由記述には、音楽、映画鑑賞をする機会が設けられており、いろいろと考えることができた。実際に説教をすることにより、実践的に説教とは何かを学べた等のコメントがあった。

③ 改善と抱負

福音書に加えて、教材として文芸作品を用いながら、福音書のイエスの視点との類比を発見する方法は、今後も継続し、適切な教材を考えていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[P]3
 授業コード 10A01-018
 教員名 ANTONY SUSAI RAJ
 教員コード 103820
 登録人数 118
 回答数 106
 回答率 89.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

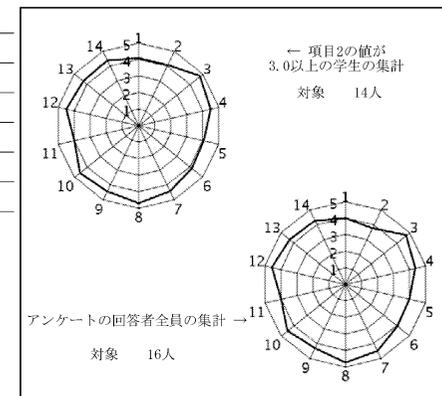
The goal set for the course is to make the students learn about the origin, history, values and ceremonies of different religions. They were given the basic inputs on different religions by using power points, videos and necessary materials. They were also given a chance to visit places of worship of different religions. By which, they had a given chance to have the first hand experience.

4 out of 5

Next semester I will try to give inputs on all major religions as we could cover only 4 major religions this time

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学・倫理学における人間の尊厳1
 授業コード 10D02-001
 教員名 谷口 佳津宏
 教員コード 016550
 登録人数 32
 回答数 16
 回答率 50.0%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

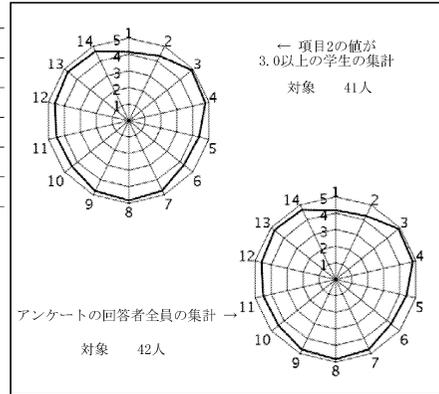


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業の到達目標は「1. 南山大学の理念を第三者に説明することができる。2. ヒトと理性的存在者の異同を説明することができる。3. 法と道徳の違いを説明することができる。4. 哲学書のある程度理解することができる」であった。南山大学の理念をラテン語で書けという設問を含む期末試験の成績からみれば、上記1.の目標に到達した学生は受験者総数31名中1名のみであった。南山大学の理念に関しては、授業内でカントの尊厳観念との関連で説明したのであるが、にもかかわらずこうした結果となった一因としては、「大事な事だけ二回言ってほしい」という自由記述欄にあった言葉も示しているように、学生の側に学び方の基本が身につけていないこともあるように思われる。設問2をのぞき、他はすべて4点台であったのでまずまずの評価かと思われるが、それでも人間の尊厳科目全体の平均以下であるので、今後さらに授業改善の努力を重ねる必要がある。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	哲学・倫理学における人間の尊厳4
授業コード	10D02-004
教員名	和泉 悠
教員コード	103645
登録人数	46
回答数	42
回答率	91.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

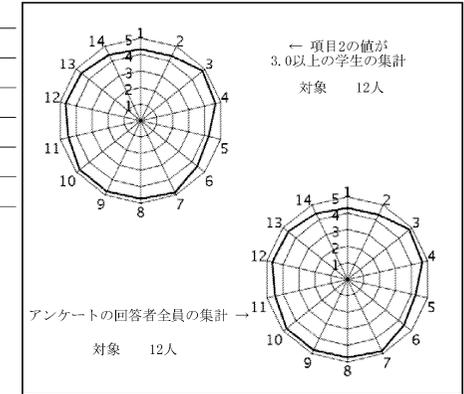


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
到達目標1、2、3、4それぞれについて、授業内課題の解答、口頭での議論の内容を踏まえるに、十分に到達できたと考える。たとえば、動物倫理のトピックに関して、いくらまでならば動物福利に配慮した商品を購入するのか、といった具体的な設問に具体的な例をあげて答える（食費にいくらかけるとして、1,000円くらいまでは…）とった議論ができていた。また、ランダム配置による討議の時間をできる限りもうけたので、その際に交互に意見をのべる、課題をこなす、といった作業を通じて、他者の意見を聞く機会を得ることができた。しかしながら、とくに4の議論の妥当性や説得性の判断する能力について、期末テストの答案を考えると、まだ改善の余地があると考えます。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値および自由記述も肯定的な回答が多いと考える。また、具体的な議論をさせる点、討議の機会を設けている構成なども肯定的な回答が多いため今後もその要素は変えないようにしようと思う。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今年度は、課題を細分化し作業を増やすことにより集中力の持続をはかる、という構成を行った最初の年であり、まだ個別の課題設定、全体のバランスなどに改善の余地があると考えます。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ギリシャ語II文法<全>
授業コード	11K02-001
教員名	坂下 浩司
教員コード	100471
登録人数	20
回答数	12
回答率	60.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

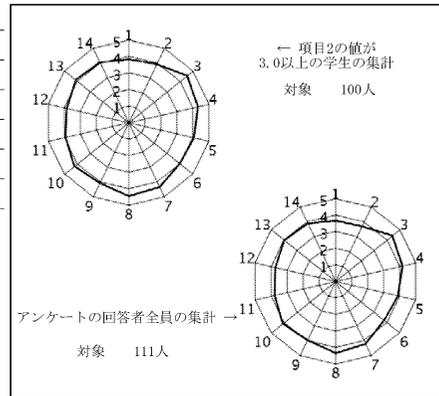


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標、「古典ギリシア語の初級文法のさらに進んだ知識が身につけている」は、定期試験の結果を見る限り、かなり達せられていた。ただ、名詞・形容詞・動詞の規則変化語尾や不規則変化形の暗記といった基礎的・形式的なことは小テストを何度もしていたこともあってかなりよくできていたが、ランダムに出題されるギリシア語の文の発音は、授業中繰り返し注意をうながした点（「ハイデース」ではなく「ハーデース」と発音するなど）であっても少なからぬ人が間違っており、応用力の点では次学期に課題を残したかもしれない（音読課題をもう少し増やしてみようことを考えている）。数値データに関しては「4」以上であり、質問項目7番「教員の授業に取り組む姿勢の誠実さ・真剣さを感じたか」が「4.83」だったのはよかったが、自由記述で「学生と教員の言葉のキャッチボールがうまくできていないと感じられるときがあった」ともあり、こちらとしては、特に教室のうしろ2列目くらいまでに着席してしかもマスクまでしている方とのやりとりは、もごもごしていてもそもそも何をおっしゃっているのかよく聞こえないことすらあり、たしかにむずかしかった。教壇をおりて教室のうしろまで行くことも考えている。Q1で「板書が細いペンで書かれていて読み取りづらい」とあったので必ず太いペンで大きく書くようにしていたのだが、改善されたか感想をききたかったところである。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イスラムとの出会い1
授業コード 13B03-001
教員名 石原 美奈子
教員コード 100080
登録人数 403
回答数 111
回答率 27.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

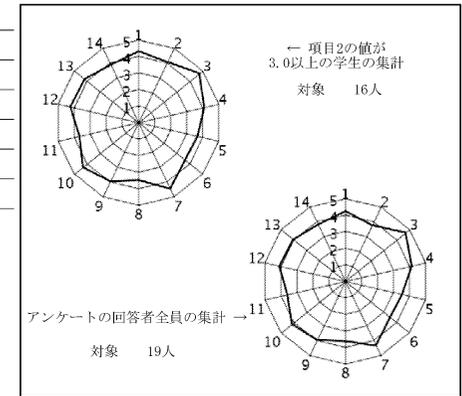


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業は、イスラームの基本的知識とその成り立ち、現代までの発展の歴史を概説することを趣旨とするものである。授業内容は、パワーポイントのスライド（⑮まで）にまとめ、事前にウェブクラスにアップロードした。また、復習と知識定着のために、小テストを計5回実施した。小テストは、あくまで復習のためのものであり、評価は定期試験だけで行う旨、事前にアナウンスしておいた。
- ②スライドのなかには、細かな歴史的事実をまとめたものもあり、「字が細かすぎて見えない」というクレームが数多くあった。これについては、ウェブクラスで事前にアップしてあるので、拡大したら見えるものと思っていた面もある。また小テストについては、アップしておらず、撮影も禁止した。小テストの文字が小さいという指摘も受けた。授業中のお喋りについては、その都度厳重に注意したつもりであるが、教室が大きく、人数も多く、注意が行き渡らない部分もあったかと思う。
- ③②での指摘を受けて、次クォーターに向けて、(i)パワーポイント資料の改訂、(ii)小テストの改訂、(iii)お喋りをする学生への注意の厳格化、を実施したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命観と環境観の変遷2
授業コード 13D05-002
教員名 横山 輝雄
教員コード 015149
登録人数 39
回答数 19
回答率 48.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

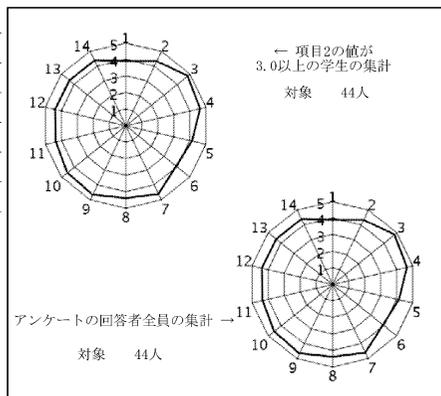


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
項目5（到達目標の理解）が3.53、項目6（到達目標にむけて力がついてきたか）が3.47であった。項目1-14の平均3.96と比べると、若干低くなっている。今後、目標の提示をより明確にし、到達の確認を行いたい。
2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値の高いものは、項目3（授業の開始・終了時間）、項目7（担当教員の授業への姿勢）、項目1（授業内容への興味）であり、それに対して数値が低かったのは、上記項目5、6であった。自由記述では「教科書の内容と授業の話が面白かった」「内容が多岐にわたっていて、かつ詳細」などの指摘があった。
3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負など
上記2が示しているのは、興味や関心があるが、それが到達目標の理解とそれに向けての取り組みとして十分自覚されていないことである。全体の平均点3.96をより高くすることを目指すとともに、とりわけ上記1で問題となった、到達目標にかかわることを今後より強調していくようにする必要がある。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報サービス論
授業コード 15P03-001
教員名 浅石 卓真
教員コード 103263
登録人数 60
回答数 44
回答率 73.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

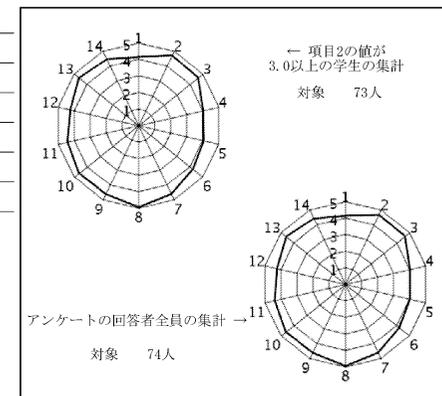
開講当初に設定した目標は「1. 情報サービスに関する基本的な知識を習得できる」「2. 「情報サービス演習」に必要な参考図書およびデータベースの知識を習得できる」「3. 既存のパスファインダーを分析・評価できるようになる」である。1と2については授業内の小テストの結果（平均で約7割）を見ると、ほぼ達成できたと考えている。3についてはグループワークで発表させたこともあり、複数の視点から多角的に分析・評価ができた。

項目1-14及び3-14の平均は、いずれも同程度の登録者数（31-60名）の平均を上回っており、大きな問題はないと考える。また、2Qから講義資料を冊子形態で配布したが、自由記述を見ると好評のようなので、これは良い変更であったと考えている。

出来るだけ一方方向の講義とならないように、授業中に学生に質問して答えさせる制度を取り入れたが、「やめてほしい」という意見が自由記述で見られた。次クォーター以降も続けるかは、受講生に直接聞くなどして判断したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語学入門
授業コード 22C01-001
教員名 林 晋太郎
教員コード 103741
登録人数 90
回答数 74
回答率 82.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

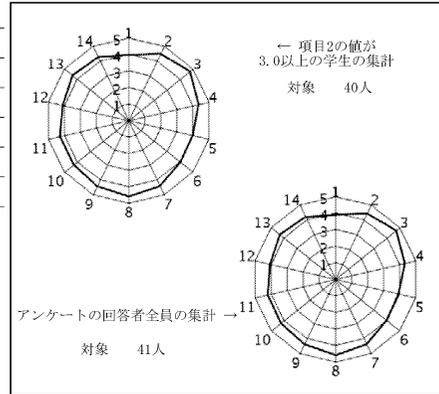
①本科目の到達目標は、(i) 言語学は「認知科学」の一分野であることを具体的な例を用いて他人に説明できる、および(ii) 様々な異なった特徴を持つ様々な言語の間にも普遍的な特徴があることが理解でき、具体的な例を用いて他人に説明できる、の2つであった。2回実施した小テストや期末試験の平均的な出来に鑑みると、設定した2つの目標は概ね達成できたと考えられる。

②本科目は、授業評価の設問1-14の平均値が4.45であった。この数値は、全体の平均値(4.32)と、人類文化学科の平均値(4.28)を上回っている。また、本科目の設問3-14の平均値も4.45であり、この数値も同様に、全体の平均値(4.37)と人類文化学科の平均値(4.31)を上回っている。いずれの項目の平均値も4.00を上回っていたものの、設問4の平均値は4.03であり、同設問の全体の平均値(4.43)、および人類文化学科の平均値(4.27)と比べると、この項目はやや低く評価されている。これは、問題を解く時間を授業中に十分に確保できなかったことが複数回あったことが、やや低い評価の原因のひとつであると考えられる。また、扱う内容の難しさを指摘する声もあり、説明に割いた時間が十分でなかった可能性もある。

③本科目では、毎回WebClass上で教科書に基づく予習課題を与え、次回の授業までに解答することを成績評価の一部に組み込んだ。この取り組みを肯定的に評価する自由記述回答が複数あったため、次クォーター以降も継続して取り入れたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文化史B
授業コード	22C42-001
教員名	青山 幹哉
教員コード	019323
登録人数	110
回答数	41
回答率	37.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

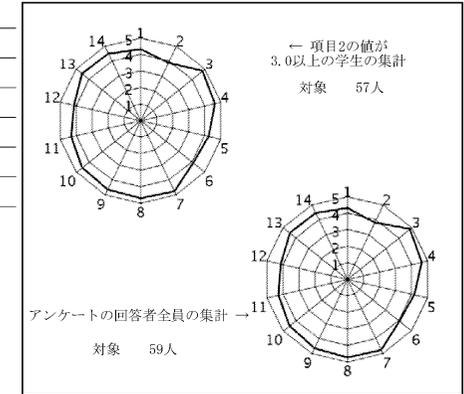


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 到達目標は、「1. 歴史認識の形成過程を文化史的に考えることができる。2. 歴史叙述の内容について、複数の視点から分析することができる。」であった。成績評価B以上の学生数は55名(期末試験受験者数の59%)であった。出席率を加味すると、おおむね目標は達成できたものとする。
- ② 本科目は2018年度Q1学期における学生評価の対象であったので、同一項目を比較すると、今回、アップした項目は3、ダウンした項目は11、という結果となった。ただし前回に比べると受講生がほぼ倍増し、本来の対象学科である人類文化学科以外からの受講生が増加したことも影響したように思う。自由記述を見ると、「世界史選択だったけどよく分かった」とする回答がある一方、「日本史に詳しい人しかついていけないと思った」との回答もあり、やはり、受講生の能力・知識の差が大きいと感じた。期末レポートについては、授業期間の中間である8回目に告知したが「Q制では期間が短く、難しすぎる」との意見もあった。
- ③ 今回、受講生が100名を超えたのでWebClassを多用してみた。プリントについては、学生は紙での配付を希望し、Webからダウンロードした学生はきわめて少数であった。小レポートの提出については、Webの効果が感じられたので、次回も引き続きWebを活用していくつもりである。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域の文化と歴史(環太平洋)
授業コード	22C44-001
教員名	吉田 竹也
教員コード	019158
登録人数	91
回答数	59
回答率	64.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

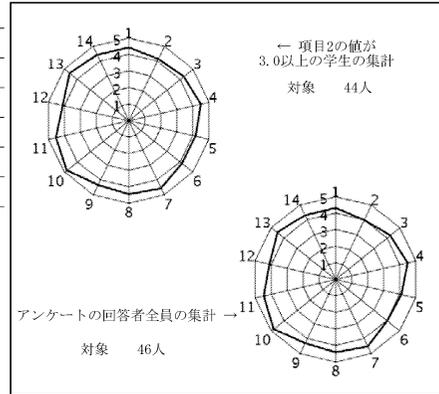


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業は、人類文化学科の選択科目であり、世界各地・各時代に焦点を当てる「地域の歴史と文化」カテゴリーの1科目である。具体的には、奄美・沖縄地域を「琉球弧」という名称で捉え、多数の島嶼からなるこの地域の文化と歴史を、地理学、歴史学、考古学、文化人類学、社会人類学、島嶼経済学、ポストコロニアル研究、観光人類学など、学際的な知見を動員し、私自身のフィールドワークによるデータとも組み合わせ、総合的に理解しようとするものである。
- 授業評価からは、学生がこうした授業の趣旨をおおむね理解し、一定の満足度をもって受講していたことがうかがわれる。「沖縄や奄美などをこれまでとはひとまとめに見ていたが、それには収まりきらない、それぞれの島の文化や歴史が多様にあることを知った」「沖縄以外にも焦点が当てられている」「沖縄の良い面だけでなく沖縄の負の歴史も知る事ができた」など、評価できるとするコメントがあった。
- 授業資料の配布を評価するコメントもあったが、他方で、「スライドが読みにくかった(印刷された資料の方では見えた)」「文字が小さすぎて読めない文字があった。大きく印刷するかウェブクラスにアップしてほしい」といった改善すべき点の指摘もあった。ウェブの写真などを一部使用していることもあり、ウェブクラスにアップすることはいまは考えていないが、資料を次年度に向けて改善していきたいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域の文化と歴史(オセアニア)
授業コード	22C46-001
教員名	後藤 明
教員コード	101380
登録人数	76
回答数	46
回答率	60.5%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

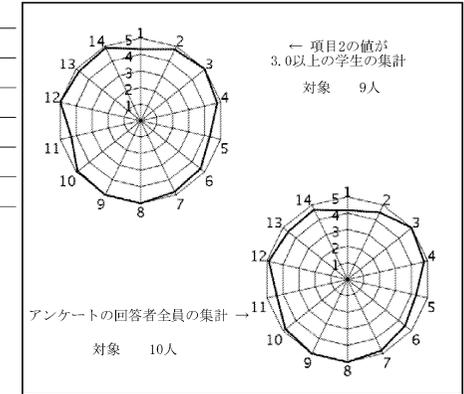


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) この講義は、観光地としては古くから日本では著名で、近年は「ディープ・ハワイ」の標語のもと、リピーターが増えているハワイにおける先住民の歴史や文化、ハワイ王国の興亡、その後の先住民の苦難の歴史、さらに近年の文化復興を踏まえて、ハワイ社会の光と影の双方を学生に理解し、その上で改めてハワイに興味をもってもらうことを目的とした。試験答案などを読む限り、この講義以外では得られない知識を多くの学生が得られたものと感じている。
- (2) すべての評価は4ポイントを超えているが、相対的に低い項目は「質問の時間を十分とっていたか」の項目であった。講義に熱中するあまり、質問の時間を最後にとれなかったことが反省である。ただし講義のあとに質問にきた学生は数名いた。
- (3) 受講人数にもよるが、学生にある種の質問をして、その反応を見ながら講義を進めるなどの工夫をしたい。また事前に配布している資料の具体的なページや図表をあらかじめ熟読しておくことを指示するなどして、予習を促すような努力をしたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(構造と意味)
授業コード	22C63-001
教員名	青柳 宏
教員コード	017004
登録人数	14
回答数	10
回答率	71.4%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

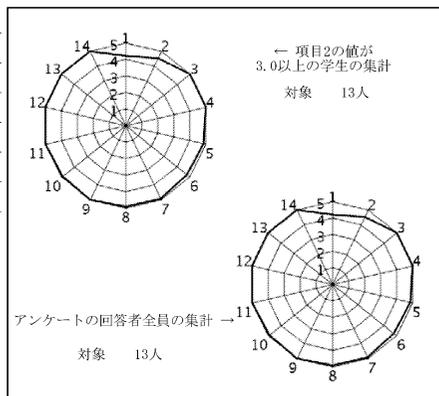


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①学修目標とその到達度
今学期は次の2点を目標に掲げた。
 1. 言語データの取扱と分析の方法が理解できる。
 2. 理論言語学における仮説の提案とその検証の方法が理解できる。学期中に課した3回の課題のできをみるかぎり、1、2とも到達度には大きな個人差がある。
- ②総合的自己点検・評価
項目1から14の平均 4.68、項目3から14の平均 4.73と高評価を受けた。しかし、項目1が4.20、項目5が4.30と比較的低いのは、クォーター制、特にQ2の意味が学生に十分に理解されていないことを示唆する。なぜなら、Q2開講科目が絶対的に少ないので、講義内容にあまり興味がなかったり、学修目標が理解できなくても取り敢えず履修しようとする学生が少なからず存在するからである。自由記述欄には「頭をフル回転させなければならない授業だった」というものがあったが、まさにそれを目指しているので、担当者としては喜ばしい。
- ③今後の改善点および方針
今後もwebclass等を利用し、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れて、双方向性の高い授業をめざす。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域文明論G(アフリカ)
授業コード	70219-001
教員名	坂井 信三
教員コード	034264
登録人数	40
回答数	13
回答率	32.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

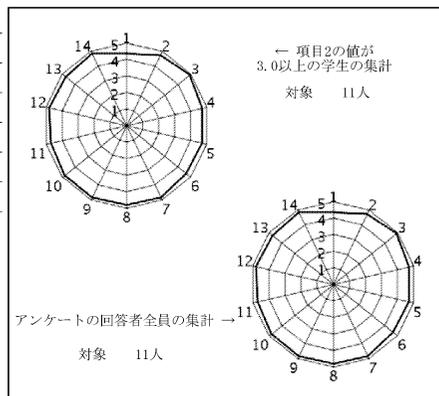


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度のこの授業は、昨年とちがって火・金に開講した。そのためかもしれないが、登録者数が例年(7~80人)の半分程度の40人で、しかも全員が4年次生であり、授業の内容に関心があるというよりは、卒業単位をそろえるために必要なので登録したという人が多かったようだ。就職活動の時期でもあり、毎回の出席者は少ない時で8人、多い時で15人内外にとどまった。しかしこうした不利な条件の反面で、人数が少ない分、リアクションペーパーを活用したインタラクティブな授業運営が可能となり、教育効果は例年に比較して目だって高かった。学生の理解力や基礎知識の面からいっても、登録者が全員4年次生であることはいい結果を生んだようだ。それは授業評価によく表れていて、とくに質問9、11、12、13、14の評価がすべて5だったのは、長い教員経験の中でも初めてのことだった。教員にとっても学生にとっても、やりがいのある講義となったことは実に幸いなことだった。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育の方法・技術論4
授業コード	15A09-004
教員名	解良 優基
教員コード	103910
登録人数	33
回答数	11
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、開講当初以下の4点を目標として伝えた。

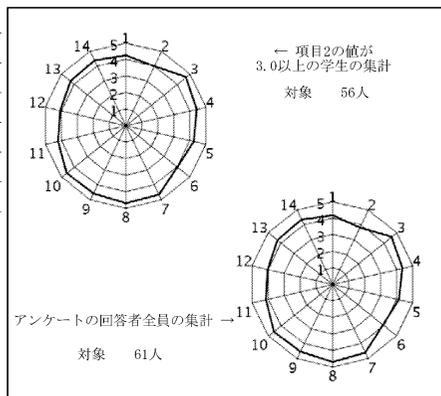
1. 「教育の方法と技術」を学ぶことの意義と必要性について理解する
2. 教育心理学の理論をもとに教育の方法と技術を捉える視点を身につける
3. 学習内容を踏まえ、生徒の主体的な学びを支援するための適切な具体案を提案することができる
4. 協働による問題解決の基本を実践できる

これらについて、1. は初回授業で概要を説明したほか、最終回の授業でもまとめとして解説を行った。2. 3. については、毎回の予習・復習課題や授業中のワークをもとにして学習を促進するように工夫した。さらに、4. は毎回授業中のグループワークについて、協同学習の理論を用いて支援を行った。アンケートの結果、項目1以外ではすべての項目が4.6以上という結果が得られた。また、自由記述の内容も踏まえると、少なくともアンケートに回答してくれた学生は概ねこちらが行っていた授業上の工夫を理解し、満足してくれていた様子が伺えた。これらの結果より、上記の目標についてはいずれも一定程度達成できたものと考えられる。

一方で、担当者の所感としてはいくつか課題が考えられた。具体的には、毎回提出される課題は昨年度に比べてやや平均的にクオリティが低かった。最後まで十分に改善できなかった点は、こちらの支援不足も考えられるため、こちらが求める課題の基準をより明確に伝える必要がある。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 青少年問題論
授業コード 20A12-001
教員名 林 雅代
教員コード 018796
登録人数 102
回答数 61
回答率 59.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



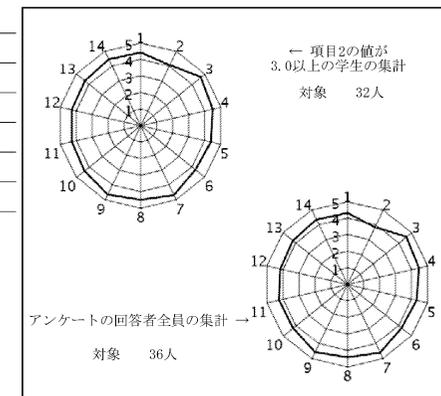
授業評価結果を踏まえた点検・評価

例年とほぼ同様の授業内容ではあるが、今年度はパワーポイント資料を授業後にWebClassにアップするなどして、欠席者への対応を行った。教育実習のため15回中のかんりの授業回を欠席した受講生が何人かあったが、そういった受講生に好評であったように思われる。授業評価の回答の平均値や授業への集中の度合いや定期試験の出来栄をみても、そういった工夫が一定の効果をもたらしているように思われた。その一方で、PP資料と配布資料の差異化を図る必要性もある。個人的にはノートを取りながら受講することの学習効果を期待して配布資料を準備してはいるのだが、配布資料の作り方にも工夫が必要とも思う。

また、ビデオ教材についても、授業内での小レポートの記述や授業評価での自由記述でも、鑑賞してよかったという声が多かった。授業関連のビデオ教材として使えるものはなかなか見つからず、古いものを使わざるを得ない部分もあるのだが、使える教材を意識して探して、今後も充実させていきたいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 子ども・学校論
授業コード 20A13-001
教員名 高橋 亜希子
教員コード 103582
登録人数 95
回答数 36
回答率 37.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートへの回答ありがとうございます。最終回が教材の数が多く、慌ただしくなり、回答時間が十分にとれず、失礼しました

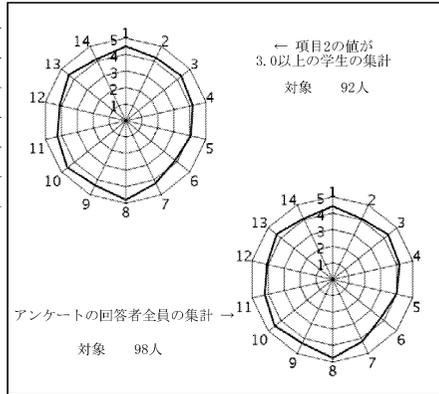
ビデオ教材についての意見が多くありました。内容が良かったというものから、教師の苦悩が描かれていて苦しかったなどです。学級崩壊のビデオは、見るのが苦しいだろうと常に思っていて、今回の授業ではあくまで「フィクション」として扱うことにし、ディスカッションの契機として捉えていただけたら幸いです。また、ディスカッションを多く取り入れたことなのですが、それはよかったです

個人的な反省としては、後半の学力問題の部分について、最近の情報が多すぎる分野であったのもあり、十分に整理できなかった回があったことです。学校の状況を話すだけでなく、数値などのデータも教育学には必要なのですが、その部分が硬くなってしまったように感じています

授業で書かれたみなさんの感想については、なるほどと思うものが多く、また、みなさんの小中高時代を知る機会になりました。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理学概論
授業コード	23A01-001
教員名	浦上 昌則
教員コード	018788
登録人数	119
回答数	98
回答率	82.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

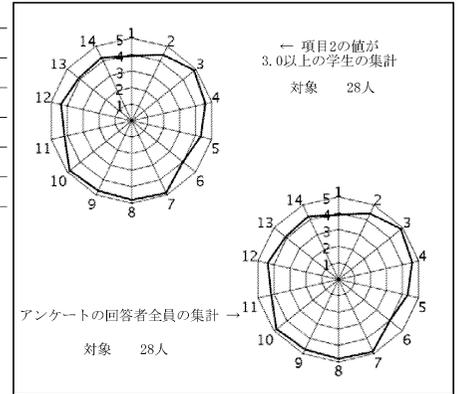
この授業は、今後心理学を学んでいくための導入という位置づけである。心理学の考え方の特徴を踏まえつつ、心理学の歴史、心の仕組みや働きについて扱う。心理学の考え方を支える科学的知識を理解することや、代表的な6つの心理学領域の概要や特徴についての理解などを目指した。なお、各自で調べ、受講生同士で紹介するというペアワークを6回採用している。

授業評価の回答は、平均値がほぼ4程度であり、数値的には目標に近づけたと考える。自由記述にはペアワークに関するものが多く、「制限がないからこそ、頑張りたいと思った時に頑張ることが出来た」「文献探しも、スライドの作成も苦労したけれど、自分の興味がある内容を詳しく調べ、それを相手に伝えて分かってもらえる感覚は新鮮でおもしろいと思った」などという意見が見られた。他方で、どの程度調べて発表するかは個人に任されているので、その差が大きいことを問題視する指摘もあった(自分はしっかりやってきたのに、相手は…という意味合い)。ペアやグループで学習を進める場合には問題となりやすい点であるが、解決は難しいと言わざるを得ない。それが評価につながるようにするなど、対応を検討したい。

なお、WebClassの利用(資料提示)に関して意見があった。前日にアップするなど対応を考えたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IB
授業コード	23A05-002
教員名	川浦 佐知子
教員コード	055855
登録人数	29
回答数	28
回答率	96.6%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



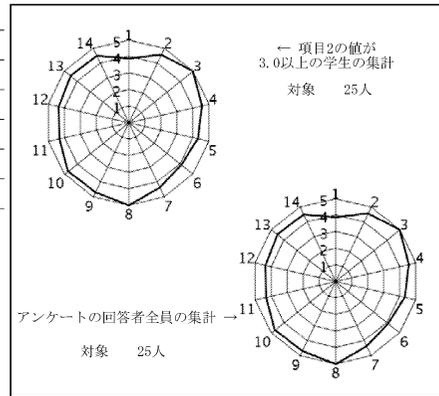
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は人間科学の諸領域を学ぶための基礎力を習得することにある。授業では教育学、心理学、人間関係論に関わる論文を扱った。学生は各自論文を読み込んだ後、グループで発表のためのレジメを作成し、要約と批評のプレゼンテーションを行った。

今年度の評価では、項目1における授業内容への興味に関する値が低減(平均値3.89)している(昨年度4.13)。あまり興味がなかったという回答2を選択している者が3名おり、学科必修科目履修の意義を今後、丁寧に説明する必要がある。一方、授業参加態度に関わる項目2の平均値は4.43であり、こちらは昨年度と大きく変わっていない。項目6の授業到達目標の理解を問う問い、及び項目13の新しい知識、理解の獲得を問う問いに対する回答の値が低い(4.00、4.11)ことは、学生が大学での学びに必要なスキルの獲得を十分実感できていないことを示している。授業課題として提示した論文の難易度や、論文中用いられる用語の説明について、次年度へ向けて検討を重ねたい。一年生は授業を通して心理学に関する知識を得ることに強い期待をもっている。学生の学習意欲を引き出すために、一年次必修科目である心理学概論や教育学概論、人間関係概論の内容と、より連動させた授業内容とすることを視野に入れたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IB
授業コード 23A05-003
教員名 池田 満
教員コード 103141
登録人数 29
回答数 25
回答率 86.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
学生が提出した最終レポート等を見ると、授業の目標は十分に到達できたと考えられる。

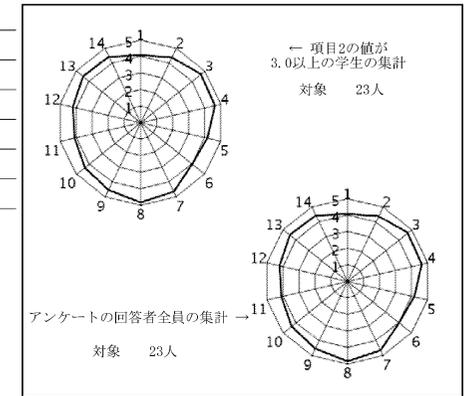
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」という問いかけに対する得点がやや低いにもかかわらず、自由記述では、授業の意義を十分に感じられたと理解できる内容が多かったことから、こちらが意図したものが伝わったと考える。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
現在のプログラムは、セメスター制時代の内容をクォーター制にあてはめただけなので、今後、クォーター制だからこそ可能な授業構成について、担当者間で協議していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IB
授業コード 23A05-004
教員名 藤田 知加子
教員コード 100382
登録人数 29
回答数 23
回答率 79.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
および②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価について

本科目は以下を目標としていた。

- ・文献をクリティカル（批判的）に読解することができる。
- ・文献の要点を論理的にまとめることができる。
- ・効果的な発表レジュメを作成することができる。
- ・効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

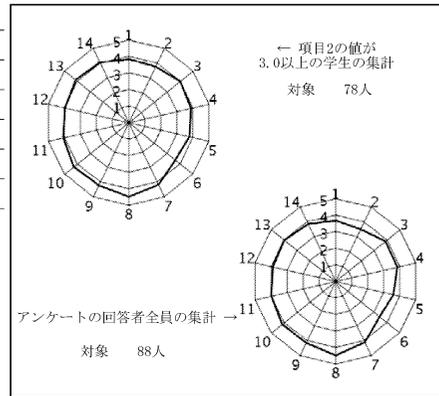
高度な目標であったと思うが、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」という項目に対する学生の評定値が4.04であったことを鑑みるに、かなり到達したと考えて良いように思う。

また、自由記述において、良かった点として「論文をクリティカルな観点で見る力が着いたように思う。」や「早い時期にして論文を読むという経験ができる点。また、クリティカルに考える癖を付けることができる点。」が上がっていたことから、本科目の取り組みには一定の評価ができると考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
どのような教材を用いるかがこの授業の成否を分ける重要な点だと考えられるので、本年度同様、分担担当者全員で十分な教材の精査を行った上で授業を展開していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 子ども・青年社会学
授業コード 23C37-001
教員名 加藤 隆雄
教員コード 019349
登録人数 154
回答数 88
回答率 57.1%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

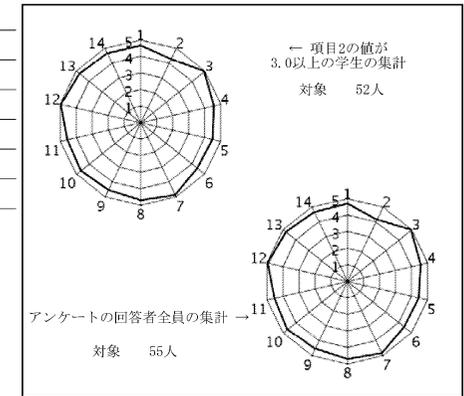


授業評価結果を踏まえた点検・評価

2016年度、2017年度の授業評価と比べてほとんどの項目で変動がないが、Q2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」で前回よりも高い点となった。これは毎回宿題のレポートを課したことによるものと考えられる。この点で、事前に設定した目標はある程度達成されたと考えられる。とはいうものの、Q1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」について、それほど高い点でないことはどうなのか。前回も指摘したが、クォーター制の時間割の都合で内容に関心の高い学生が多く受講していることの反映ではないだろうか。扱う内容は極めて具体的なものであるのに対して、理論的で抽象度の高い理解を求める授業であるので、授業の内容の理解に関する項目が期待ほど高くないのは仕方がない気もする。前述の宿題をフィードバックする時間を取ったため、全体の進捗が遅れてしまい、最終的な結論を時間をかけて論じることができなかったことも影響していると思われる。自由記述には、レジュメの印刷の見にくさについて触れている意見が多く、この点も影響していると思われるため、できるだけ改善したい。「AV資料が多く、興味をもちやすかった。」「音楽、映像を実際に聴いたり見たりできた点」など、青年文化（音楽）を実際に接したことに対する肯定的評価が多かった。今回初めて行った宿題とそのフィードバックについては「アンケートをとり、統計をだし、発表してくれたこと。」という意見であった。「内容が興味深い、先生が生き生きして説明してくださるのでより興味が湧く」「まだ自分が生まれていない時代の作品が知れた。」「絵本、テレビアニメ、音楽、学生運動など身近にある文化史について学べたので良かった。」という意見があり、関心が高い学生には好意的評価を得たということができるだろう。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 臨床心理学(臨床心理学概論)
授業コード 23C67-001
教員名 坂中 正義
教員コード 102720
登録人数 67
回答数 55
回答率 82.1%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は以下の通りであった。

- ・臨床心理学の理論と実践についての基礎的事項を理解している。
- ・臨床心理学を学ぶ上で重要な姿勢(自分にひきつけて考え、自身と対話する)を身につける。
- ・自己理解を深める。
- ・自分なりの心理援助を模索する手がかりをつかむ。

この目標実現するため、以下の取り組みを中心に授業を展開した。

- ・内容を身近に感じることが出来るような説明を心がけた。
- ・実際のカウンセリング事例を提示した。
- ・単元ごとのグループによるふりかえりと質問タイムを設定した。
- ・毎回、振り返りシートを用いて自己理解を促した。

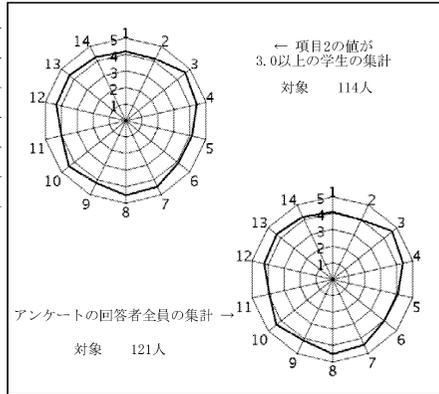
授業時の感想や定期試験としてのレポート、授業割評価アンケートによる到達目標達成度4.44等を勘案すると到達目標について各学生なりの形で一定の手応えを感じていることが伺えた。

授業割評価アンケートの全項目が4以上を示した。全体との比較においても平均を上回る項目が大半であった。

よって、今後もこの水準で授業が維持できるよう努力するとともに、到達目標に貢献するような新たな試みも試行錯誤していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは3
授業コード 13E02-003
教員名 榎山 洋介
教員コード 041806
登録人数 175
回答数 121
回答率 69.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

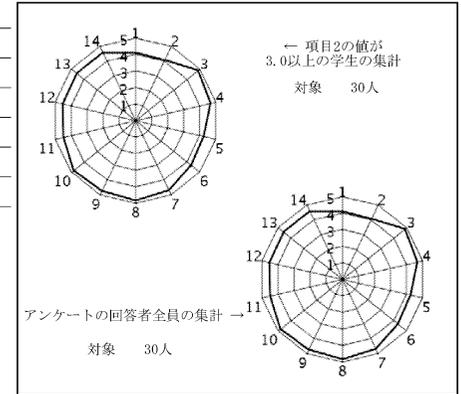


授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、試験（1回）、レポート（1回）、毎時間提出を求めた質問・感想シート、学生による授業評価から総合的に判断して、当初設定した目標が十分に達成できた受講者が約30%、目標を達成できたと判断できる受講者が約30%、授業を通して何かを身に付けた人が約40%であった。授業の良かった点として「質問の回答に時間をかけてくれた所」という記述があった。今後も、質問・感想シートに対する（補足）説明を行っていききたい。また、「ことばについて言語学の観点から基礎を学ぶことができ、改めて自分が日本語学・言語学に興味があることを認識できた点」という意見もあった。このような学習意欲・問題意識の高い受講者を満足させられるような授業をさらに工夫していききたい。一方、「板書が薄くて見づらいことがあった」という意見もあった。今回、受講者が約150名にのぼったが、今後多人数講義の場合、板書に一層の注意をしたい。なお、試験とレポートの狙いの違いを理解していない学生がいた。今後この違いについてさらにきちんと説明をするようにしたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本民俗文化論
授業コード 24C15-001
教員名 福本 拓
教員コード 104126
登録人数 67
回答数 30
回答率 44.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問3~14の平均が4.62、総合的な満足度を示す設問14の平均が4.57と、いずれも全体のアベレージを上回っており、今年度初めて担当する講義としては、比較的良好な評価が得られたものと考えている。

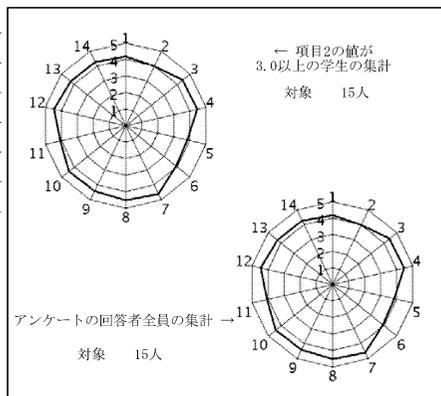
自由記述をみると、質問への回答と、ウェブクラスの活用について高評価を得ていた。クォーター制による授業間隔の短さを活かし、毎回その前の質問をまとめて答えるようにしており、そうした姿勢が質問に向き合っていると受け止められたのではないかと推測される。

一方で、より主体的な関与を望む受講生や、内容の精選・体系化への意見もあった。講義形式の中で、できる限り参加の度合いを重視して進められるよう努めているが、そのためのより好ましい方法がないか、引き続き検討していききたい。また、設問14については、3点という回答が2（6.67%）あった。平均点の高さが判断基準にされがちだが、できる限り不満を持った学生を減らすことも重要である。当然ながら学生の理解度や関心には違いがあるため、多様な層にアプローチするための方策は、全学で取り組む必要があるだろう。

なお、声の大きさ、視聴覚機器の使用、授業妨害への対応等については、問題ない水準の評価を得られたと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 表象文化論
授業コード 24C20-001
教員名 坂井 博美
教員コード 102981
登録人数 115
回答数 15
回答率 13.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



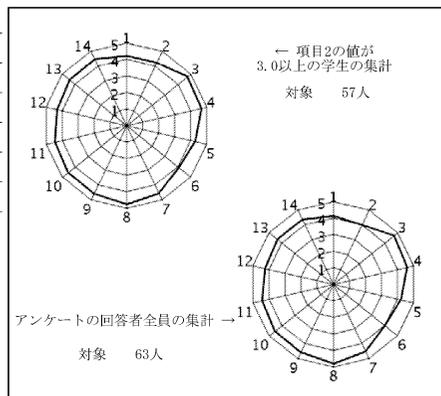
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた到達目標は、概ね達成されたと考えられる。今年度は配布資料の形式を変更しレジュメに線をひいて受講者自身に書き込んでもらう箇所を作った。これに関して、自由記述では、スライドや資料がみやすかったという回答があったが、一方でスライドもレジュメに対応する箇所に線を入れてほしいという意見があった。後者については、次年度から変更する予定である。また、スライドを進めるタイミングが早くメモを取るの間に合わないことがあるという意見もあったので、この点も改善を検討する。

また、コメントや質問への応答や説明が多かったことを評価する記述もあった。これに関連して、質問や相談の機会が十分に設けられていたかなどを問う項目12でも平均値は他の項目よりも高めであった。重要だと思うコメント・疑問や多くの人が寄せた疑問などについては時間を多くとってスライドなどを使用し補足の解説をしたことがよかったと考えるため、このやり方は今後も継続したい。しかし、到達目標に向けて力がついてきたかを問う項目6は、平均値が3.93と低めであった。「表象」という抽象的な概念の把握と、具体的な資料の表象分析の場の距離を縮め、両者を繋げて理解することは難しかったと考えられるが、今後説明の仕方や各回の授業内容の配置などを工夫していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文学史A
授業コード 24C29-001
教員名 森田 貴之
教員コード 102286
登録人数 107
回答数 63
回答率 58.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

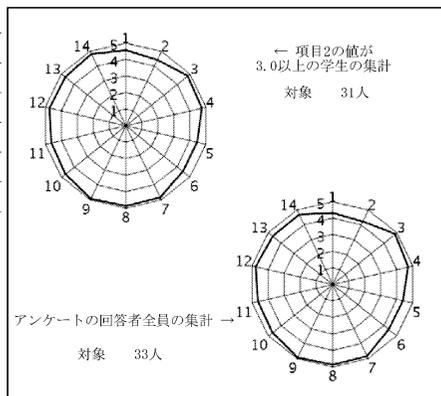
設問1の授業開始前の興味が4.14であるのに対して、設問14の満足度も4.33であり、当初の講義目標は大旨達成されたと考えている。

調査対象科目は、日本文化学科の学科科目の一つであり、日本文学史のうち、学生にはあまりなじみがないものの中世文学史のを扱っており、専門性の高い内容があついている。そのため日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり現代の事象や一般論のようなものと結びつけながらできるだけ具体的な関心を高められるように努めた。その意図はある程度は伝わっていたと感じる。時にはワークショップ的な活動も行って学生の主体的な理解を導くよう試みたが、その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思う。

次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。また本アンケートの回収率が60パーセントを下回る状況であり、授業時間においてきちんと回答時間を設け、回答を再三呼びかけたが、それでも回答率は向上しなかった。今後の課題である。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代文学研究
授業コード 24C35-001
教員名 岸川 俊太郎
教員コード 103907
登録人数 118
回答数 33
回答率 28.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2019年度Q2の開講科目「近現代文学研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

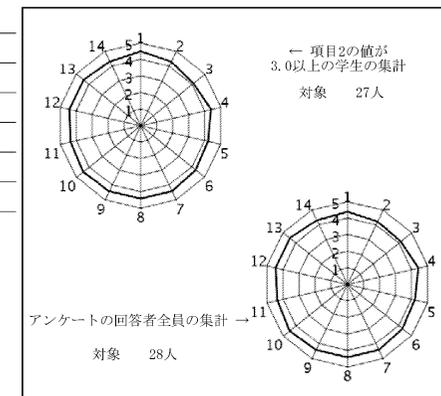
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問4、設問5でそれぞれ、4.73、4.39という高い評価を得たことから確かめられる。

次に、②数値データを踏まえての総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、設問項目2を除く全ての項目で日本文化学科の箇所別平均値を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.64、4.70という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針についてであるが、「学生による授業評価」の設問項目2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」）については、日本文化学科の箇所別平均値（3.95）を上回ったものの（4.21）、全項目の中で最も低い値であったため、来年度の授業では適切な課題を課し、予復習を含めた学生の主体的な学びの充実を図りたい。また、理解が難しい概念的な事項についてはレジュメに詳しい説明を加え、学生の更なる理解に努めたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 女性と古典文学
授業コード 24C39-001
教員名 辻本 裕成
教員コード 019042
登録人数 95
回答数 28
回答率 29.5%
休講回数 0 回
補講回数 1 回

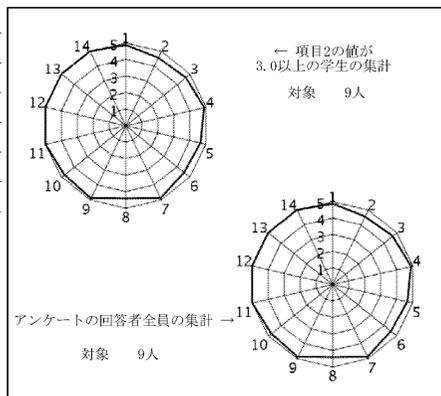


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① シラバスに記載した本科目の到達目標は、
 - 1 一つの古典作品をさまざまな方向から読み込むことにより、古典文学を読むことの深さと面白さに気付いている。
 - 2 当時の女性が置かれていた地位、受け入れざるをえなかった運命を理解することによって、性差と社会の関わりなどについて考えることができる。
 - 3 国文学研究のすぐれた成果について知り、文学研究のあり方を理解している。の3点であった。本授業では試験と作品の感想文を課したが、それらを読む限り、2については十分に達成することができたようであるが、3については学生に余り伝えることができなかったように思われる。
- ② アンケートの集計結果を見ると、すべての項目が4.0～4.5の間の数値を示している。特に悪い結果ではないものの、満足できる数値とも言えない。授業の開始時間はおおむね守っており、アンケートの数値に顕著には反映していないが、スケジュールの勘違いから大幅に開始時間を遅らせてしまった週が一度あったことを強く反省したい。
- ③ 授業資料を見やすいように改訂すること、古典文学についての基礎知識・宮廷社会についての前提的事項を丁寧に説明することを心掛けたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国古典研究
授業コード 24C41-001
教員名 西岡 淳
教員コード 019315
登録人数 12
回答数 9
回答率 75.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

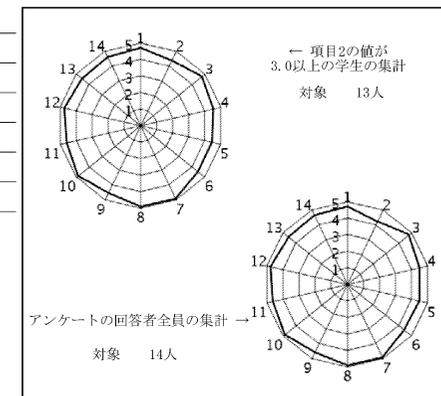


授業評価結果を踏まえた点検・評価

中国の古典詩に関する講義形式の授業で、唐以前の近体詩の成立から始めて、主に北宋の詩について講じた。授業の目標は、中国古典詩の形式について音韻的な側面も含めて理解できること、時代背景を知り、その上で個々の詩人たちについて知識を得ていることなど。成績評価は、記述問題と読解問題を内容とする定期試験によった。答案には受講者個々の意見がよく述べられ、読解の出来もまずまずで、授業目標はほぼ達成されたと考える。評価項目の平均値は4.80(除1・2:4.81)であった。項目中では、設問8「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」が平均値4.44と最も低い。これに関連する自由記述に、「先生の声が少し小さくて聞き取り辛い時がある」との回答があり、改善の必要がある。その他の項目では、設問6(到達目標に向けた力の獲得)が、平均値4.56と二番目に低いが、受講者が授業での資料読解等を通して、確実に能力を得ていることは試験結果からも明らかで、特に問題ではないと考える。評価された点としては、「一定期間ごとにきちんとリアクションペーパーが用意され、疑問に対して詳細な回答がもらえたこと」「講師による解説が十分であった点。質問に対して必ず反応があった点」「授業内容が面白いこと」等の自由記述があった。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 第二言語習得研究
授業コード 24C59-001
教員名 岩崎 典子
教員コード 103983
登録人数 19
回答数 14
回答率 73.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

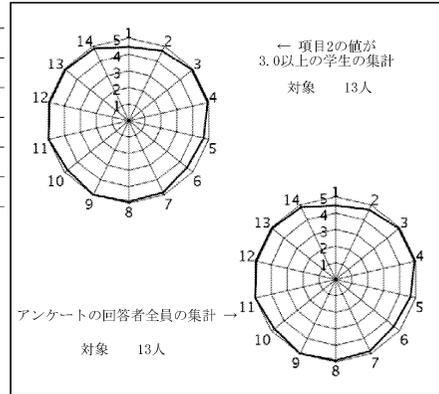


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①目標としていたテーマは概ね授業で扱えたが、もう少し詳細な情報も提供し、深く議論することができればよかった。2冊の教科書のうち英語の教科書を主に用いており、第二言語習得研究全般にわたる入門書であるため、いろいろなテーマを広く浅く扱っている感がある。しかも英語であるので、学生が全員十分に理解しているとは限らないため講義で内容をさらに深く補いたいところであったが、十分にはできなかった。習得に関わる仮説や読み物の執筆者の主張をクリティカルに考えるという目標についてはある程度達することができたと思う。
- ②自由記述のうち、「読み物の中の専門用語や難しい単語の意味を事前に教えてもらえるともう少し読みやすくなる」というのは確かにそう思うので、次回は、各授業の最後の時間を使って、次のテーマ(読み物)の重要な用語の紹介を少しするように努めたい。
- ③試験の回答を見ると、Webclassで講義後に共有する講義のパワーポイントに依存して復習していると思われる学生も少なくない。参考資料などももっと提供するように考えたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育文法(中級)
授業コード	24C66-001
教員名	上田 崇仁
教員コード	103619
登録人数	16
回答数	13
回答率	81.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

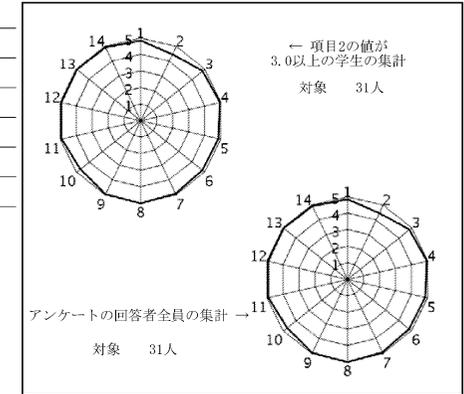


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 【到達目標】については、日本語学習者の現状を把握し、文法項目を分析し、その中の何をどこまで教えるのか、何をゴールに置くのかを感ずるという、全体像を把握した指導ができるようになることを掲げて授業を行った。今期は、日本語指導の際、文型や単文での指導に偏りがちであることを考慮し、ストーリーの中での使われ方を確認する形をとることにした。紙芝居の中で、自分の担当した文型がどう使われているのか、文脈から整理するという方法で、分析を進めた。フィードバックを含め、おおむね到達目標に達することができたと考える。
- ② 自分の担当箇所についての分析には熱心に、かつ、丁寧に取り組んでいたと思うが、ほかの学生の発表に関して、自分たちが事前に調べて対応するということはほとんどできていなかったように感じている。事前準備についての指導を今後考えたい。
- ③ 自由記述から、発表後のフィードバックの時間が評価されていることがわかった。授業運営の課題ではあるが、90分の授業を30分の発表15分のフィードバック×2、で構成した場合、分析状況や分析内容のレベルによってフィードバックの時間が大きく左右されることが予想され、さらに、発表者が欠席した場合の対応もより計画的に考えておく必要があることがわかった。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ことばとは<国際科目群>3
授業コード	13E02-903
教員名	芝垣 亮介
教員コード	102481
登録人数	35
回答数	31
回答率	88.6%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標は概ね到達できたと考えている。これは設問5および6の数値がそれぞれ4.87と4.81であったことからうかがえる。②設問3から14の平均値は4.89であり全体として問題なかったと考えている。自由記述欄にあるが、Active learningの典型例と言える授業だった、あるいはそれと同様のコメントが散見され、学生が参加する授業を实践できたと考えている。授業は2コマ連続で、月曜1、2限という学生にとってあまり好ましくない組み合わせであったが、その中で、楽しく学べた、退屈しなかったというコメントが多かったことも良かったこととして捉えている。言語学を学べた、難しい話が理解できた等のコメントもいくつか見られ、講義の内容を高水準に保ち、180分という時間で行った結果としてはうまく運営できたのではないかと捉えている。プレゼンも学生の主体性を大切にしており、これを良しとした学生が多かったのも良かった点といえるだろう。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A II3
授業コード 31A02-003
教員名 TOLAND, Sean
教員コード 103616
登録人数 22
回答数 3
回答率 13.6%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

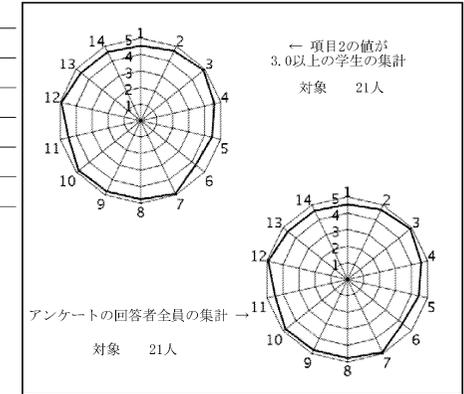
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The response rate for this survey was only 13.6% (3 out of 22 students). Thus, it's difficult to directly comment on any of the students' specific concerns. The goals of the AEA2 course were definitely achieved. I felt that the collaborative video project went well, and the students learned a tremendous amount (e.g., ICT skills, teamwork, etc.). Throughout the year, I spent a lot of time and effort trying to improve the overall quality of the AEA students' written assignments. This is an area that I will continue to focus on, especially paraphrasing and the proper way to cite outside sources. Our class spent a fair amount of time on the self- and peer-editing process and we will continue to do this over the next two quarters.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A II6
授業コード 31A02-006
教員名 SAKAMOTO, Fern
教員コード 103615
登録人数 23
回答数 21
回答率 91.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

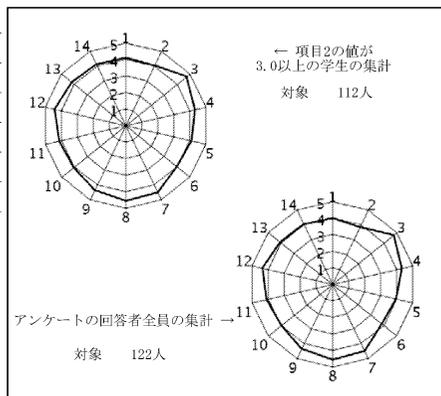


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, this course aimed to improve students' communicative abilities and equip them with academic skills necessary for future study in English. This quarter, I made an effort to help students understand the goals of the course and they seemed to have a better understanding of this than last quarter. All students expressed a high degree of satisfaction with the instruction and teaching materials. Many students commented positively on the availability of individual assistance out of class. I hope to be able to continue to offer individual support. The main area of concern for students seemed to be related to their own performance. The lower score in these areas is the result of two students selecting 1 or 2. There are a number of students in this class who are of significantly lower ability than their classmates and finding a way to bring those students "up-to-speed" has been a concern through the first two quarters. I will continue to attempt to offer individual assistance to those two individuals, but this will also depend on their ability to come to class more regularly. I hope I can encourage them to do so.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A
授業コード	31B04-001
教員名	鈴木 達也
教員コード	017871
登録人数	215
回答数	122
回答率	56.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

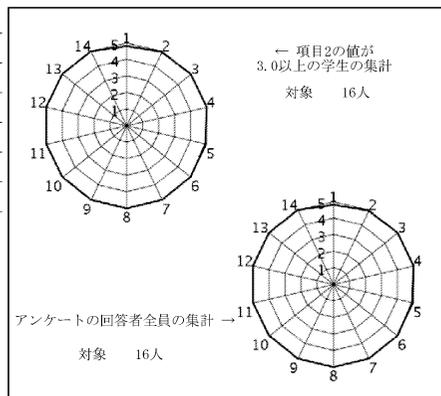


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、国際研究において必要な基本的概念を理解すること、国際研究に関連する最近の問題について理解を深めることの二つであった。英米学科の授業であることから、特にアメリカ研究および国際語としての英語についての話題に重点を置き、民主主義、自由平等、様々な差別との戦いについて、歴史的観点も視野に入れて授業を行った。元々は少人数を想定した授業であったが、受講生は200名を超え、授業運営については毎回挑戦であったと言える。到達目標の理解が3.98に、授業の満足度も4.01にとどまっていることから、必ずしも会心の出来とは言えない。予習を含めて学生が主体的に参加したかを問う設問2が3.84という低い評価になっていることが大きな要因の一つと考えるが、自由記述欄を読むと、相当数の学生がWebClassに登録してあるハンドアウトを活用しておらず、かつ授業のシラバス内容もしっかり理解していないことが分かった。一方で、事前にWebClassに登録してあるハンドアウトが理解に役立った、授業で見た動画によって理解が深まった、ディスカッションの時間が十分あり、理解が深まったという好意的コメントも多数あったことを考えると、授業を英語で行うことで学生によって理解度の差が出たのではないかとと思われる。英語の壁を如何に克服していくかが今後の課題である。クラスサイズの適正化も含めて、学生の理解度を高める工夫をしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society A<国際科目群>
授業コード	31C01-901
教員名	大澤 広晃
教員コード	102964
登録人数	24
回答数	16
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

<授業目標と目標達成度>

シラバスで設定した授業目標については、概ね達成できたと言える。

<点検・評価および改善点>

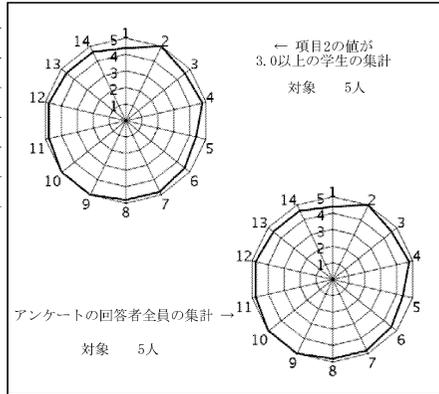
全体として、高い評価を受けることができた。クォーター制に移行して以来、当該科目は縦置きの間割りで開講してきた。しかし、少人数でアクティブラーニング型の授業のため、授業時間が長過ぎると、学生が疲れてしまい集中力や作業効率に影響がでることが分かってきた。そこで、今年度は横置きの間割りで開講し、限られた時間でさまざまなタスクに取り組ませることにした。結果として、授業評価の得点が上昇したので、試みは成功したと言える。もっとも、英文資料を読み込ませて議論させるという当該科目の趣旨からすると、週2回の授業にあわせて課題文を読んでものが大変だと感じる学生もいたようであった。少人数・アクティブラーニングをベースとする授業をクォーター制でどのように運用するかは、引き続き重要な検討課題と言える。

<次学期以降の抱負>

今回の授業評価については概ね高い評価を得ることができたが、反省点も多い。少人数で学生の参加を促す授業は、どうしても活発な学生と意見表明に消極的な学生に分かれてしまいがちである。学生の管理はしやすい反面、各自の積極的な授業参加を促すための工夫が求められる。引き続き検討していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society C<国際科目群>
授業コード	31C03-901
教員名	上村 直樹
教員コード	102463
登録人数	10
回答数	5
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

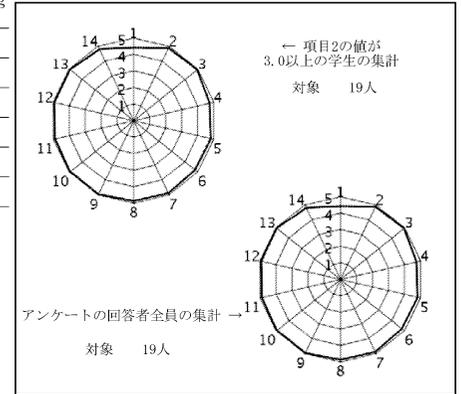
本講義の実際の受講者は8名で、そのうち5名から回答があり、少人数授業での受講者の率直な感想を知る貴重な機会となった。

本講義では、①冷戦期の国際関係とアメリカ外交に関する理解を深める、②冷戦の意味と結果について理解する、③国際問題や歴史問題に関して英語で考え、議論できるようになるという三つの到達目標を掲げた。そして、少人数授業の特性を活かして、講義とビデオ視聴に加えて、発表やディスカッションにも重点を置いたアクティブラーニングの手法を全面的に取り入れて授業を進めた。発表、ディスカッション及び最終レポートから判断すれば、①と②の目標に関して、多くの受講生が冷戦と冷戦期の国際関係、アメリカ外交に関する理解を深めていったと判断できる。また本授業のもう一つの重要な目標である英語による発表やディスカッションの技能向上という③に関して、国際関係等に関して本格的議論の経験があまりなかったと思われる受講生たちの多くが、授業の終盤ではより積極的に質問や発言をする姿が見られ、効果が感じられた。こうした判断は、受講生の回答からも裏付けられよう。

反省点としては、授業では講義・ビデオ視聴と発表・ディスカッションとを交互に行う形としたが、講義が長びいて、ビデオ視聴とそれに基づいたディスカッションの時間が短くなる傾向があった。今後、こうした英語によるアクティブラーニングに重点を置いた授業では、学生たちによる発表とディスカッションにより多くの時間を割くように更に努めたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language E1<英米学科2017生用>
授業コード	31C15-001
教員名	浅野 享三
教員コード	070912
登録人数	22
回答数	19
回答率	86.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

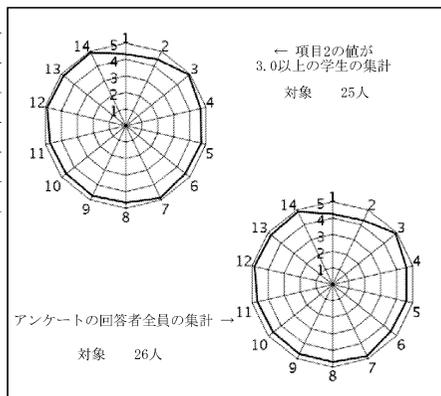


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として次の3点を掲げた。“Students should be able to: 1. understand principles and techniques of Oral Interpretation and Readers Theatre, 2. make Readers Theatre scripts, and 3. perform Readers Theatre to the in-class audience. これらを判断基準として授業評価を点検すると、項目3から14の平均が4.86（回答数19）であり、実技を中心とするこの種の授業では出色の出来栄だと結論できる。担当者の授業前の予想を全く覆すほどの高評価と言える。最も低い評価項目が、4.74の授業の構成や進行速度の適切さに関するものだった。逆に、最も高い評価項目が4.95の「授業の開始と終了」「教科書等を効果的に使った授業」「私語など授業の妨害に対する適切な進行」「質問や相談の機会も設けた」そして「授業を通して新しい知識を得た」という5項目になった。授業前の、そして最終回に至るまでの担当者の懸念は、協同作業が必須となる実技系の授業がどこまで受け入れられるのか、という点だったが、自由記述などを点検すると、むしろこの形態こそ、学生が望むものであると実感した。今後の改善点として、より高い到達目標を掲げること、そして実技の成果に専門的な完成度を強く期待することがある。学生自由記述の1つにあった「今期で一番前向きな気分で行くことのできる授業だったし、一番学びの多かった授業」というコメントに、担当者として少しばかり誇らしさを感じながら、励みとしたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies B<国際科目群>
授業コード	31C17-901
教員名	DORMAN, Benjamin
教員コード	100695
登録人数	29
回答数	26
回答率	89.7%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course focused on aspects of Australian identity and addressed issues relating to language, literature, Australians' experiences in wartime, relations between Australia and the US, indigenous Australians, and Australia in the post-1945 period related to social changes in particular.

The course included three films — "Gallipoli," "Rabbit-Proof Fence," and "The Dish," as well as "Gallipoli: Brothers in Arms," "The Sounds of Aus" and "The Making of Modern Australia." While I did reduce the amount on non-subtitled material, some students found it difficult to deal with it.

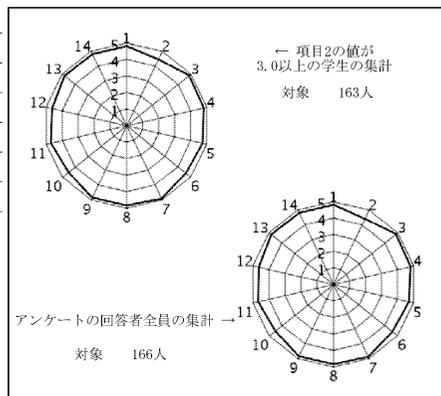
I focused each class on a group work component, and asked students to take turns facilitating the groups. This seemed to be effective and I will continue this practice from now on. Students also wrote about each topic under discussion for homework, which was a valuable exercise in getting their ideas across to other students in the group.

Rather than getting them to write in class, it is more effective for them to think about the material by themselves and then bring back their thoughts the next week for discussion.

Future adjustments: further reduction of audio-visual material with no subtitles.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	コミュニケーション研究の基礎
授業コード	31D04-001
教員名	今井 達也
教員コード	102469
登録人数	242
回答数	166
回答率	68.6%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

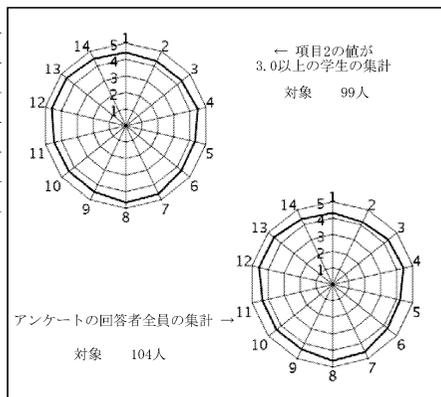
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この講義の目標はアメリカを中心として研究されてきたコミュニケーション学の概要を把握し、身の回りの人間関係の分析に役立てられるようになることである。授業評価平均4.75、そして自由記述の回答を見ている限り、その目標はある程度達成されたと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。
私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていたか。
この二つの項目に関して、他の項目よりも低い点数だった。まとめると、授業に対して主体的に、積極的に取り組むことが難しかったと考えられる。教員の適切な指導がなされていない可能性がある。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上記の課題を鑑み、次クォーターからは学生が授業の妨げになるようなものから遠ざけるような指導を強化することを試みる。例えば、携帯電話の使用を強く禁止したり、私語に対して厳しい態度で臨むことが考えられる。同時に、主体的に授業に集中できるよう、アクティブラーニングを増やし、学びの好奇心を高めるような授業内容の工夫も試みていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アメリカの歴史
 授業コード 31E01-001
 教員名 川島 正樹
 教員コード 048116
 登録人数 183
 回答数 104
 回答率 56.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

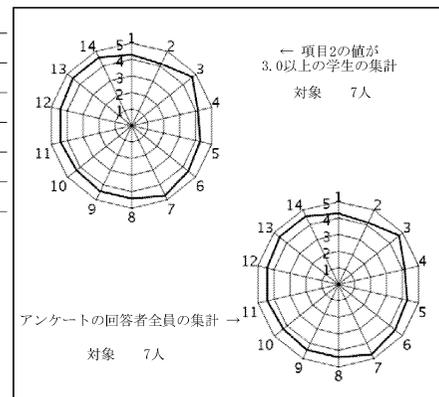
①関連する二つの問（問5と問6）がそれぞれ4.22と4.27であり、英米学科科目の同数値（それぞれ4.40と4.32）と比べてやや低い。また包括的な二つの問（問13と問14）はそれぞれ4.53と4.39であった。前者はほぼ学科平均値（4.54）であったものの、後者は学科平均値（4.47）をやや下回った。これらから判断して、目標の設定にやや無理があった一方、2年次から4年次にわたる多数の他学科・他学部からなる多様な200名近い受講生の大規模授業という困難な条件下において、概ね講義担当者が伝えたいと考えていた所期目標はほぼ達成されたと言ってよいであろう。

②まず自由記述欄16においては大変力づけられる言葉が多数（32項目）寄せられた。上から三例を挙げる。「南山に欠かせない先生だと思った。来年以降もぜひ授業を行って欲しい。」「先生は興味をそそるような、素晴らしい授業の仕方をしている。先生が定年をあと少しで迎えてしまうそうだが、大学側にとっても、ともとてももったいないと思えるほど、楽しく真面目な先生で、授業も楽しかった。まだまだ、長く続けて欲しい。」「資料画像や映画を踏まえつつ、授業を進行するため大変理解する助けになりました。」その一方で、「早口」や「討論」の深め方が不足していた等の不満も多数（22項目）寄せられ、次年度への反省に役立てたい。ただし「他学部生には難しい」といった、英米学科科目である都合上、簡単に対応し難い不満も複数見られた。この点に関しては、次年度において開講時に授業の性格や位置づけ、特に英語教職科目である点に十分な説明を行い、納得を得ることとしたい。

③一昨年度から導入し始め、毎年改善を重ねているWebClassの利用は効果的であることが確認できた。とりわけ次年度には前項で触れた「不満」にもあるように、アクティブラーニングの一環としての受講生同士の討論を深めさせるためにさらなる活用方法を工夫したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イギリスの文学<国際科目群>
 授業コード 31E08-901
 教員名 TEE, Ve-Yin
 教員コード 101626
 登録人数 33
 回答数 7
 回答率 21.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

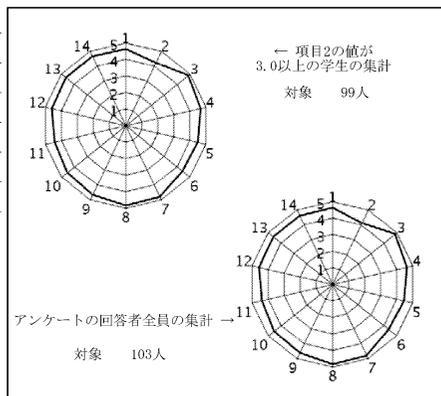


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I achieved my basic aims for this course, which was to get students to read British poetry and to engage with environmental issues. Though the student evaluations indicate they were satisfied with this course, I do note that my scores were only about average for my faculty and I wonder if this might be due to its challenging nature. Fewer and fewer young people read literature these days and almost none of them read poetry for pleasure, though I did try to justify to them the importance of reading poetry with respect to understanding British culture. But perhaps I am reading too much into the results, as only 7 out of 33 students evaluated the course (despite me reminding them on three separate lessons to do so), and none of them left any comments. I have taught this course for several years now, and my evaluations were better when time had to be set aside in class for students to do these evaluations. It did take time away from the subject at hand, but I suspect those students also took the evaluations more seriously.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	異文化コミュニケーション
授業コード	31E11-001
教員名	花木 亨
教員コード	101269
登録人数	206
回答数	103
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、日常生活の中で自分が経験している異文化コミュニケーション現象を自覚できるようになること、自分が経験した異文化コミュニケーション現象を分析できるようになること、異文化コミュニケーションについての知的関心と思考を深めることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。

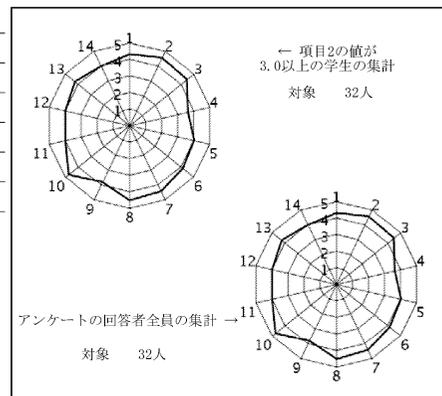
項目3から14の平均値は4.61だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.31を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるよう努力したい。

自由記述欄について、「リアクションペーパーに書いたことを紹介してもらったことで、講義の内容理解がより深まったと感じるし、参考になることをたくさん知ることができた」、「（教員の）意見が正しいと強要されるのではなく、一意見として伝えてもらえていたので、自分の考え方の視野が広がった」、「丁寧な進め方でわかりやすかった」などの肯定的な意見が寄せられた。その一方で、「リアクションペーパーの紹介の時間が少し長い」などの改善を求める意見もあった。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの受講者たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が多い授業ではあるが、質疑応答の時間を設けたり、リアクションペーパーにフィードバックしたりするなどして、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生の主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	第二言語習得論<国際科目群>
授業コード	31E14-901
教員名	SHILLAW, John
教員コード	100560
登録人数	130
回答数	32
回答率	24.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



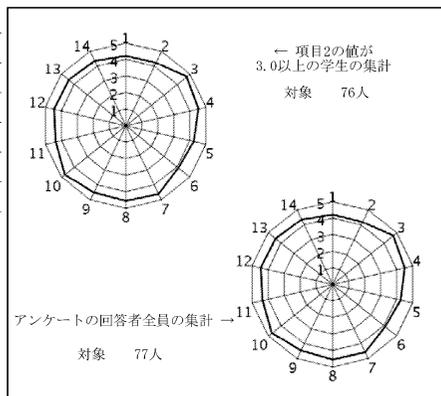
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was a popular course with over 130 students registered with about 90% of students coming from the Department of British & American Studies while the others came from the other departments. Within the group there was considerable variation in English skills and knowledge. This presented three problems. Firstly, since the classes were and course materials were in English, some students were not able to fully comprehend the content. Secondly, many students did not have a basic background knowledge of Second Language Acquisition (SLA) and they struggled with the course content. Thirdly, many students did not take the time to read the textbook before each class and were not able to understand some of the basic principles and theories of SLA.

One change I plant to implemen for future classes is to schedule a series of quizzes to ensure that students do the reading they are supposed to do. I will also ensure that the course information stresses that students must have adequate language English skills to take the course. I hope to avoid the problem where students register for the course only to quit in the early stages when they realize that they cannot understand the class content.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理言語学1
授業コード 31E18-001
教員名 村杉 恵子
教員コード 019034
登録人数 141
回答数 77
回答率 54.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

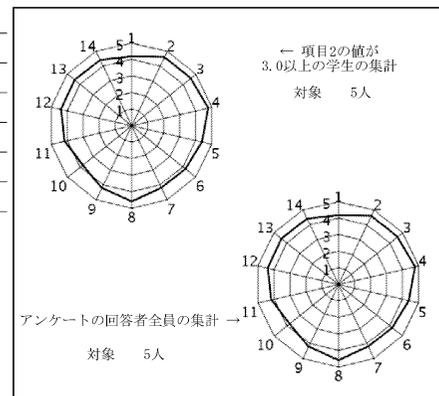


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 総合的には、試験の結果も比較的良好で、開講当初に設定していた目標と到達の程度については、大きな齟齬はないと思われる。
- ② 各項目4をすべて上回っており、数値上は、授業についての評価は高いといえる。自由記述においても「先生が一生懸命授業をして下さり楽しく講義が聞けました 言語学について心理言語学的なアプローチから理解することができた。」「言語の普遍性を軸とし講義が行われて、方言、ディクレシア、盲ろう者などさまざまな視点から言語の面白さを学べた。」「先生の話し口調が(個人的に)好き。ビデオの途中で何について考えればよいのか教えてくれたので、ビデオを見る時間も充実していた。」「先生が優しい」「理解しやすかったです」などがあつた。一方で、最終週の復習の授業(授業評価実施日)では、それまでの授業に比して話す速度が早すぎるという意見が出た。その日、めまいがひどく、すべての質問に答えるのが精一杯だったことを翌週に詫びたところ、授業後に数人の学生が壇上に上がり、気が付かず否定的なコメントを書いてしまったといった心温まる交流があつた。体調を整え、常に学生にとってわかりやすい授業ができるように心掛けていきたい。
- ③ G棟の為にスマホやPCでユーチューブを見る学生が少なくなく、注意を喚起したことは、設問3での高い評価につながったものの、今後、集中して楽しめる授業にするよう、努めていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English II7
授業コード 48A06-007
教員名 伊藤 聡子
教員コード 102445
登録人数 18
回答数 5
回答率 27.8%
休講回数 3 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1同様、グループディスカッションを中心にテキストから得た知識を応用して身近な事象を分析・考察する力、その結果を意見として英語で述べる力の養成を目標とし、今学期は簡単なディベートを組み合わせた。しかし別科目の海外実習引率のために長期の不在期間があり、その間の授業は代講で補ったものの、関連業務によりその前後にも休講をせざるをえなかったため、かなり変則的な学期となった。幸いQ1で授業の基本的な流れには習熟しており、また代講担当者が打ち合わせの上で丁寧な授業展開をして下さっていたため、担当復帰した後半の週で授業の進度や予定していた内容はほぼカバーすることができた。Q1と比較すると発言も積極的に行うようになっており、最終課題やディベートの出来から判断すると目標はほぼ達成できたと思われる。改善点は時間の制約により予定していたライティング課題の指導時間と授業評価アンケートの回答時間を確保できなかったこと、休講した1回分を補うことができなかったことだが、この不足した授業回の内容については最終課題の内容を先に示し、不在期間にリサーチできる状態にしていたことにより、学習に大きな影響は与えなかったことを願っている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語IV[FS]1
授業コード	11D04-005
教員名	泉水 浩隆
教員コード	102114
登録人数	26
回答数	4
回答率	15.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
 (回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価では、アンケート回答協力への呼びかけが十分でなかったのか、大変残念なことに十分な回答数が得られませんでした。次回は改善を図りたいと考えます。

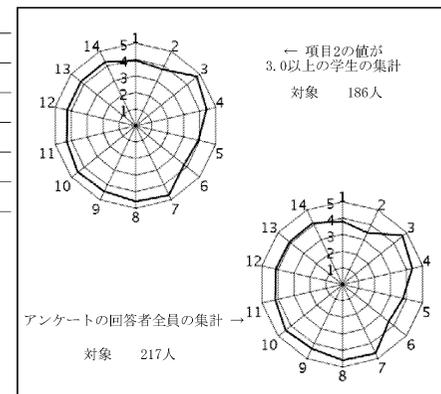
統計的にどこまで意味があるか疑問は残りますが、集計結果から計算すると、設問3～14の平均値が4.66、全設問の平均値も4.73 となりました。普段の授業の様子を見ている限り、運営上大きな問題はなかったのではないかと思います。授業の進捗についても、当初予定していた範囲まで終了できました。

自由記述欄での指摘・回答は特にありませんでした。

受講生の皆さんには、引き続きスペイン語のしっかりとした基礎を築いてもらえるよう、これまでと同様の方法を踏襲して授業を展開していきたいと考えています。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	南北アメリカとの出会い2
授業コード	13B05-002
教員名	遠藤 健太
教員コード	103936
登録人数	408
回答数	217
回答率	53.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

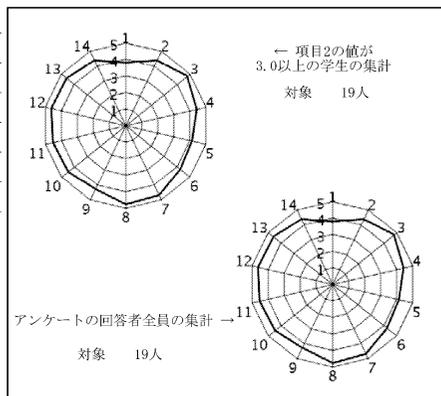
●履修者数408名という巨大なクラスだったので、そもそも授業評価の回答率自体が心配だったが、声かけをして十分な時間をとったこともあり、何とか50%以上の回答率(回答数217)にはなった。

●総合的な評価はそう悪くないが、到達目標についての理解と到達の実感に関する項目(質問5・6)の評価が4.0を下回っている。各回の講義で個別の事例について詳しく講じた反面、科目全体のまとめに当たるような話が不十分であったために、学生の側としては到達目標についての自覚が希薄になってしまったのだと思われる。この点を反省し、今後は科目全体の趣旨と目標を明確に伝えられるよう工夫したい。

●自由記述の回答内容を見ると、講義内容そのものについては概ね好意的な評価がなされているように思われる。他方、①パワーポイントのスライドの内容をノートする時間が足りないのもっとゆっくり進めてほしいとか、②パワーポイント自体をウェブクラス上にアップしてほしいといった声(毎度のことながら)目立つ。②については、著作権等の都合上ウェブクラス上にアップすることはできないと授業内で何度も説明している。①についても、全部ノートに丸写ししようとせず自分なりに要約する訓練と思ってノートをとってほしいと何度も説明している。今後もこういう声が多量に多いようなら、いっそ丸写ししたくないようなスライドを作った方がよいのかもしれない。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	基礎演習2
授業コード	32A07-002
教員名	浅香 幸枝
教員コード	000165
登録人数	28
回答数	19
回答率	67.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3～14の平均値は4.50であり、項目1～14の平均値は4.44であった。授業目標はおおむね達成できたといえる。4.5以上の設問は、6項目に亘っている。授業の開始と終了の時間が守られており、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れ、授業に取り組む教員の姿勢に誠実さ、真剣さを感じたと回答している。さらに質問や相談の機会が十分に設けられ、指導が十分であり、この授業を通して、新しい知識を得て理解が深まったとしている。学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加が自主的な学習を促すための適切な指導や情報提供があったと回答している。

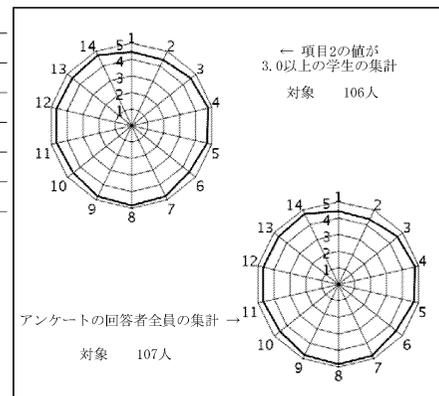
一番低い項目は平均値3.79であり、この授業を履修する前、授業の内容に興味を持っていたかという問いである。しかし、興味があまりなかったにもかかわらず、4.37の平均値で学生は予習や復習を主体的に参加し内容を理解しようとし、全体としてこの授業に満足している。

自由記述欄では、幅広い情報を得ることができたこと、自身の成長を感じたこと、本の読み方、活用の仕方がわかり、読書習慣が身に付き、レポート、発表など大変だったが時間管理がうまくなったと回答している。スペイン専攻として力がつくような授業をしてくれてとてもためになったし嬉しかったとの記述もあった。

大学一年生には、難しい教科書であったが、コツを教えることで学生たちが意欲的になっていくことが毎回感じられた。今後もこの双方向の演習で学生の力を伸ばしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン文学B
授業コード	32C02-001
教員名	小阪 知弘
教員コード	103689
登録人数	193
回答数	107
回答率	55.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、ある程度目標を達成できたこと判断している。

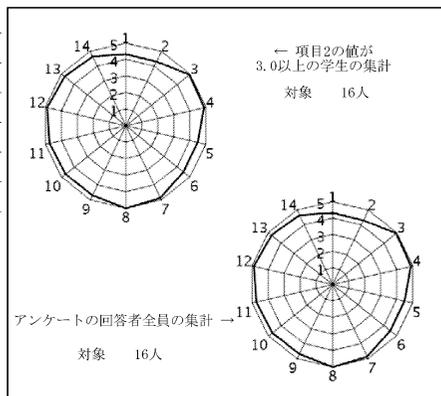
なぜなら本講義はスペイン近現代文学を通観することを目的としており、21世紀までのスペイン文学を概観することができたからである。また、到達の程度に関しても、レポートを通して学生にスペイン文学を分析してもらうことと講義という二方向性の学習を媒介にして、最初に設定した到達レベルに達したと講義担当者は判断している。

②数字データに関しては、全て4.0以上を獲得していることから、聴講した学生たちにとっても、講義担当者にとっても有意義な講義内容であったと判断することができる。楽しい授業であったという記述と板書きが見やすかったという記述から総合的に判断して、楽しい有意義な講義を展開することができたと見なしている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針に関しては、音楽を講義でかける時は音量に気を付け流すよう心掛けたいと考えている。今後はさらにわかりやすく楽しい講義を展開させる所存である。方針に関しては、今後も基本的には今まで行ってきた講義展開を続けていく予定であるが、さらに広い視野を取り入れた見やすく明快で随所に笑顔が生まれる講義を展開させていく所存である。学生人数が多い場合は、大きな講義室を使用できればありがたいということを付言して、アンケートを締めくくりにする。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペインの政治
授業コード	32C05-001
教員名	永田 智成
教員コード	103900
登録人数	33
回答数	16
回答率	48.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達程度は、アンケート結果から察するに達成できたと考えられる。政治学初心者であっても理解できるような講義を心掛け、またスペイン政治という事例を用いながら幅広い政治学の知識を身に付けてもらおうというコンセプトが支持されたものと考えられる。

数値データも基本的に高い評価であり、自由記述欄も肯定的なコメントのみであった。このことは授業担当者の講義コンセプトや講義スタイルが受け入れられている証拠と考える。

自由記述欄にもあったように、学生は手厚い保護を求めている。オピニオンペーパーを駆使し、講義が双方向的になるように引き続き努力し、質問には積極的に答え、またクラス全体が疑問に思っている単元があれば、時には授業予定を変更しても補講を行なうといった柔軟さが必要と感じた。したがって、次クォーター以降もキープコンセプトを継承しつつ、積極的に学生の疑問に答えられるような柔軟な講義を行なっていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテンアメリカ史B
授業コード	32C21-001
教員名	ESCANDON, Arturo
教員コード	102090
登録人数	5
回答数	1
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

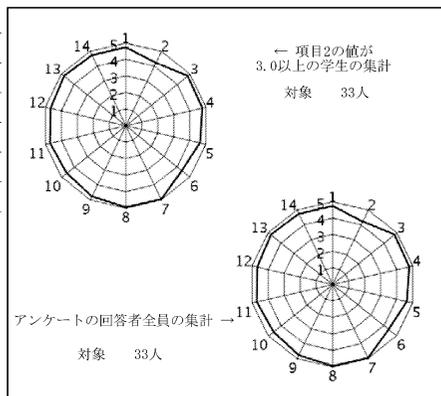
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set for this course were met. Students could get an overall view of historical change in Latin America, especially of the discovery and colonial times. Students actively participated in class whether making questions or making comments about a vast array of issues. Overall, the course set the basis for a discussion on social systems of domination and development combining political, cultural, and economic elements. I am quite thankful for the students involvement during the course. I am also preparing new teaching material that already shared with students, which will take the form of a textbook next year. The material will help teaching complex economic and political issues concerning the development of the Latin American colonies and their thirst for independence from European colonial powers.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテンアメリカの文化と社会A
授業コード	32C23-001
教員名	牛田 千鶴
教員コード	100657
登録人数	40
回答数	33
回答率	82.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



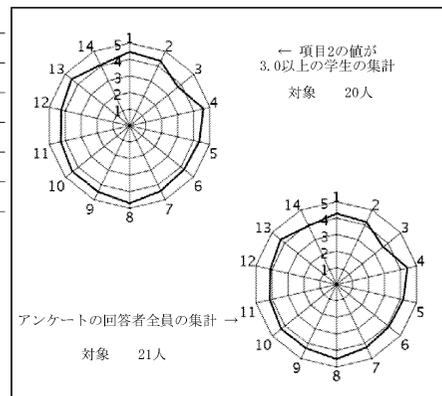
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに掲げた授業概要は、「米国におけるラティーノ（ラテンアメリカ系住民）の集住地域や人口規模拡張の推移、サブグループごとの移住形態の特徴、非合法移民と呼ばれる人々の実態等を幅広く確認したうえで、ホスト社会におけるより自律的な意味合いでの社会参画を可能とするために教育が果たする役割について考察する。」というものであった。また、到達目標としては、①米国におけるラティーノ・コミュニティ形成の歴史とその背景について理解できている、②ラティーノの子どもや若者たちをめぐる教育の実情と社会参画の課題が認識できている、の2点を掲げた。

授業自体は、米国におけるラテンアメリカ系移民の歴史に始まり、現在の政治状況、教育の果しうる役割等に至るまで多岐にわたったが、学生たちの自由記載欄にあったコメントを見る限り、多くの情報を網羅し詳細に説明した点が積極的に評価されたようである。また、レーダーチャートを確認したところ、もっとも高い平均値を示したのは、「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。」と尋ねた設問7で、4.97の評価であった。授業に対する全体的満足度も4.73とまずまずであった。「授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まった」かどうかに関する設問についても、4.79であったところを見ると、授業の到達目標を達成できたと感じた学生もそれだけ多かったものと推測できる。このほか、環境面については、履修者数に対して教室が狭かったとの指摘も複数名から挙げられていたため、来年度は履修者数が確定した段階で、必要に応じ教室変更の可否についても確認できればと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテンアメリカ特殊研究A
授業コード	32C35-001
教員名	岩崎 賢
教員コード	103731
登録人数	37
回答数	21
回答率	56.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

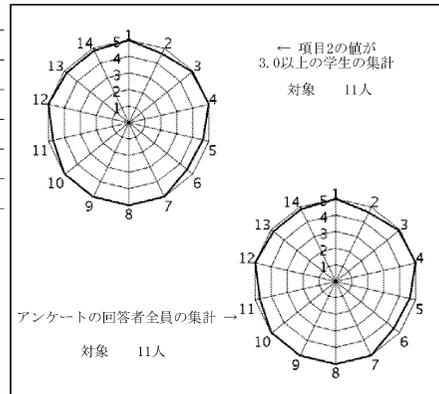
この授業の目標は、ラテンアメリカの世界遺産に関してスペイン語で書かれたテキストを読んでいくことで、ラテンアメリカの世界遺産に関するもっとも基本的な知識と理解、および、中級程度のスペイン語の文章の読解能力を養うというものであった。その目的は、学生たちが授業に積極的に参加してくれたこともあり、おおよぼ達成することができたように思う。

この授業では基本的に学生たちは真面目に授業を受けてくれて、私語をしたり睡眠したりする学生はほとんどおらず、シラバスの予定通りに授業を進めていくことができた。一方で、この授業に用意された教室が大きいにも関わらず、多くの学生が教室の後ろの方に座ったために、なかなか学生の声が聴きとりづらいという事態が起こった。

学生たちのなかには、一部、予習を怠ってきて、授業の流れを妨げているものが見られた。こうした学生に対しては、きちんと予習をしてくるように指導を徹底したい。また来年度からは、学生たちの声を聞き取りやすくするために、あらかじめ教室の前の方に座るように義務付けるか、あるいは小さな教室を用意してもらうようにする。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語圏異文化コミュニケーション論A
授業コード	32D14-001
教員名	CARDENAS, Abel
教員コード	017525
登録人数	15
回答数	11
回答率	73.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



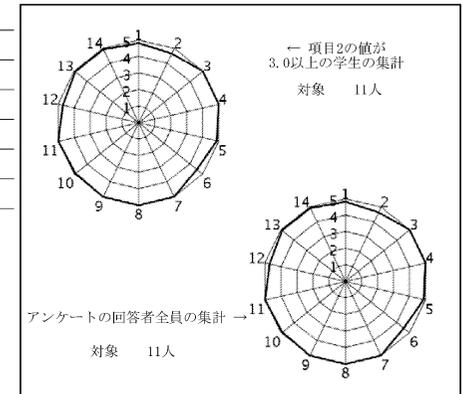
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was to introduce students to the field of intercultural communication with particular emphasis on how culture influences interaction between individuals from a Spanish speaking country and Japanese. This was achieved by watching several interactions between a speaker from a Spanish speaking country and foreigners from different parts of the world to be followed by an analysis and comparison of the way they use language, content, turn taking, space and other aspects of intercultural communication. Students were also asked to compare the communicative styles of the speakers in the videos with the way Japanese tend to communicate both verbally and non-verbally and discussed ways to prevent misunderstandings in intercultural encounters with Spanish speaking people and individuals from other cultures. All of these tasks involved active learning in small groups.

The results of the survey clearly show that students were very satisfied with the course. As can be seen from the radar chart and the table provided, the course received an average score of 4.87, which was higher than the average in our department and campus wide. In addition, comments provided by the students in the open-ended questions of the survey confirmed their complete satisfaction with the course. Among the positive aspects which were highlighted by the students were the use of small group activities, which allowed them to express their own opinions and learn from each other, as well as the positive class atmosphere.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語II<E・B>3
授業コード	11B02-009
教員名	松川 雄哉
教員コード	103644
登録人数	13
回答数	11
回答率	84.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

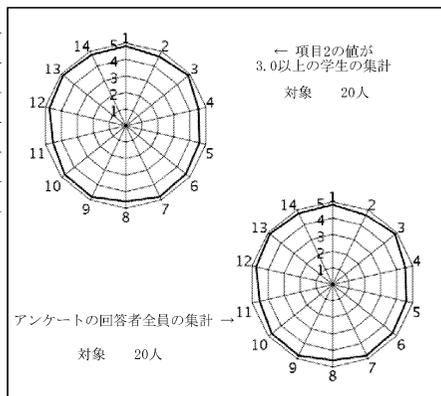
今年度の第二外国語としてのフランス語クラスでは、グループワーク主体で、特に音声からフランス語を学ぶことを心がけて取り組んできた。授業評価の結果を見てみると、項目1から14までの平均は4.88と高かった。さらに、自由記述項目を見てみると、音声を主体とした学習やグループワークを評価するコメントが見られた。このクラスを受講している学生は、普段は講義が多いためクラスメートと協力して楽しく勉強する機会があまりないためこのような結果になったのではないと思われる。

それから、開講当初に設定していた目標と到達の程度については、シラバス通り終えることができた。また小テストを4回実施するなどして、既習項目の定着に効果があったように思われる。

今後は、最も平均値が低かった項目2について、学生たちが授業外でフランス語の予習や復習ができるような学習環境を整えたい。例えば、Webclassを利用するなどして学生たちの文法・語彙項目の定着がもっと効果的になされるようにしたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語III[FF]1
授業コード	11B03-004
教員名	茂木 良治
教員コード	102698
登録人数	25
回答数	20
回答率	80.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

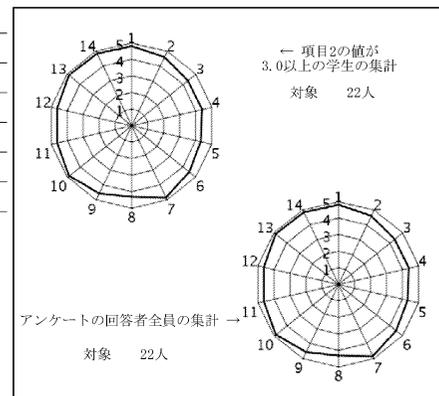


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「フランス語Ⅲ[FF]」はフランス学科向けの専門のフランス語の授業であり、教科書としてヨーロッパ言語共通参照枠A1レベルの教科書Zé nith1を利用した。L13~L24課までを対象としたが、今クォーターでは講演会への代講が1度あったため、L23課までしか終わらすことができず、L24課は未習となったことが反省点である。ただ、L23課までで学習すべき文法事項はすべて終えたため、秋学期には影響しないだろう。授業評価アンケートの結果では、項目1~14までの平均点が4.71点と高い数字であり、学生からの満足度は高かったことがわかる。なかでも、項目13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技能や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」で平均値4.85点、項目9「授業は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」で平均値4.75点と高い得点であったことから、授業の内容に関しても適切だったことがうかがえる。一方で、項目4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」が平均値4.55であったことから一部の学生にとっては授業の進行速度などが早かった可能性がある。今後はこの点もより一層考慮しながら授業準備をしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語III[FF]2
授業コード	11B03-005
教員名	吉澤 英樹
教員コード	103584
登録人数	24
回答数	22
回答率	91.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

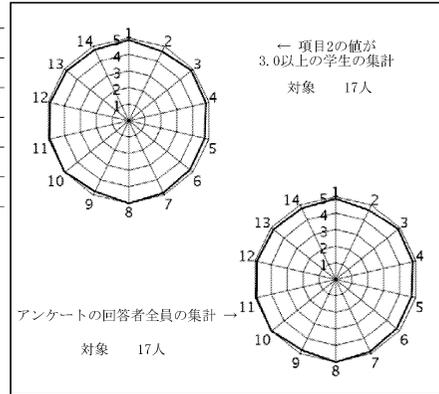


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当科目は2Qで海外フィールドワーク担当の教員の代わりに入ったものだった。学科の1年生の初学者たちをQ1に引き続きフランス語基礎への導入と学習習慣の確立をサポートするような授業によって、日本人教員として文法の基礎や発音体系の習得に重点を置いた。②アンケートと試験結果を見る限り、学生の満足度と習熟度は目標値以上に高い結果を出すことができたように思う。ただし、繰り返しの演習に力を入れたことは、学生の習熟度の底上げに役立った反面、学生のペースを見ながら進めたため授業時間を少しオーバーし、学生に負担をかけた。また学生の自由記述からは文法項目の演習に力を入れたため目先の期末試験対策としての共通教科書の内容のフォローアップがおろそかになった面もあるように見受けられた。③当科目は他の学科教員と進度を調整しながら、学科の学生全体のフランス語運用能力をブラッシュアップしなければならない授業であるゆえ、今後当該科目を担当した場合、学科の日本人教員やネイティブ教員とこまめに連絡を取りながら目的に達するように努力したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語IV[FF]1
授業コード 11B04-004
教員名 COURRON, David
教員コード 019026
登録人数 18
回答数 17
回答率 94.4%
休講回数 1回
補講回数 1回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students practice French through both oral and written exercises, with a particular attention given to acquisition of grammatical patterns in various contexts.

2. Degree of achievement of initial course objectives

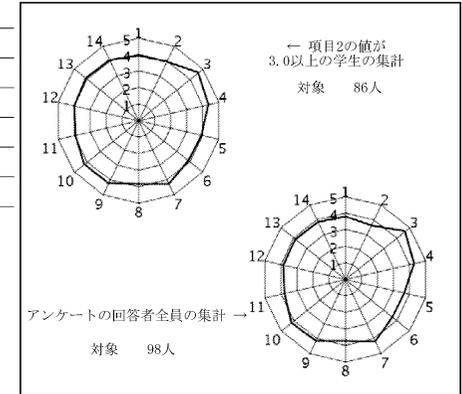
This quarter, though the amount of homework may have seemed heavy for some, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above. Some valued verb tests and dictations, the fair balance between explanations and practical activities and the frequent chances they were granted to study through their homework.

3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will then do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated my grammatical explanations along with my precise checking of their homework as well as the fact that I gave them extra materials on my home page. However due to my heavy administrative duty I could not always provide the students with answers to their exercise booklet on due time which caused some anxiety. A situation I will try to work out.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ヨーロッパとの出会い1
授業コード 13B04-001
教員名 真野 倫平
教員コード 100083
登録人数 248
回答数 98
回答率 39.5%
休講回数 1回
補講回数 1回

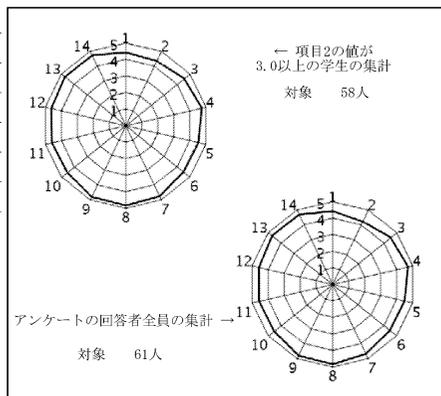


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は全学の1年次生以上を対象とする学際科目であり、フランスの文化や社会を予備知識のない履修者に幅広く紹介することを目的とする。授業では毎回、歴史・社会・文学・芸術・演劇・映画・音楽など一つのテーマを設定し、多面的な角度からフランスの文化や社会を紹介した。毎回、授業プランと関連資料に関するプリント1~2枚を配付し、同時にパワーポイント資料も利用した。①目標と到達の程度については、試験の結果から判断すると、1) フランスの歴史・社会・文化・芸術に関する基礎知識を獲得する、2) 異文化理解のためのさまざまなアプローチを修得する、という目標はある程度達成できたように思う。②総合的な自己点検・評価については、設問3~14の平均は3.95で、学際科目の全体平均4.35をかなり下回った。昨年度同科目を担当した際の授業評価の数値が4.27だったので、今回はかなり下がったことになる。理由を考えるに、今回は登録者数が制限いっぱい約250名であり、大教室での授業運営であったことが大きく影響したのではないかと思う（ちなみに241名以上のクラスの全体平均値は3.88である）。そのことが特に設問8（教員の声・音声）や設問12（質問・相談の機会）などの低評価に現れたのではないかと。一方で、自由記述欄においてはプリント教材や視聴覚資料に関する好意的な意見も見られた。③改善点・今後の抱負については、今回のように大人数授業になった際に、以上のような問題にいかに対処するかが今後の課題となるだろう。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランスの政治
授業コード	33A08-001
教員名	齋藤 山人
教員コード	104150
登録人数	150
回答数	61
回答率	40.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

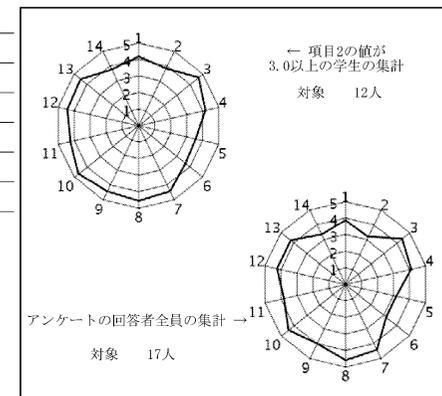


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初の到達目標は、現代フランスの政治的問題を近代初期における起源に遡って、歴史的なパースペクティブから捉えることにあった。当該講義を担当するのは今年度が初めてであったため、受講者の関心に寄り添いながら適宜カリキュラムを修正したが、最終的には当初の到達目標に忠実な授業を展開することができたのではないかと考えている。② アンケートの自由記述には、当初のプログラムから遅れが見られたというコメントもあったが、それは前述のように受講者の反応を見ながら授業内容を常に工夫した結果であり、全体的にはこの点に関する不満はほとんどなかったと言えるだろう。実際、アンケートの結果を見ても、受講者の満足度はきわめて高かったことが伺える。授業中に動画を見せる際に、教員の解説が重なって聴こえにくいという点は、学期後半に教員自身が自己修正している。③ 次クォーター以降は、この経験を踏まえて、授業のペース配分やシラバスの内容を再考する予定である。学生の評価はあくまでも一つの指標に過ぎないことを理解した上で、今後も受講者の関心に応えられるように、授業内容の更なる充実を目指したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語II<H>1
授業コード	11C02-001
教員名	水守 亜季
教員コード	103678
登録人数	18
回答数	17
回答率	94.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

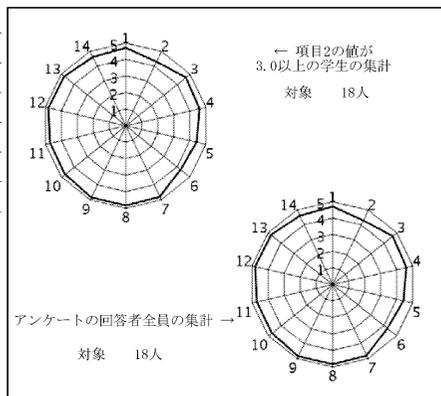


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に基づいたA1レベル相当の教科書を用い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。そのため授業には、①ペアワークやグループワーク、②文法規則などを学生自らが発見する活動、③既に持っている知識・経験を手掛かりにドイツ語の意味を推測するトレーニング、④ポートフォリオを用いた学習の振り返り、といった要素を取り入れた。学生が慣れない授業形態のため、理解の浸透には時間を要すると予想され、実際に授業全体の満足度を問う設問(14)の3.35は新しい学び方に戸惑う学生の存在が感じられ、自由記述にも「文法を教えて欲しい」といったアクティブラーニングで語学を学ぶ授業では想定される要望があった。とはいえ、設問(3)～(14)の平均値4.00、は学生からの比較的高い評価を示しているうえ、さらに知識の増加や理解の深まりについて問う設問(13)の4.24は高い数値であり、アクティブラーニングの効果が全体として学生にも感じられていることがうかがえる。自由記述では、「楽しく学ぶことができたこと」、「学生が話し合っていて考えるという授業の形」を評価する声もあり、また期末に授業内で行った振り返りのワークではグループワークを評価する声が多かったことから、協働学習、自律学習が評価されていることがわかる。重要な課題は、設問(2)の値が3.18と比較的低く、復習の重要性について学生が承知しているものの、実行できていないことがわかる点であり、今後も自律的な課外学習を促す工夫を続けてゆきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語IV[FG]3
授業コード	11C04-010
教員名	角山 朋子
教員コード	104039
登録人数	19
回答数	18
回答率	94.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

第一クオーターのアンケート結果と比較し、設問(2)、(6)の平均値が下がった。この結果について、第二クオーターになり入学当初の緊張感が緩んだ可能性と、自己評価が厳しくなった可能性の双方が考えられる。他方で、設問(12)、(13)の平均値が上がった。学生たちが授業外の学習機会を認識し、全体としては深い学びの実感を得た様子がうかがわれる。したがって、開講当初に設定していた目標におおむね到達したと考える。

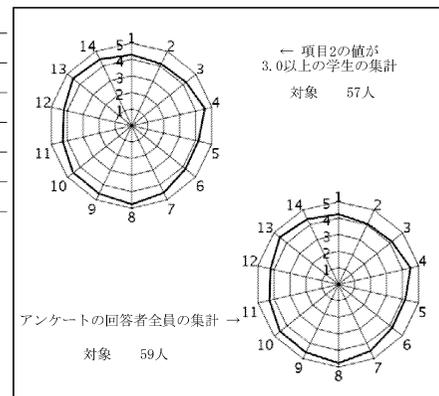
授業運営についての設問は、平均値が高い傾向にあった。また、設問(15)の自由回答結果から、前クオーターに引き続きWebclassと連動したE-Learningやグループワーク、ペアワークなどを取り入れた授業が学生たちに好評であった様子を見て取ることができた。

学生一人ひとりに目配りするなど丁寧なフォローに努めた結果、設問(4)の平均値に改善が見られた。設問(16)でリスニング問題の進め方に関する意見があったように、教師が思っているスピードで学生が学んでいるわけではない。一方方向の授業にせず、教室全体に目を向け、学生の深い理解と実践能力に結びつく授業づくりに努めたい。

教室環境については、冷房の温度管理に注意する。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ヨーロッパとの出会い5
授業コード	13B04-005
教員名	中屋 宏隆
教員コード	102885
登録人数	86
回答数	59
回答率	68.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

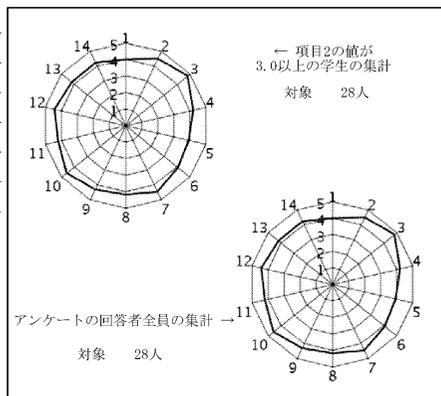


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
目標については、以下の二点であった。①学生は、情報を整理し分析する力・Eラーニングスキルを習得することができる。②学生は、国際性の修得/異文化・多様性を理解する力を習得することができる。①については、単純なEU理解に留まらず、新聞記事や社会派の映画を教材に取り上げ、分析を行った。そうした情報整理能力のある程度の向上は図られた。ただし、Eラーニングスキルに関してはあまり触れる時間は無かった。②については、EUを題材としていることもあり、ヨーロッパの国際社会のありかたについての学生の理解は深まったと言える。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
もっとも主要な平均値である「項目1から14の平均」が4.37、「項目3から14の平均」が4.41であった。どちらも学内平均をわずかに上回った。自由記述にも「教科書やスライド、映像などいろんな方法で授業が進められていた点」「教科書が非常にわかりやすい。ノートを自分でとらなければならないのでぼーっとしている時間がなく充実感が得られる」などがあり、概ね学生の満足の行く講義が提供できたと言える。
- ③次クオーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などもっとも低い平均値だったのが設問3の授業時間開始についてであった。来期からは定刻通りに開始したいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文献講読（ドイツ語圏の文化）1
授業コード	34A23-001
教員名	岡地 稔
教員コード	015206
登録人数	47
回答数	28
回答率	59.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

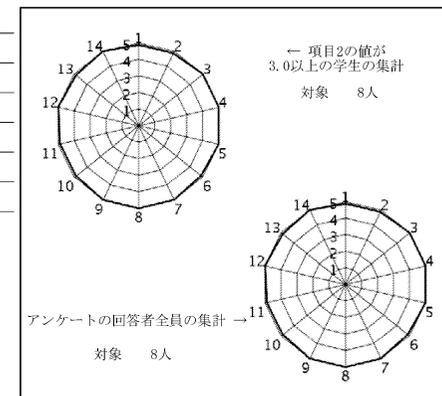
本授業はドイツ学科の専門科目で、3年次生以上に対する必修選択科目であり、講義ならびに演習形式で進められた。テキストとして歴史学の実証的論文を選び、論理構造を考えつつ精読することに努め、読解力の向上を到達目標とした。

各設問項目の評定平均値は、設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか」の3.93をのぞき、すべて4点台であり、また、全体満足度を問う設問14の評定平均値が4.21であり、全体の授業評価としては及第点と思われる。授業の進行にあたっては、訳出する学生のところまで進み出て、訳文の適・不適・疑問・質問、論理構造の中での位置づけ・意味づけなどをそのつど指摘・応答・説明しつつ、進めた。また、途中、間に毎回、訳出にあたって注意すべき文法事項や、ドイツ語の表現方法の注意点などの一般的事項の説明・解説を加えた。自由記述回答で「文章を読むに当たって必要な前提をその都度解説してくれる」「論文を読むだけでなく、文法の復習ができたので良かったです」とあり、また、設問12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」の評定平均値が4.43であるのは、こうした進め方への好評価と理解される。

設問7「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか」の評定平均値が4.46のまずは高得点であったを励みに、今後も工夫・改良を進めたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級講読B
授業コード	34C02-001
教員名	坂本 真一
教員コード	104127
登録人数	35
回答数	8
回答率	22.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

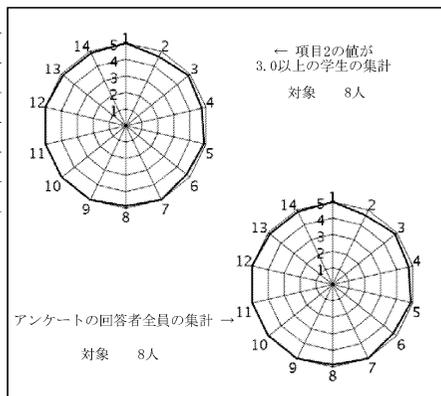
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
当科目の到達目標「テキスト精読を通して、中級レベルのドイツ語力を身につける。」は、おおむね達成できた。初回の授業において、受講学生の読みの能力を大まかに測ったところ、指定教材を扱うにあたり適正なレベルだと判断した。毎回、トピックが終了するごとに作成した文章訳を提出を求めたが、ほぼ全ての学生が提出し、その内容も教員が求めるレベルに達成していた。

②学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
就職活動のため、数回欠席をする学生もいたが、総合的には出席状況は良好であった。また、上記の提出物は合計7回分あったが、提出状況も良好であった。最終レポートも未提出の学生はなく、普段の授業態度なども含めた上で総合的に評価をしたが、単位を付与するにふさわしい結果であった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
授業運営上での反省すべき点としては、若干、学生側の発言に偏りがでてしまった点である。グループ活動などを積極的に取り入れたつもりではあったが、全体確認をする際には、やはり決まった学生が発言をするという構図には変化は見られなかった。今後は、そのような部分に関しても更に配慮をし、一人一人が発言できる機会がある授業運営を目指す。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語実践演習A
授業コード 34D02-001
教員名 林田 雄二
教員コード 017434
登録人数 11
回答数 8
回答率 72.7%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1に開講された「ドイツ語演劇研究」で、今年11月に、オーストリアの作家 F. Hofmannsthal の「Jerdermann」を上演することが決定した。その上演に参加するために新履修者を含めての学生が集まった(他学部、他学科からの履修あり)。ほとんどが1年生であったが、ドイツ語能力、モチベーションが非常に高く、難解な韻文のテキストを、高い集中力で自分のものにしていった。6月開催の「南山大学ドイツ語オーラルインタープリテーション大会」にも多くが参加し、ドイツ語表現の研鑽を行い、上位入賞を果たした。

到達目標：

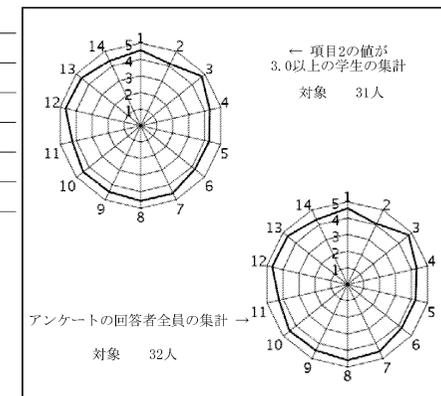
1. 演劇作品の理解を含める：十分に達成できた。
2. テキストを内容に合わせて音声・身体表現できるようになる：十分に達成できた。
3. 練習のテキストを実際の会話の場面で使用できるようになる”学生からこの点に関して評価する言葉ももらった。

数値評価：

項目1から14の平均で4.89、項目3から14の平均で4.91と、非常の高い評価を得て満足している。これをもとにQ3, Q4で開講される演劇関連授業でも、更によりよい授業を目指したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語II発音・聴力2
授業コード 35A02-002
教員名 蔡 毅
教員コード 100086
登録人数 33
回答数 32
回答率 97.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は初級中国語授業として、全体からみれば、開講当初に設定した授業目標はおおむね達成したと思います。しかし、授業評価の得点は近年もっとも低いものですので、自己反省の立場から、次の改善すべき点に重点をおいて述べたいと思います。

統計の数値から見れば、(2)の「主体的に授業に参加」、(4)の「構成や進行速度は適切」、(6)の「到達目標に向けて力がついてきている」、(9)の「理解度に配慮」という点では、評価がわりと低いものであります。これについては、学生に対する要求が足りなかったのみならず、自分もそれをあまり重視しなかったのではないかと思います。

なお、(11)の「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促す」という点でも評価は高くありません。これは上記の問題点と関わりがあり、やはり学生の積極性を引き出すことには工夫をこらさなかったため、(14)の「全体として満足」の得点も低いものとなったと思います。

今後の改善策として、

その一は、学生に対して予習や復習などはもっときびしく要求し、勉強の自覚を一段と高くさせることです。

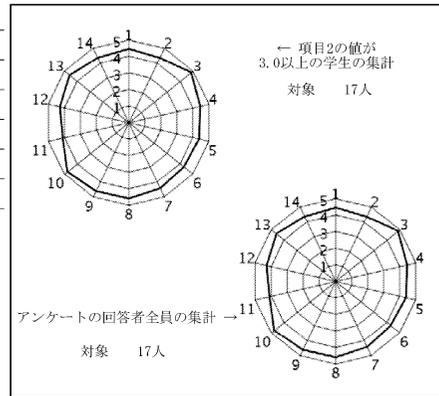
その二は、授業中ではもっと学生に質問できるような機会を与え、授業後はもっと学生の意見や希望を聞き、いかに学生の授業への興味を引き起こすのかについて、さらに真剣に対応することです。

また、学生の自由記述にはいい評価ばかりですが、授業の内容と方法についてもさらに工夫する必要があると思います。

これからは一層の努力を払い、いい授業を学生に提供できるように、取り組んでいく所存であります。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

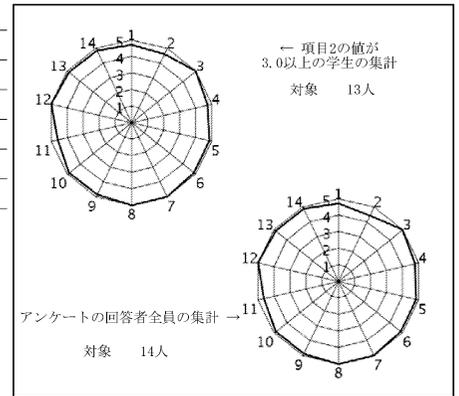
科目名 中国社会研究
授業コード 35C15-001
教員名 松戸 庸子
教員コード 100087
登録人数 24
回答数 17
回答率 70.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級インドネシア語会話A
授業コード 35D05-001
教員名 MANGGA, Stephanus
教員コード 103578
登録人数 17
回答数 14
回答率 82.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初の学習目的はほぼ到達したと自己評価している。が、香港デモが毎日曜日に繰り返されたことで科目の一環として、デモの推移と北京政府の対応、政治的意味なども講義した。目標には「香港デモ」は含まれておらず、「項目11」の評価が相対的に低くなったかもしれない。②数値データの結果が良かった点は、自由回答の「中国社会への理解が深まった」「話しが細かくわかり易かった」「時事問題があって現代情勢と合わせて中国への理解が深まった」との肯定的な回答からもわかる。③次回の課題はパワーポイントの技巧の向上である。文字データは作成できるが、写真や図表、地図等が少なかった。改善を急ぎたい。

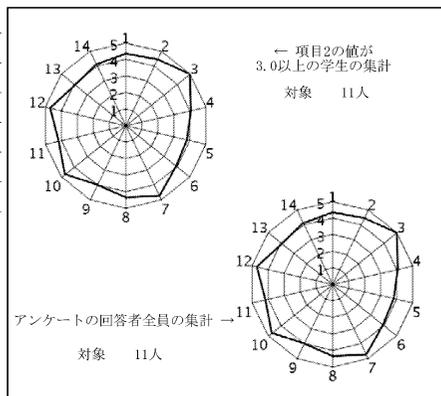
また、「中国のことをもっと偏見なく、全面的に見てほしい。アジア学科の先生として、東西両面ではなく、いつも西の視点からアジア国家を見るのは一種の失格じゃありませんか」という、厳しい意見があった。中国人留学生の声だと推察する。中国政治については、アジア学科の学生が対象で、講義科目も少なく時間も少ないことから、多くを語ることはできず、やはり自分の中国論を語っていることを、上記の批判から理解できた。この点を自覚して、大学の授業というのは、高校までとは違って「正解」を教えているのではなく「思考の材料」を提供しているに過ぎない、という原点に立ち返り、今後は授業の中で学生に何度もこの点を強調しようと思う。

従来、授業アンケートから、社会科学の価値論に繋がるような批判的な意見を聞いたのは今回が初めてあり、驚くと同時に、自分の偏向（特に大陸の中国人から見ると）にも気づかされた。その意味ではアンケート自体の有用性も認識できたのは意義が大きい。

この授業の目標は学生が様々な文脈に基づいてインドネシア語を話す訓練を受けることになる。そのほか、授業では読む、書く、聞くことについてもあつかう。さらに、インドネシア文化も紹介する。学生の評価とくに「この授業の良かった点、評価できることは何ですか」という質問に関する答えを読みますと、授業の目標が実施されたのではないかと思います。学生は「ディクテーションの練習や、日本の文化をインドネシア語で説明する作文といったアウトプットの機会があったから」や「発表する機会が多くてよかった」や「インドネシア語メインで授業が進められていたので、リスニング力が身についた」と書いてくれたので、授業の目標は到達したのではないのでしょうか。「この授業の改善すべき点があればできるだけ具体的に書いてください。できれば改善策もお願いします」に対する学生の回答について承知して、今後の方針としては「会話の練習とディスカッション」を増やして行こうと思っています。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 インドネシア言語研究
授業コード 35D13-001
教員名 稲垣 和也
教員コード 103887
登録人数 19
回答数 11
回答率 57.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

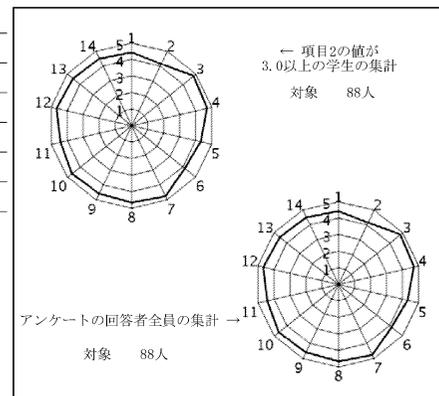
本授業が掲げた到達目標は3点ある：(1)インドネシア語を分析できるようになる、(2)インドネシア語を分析するための方法論を身に付ける、(3)インドネシア語に見られる言語現象を問題化できるようになる。このうち、(1)、(2)については、九割以上の受講学生に十分な向上が認められ、設定していた目標におおむね到達したと言える。(3)については、問題化していくプロセスを受動的に学習するにとどまり、設定していた目標に到達できたかどうかを確認する機会がなかった。

学生による授業評価については、回答数が11件であった。平均スコアが4.00以下の設問は5、6、9、13であった。

来年度に改善が求められるのは以下の点である。(i)到達目標のうち、言語現象の問題化については受動的に学習するのみであったため、受講学生達がより主体的に問題化できるよう工夫する。(ii)到達目標に対する理解とその目標達成度(設問5、6)を向上させるため、毎回の授業で到達目標を意識できるよう工夫する。(iii)理解度(設問9、13)を向上させるため、質問機会を増やす、技能獲得の満足度を高めるといった工夫をする。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本史A3
授業コード 12B03-003
教員名 林 順子
教員コード 101007
登録人数 158
回答数 88
回答率 55.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスで設定していた到達目標は「①現代とは異なる、あるいは共通する江戸時代の社会の仕組みの特徴を理解している。②歴史的な観点から、現代の社会問題の背景を考察し説明できるようになる。」の2点である。毎回学生にwebclass上で提出してもらったコメントをみていくと、当初は単純なものが多かったが、次第に、江戸時代の社会の仕組みを理解し、かつ自分の学部で学んだ知識とも結びつけた“学際的”内容のコメントも増えていった。試験答案をみても、多くの学生が目標に到達したと考えている。

このwebclassで提出される学生からのコメントは、重複するものや内容がないものを除いて、全て学生に公開した。中には熱のこもった長文のコメントもあり、今回の評価欄には「自分とは違う視点の他の学生のコメントが興味深かった」といった内容を数名からいただいた。

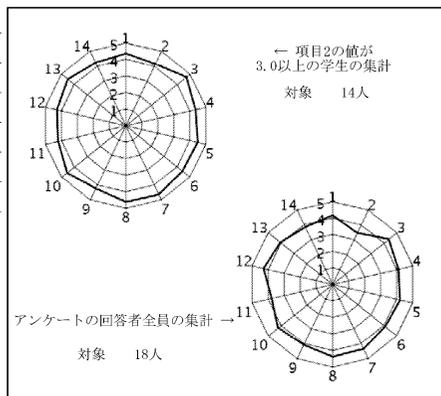
毎回、質問も多く寄せられた。それら全てに極力回答するように心がけたところ、これについても記述欄で好意的評価を得られた。正直、こちらも回答を通じて発見があり、大変ではあったが楽しかった。

数値データ、自由記述欄とも良い評価をいただき、講義方法は基本的にはこれで良かったかと思う。

一方、改善点の記述欄には「スライドの字が小さかった」「歴史好きには面白いがそうでない者はどうか」「文化に話が偏って歴史の流れのなかでいつの頃のことかわからなくなった」といった声もあった。3番目のコメントについては、確かに時系列を間違っている試験答案が複数あり、歴史を学んでこなかった学生のためにも全体の流れを俯瞰する機会を一度は設けるべきだったと反省される。また、「授業が始まる前にレジュメを配るのは止めた方がよい」との記述もあったが、時間前にレジュメを配布し終え、時間になつたらすぐに講義に入るのが理想と考えている(とはいえ、これはほとんどできなかった)。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学B1
授業コード	12C09-001
教員名	岸 智子
教員コード	100346
登録人数	65
回答数	18
回答率	27.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

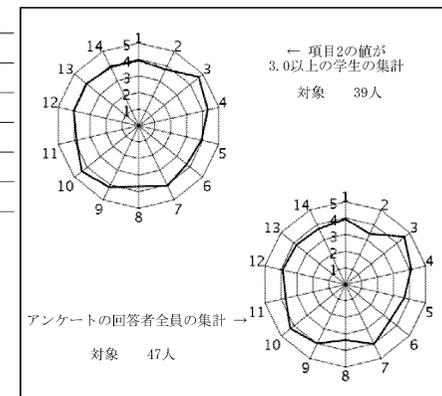


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目標は全く達成できていない。後半では指定したテキストを使用し、グループに分かれて輪読し、要旨を報告してもらう授業を試みたが、あまり成功しなかつた。学生の知らない経済用語が多すぎ、その解説に時間を取られたからである。テキストの選定は非常に難しいと思った。経済学は積み重ねの要素の強い分野であり、よほど基本的なことが書かれているテキストでないと、経済学の授業をはじめて履修する学生の多い、共通教育には向かないと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相9
授業コード	13C06-009
教員名	岸野 悦朗
教員コード	103035
登録人数	84
回答数	47
回答率	56.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

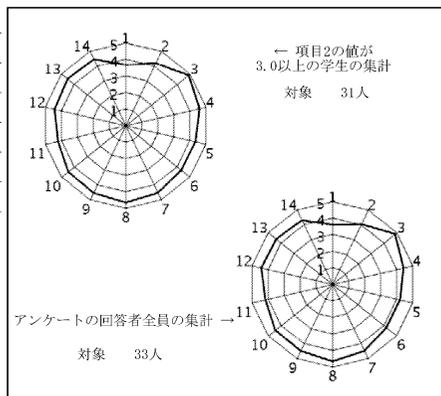


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本講座では日本の税財政を理解し、その問題点を考え、現在の有権者としての将来の税財政に関する各種課題に対し、的確に対応できる判断力を要請することを目的としている。本年度は昨年度に比べ大幅に人数が増加したことから出席は取らなかつた。その結果、出席割合は激減（約半数程度）したのではと感じているが、試験結果やレポートの状況を見る限り良好であったことから、社会保障等税制・財政に関する問題意識が概ね醸成されたのではと評価している。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
受講生の中には、税財政といったこれまであまり知らなかつた分野について分かり易く詳細に説明していただいた旨良好な評価をした者がいたが、全体的な評価は4以下と昨年度より低かつた。この要因の1つは、出席をとらなかつたため、欠席者が多く、途中から聞いて授業の内容が理解できなかつた者や今年度は2限連続であったので、授業疲れで集中力が持続できなかつた者がいたのではと感じている。（履修中止者が5名程度存在した。）
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
来年度以降基本的には本年度と同様であるが、よりメリハリのあるものとすべく、一部カリキュラムを見直したい。また、授業の冒頭に数日前までの時事問題の新聞記事等を紹介したが、好評だったので、引き続き継続したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データ処理入門3
授業コード 40B03-003
教員名 宮崎 浩伸
教員コード 101892
登録人数 36
回答数 33
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

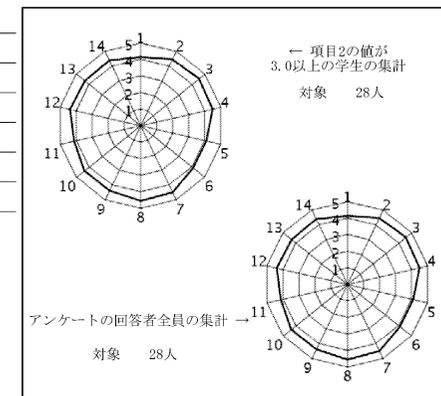
今回の授業評価結果は、設問3～14の平均値が4.43であり、前年度の同じ授業での結果が4.63であったこと、また、開講当初に設定していた目標に対する到達度も前年度と同じぐらいであったように実感していたため、残念な結果であったと思う。

しかし、この結果を受けて、今、授業を振り返ってみると、前年度と比べてみると、一部、態度の悪い学生が目立ち、授業がやりにくかったこと、また、授業の中で、重要な内容について説明していた際や、前年度と同様に、課題レポートについて、授業の中でも、時間をとって、計算方法だけでなく、その意味するところについて、詳しく解説したが、学生からの反応が今一つだったようにも思う。こういった点は今年度の反省点であり、今後の課題として、改善していく必要がある。

自由記述欄では、「先生の丁寧な説明によって理解度が増した」、「生徒に合わせて進めてくれたのでとてもやりやすかったです。」等の肯定的な意見をたくさんもらうことができ、今後もこのようなスタンスで、きめ細かな授業を心掛けたいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読(国際)A2
授業コード 40C06-002
教員名 林 尚志
教員コード 017897
登録人数 44
回答数 28
回答率 63.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

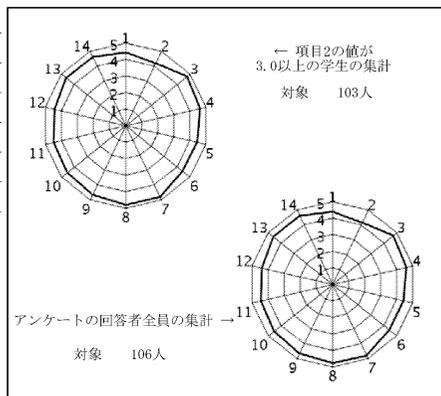
この授業では、開発経済学の英文テキストの「人的資本」に関する章を精読しながら、受講者の「英文読解能力」を高めるとともに、「教育および健康と経済開発との関わり」や「児童労働問題の原因と効果的な政策支援のあり方」等の問題についての理解を深めることを目標とした。

これら目標の達成度については、各項目について一応の評価が得られるとともに、「この授業では、開発経済学の授業での学びが活かせる」等のコメントがあり、全体としてまずまずの成果があったと感じられる。また、(1)「理解のためのポイント」というプリントを事前配布し、受講者の予習&復習に活用してもらったこと、(2)各授業の冒頭に「今日のねらい」の時間を設け、今回授業での注目点等について解説したことが好評であった。

今後の課題としては、第1に、音読および内容説明を担当する「今日の当番グループ」以外の受講者の参加意識を高めることが挙げられる。すでにある程度試みてみたが、当番グループ以外の受講者に対し、授業中に随時疑問を投げかける等の工夫を重ねていきたい。また第2に、「授業の進度」をもう少し速めることが挙げられる。今回は、学生の理解度に応じて進度を調整したため、当初の予定よりもかなり遅れてしまった。今後は、「進度を速められる部分」と「ていねいに理解すべき部分」のメリハリをつけることを心がけていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済入門
授業コード 40D06-001
教員名 稲垣 一之
教員コード 104110
登録人数 172
回答数 106
回答率 61.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

目標水準に十分に到達できたと判断されます。考え方の基礎となる経済理論を紹介した後に、最新のデータに基づいた応用例を多数紹介しましたが、ほとんどの受講生から「分かりやすかった」というコメントが寄せられたことが理由です。項目番号13も4.58と高い数値となっています。また、オフィスアワーや講義後の教室にて、30~40人程度の学生から質問を受けましたが、その質問内容から判断して理解度が十分に高まっていると実感されました。経済理論の応用方法を講義中に実践したことが、学生の関心を引き、勉学意欲を高めたことに貢献したと思われます。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

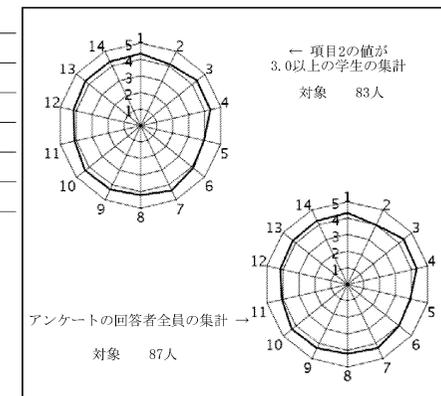
項目番号13と14が4.6と高い数値になっており、入門科目としての役割を果たすことができたと考えています。自由記述では「説明が丁寧で分かりやすい」といった趣旨のコメントが大多数であり、ネガティブなコメントは見当たりませんでした。また、大教室での講義でしたが、私語は全くありませんでした(1回注意しただけでした)。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今回の講義の進め方で多くの学生のスキルアップにつながると感じられたため、この流れを維持したいと思います。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ゲーム理論A
授業コード 40D07-001
教員名 上田 薫
教員コード 016832
登録人数 252
回答数 87
回答率 34.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

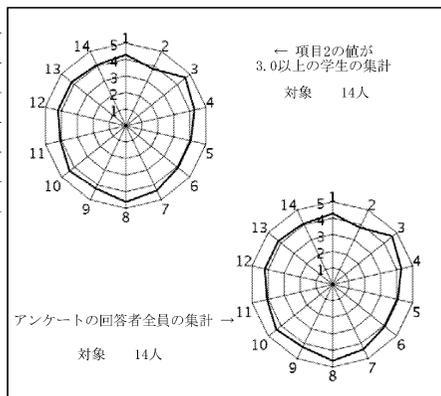
この授業はゲーム理論の基本的な考え方の理解を学修目標とし、特にゲーム理論の基本にあるゼロ和ゲームに関する理論を重点的に説明することを内容としている。例として石取りゲームのバリエーションを探り上げ、学生に実際にプレイさせるという試みも行った。前回の講義と比べ、必勝法に関する数学的説明を見直し、わかりやすくする工夫を試みた。

昨年度の授業で低下していた設問13と設問14の平均値がいずれも4.2を上回り、前々回と比べても上昇したことは喜ばしい。説明の技術的部分について工夫を加えたことの効果があったものと思われる。設問6の平均点が4.0を上回ったことも、その傍証となるだろう。設問3、7、8、9の平均値がいずれも4.2を超えていることから、プレゼンテーションに関しても問題はないようである。

平均値が最低だったのは設問5の3.98である。これについては、イントロダクションと最終回にこれまで以上に時間を確保して説明を行なうことを考えてみたい。前回平均値が低かった設問11は4.07とおおむね満足できる水準に上昇した。配布プリントが出席者全員に行き渡らないことがあったことが低い点数の原因ではないかと考え、配布プリントを登録者数の変化をチェックしながら増加させたことが一定の成果を挙げたものと思われる。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	計量経済学B
授業コード	40D12-001
教員名	大鐘 雄太
教員コード	103641
登録人数	30
回答数	14
回答率	46.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、「重回帰分析の基礎的な理論について理解できる」ことを目標とした。授業の到達目標を理解できているかどうかに関する設問（設問5）は4.07であったが、定期試験の結果はあまり良好ではなかったため、目標の到達には至らなかったと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

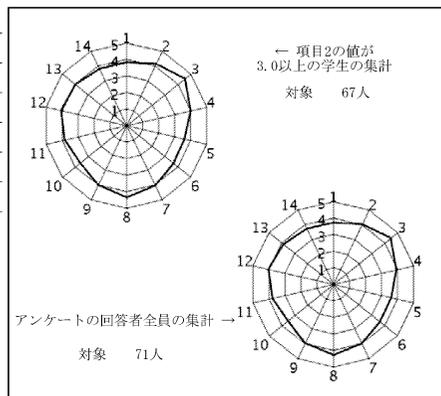
昨年度と比べて改善された点として、(1)設問3から設問14までの12項目すべてが4点台になったこと、(2)設問1から設問14の平均および設問3から設問14の平均がそれぞれ0.03上昇したこと、が挙げられる。一方、項目ごとにみると、(1)12項目中6項目が昨年度よりも低く、(2)全体の満足度に関する設問（設問14）の点数も4.20から4.07へと下がっているため、これらは改善点として挙げられる。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次回の計量経済学Bでは、練習問題を増やすことにより、履修生の知識と理解の定着をさらに促していきたいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	理論経済学A
授業コード	40D15-001
教員名	井上 知子
教員コード	019166
登録人数	120
回答数	71
回答率	59.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達度について、シラバス通り授業を進め、かつ、毎回確認テストをして次回に結果をフィードバックすることで普段からの復習を促したが、試験の結果を見ると分布は2つ山であった。

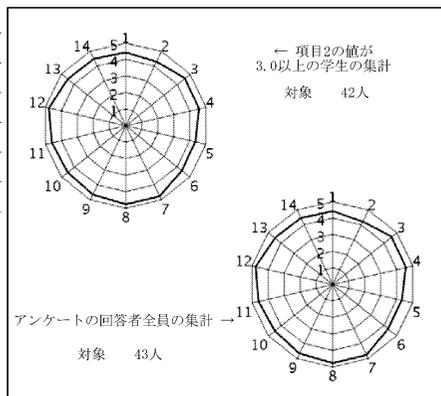
これまでの同科目の授業評価と比べ、今回のそれは平均値が低かった。その原因として思いつくのは、一部の騒がしい学生への注意が行き届いていなかった点である。自由記述欄のエクセル表を読んで、「評価できる点」に「とても分かりやすかった」と記入をしている学生が同時に「改善すべき点」に「左後ろがうるさかった」と書いたケースが複数あり、勉強意欲の高い学生に悪い環境で勉強をさせてしまったと申し訳なく思った。

昨年と同様な授業ではテストを授業の終わりにしていたが、「テストのために途中入室する学生がいて集中が途切れる。また、自分は理解が遅いので、テストは次の回にして欲しい。テストを次の授業開始時点でやってはどうか。」という提案があり、なるほどと思い、今回は授業開始時に前回分の授業内容をテストすることにした。授業開始時は出席が多いが、テストが終わると私語をし、その後教室を出ていくという学生も見られた。私語に気づいたら、左後方のブロックに行き静かにするように促したが、私が前で授業を再開するとすぐにまた私語をするという状況だったのだと思う。

今回の授業では、復習を促すために、次回の確認テストで何を問うかを事前に受講生に伝えていたため、受講生は事前にテスト内容を知っており、このため、テストだけ受けに来るといった学生が多かったのかもしれない。確認テストをどうするかについて、次回の授業ではまた別の方法を探りたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報経済学B
授業コード	40D18-001
教員名	小林 佳世子
教員コード	100487
登録人数	159
回答数	43
回答率	27.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、経済学部の2年生以上の専門科目です。200名近い大人数講義ですが、非常に高い評価となり、素直にうれしく思っています。

この講義では、ゲーム理論の基本的な内容を理解するとともに、自分でその理論を現実の問題に応用する力をつけることを目標としていました。そのため、理論的な正確さを前提としつつも、できるだけ現実の事例をたくさん講義中に紹介するとともに、自分で事例を考えることを最後の課題としました。その課題でも、いろいろと考えられたとみられる例がありました。

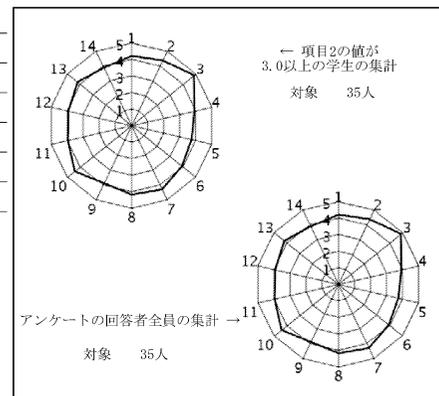
自由記述をみても学生さんに別途書いてもらったアンケートをみても、こうした事例をたくさん使った点が非常にわかりやすく、また高いモチベーションにもつながったようで、その点はこちらの意図としてもとてもうれしく思っています。

板書が多いのがこの講義の特徴でもあり、自分で手を動かすこと、聞きながらメモを取るやりかたを身に着けることもその背後の理由ではありますが、レジュメの配布なども、今後はもう少し考えていきたいと思っています。

また、行動経済学や神経経済学などの新しいテーマについて興味を持ったという回答も多かったため、これらの新しい研究についても、今後の授業の中でも紹介を続けていこうと思っています。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ解析A
授業コード	40D19-001
教員名	吉根 勝美
教員コード	018358
登録人数	64
回答数	35
回答率	54.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

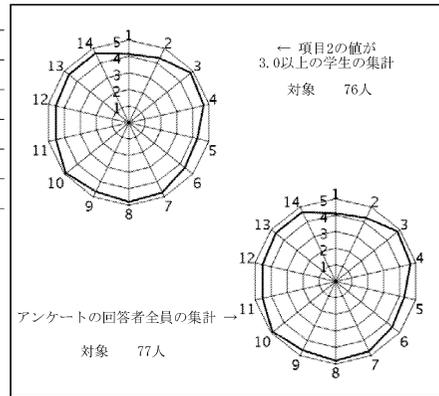
開講当初に設定した目標は2つあり、これに応じて授業を前半と後半に分けた。前半の目標は、1年次の必修科目「データ処理入門」で取り上げなかった分析手法をエクセルで実行できるようになることであり、大半の受講者は到達したと思われる。後半の目標は、エクセルに付属するプログラミング言語VBAによるプログラミング体験を通じて、データ分析におけるプログラミングの活用可能性を理解することであり、既存のプログラムを必要に応じて書き換える程度までは到達したと思われる。

設問(1)～(14)で回答「2」「1」合わせて15%を超えたのは、(9)「適切に授業を進めたか」と(12)「質問や相談の機会」の2問であった。自由記述では「説明が丁寧」「ネットの知識がついた」という回答もあったものの、「難しい課題になった途端に説明が減った」「エラーなどで止まるとついていけない」「後半のスピードが早すぎる」という指摘があり、前年より教材数を減らしたものの、内容の洗練が不十分であったと反省する。他に「声が聞こえないことが多々あった」「出席した人のみが受けられるようにする」「部屋が明るくてプロジェクトが見えない」という指摘もあった。

プログラミングの授業回数を半分にして3年目であるが、これ自体、プログラミングへの理解の妨げになっているので、経済学部生が学ぶべきプログラミングに関する事項を精選し、授業に組み込みたいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	財政学A
授業コード	40D26-001
教員名	西森 晃
教員コード	100624
登録人数	159
回答数	77
回答率	48.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

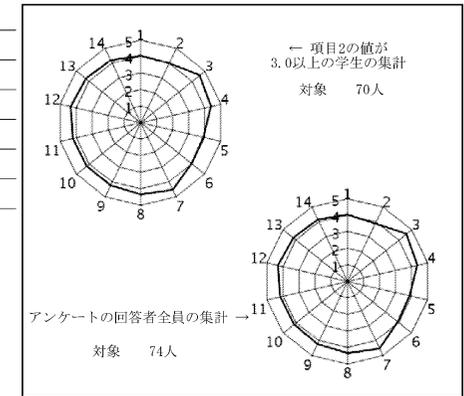
問3～14の平均値が4.64、問14の平均値が4.66ということで、高い評価をもらったようである。開始・終了時刻、講義スピード、教員の姿勢、声、私語などへの取り組みなどに関する設問の平均点は4.7～4.9で、授業のやり方に対してはほとんど全ての学生に満足してもらえたのではないかと考えている。

自由記述欄では、良かった点として、「私語厳禁」、「毎回の友人とのディスカッション」、「わかりやすさ」などが多く挙げられていた。「大人数講義でディスカッションをするというスタイルに最初は戸惑ったが、実際にやってみると参考書を一人で読むよりもずっと深い知識が身につくことがわかった」というコメントがあって、私の意図がしっかり伝わったようでとても嬉しく思う。これ以外にも、学生が積極的な姿勢で受講してくれたからこそ出てくるコメントが多く見られ、とても質の高い受講生に恵まれた講義だったのだなと改めて実感している。来年度以降も、こういうコメントを引き出せるような講義をしていきたい。

講義中に気になったのは、例年に比べて質問が少なかったことである。結果的に期末試験は悪くなかったのですが、特に気にすることではないのかもしれないが、もし質問しにくい雰囲気私が作っていたとしたら、それには何らかの対策が必要かもしれない。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際経済政策論A
授業コード	40D50-001
教員名	蔡 大鵬
教員コード	103260
登録人数	235
回答数	74
回答率	31.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

[1] 授業目標および達成度

本講義は、(1)モノ・サービスの国境を越えた取引に関する様々な政策について、経済学の見地から理解できるようになること、また(2)海外直接投資、関税や貿易摩擦などの国際経済に関わる様々な問題に対する関心が深まることを目標としている。講義では、上記の目標をほぼ達成できたと考えている。

[2] 点検・評価

授業評価の結果としては、設問3から14の平均値が「4.24」であり、ある程度満足してもらえていると理解しているが、学部平均値の「4.31」には達していないため、今後、さらに改善していく必要があると痛感している。

[3] 次学期以後に向けての改善点等

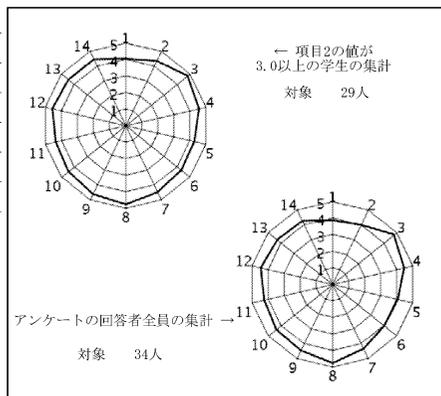
特に以下の2点について、対策を講じていきたい。

第一の課題は、板書の字が小さく、分かりづらい箇所があるとの指摘に対する対処である。今後、後ろに座る学生さんを特に意識して、フォントを大きくして、また色分けするなど板書の内容を工夫すると共に、写す時間を設けることで、内容を写し終える前に、消してしまったり、上下のボードを重ねて見えなくなったりということがなくすよう改善していきたいと考える。

第二の課題は、設問⑤「この授業の到達目標を理解することができましたか」の点数(「3.89」)が学部平均の「4.05」よりも低いとの調査結果への対処である。これに関連して、「もう少し学生の理解度を確認しながら講義をしてほしい」との要望もあった。今学期では、米中貿易戦争の現状に合わせて、従来よりも数多くのトピックスを取り入れてきたため、十分に説明ができていない箇所があったようである。今後、シラバスの設計において、この点について配慮していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋経済史A
授業コード 40D60-001
教員名 梅垣 宏嗣
教員コード 102397
登録人数 96
回答数 34
回答率 35.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

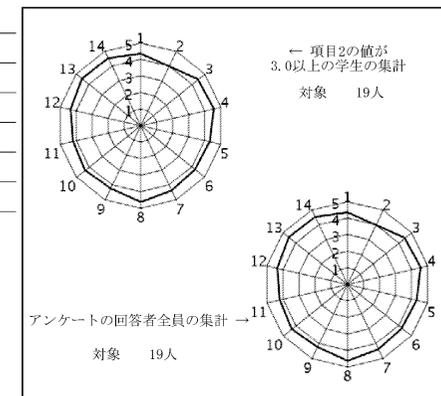
答案を見る限りにおいて、講義の序盤に採り上げた近代以前に関する問題の正答率が低かった。問題そのものが、市民革命の担い手の複雑な対抗軸と、それに基づく市民革命解釈をめぐる論争を整理させるというもので、難しいものではあったかもしれないが、より理解を深められるよう、丁寧な説明を心がけていきたい。

数値データに関しては、特に問題となる点はなかったものと考えられる。自由記述欄に関しては、内容の点では特に気になる点はなかったが、例年のこの講義における記述欄と比べて、記述数そのものが少なくなっているように感じた。これは、可もなく不可もなくと感じた学生が多かったとも考えられるが、講義そのものに対する関心が低くなっている可能性もあるため、良きにつけ悪しきにつけ自由記述欄に何かひとこと書いておきたいと思えるような、関心を寄せてもらえるような講義にしていけるように努めていきたい。

なお、講義の中で練習問題を出題し、その解説を行うというスタイルは、学生に対して「練習問題の箇所以外の講義内容は重要ではない」という誤ったシグナルを送ることになるという点が、現状、大きな課題であると認識している。しかし同時に、クォーター制の中で、2ヶ月程度の間ポイントとなる内容を広げすぎるということも、かえって学生の意欲を削ぎかねない。その点のバランスを考慮した、新たな方策を講じていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学A3
授業コード 12C08-003
教員名 井岡 佳代子
教員コード 103647
登録人数 83
回答数 19
回答率 22.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当該科目においては、2018年度の3Qと同様に講義を前半・中半・後半とに分け、それぞれの中で重要な個所を取り上げて小テストを3回にわたり実施した。その結果、受講生の理解度を確認しながら講義を進めることができたことで、開講当初に設定していた目標と到達の程度は達成できたと考えている。また、受講生からのアンケート結果からは、前年度と同様に数学が苦手な生徒にも好評な講義であったことが伺えた。当該科目では、数式やグラフだけでなく、今期においても理論を丁寧に説明したことが効果的な講義につながったように思う。加えて、より理解を深めるため、また、予習が可能となるように、ウェブクラスに資料を事前にアップしたことも好評であった。ただし、いくつかの有用かつ有益な意見がアンケートに記載されていた。当該講義は概ね受講生に好意的に受け入れられていると考えられるが、提出された意見について、可能な限り、次年度に向けて改善をしていきたいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学A1
授業コード	12C08-004
教員名	李 エン
教員コード	103648
登録人数	22
回答数	2
回答率	9.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本授業では、資本市場で利用される会計情報がどのように社会一般に公開されているのか提示し、様々な方法で会計情報を始めとする企業情報を入手することにより、統計ソフトなどを利用して分析方法の学習を実施した。専門的な知識を身につけ、実践分析能力に併せ、より幅広く深く経営学を学ぶ目標を達成していると考えられている。また、大学生に必要とされ、将来お仕事する際に役に立つ実践スキルを身につける目標についても、達成していると考えられている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

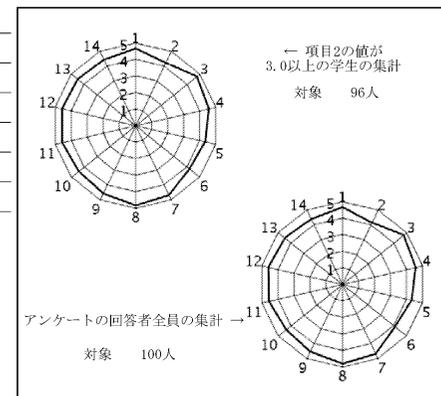
学生が統計ソフトや数字データなどに対して苦手意識があるが、学生は物凄く真面目に参加し、実際会計データや経営数値を用いて分析を行ったので、受講状況は良いと思う。また、学生が経営学に関する様々なテーマについて仮説を設け、積極的にシミュレーションし、授業の参加度が高い。学生の受講態度が意欲的であるので良いと思う。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次クォーター・学期以降に向けて、配布レジュメに図を入れたり、動画を添付したり、より容易に理解できよう工夫する。また、講義を行う前に、事前に予め習得してほしいポイントを提示し、講義中により効率的に核心の部分について議論できるのではないかと考えられている。そして、4、5回の講義での実際分析することを通じて、講義の後半に学生が自ら仮説を組み立て、解決できるよう工夫する。さらに、経営学の専門的な知識および実践技能を幅広く身につけることにより、企業の経済活動の中身、複雑な経済事象の対応、競争が激しい資本市場に直面する企業の経営課題、企業に関わる諸問題に貢献できるようになる能力の育成を抱負としている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理学B2
授業コード	12E04-002
教員名	中尾 陽子
教員コード	064188
登録人数	198
回答数	100
回答率	50.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、心理学の基礎的分野の概要を知識として理解するだけではなく、それを日々の生活の中で活用できるようになることを目標としながら展開していきました。また、一方的に教員の講義を聴くだけではなく、参加者同士のディスカッションやグループワークを通して、自分たちで充実した学びの時間を創りあげていくことにも取り組んできました。

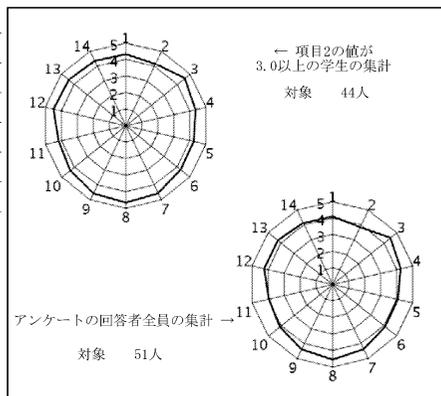
みなさんからいただいた自由記述の内容からは、この様々なグループワークが、受講生の方々に肯定的に受け入れられていたことがわかりました。話し合いを通して多様な考えに触れ、自分の考えの幅が広がることを実感していただけたことはとてもよかったですと感じ、今後も積極的に続けていこうと思っています。

ただ、グループワークのしにくい階段教室だったことや、グループワークに積極的ではないメンバーがいるグループの中では、授業へのモチベーションが下がってしまう方もいらっしゃったことがわかりました。そのようなことが起こらないように授業内でも様々な声かけをしてきましたが、とても残念に感じています。授業登録を確定する第3回目の授業までに、この授業の進め方をしっかり理解し、積極的に参加するという覚悟を持って受講を決めていただくしかないように思うのですが、なかなかうまい方策が見つかりません。もっと少人数で授業ができるよう人数制限をかけるとよいとお声も多くなりますが、これも私一人で決めることができない側面です。

受講生の皆さんからのフィードバックは、アクティブラーニングの形式が有効であると思わざるを得ないものが圧倒的に多いので、丁寧に繰り返しこの授業の意図や大切にしたいことを伝え、理解を浸透させていくよう努力を続けていきたいと思っています。今後も受講生の皆さんのご協力をお願いいたします。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相7
授業コード 13C06-007
教員名 山下 忠康
教員コード 101152
登録人数 171
回答数 51
回答率 29.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

(開講当初の目標)

1. 金融・経済の基本的な仕組みを理解している。
2. ライフプランニングと資金計画が作成できる。
3. リスクマネジメントの基本を理解している。
4. 金融資産運用の基本を理解している。
5. FP3級試験に合格できる。

(到達度の程度)

筆記試験の結果から判断すると、「概ね目標は達成できた」と考えている。

(参考)

履修者 171名

筆記試験の受験者 162名。平均点 73.3点 最高点 100点 最低点 36点

標準偏差 15.94

筆記試験はマークシート方式で、50点分は○✖、50点分は三肢択一。

②総合的な自己点検・評価

広範囲をカバーするため、教科書に沿った形で進めていくことになった。

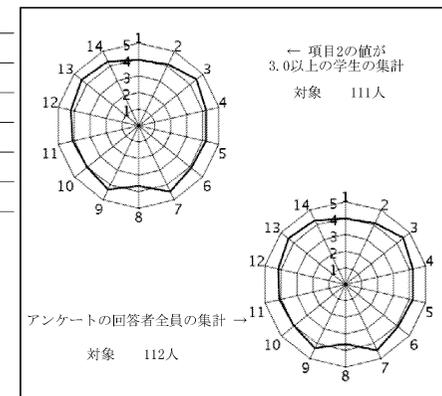
FP試験の受験予定者からすれば、知識の整理等に役立ったと思うが、一般的な知識を求める履修者からすれば、もっと深くそれぞれの項目を学びたいと思うかもしれない。

しかしながら、15回の授業ではこれが限界であることは履修者にも冒頭の授業で伝えている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など引き続き、学生の知識を向上することに積極的にサポートしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会システムと環境3
授業コード 13D06-003
教員名 長谷川 高則
教員コード 000162
登録人数 195
回答数 112
回答率 57.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標

この授業では、今後の住環境の在り方を検討するために、住宅政策の変遷を検証し住生活基本法について学習している。今年度も諸外国の住宅政策を紹介し、自然災害・少子高齢社会に対応する住環境整備、子育て支援・省エネルギー住宅について考察し、持続可能な社会のシステムと住環境について検討した。

2. 目標達成度

今回も受講希望者が多く抽選となり熱心な学生も多かったが、後席で授業に集中できない学生との間に学習意欲の差を強く感じた。出席状況は大変良好で、開講当初に設定した授業目標は概ね達成することができたと思う。最終課題のレポートは授業内容を反映して現実を意識した住宅・住環境のあり方について各自まとめることができた。

3. 授業評価

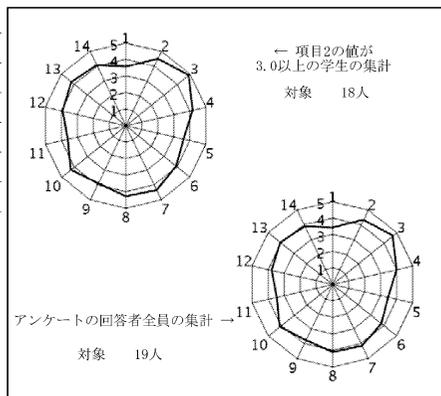
担当科目の項目1から14の平均値は4.18であり、前回の平均よりも僅かながら向上した。設問8の平均値3.63、設問10の平均値4.00であり気を付けなければならない。設問1の評価を改善するのは難題であるが、設問2・6・11の評価に関してはもう少し高評価になるよう改善策の必要性を感じた。自由記述の回答については、それぞれ検討し今後の授業で改善していきたいと思う。

4. 今後の抱負

授業に関連する内容に更に興味を持てるようにするため、授業運営を創意工夫し新しいテーマを取り入れ、これからの持続可能な社会システムに対応した授業にしていきたいと思っている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数学I1
授業コード	42B03-001
教員名	宮元 忠敏
教員コード	017293
登録人数	100
回答数	19
回答率	19.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

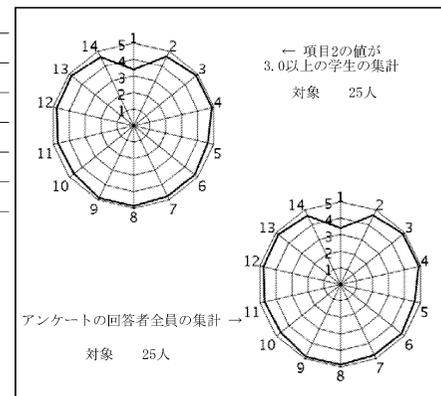
目標と到達の程度：行列の導入、連立1次方程式と行基本変形、行列式とその応用を目標とし、概ね各項目に到達できた。

総合的な自己点検・評価：行列の導入時には、それが意味のある抽象化である旨、説明した。階段行列と行基本変形は、具体例を繰り返し利用し解説した。行列式は2次と3次からはじめ、一般化について触れ、余因子展開による計算を導入した。また、応用として、正則性との関係に触れた。以下は履修生のコメントである。「テンポがよくわかりやすい(4)」、「もっとわかりやすく教えてほしい(2)」、「テストの範囲をはやめに教えてほしい」、「私語があるなかですすむこと」など。

改善点、今後の抱負：各回復習のため解答紙を配り小問を解いている。私語防止や教室空間の有効活用のため、指定席を導入してもよい。ただし、自発的教え合いの機会ロスをどうするかである。授業では(1)例のメタ説明(2)例そのものの説明(3)例の示す内容の理解の促進(4)必要があれば数学的な証明あるいはそのあらすじを与える。このような繰り返して授業は構成されるが、要請される技術の習得が何であるかのメタ説明があるであろう。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数学I3
授業コード	42B03-003
教員名	池田 亮一
教員コード	101880
登録人数	100
回答数	25
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

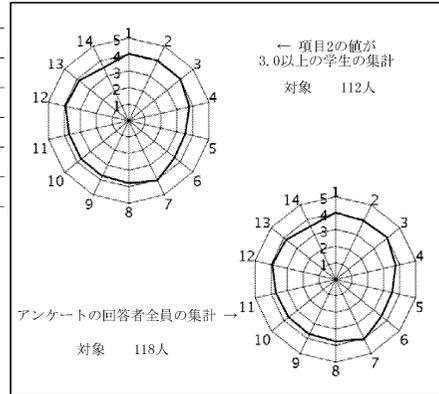


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標は(1)行列の性質を知っている。(2)行列で連立一次方程式を表現したことがある。(3)掃き出し法で連立一次方程式を解いたことがある。(4)行列式の性質を知っている。(5)行列式の計算をしたことがある、の五つであったが、授業では当然すべて触れることができ、試験でも幅広く出題したものの概してよくできていたので目標は十分達成できたと考える。自由記述欄に寄れば、毎回配布したレジュメが良かったようなので、次クォーター以降も続けていきたいと考えている。気になった点は、今年度は随分出席率が高く、また私語も非常に少なかったことである。まじめで勉強心にあふれる学生が集うことは確かに喜ばしいことであるが、このような学生は否定的な意見が出にくくなり、結果的に改善点が見えにくくなる恐れがある。次クォーター以降で今年度の1年生が多く取る授業では、いつも以上に「声なき声」を聞くように意識したいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	流通論A
授業コード	42C21-001
教員名	南川 和充
教員コード	100478
登録人数	264
回答数	118
回答率	44.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

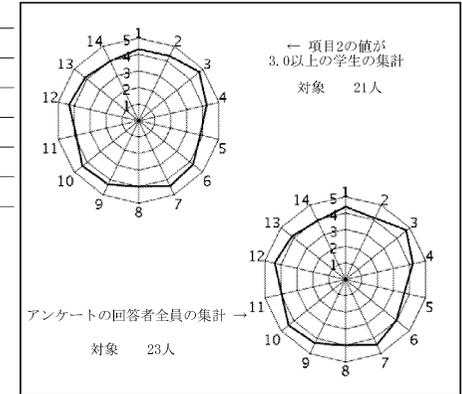


授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎回のごとく設問1を除く全項目が同学科での平均点を下回っており反省している。回収率44.7%は前回と同程度であった。(1) 商業者の存在根拠を理解している、(2) 商業構造の規定要因、チャネル構造とその再編の規定要因を理解している、の2つを到達目標とした。この目標を達成するために今回も中間筆答試験および多くの演習を課した。特に(2)については具体的なデータ分析をレポート課題とし、詳細な手順プリント配布と併せて授業時間内に各自ノートPCを持参させ実習を行った。これについて肯定的な評価が自由記述欄に1件あった(すごくわかりやすく助かった)。この内容は中間試験で出題したが、ま全く正答できていない者もかなりいた。これらは自身で課題は提出しているが、他人のレポートをそのままコピーして出ただけであるために内容を理解できていないことが原因である可能性がある。友人同士で協働して課題に取り組んでも構わないが、自分で考えないで他人と同じものを提出するだけの者に対しては、多くの演習を課しても効果が期待できない。今後この問題への対策が必要である(独力で解答させるようにテスト形式にする等)。(1)については期末試験直前に授業内容を復習し、試験予想問題の形式で要点を整理したものを配って理解の定着を図った。これを真面目に勉強したか否かによって、実際の期末試験(成績評価全体の30%)の出来不出来が受講生で分かれたようであった。課題の数が多かった点について自由記述欄では、飽きずに楽しんで取り組めた、学習意欲があがった、こまめに出入されて復習できた、多くの課題で知識を深められた、やっつけて少し楽しかった、といった肯定的評価のほうが多かったので次回以降も継続したい。授業内で行う中間試験を実施中にマイクでしゃべって解答に集中できないとの苦情の記述が多数あった。良かれと思って必要事項を話しているつもりであったが今後は控えたい。他に、授業資料を事前に各自が印刷して持参することになっているがWebClassに上げる時間が遅すぎて印刷できないという不満も多くあったが、すぐ改善できるのでしたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際会計論A
授業コード	42C23-001
教員名	白木 俊彦
教員コード	101090
登録人数	46
回答数	23
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した到達目標と目標達成度

国際財務報告基準は連結財務諸表を前提としているので、到達目標を連結財務諸表の基礎理論を理解し、作成に関する技術を習得することにした。連結精算表を通して連結財務諸表の要素およびそれらの関連性が理解できるよう、わが国連結会計基準を中心に解説し、連結主体論、のれんに関する理論についても考察した。基本的な問題から複雑な問題へと演習も含めて理解できるよう解説した。

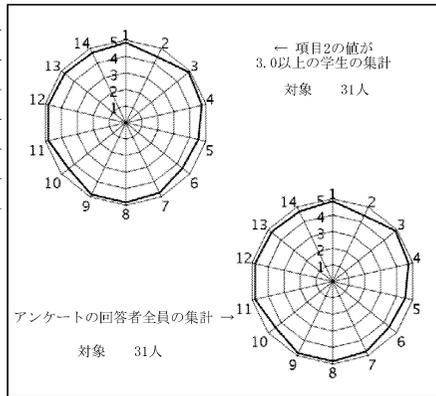
科目の点検評価

授業評価結果では、教員の取り組む姿勢に関して高い評価をいただき、課題、実習の指導に関しても満足していただけたようである。それは、試験結果およびレポートにも反映されている。処理方法だけではなく、意義、基礎概念の理解も深められていたようである。内容が複雑であるにもかかわらず理解を深めることができたという印象があるので、さらに関心を持つ学生が増えることを期待したい。基本的な会計知識を習得している学生が原則として履修していることから、質問も出され、講義も大変やりやすかったので、今後も継続していきたい。

今後に向けての改善点と抱負、方針として、基本的な会計知識が不足している学生も、熱心に取り組んでいたことから、グループ経営、グローバル経営の課題に積極的に継続して関心を持ち、取り組んでいく学生を増やしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 A
マーケティング・コミュニケーション
授業コード 42C36-001
教員名 川北 眞紀子
教員コード 102879
登録人数 125
回答数 31
回答率 24.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標は、「広告や広報など企業のマーケティング・コミュニケーションについて体系的な知識を持つ。簡単にコミュニケーション計画が立てられる」という2点であった。ほとんどの学生がテストが合格点であることを考えると、体系的な知識はある程度、獲得できていると思われる。また、2つ目の課題は自ら広告をつくるというものであり、クリエイティブのレベルはいまひとつであったものの、それなりに広告らしきものにはなっただけである。

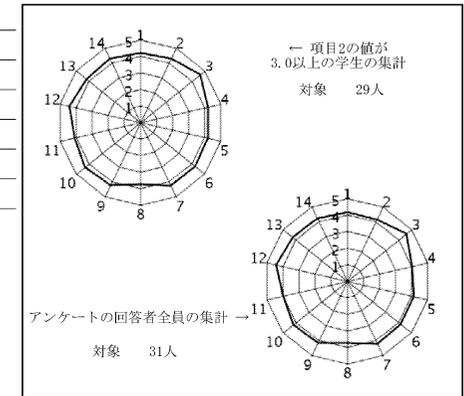
設問11の「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」について4.84という高い数値となったことが非常に良かった。学習する意欲がわくようにという点をつけている。他の項目も概ね4.5以上であり、高く評価がでている。また、企業の方をゲスト講師に招いた会があったが、それに対する評価が非常に高かった。リアクション・ペーパーを見ている、学生たちへ適切に刺さっている様子が見て取れた。理論と実践を行き来できる授業が設計できたと思う。また、パワーポイントをウェブクラスで配布しているが、その配布が前日の夜だと遅いという意見があった。毎年、親切さを増しているのだが、どこまで親切にすればよいのかのさじ加減が難しい。しかし、一番楽しい授業だったというコメントもあったのはうれしい。

発言に点をあげているが、ないほうがよいというコメントもあった。次回はためしてみたい。

かなり丁寧に設計して授業を行ってきたが、まずまず実ってよかった。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営分析論A
授業コード 42C40-001
教員名 斎藤 孝一
教員コード 018259
登録人数 93
回答数 31
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

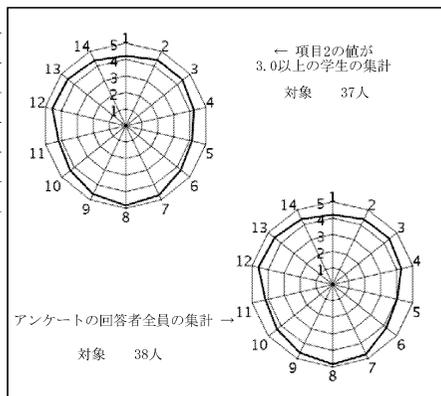


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、有価証券報告書の貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書を使って、企業の収益性、効率性、安全性などを分析する方法を取り扱った。アンケート結果を見ると、項目1から項目14の平均が4.18、項目3から項目14の平均が4.19であった。シラバスの到達目標は「企業の財務諸表から収益性、効率性、安全性などを分析できる。」である。アンケート結果からおおよそその目標は達成できたと考えられる。設問5「授業の到達目標を理解することができたか」は4.16、設問6「授業の到達目標に向けて力がついてきているか」は4.16、設問12「質問や相談の機会が十分に設けられていたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分だったか」は4.45、設問13「授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じるか」は4.26、設問14「全体として、この授業に満足したか」は4.23であった。授業の良かった点、評価できる点については、「課題一つ一つを丁寧に解説して返却してくれた。」「自分たちで計算したりアクティビティが多く、学んでる感じがとてもした。」などのコメントがあった。一方で、設問8「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れたか」は唯一の3点台の3.74であった。このようなことのないように努力し、改善したいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営数学
授業コード 42D04-001
教員名 後藤 剛史
教員コード 100374
登録人数 51
回答数 38
回答率 74.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

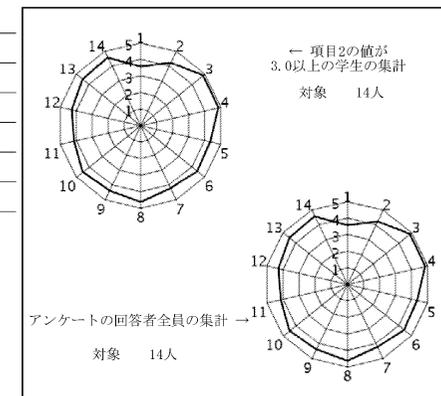


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①「ゲーム理論の問題演習を通じて、ゲーム理論を本質的に理解できるようになること」が、開講当初に設定していた目標である。受講生の期末試験の成績から、この目標にある程度到達したと判断している。
- ②設問14の平均値は4.39であり、経営学科科目の同設問の平均値4.06および、読み取り枚数31～60枚科目の同設問平均値4.26を上回った。自由記述欄も「質問などを受けてくれる機会、それに答えてくれる機会がちゃんと設けられていた」、「復習の時間があって良かった。わからないところのアンケートが良かった」、「説明が一つ一つ丁寧だと思った」、「自分勉強してるなーと感じた」など、ほとんど好意的なコメントで占められた。以上により、まずまずの授業運営ができたものと自己評価する。設問7（教員の熱意）で、5点をつけた学生が70%超であったことに、報われた思いがした。
- ③期末試験では、基本的な理解で解ける問題を2問、やや応用的な問題を2問出題したが、後者の出来は芳しくなかった。いくらわかりやすく丁寧な授業をしたところで、そこで得られた知識を誤りなく応用できるかどうかは、受講生諸君の自学自習の深さ次第である。その努力をどう引き出すか、今後の講義で工夫してみたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営統計学
授業コード 42D05-001
教員名 松井 宗也
教員コード 102275
登録人数 39
回答数 14
回答率 35.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



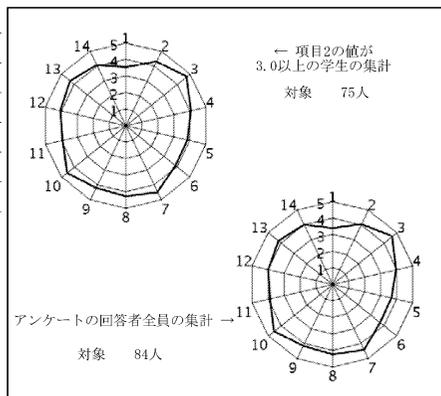
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では「経営学を学ぶ上で将来必要となるデータ解析方法を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は「統計学Ⅰ・Ⅱ」で学ぶ理論的知識を前提として、それをシミュレーションないし実データを用いて実践するというものである。無料の統計言語「R」のプログラミングを用いる。教科書はごく標準的なもので、プログラミングが一から学べるようになっている。他大学（南山大学と同程度かやや上の難易度）と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。もちろん卒業論文作成にも役立つ。実際に学生がプログラミングするところを観察すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難い。しかし、最終レポート（データを見つけ、「R」と「Excel」で解析し、考察する。）から判断すると、学生の多くは実データの解析がきちんとできているようである。両ソフトウェアの結果もきちんと一致していた。それゆえ、授業目標の6割から7割程度は達成できたと判断する。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってくれば良い。

授業評価集計を踏まえた反省点はそれほどない。一人一人のパソコンを見回ってプログラミングを丁寧に指導したためか、設問1～14の平均値と設問3～14の平均値はともに4点台前半であり、評価基準を十分にクリアしている。しかしこれに満足することなく、「使える技術的な知識」としてより深い内容に興味を持ってもらえるよう一層努力してきたい。さらには、学生がより効率的にプログラミング言語を身に付けられるよう工夫するなどして、満足度も高めていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営環境論A
授業コード	42E05-001
教員名	薫 祥哲
教員コード	018168
登録人数	148
回答数	84
回答率	56.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

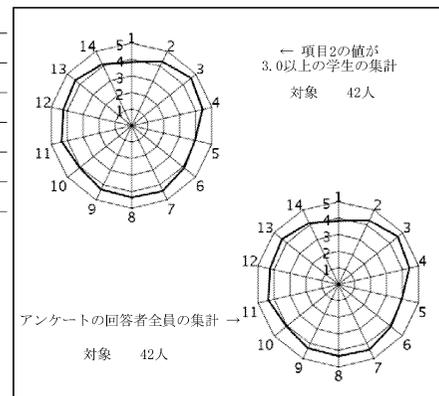
枯渇資源の最適利用、環境汚染問題、そして環境資源を公共財や共有資源として捉えた場合の最適な資源利用について、ミクロ経済学的なアプローチから講義を行った。また、最適な環境汚染レベルを達成するための政策手段として、環境基準の設定、汚染物排出税、そして排出権取引制度についても、その特徴やメカニズムを説明した。何ごとにも費用とメリットが発生し、これらを比較検討してはじめて最適な環境政策が決定できることの重要性を理解することを目的としたが、この目的はほぼ達成できたと感じている。

授業についての評価項目である設問3～14の全体平均値は4.13であり、概ね受講生に満足してもらえたと判断している。毎回、講義レジュメを配布し（全部で30ページ）、それに沿って授業を進めている。受講生は、レジュメに板書の内容を書き込んで資料を補足するようになっているが、「プリントが丁寧だった」「プリントの内容がとても充実している。」といった自由記述のコメントがあった。また、「授業の最初に前回の授業の復讐をしっかりとやってくれる」といった肯定的なコメントもあったので、この方式を継続して行きたい。

学期中に2回練習問題を課し、提出された後に問題の解説を行った。練習問題自体については理解が進むとして肯定的なコメントが多かった。しかし、「いつも理論ばかり説明していて、計算の仕方の説明を授業であまりしてもらっていない」「先に計算のやり方を授業で教えて欲しかった」というコメントが1人の学生からあった。理論の考え方が解っていれば計算自体は簡単なので、その説明を省略したときがあった。今後は、計算の部分をもう少し丁寧に説明するように心がけたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営倫理
授業コード	42E07-001
教員名	高田 一樹
教員コード	102887
登録人数	114
回答数	42
回答率	36.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 経営倫理学の入門として本講義を位置付け、講義の前半で西洋倫理学説の基礎を学びつつ、後半ではケースを使い、受講者が主体的に考える機会を設けた。各回、講義用と課題用のレジュメを配布し、授業で学んだ内容をふりかえる復習とともに、受講者に経営倫理上の判断を問う予習を課した。当初の予定どおり授業を進行し、課題の提出状況や期末試験の受験率を鑑みて、所期の目標はおおむね果たされたと考えている。

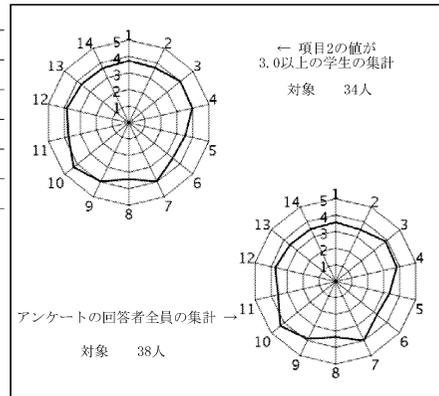
② 昨年より履修者が多く、登録期間中に教室変更があった。総合評価は4を超えたものの、例年に比べると出席率と私語に対する注意への評価が低かった。学生の自律自重に期するところであるが、度が過ぎた私語に対し、たびたび注意を行った。大教室講義が受講者の集中力を低下させる一因になることも推測される。自由記述には、視聴覚資料の利用や課題用のレジュメを使った予習復習を通じ、講義内容への理解が深まったとのコメントが複数見られた。

③ 本アンケートへの協力を予告し、2度にわたり講義時間内に入力を呼びかけたが、回答率が4割に満たなかったことは次期への課題である。

欠席者に配慮し、授業内の配布資料をWebclass上に掲載した。授業の特殊性や成績評価方針について初回時に詳しく説明するとともに、学生への作業負担に配慮して課題の提出期間に余裕を持たせた。引き続き、教材開発と授業設計に工夫を凝らしたいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル・ビジネス論A
授業コード	42E11-001
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	54
回答数	38
回答率	70.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



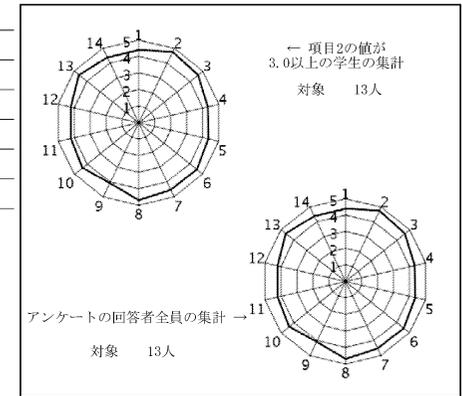
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、グローバル・ビジネス戦略に関する基礎的知識を学ぶこと、グローバル・ビジネス経営の応用的戦略を学習すること、異文化環境における経営の実践を学習することである。授業は、テキストを利用し、レジュメおよび関連資料を配布し、ケースなどを利用して、休講・補講なしで、シラバスを終了しました。シラバスの目的を全面的に達成したと思っている。

設問1~2「授業への参加について」に関しては、2019年度第2クォーター全科目と経営学部の42001-001~42H04-999番台科目群とを比較すると、多少低めの評価を受けている。設問3~7「授業全体について」の平均値4.50、4.21、3.93、3.96、4.38 に対して、本科目の評価は、3.89、3.84、3.37、3.24、3.97となっている。設問8~12「授業の運営について」では平均値4.25、4.20、4.30、4.07、4.22 に対して、本科目は3.37、3.87、4.29、3.58、3.74となっている。設問13~14「全体的な評価」では平均値4.22、4.06 に対して、本科目は3.53、3.47となっている。また、設問15~17「自由記述」では、「先生の真剣さ；経営学部の学生ではなくても理解できるような説明の仕方だった；私語への注意がされていた；着眼点が良い」、などがあった。私の努力・労働を考えると、この評価数値について満足ができない。授業時間内には集団私語、遅刻、無断早退や授業以外の内職などがあったが、学部事務室と相談のうえで座席を指定し、適切な注意をかけた結果状況が改善した。しかし、これが授業評価に影響を及んだと考えられる。今後より高い水準をめざして様々な改善を試みる。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	オペレーションズ・リサーチA
授業コード	42E15-001
教員名	奥田 隆明
教員コード	102600
登録人数	47
回答数	13
回答率	27.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

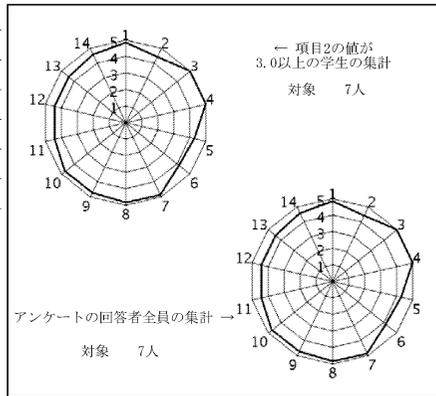
地域産業連関分析やシナリオ・プランニングを活用しながら、将来のビジネス展開の可能性を考えることができることを到達目標とした。この到達目標に対して、受講生の54%が「力がついた」、46%が「どちらかと言えば力がついた」と回答している。毎回、授業の後半には演習問題を解かせた。こうした演習を通して授業内容を具体的に理解することができたのではないかと考えている。

実際、設問2：主体的学習は平均4.77（学部平均4.15）、設問5：目標理解は平均4.38（学部平均3.93）、設問13：知識・理解は平均4.62（学部平均4.22）となり、学部平均と比較しても高い値を示している。また、設問14：総合的な満足度についても、平均4.38（学部平均4.06）と比較的高い値を示している。自由回答欄を見ると、「PCのない教室で困った」、「スクリーン周辺の電気を消してほしかった」などの意見も見られた。

今年度はPCのない教室ではじめてPCを利用した授業を行った。学部3年生はノートPC持参の授業に慣れていないため、不便を感じる学生も多かったようである。来年度からは入学時にノートPCを購入した学生になるため、少し様子を見てみたいと思う。また、PC教室でない場合、スクリーン周辺を消灯するなど、教室によって異なる環境についても配慮する必要があることが分かった。次年度以降、こうした点についても十分注意したいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IIオーラル・コミュニケーション2
 授業コード 42G03-002
 教員名 BIERI, Thomas
 教員コード 102517
 登録人数 10
 回答数 7
 回答率 70.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

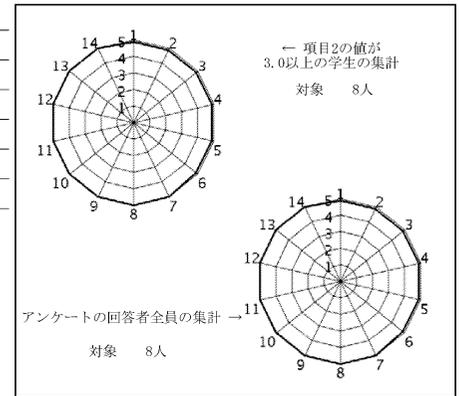
1. I felt that students largely followed the class and built up their skills towards successful completion of the final assessment, and demonstrated improvement and mastery of learning objectives. That said, the items related to understanding the course goals and making progress towards them were the two lowest rated items (4.29 & 4.14 respectively). I perhaps need to make a greater effort to remind students of the objectives in the syllabus and note their progress towards them.

2. Overall, the class progressed well. Item 3 achieved a perfect 5.0 score. In addition, all other scores were above school and departmental averages, the averages were no lower than 4.43 on any item except the two noted above, only one student rated any items with a 3, and no students rated any items 1 or 2. Over 70% of respondents rated overall satisfaction as 5. Comments about the class were also positive, and the only negative comment was about the small size of the screen in the room, something I have no control over.

3. As noted above, I will try to focus student attention more on the goals and their progress towards them. I will also keep striving to improve my teaching.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ビジネス・ライティングA
 授業コード 42G12-001
 教員名 HEATHER, James
 教員コード 103649
 登録人数 29
 回答数 8
 回答率 27.6%
 休講回数 1 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the course were achieved 100%. Together we worked through 7 units of the textbook and completed all the tasks and assignments associated with each unit.

I like the way the course is set up. The onus is completely on the student to complete the work. Everything the student must do is laid out in the textbook. The teacher is there to guide the students and to help them with any issues they may have along the way. Students are able to work at their own pace however if their pace is too slow, they won't be able to complete everything in time. Student writings are checked twice before they submit their completed assignments. This gives students 2 chances to "get it right".

It has taken a couple of years for me to get it right but I think the course is running smoothly as it is right now. That is not to say it can't be changed or improved, but I think any changes to be made must come out of a need for change. Future groups of students will dictate the need for change.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(ファイナンス)
授業コード	42G21-001
教員名	BREMER, Marc
教員コード	017913
登録人数	3
回答数	1
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

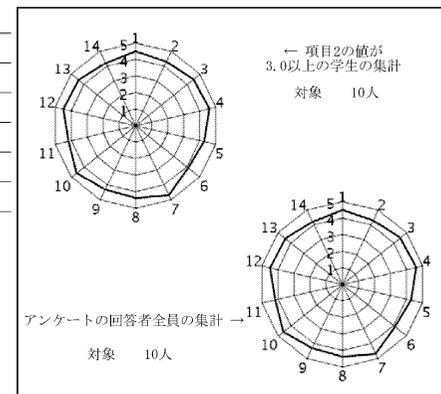
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This directed reading and lecture format course deals with current topics in business and financial management. The goal of the course is to introduce students to business and finance issues while improving their English reading, writing and oral presentation skills. Most classroom time was devoted to reading and discussing English language articles that appeared in The Wall Street Journal and The Economist. The main topics covered in this version of the course were: the Toshiba governance crisis; the air bag inflator problem at Takata Corporation and the new code of corporate governance. Students wrote fairly long reports in English about their choice of a current business topic of management book. The goals of the course were achieved. The students now have a good understanding of the Japan's corporate governance issues. Most responses by students were in the very good categories. The overall evaluation of the course was 5.00 which compares favorably with the 4.28 average for Nanzan University. One negative aspect of this offering of the course was that only a few students enrolled. This is probably a result of the quarter system which required attendance twice a week. Students who might take this course as interesting elective were discouraged by the way meeting twice a week reduces their flexibility take other classes. This course was mainly taken by management major students. However, students from other departments, such as British and American Studies and Economics, would find the course interesting.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(マーケティング)
授業コード	42G22-001
教員名	湯本 祐司
教員コード	017533
登録人数	48
回答数	10
回答率	20.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

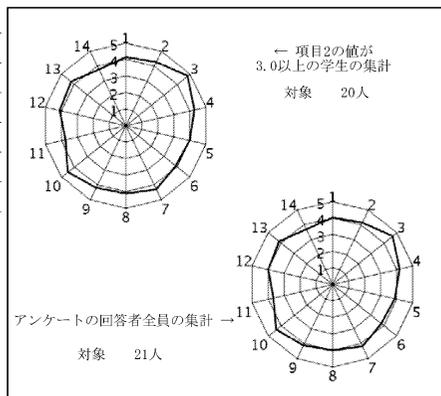


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は英語で価格戦略の基本的な理論や考え方および事例と価格戦略の理論の関連が理解できることを到達目標としている。経営学部の選択科目であり、48名の学生が履修した。昨年度は13名だったのでかなりの増加である。学生の報告、授業毎のワークシートおよび期末レポートをみるかぎり、きちんと出席した学生は目標を達成している。授業評価では履修登録者48名のうち10名が回答し、項目1から14の平均と項目3から14の平均はどちらも4.40で昨年度とほぼ同じである。すべての設問の平均値は4.10から4.70の間にある。自由記述欄の回答は、「授業がわかりやすかった」「英語を翻訳しながら経営を学ぶことで一石二鳥の価値があった」などすべて良かった点や評価できることの項目に書かれており、改善すべき点に関するコメントはなかった。昨年度の改善点として、専門用語等の日本語訳を事前に渡すことを挙げたが、実際に配布して学習の効果を上げることができた。登録者数が増え、演習形式で行うのに苦労したので、次年度の改善点として、登録者の上限(40名程度)を設けて、コミュニケーションの双方向性を高めたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済と人間の尊厳2
授業コード	10D04-002
教員名	西村 邦行
教員コード	104090
登録人数	57
回答数	21
回答率	36.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



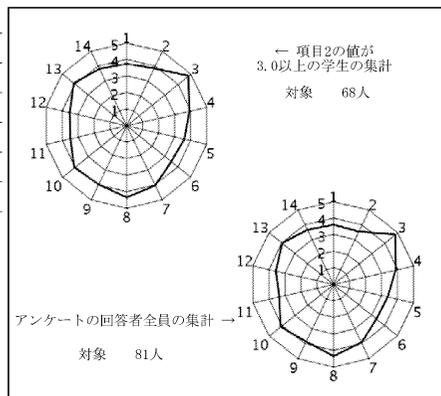
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスにおいて到達目標に設定したとおり、(国際)政治において通俗的な道徳論だけでは問題が解決面が多いことを軸に、(国際)政治の見方・考え方を伝達することに努めた。第1クォーターで到達目標が分からないという意見が散見されたことも踏まえ、授業中にも要所ごとに論点を繰り返すよう心掛けたところ、授業全体の評価も向上した。試験の解答を見ても、第1クォーターより受講生の理解度は高かったように思われる。ただ、授業中の受講姿勢も今学期の方がよかったことから、受講生自体の資質や前提知識の差によるところもあるかもしれない。

第1クォーターにおいて、声が聞き取れないという意見があったため、ゆっくり話すなど気を付けたところ指摘の数は減った。ただ、同様の指摘がまだ若干あった。教室の状況も見つつ、今後も改善を心掛けたい。なお、それとも関連してのことながら、資料のページ番号も都度板書しないとわからない、(板書以外で)ノートをとるべきところを指摘せよとの訴えがあり、果たしてそこまでのパターンリズムが学生のためになるのか、大学の質保証に資するののかといった点も考えさせられた。授業評価で示された意見の何をどこまで取り入れるべきかも今後検討していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本国憲法2
授業コード	12C03-002
教員名	三上 佳佑
教員コード	103637
登録人数	146
回答数	81
回答率	55.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

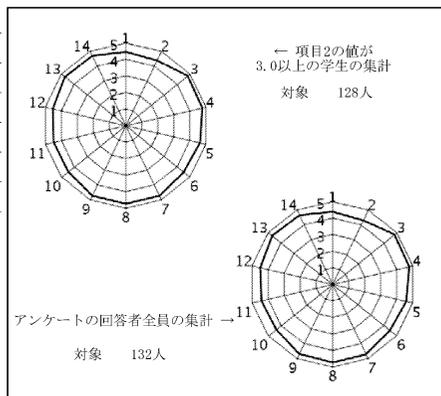


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①全15回の講義で当初予定していた授業内容はすべて講じ終えることができた。ただし、学生全体の成績は伸び悩んでおり、成績下位層(F評価及びC評価)は第1クォーターの日本国憲法3よりも増加している。形式的には格別、実質的には、目標到達の程度は十分とは言えない。
- ②小規模授業よりも大規模授業の方が学生満足度という主観的な数値が低下することは、経験上多くの教員にとって明らかなことと考えているが、教育手法が同様の第1クォーターの日本国憲法3と比較して、今回の授業でもそのような傾向が明らかに表れている。ただし、リアクション・ペーパーによるフィードバックが(授業規模を考慮してもなお)十分でなかった気味が感じられ、この点について十分に反省しなければならないと考えている。学生による授業評価「自由記述欄」で「双方向性」に関する批判が見られ、この点、今後の教学活動の改善に向けて真摯に取り組んでいくべきことと考えている。
- ③授業運営に関しては、双方向性の回復を第一に指向することとする。学生における授業目標達成度向上(=成績向上)に関しては、各回の講義内容の有機的連関性をより強調する指導方式を採るべく検討する。既に第1回目から第15回目までのすべての内容が連関していることについては折に触れて講述しているが、学生における意識不足が明らかであると痛感せざるを得ない試験結果である。A評価以上のごく少数の学生は既に習得目標を達成できているが、履修学生全体の成績の底上げが重要と考えざるを得ない試験結果であった。論理展開力、語彙力等々の明らかな欠如は、本講義以前の問題であるから、ここで云々するには値しない。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命と倫理問題2
授業コード 13A03-002
教員名 森山 花鈴
教員コード 103223
登録人数 507
回答数 132
回答率 26.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

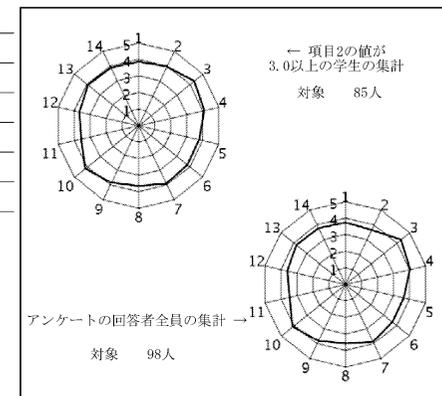


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標については到達していると考え。生命と倫理問題に関する問題について、学生自身が深く考え、学んでいることがリアクションペーパーやレポート課題から確認することができた。
- ②ほぼすべての設問において、大学全体の平均値、学際科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値を超えることができた。ただし、受講人数が多かった（500人超）こともあり、設問10の私語・遅刻に対する注意についてのみ全体平均より若干下回る点数であったため、今後は注意していきたい。自由記述欄では、「説明が聞き取りやすかった」「（話し方の）工夫もされていた」と板書や説明の丁寧さについて評価があった。また、これまでの授業でも多くあがっていたが、オリジナル教材や映像教材も併用した点に対する評価も高く、「映像があったため、より理解できた。」等との評価が多数あがっていた。さらに、受講人数が多かったものの、リアクションペーパーを通じて、できる限り毎回学生からの質問には答えていたので、「みんなが出した質問をいつも授業前に発表してくれる」との評価があった。
- ③受講人数が500人を超えていたため、どうしても配慮が行き届かない点もあったように思う。特に、リアクションペーパーについては紙による回収が難しく、WebClassを利用したが、「紙の方が良い」「人数が多すぎる」との評価もあった。毎回学生からのリアクションペーパーを通じて質問に答える形式については毎回評価が高いので、次クォーター以降も形式を検討しながら引き続き実施していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民法総論B
授業コード 44A09-001
教員名 副田 隆重
教員コード 045880
登録人数 257
回答数 98
回答率 38.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

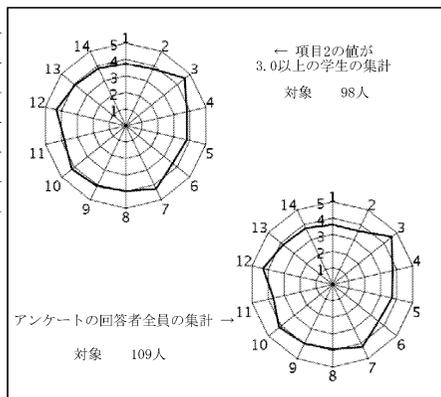


授業評価結果を踏まえた点検・評価

前々回の授業評価(昨年の第4クォーター)において、4.1台であった項目14(授業全体の満足度)や項目全体の平均値が、前回(今年度の第1クォーター)は体調不良のせいもあり約0.5ポイント悪化していたのが、今回の授業評価では、前々回並みに回復とはいかないものの、下落分の約半分程度(0.25ポイント)を回復することができたのは幸いである(今回の項目14の満足度は3.76、項目全体は3.79であった。)、前回指摘が多かった教員の声が聞き取りにくいとの点について、自身も留意したつもりであるし、教室のマイク設備等の環境の改善が結果に奏功したもようである。引き続き、他の項目も含めて改善に注力したい。具体的には、今回の評価において、4点台という相対的に高い評価を得た項目は、項目3(開始・終了時間の順守)のほか、項目4(毎回の授業の構成や進行速度の適切さ)など多くはないが、板書やレジメの充実という視点も含め、授業内容・わかりやすさにつき、全体にわたる改善に取り組んでいきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人権総論
授業コード	44A17-001
教員名	沢登 文治
教員コード	017863
登録人数	342
回答数	109
回答率	31.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

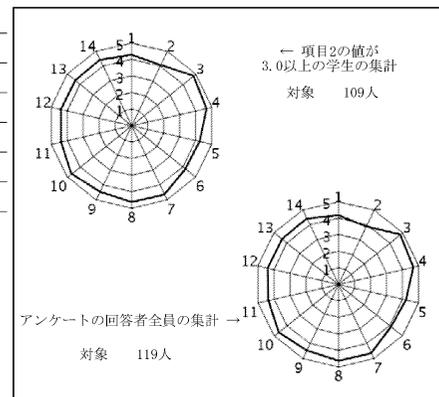


授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修生のほとんどは1年生のため、授業中に予習・復習が大切で、レジュメに示している毎回の課題に取り組むよう何回か話したが、(2)「予習や復習、主体的に授業に参加」は3.58で低いことに少々驚いた。自由記述には、「資料が予習しやすいようになっていた。」「毎回、前回の授業の復習をしてくれたこと。」と肯定的な意見もあった。いずれ、予習・復習の度合いによって授業の進み具合も理解度もまったく変わるので、一層の働きかけをしたい。(5)「授業の到達目標を理解すること」(6)「到達目標に向けて力がついてきている」が3.73、3.58と低いことに、改めて到達目標を確認しながら授業を進めることの必要性を認識した。また(11)「学習意欲を引き出し積極的な授業参加を促す工夫」は、3.69と4.0に届かないので、さらに工夫したい。今回のレジュメでは、WebClassを用いて、最近の新聞記事や省庁のWebsiteを紹介し、そこからすぐに飛べるように工夫したつもりだが、見てくれていないのかもしれない。さらに効果的な利用方法を検討したい。(12)「質問や相談の機会」については、毎回時間を取っていたためか4.32であり、継続してコミュニケーションを取りたい。(15)に「声が聞き取りやすかった」というのがある反面、(16)では、「声が聞き取りづらい」との指摘があったので、意識して講義したい。(14)「全体の満足」は3.76と低いので、向上に向けて取り組みたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑事訴訟法A
授業コード	44B09-001
教員名	岡田 悦典
教員コード	100621
登録人数	314
回答数	119
回答率	37.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

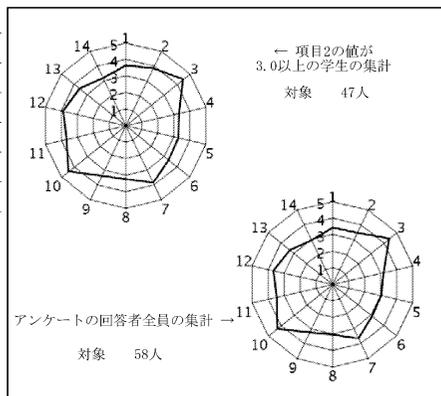


授業評価結果を踏まえた点検・評価

刑事訴訟法の基本的な枠組みを講義し理解習得を図るという目標は、授業内容、進捗度も特に問題はないと思われたので、概ね達成できたのではないかとと思われる。個人差はあるが、学生の授業内容についての理解度は総じて良かったと感じられる。この結果は、従前の通り、講義と演習問題を組み合わせ、講義の内容はより簡明かつポイントを押さえたものにしたこと、演習問題を宿題とし、その解説を次の授業ははじめにするという循環が順調であったことにあると思われる。また、開始10分前には教室に入り受講生の勉強状況を確認したり、レジュメを置く場所など授業運営に工夫をした。合わせて質問を授業前後に受け付ける態勢とし、質問ごごを置いたりした。その成果があったのか、質問機会の評価はいつもより高く、また、質問をする機会も増えたように思われ、合わせて授業理解度の把握および学生自体の授業理解度の進展につながったのではないと思う。ただ、評点としては到達目標の評価が相対的に低く、授業毎に何を勉強するのかということを明示していたものの、メッセージがまだ十分に伝わっていないと感じられた。今後は、到達目標の明示の仕方を工夫すること、質問の多かったところは授業内容に不備があるためより工夫することを、改善点としたいと考える。なお指定の参考書が易しすぎるというコメントが多かった。次回に向けて再検討したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際法総論A
授業コード	44B13-001
教員名	洪 恵子
教員コード	103537
登録人数	314
回答数	58
回答率	18.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



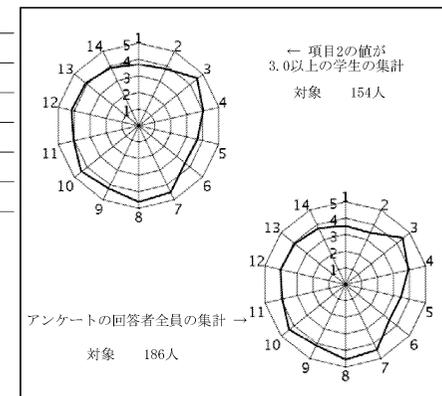
授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生が300名を超えているのに、アンケートの回答が60人に満たないので、このアンケート結果をどう受け止めてよいのか、正直、よくわからないが、さしあたり、①について学生に国際問題に関心を持ってもらいたいというのが基本的な目標であるが、自由記述を読む限りでは達成できたのではないと思う。②数字データは質問項目1-4について3.44で、3-14については、3.45であるので、標準的と言えようか。③受講生が多く、大変広い教室だったので、マイクを使っても聞き取れない、板書が見にくいというのは問題だったかと思うので、もし次の講義も広い教室であれば、この点工夫したいと思う。

先にも書いたとおり、アンケートに回答する学生数が少ないことは問題であり、さらに自由記述欄に授業の「改善」について学生自身に問うのは問題と思われる。授業アンケートの位置づけは今後、より検討が必要だと思われる。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	契約法A<2019年度入学者>
授業コード	44B17-001
教員名	平林 美紀
教員コード	100773
登録人数	247
回答数	186
回答率	75.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

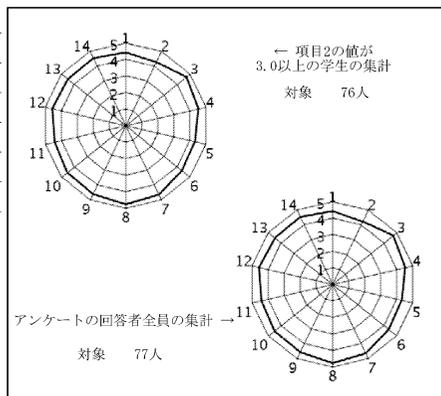
昨年度担当と同一科目であるが、従来2年次生以上とされていた受講対象者を1年次生以上へとカリキュラム変更した上で、移行期の受講者増に対応するため、1年生クラスと2年生以上クラスを分けての開講であった。評価結果は、厳しいものであった。1年次生の全員履修を推奨していることから、この科目の受講意欲がそもそも低い学生が含まれるということ差し引いても（項目1：3.53）、3点台が散見される評価は過去なかったので、抜本的な改善を突きつけられたと思っている。

3点台の項目を、自分なりに整理すると、受講生は、到達目標を理解しないまま出席しているところ（項目5：3.47）、学習意欲を引き出すための指導が足りないと感じ（項目11：3.94）、講義期間の終了が近づいても、新しい知識を得たり、理解が深まったように感じられないとともに（項目13：3.94）、力が付いていると感じられず（項目6：3.45）、講義全体に満足していない（項目14：3.74）ということであろうか。他方で、質問の機会の保障（項目12：4.04）、理解度への配慮（4.09）、取り組みの誠実さ（項目7：4.42）は感じてもらえており、自由記述欄には分かりやすいとの意見も多いから、個別に苦慮している学生をターゲットとした具体的な助言が行き届いていないのかもしれないと考えた。自由記述欄には、「教科書指定」を望む声が初めて見られた。複数のタイトルをあげてその特徴を説明し、必要なは買うようにと指示したが、教科書に沿った（教科書通り）の進行でない不安な受講生が少なからずいることがわかった。

Q3には、内容的に連続する「契約法B」を担当するので、まずは、毎回の授業で理解してほしい項目を明確にすることで、不安を払拭したいと考える。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 労働法B
授業コード 44B28-001
教員名 緒方 桂子
教員コード 103261
登録人数 372
回答数 77
回答率 20.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



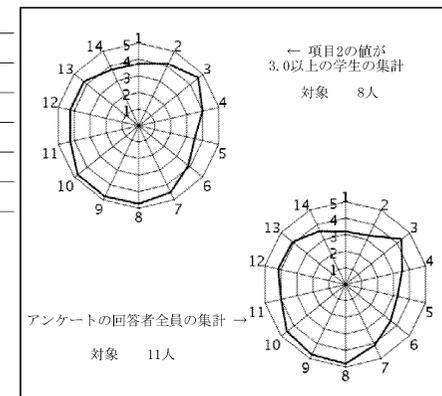
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初予定していた内容を完了し、また期末試験の結果からは、多くの学生が学習内容を十分に理解していることがうかがわれた。

第1Qにおける授業評価の自由記述欄において、パワーポイントを利用して欲しい、レジュメを印刷して配布して欲しいというものがあったが、いずれについても対応しない旨を理由をつけて、第2Qの授業の冒頭で説明した。第2Qにおいても同様の記載があったが、私の説明に納得できないか、聞いていなかったということだろうと思う。前者の場合にはどうしようもないが、後者のことも考えて、次回からは、WebClassの方にも、こちら側の意見を明記しようと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法哲学A
授業コード 44B31-001
教員名 服部 寛
教員コード 103600
登録人数 67
回答数 11
回答率 16.4%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

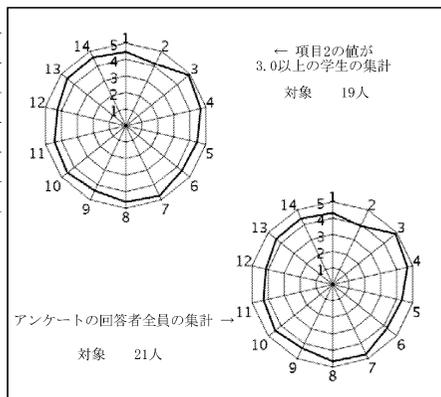


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに掲げた目標については、こちら側から用意していた情報と方向性の点では、提供すべきものは提供できたものと言えるが、授業の進行の点では内容上どうしても遅れざるを得ず、この点が、数値データの低下や自由記述欄における批判的なフィードバックとして表れている。加えて、自由記述欄にあるような、法哲学の分野一般につき高い関心を持つ学生はもとより、授業参加への意欲などに関する諸点につき、前年度と比べて数値が落ちている。次年度に向けての改善点は、第一に、授業計画通りに進めていくことであり、第二に、学生の本講義への関心の向上に向けての、訴求力の強化である。約2000年という時代の西洋史と法思想史をどのように効果的に扱うか、難題が山積しているが、内容を一部簡素化しつつ、他面でアクチュアルな（世界各国の）問題、ひいては日本（の法思想）史への言及などを行うなどの工夫をはかり、受講者の満足度の向上につとめていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	行政救済法(応用)
授業コード	44B98-001
教員名	榑原 秀訓
教員コード	100548
登録人数	54
回答数	21
回答率	38.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

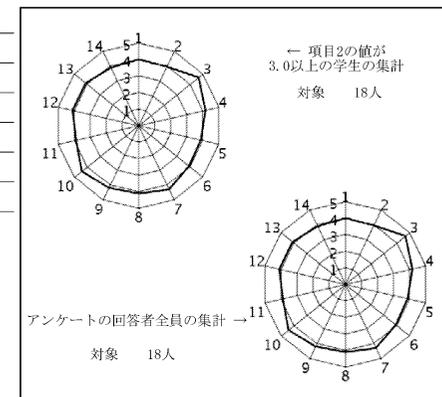


授業評価結果を踏まえた点検・評価

行政救済法(応用)は、カリキュラム改正により新設された科目であり、今年度初めて開講された。その目的は、公務員試験等の受験や、法務研究科・法学研究科への進学を考える学生を中心に、行政救済法において判例が展開し、より議論となっているような問題に焦点を当てて、より良く行政救済法を理解してもらうことである。したがって、勉強意欲が高くないと内容理解が大変といった側面があると思われる。履修登録者数が54名で、回答数が21という少なさもこういった科目の特徴が関係していると考えられる。もともと勉強意欲が高い者が多いと予想されることから、それぞれの項目の点も相対的に高く、学生の側の努力にかかわる設問2を除くと、すべて4点台であった。ただし、それでも設問6「到達目標に向けて力がついた」が4.24、設問12「質問や相談の機会」が4.14と他よりは低く、力を付けるための機会を設ける必要があるようである。今後も参加人数がこの程度であるならば、授業時間中に質疑応答の機会を設けるといったことも考えられると思った。自由記述をみると、説明がわかり易いという積極的評価とともに、分かりにくいという消極的評価もあった。消極的評価には、判例の扱いについて、数が多いといったものもあった。これらの消極的評価は、「応用」という科目の性質をどう考えるかにもよると思われる。今後、「基礎」と「応用」との関係をもっと明確にしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	債権法総論
授業コード	44C12-001
教員名	王 冷然
教員コード	103577
登録人数	99
回答数	18
回答率	18.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

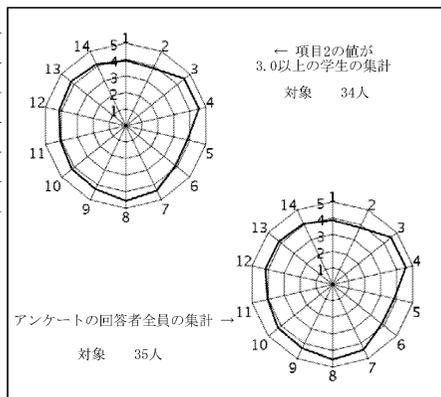
本講義は、債権総論における諸制度の基本的な意義および基本的な知識を理解することと、具体的な法律問題について、習得した知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うことを目標として設定した。講義中に出した練習問題の答案や定期試験の成績状況からみると、当初の目標はほぼ達成したと思われる。

今回は18人の学生からしかアンケートが提出されず、そのなか、自由記述が2つしかなかった。このような状況の下で、数値データや自由記述などをどのように受け取るべきかについては、多少戸惑うところがあるが、ほかの項目に比べると、学生の学習意欲を引き出し、自主的な学習を促すための指導や情報提供に関する項目の数値や講義全体に対する満足度に関する項目の数値が低いから、講義の意義を理解してもらい、学生の学習意欲を引き出すような工夫が足りなかった。

来年度に当該講義を担当するときに、学生に好評である練習問題を、引き続き講義中に出すことにし、教科書の選定やレジュメの作成に一層力を入れて、学生の勉強意欲を引き出すように努めたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 企業法務
授業コード 44C25-001
教員名 佐藤 勤
教員コード 101599
登録人数 91
回答数 35
回答率 38.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度から、レジュメは、授業開始前にすべてのレジュメをWebclass上アップロードし、かつ授業の進行予定を明示し、予習・復習の便宜を図った。この点については、評価を得ているものとする。なお、タブレット端末で表示した場合に、レジュメ上の図表がずれるとの指摘があったので、次回からは、PDFに変換しアップロードすることとする。

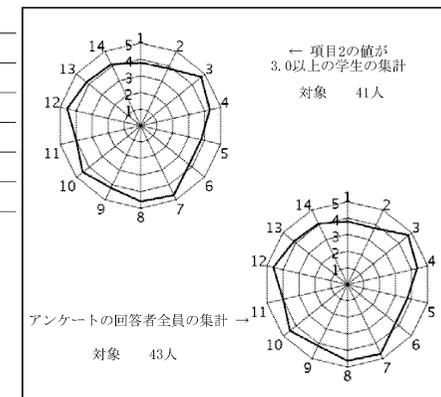
また、授業内容が抽象的であったため、より分かりやすく、かつ興味を持ってもらうため、具体的な事例として判例研究を取り入れ、補足資料を配布した。この点も評価されているものと思われる。

以上を踏まえると、前年度から行った改善項目については、予定された通りの結果を得たことから、開講当初の目標は達成したと考える。しかし、新たに、次の課題を認識した。第1に、設問1、設問2、設問5、設問6の評点が、いずれも4点を切っていた。これらから窺われるのは、学生の授業を受けるスタンスができていないということである。すなわち、興味がないにもかかわらず、単位取得のためにのみ履修しているように思われ（設問1・2）、その結果、授業の到達目標も理解できないこと（設問5）、また予習復習を行わないため、力がかからないこと（設問2・6）である。すべての学生ではないが、一部の学生にみられるようである。

他方、授業自体の問題点としては、以前から努力・改善を行っているが、依然として、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための指導や情報提供が不足しているとの指摘がある（設問11）。今回から、判例等の事例研究を取り入れ、工夫を凝らしているが、さらなる指導・情報提供の工夫をしていく必要があるため、次年度までに対応策を考えていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治行動論
授業コード 46N08-001
教員名 野口 博史
教員コード 100473
登録人数 156
回答数 43
回答率 27.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

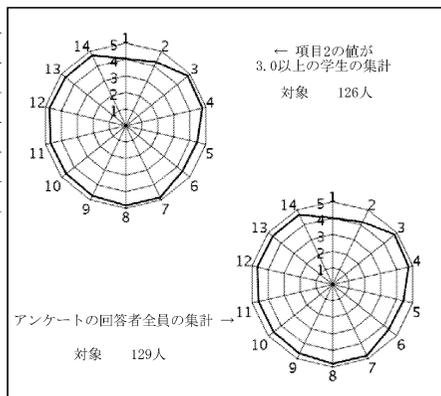
本講義の学修目標は体系論にもとづいて主要な政治学の法則および理論を理解し、かつ現実に応用可能なものとするものであり、定期試験受験者143名中、単位取得者138名、うち良好な成績を修めたものが22名であり、目標は基本的に達成されたと考えている。

数値データの傾向は2017年度および18年度と酷似しており、また担当者のほか講義とは異なり、設問5および6がやや低いという特徴がある。この理由は講義前半に体系論のやや抽象度が高い説明をおこなうためと考えられるが、過去同様、自由記述欄の内容や講義に際する質問などからみても、内容はやや高度だが、受講者の大半は基本的内容を理解できていると判断する。

本年度は以前の指摘に対応して板書量の増大に努めたが、字が小さいなどの指摘が増加し、またプリントとの相互参照が困難となったようだ。この点については、今後、板書に際してプリントの項目立てと同一の項目を立てて内容を記すようにしたい。なお、今回は従来から長期的課題としてきた早口については指摘がなく、おおむね克服に成功しつつあるとも考えられる。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教に見る人間の尊厳2
授業コード	10D01-002
教員名	山田 望
教員コード	000211
登録人数	178
回答数	129
回答率	72.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

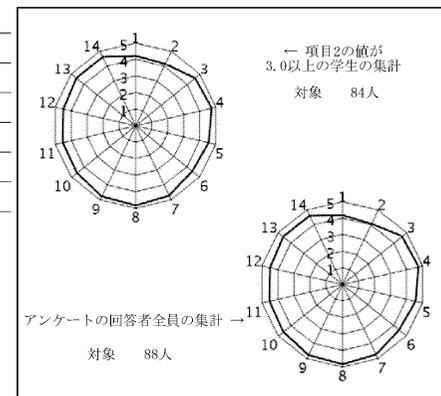


授業評価結果を踏まえた点検・評価

人間の尊厳科目が全体で14科目開講されており、その平均値と本科目の値とを比較して、本報告書を作成した。まず、本科目の開講にあたって、初回の授業で本科目の到達目標について説明を行った。それを前提に、全体の満足度を示す設問14の値を見ると、全科目の平均値が4.49であるのに対して、本科目は4.67と18ポイントも上回っていたので、ほぼ、開講当初に設定していた目標は達成できたと考えられる。設問2から設問14までの平均値との比較では、すべてにおいて本科目の値が平均値を上回っていたが、唯一、設問1の「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていたか」という設問だけが、平均値で3ポイント下回る結果となった。この設問に対する5段階の評価において、3から5までで答えた回答者数は、119名、全体の98.45%が本科目を履修する前には、授業内容に興味を持っていなかったと答えている。それに対して、設問13の新しい知識を得たり、理解が深まったかという問いに対して、全科目平均の4.53を11ポイント上回る4.64という結果であったことは、当初、本科目の内容に興味を持たなかった98%超の学生たちが、授業を受けたことで興味を持てるようになり、知識や理解が深まったことを示している。自由記述にも、当初全く興味がなかったテーマについて、授業を受けるごとに興味が湧いてきたという評価が非常に多く書かれていた。自由記述欄には、出欠の取り方について、WEBCLASSを活用した出欠の取り方や、定まった時間帯ではなくランダムな時間帯にとる方が良いといった記述があり、今後の参考になりたいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法と人間の尊厳7
授業コード	10D05-007
教員名	三輪 まどか
教員コード	102263
登録人数	188
回答数	88
回答率	46.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

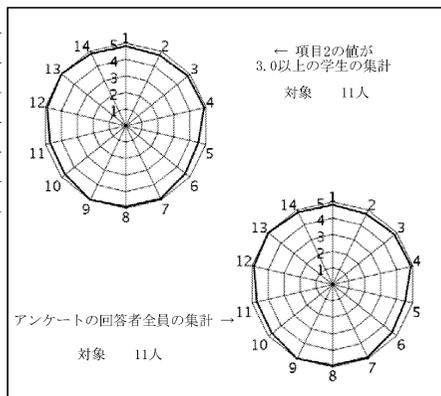


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の当初の目標は、私たちらしさを決定する権利としての自己決定権を通して、現代社会の課題を学ぶということにあったが、定期試験の記述を見ると、皆真摯に記述しており、概ねその目標は達せられたと考えられる。授業の満足度を見てみると、設問14では4.61、また、設問4、7、8、9では、4.7を超えており、これはひとえに、当方の授業に対する熱意を十分に受け止めてくださった学生の皆さんのおかげと思われる。この場を借りて感謝申し上げたい。自由記述についてみると、授業の内容もさることながら、いろんな意見、多様な意見があることを授業中に感じられ、また、それを提示できるということについて評価をする声が多い。例えば、「学生が考える時間があり、それを全体で共有し、ただの講義ではなく授業に参加している感じが良かった」や「社会で問題になっている議論することを避けられてしまうような問題を考えることができたので良かった」とするもの、また、「答えのない問題に対して、先生が初めに様々な観点からの考察や疑問点などを提示し、それを踏まえた上で、生徒が意見をウェブクラス上で交わすことができた点」に満足する声が聴かれ、新たな取り組みである双方向型授業が功を奏したと思われる。しかしながら、ウェブクラスへのアクセス不調なども問題も出ており、この点については今後改善していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語III(総合)1
授業コード	11L16-001
教員名	山口 和代
教員コード	049726
登録人数	12
回答数	11
回答率	91.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

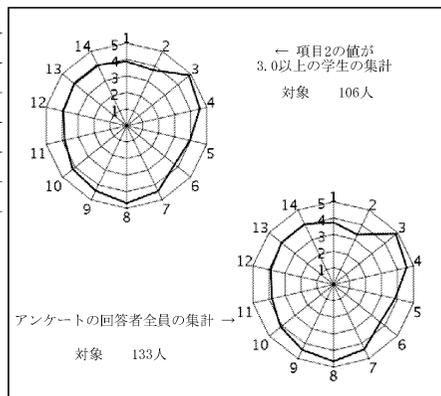


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は日本語Ⅱまでの授業で学んだことを総合し、学部の講義の基礎となる知識と技術を習得することを目標とした。学生による授業評価の設問への回答結果から授業運営および全体的な評価に関する項目を見ると、4.55から5.00という結果であった。自由記述欄の回答もとても勉強になった、相談の時にいろいろコメントがもらえた、質問があったらいつでも自由に聞ける、といった肯定的な回答であった。授業で改善すべき点についてはこのままでいいというものがある一方で、ビデオの教材があるといいという意見もあり、中級レベルの授業で多用した視覚的な情報収集を望む声もあった。これらの結果から、学生たちが授業の目標を理解し、真摯に授業に取り組んだことが伺われ、おおむね授業目標は達成できたのではないかと考えている。この授業では、授業時間以外に課題発表に関する相談を受けることも多かった。課題発表の時には、1人1人がフィードバックをきちんと受けたいという学生からの要望もあり、時間の許す限り対応するよう心掛けた。中には授業課題をこなす力が不足している学生もいるため、学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるよう配慮しつつ、今後も学生が積極的に授業に参加し、自主的に勉強に取り組むための手助けをしていきたいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相3
授業コード	13C06-003
教員名	金網 基志
教員コード	102923
登録人数	185
回答数	133
回答率	71.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

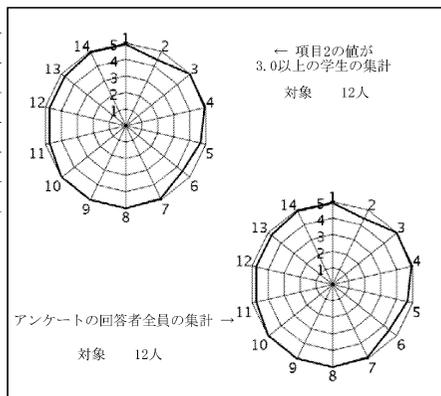


授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年に比較して、項目3から14の平均、及び項目14の全体的な満足度が上がった。昨年は、Webclassに空欄を穴埋めした資料をアップしていたため、出席率が下がったが、今年は穴埋め資料のアップを行わなかったこともあり、出席率が落ちることはなかった。自由記述欄の記述も多く、スライドやプリントの分かりやすさや学生に意見を問うExerciseなどが評価されていた。他学部の受講生からは、学部の講義では聞けない内容を知ることができてよかったとの意見もあった。これは、共通教育を行っていることのメリットの一つと考えられるだろう。進行が速いとの意見もあったが、遅くすると理解の早い学生が退屈することになり、授業速度をどうするかは難しい点である。到達目標が何であるのかを繰り返し提示するなど、項目5や項目6の評価を改善することも考えていきたい。DVDを視聴することで理解が深まったとの意見も多数あったので、こうした機会を増やしていくなどの工夫を行っていきたいと考えている

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と環境4
 授業コード 13D02-004
 教員名 藤本 潔
 教員コード 100100
 登録人数 22
 回答数 12
 回答率 54.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

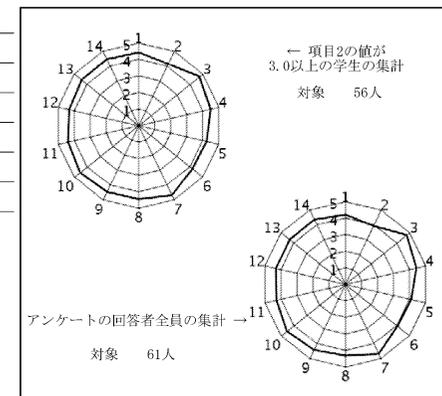


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の授業評価は、これまで2005、2007、2010、2011、2014、2018年度に行われている。2014年度までは受講者数が300名を超えるマスプロ授業であったが、名古屋キャンパス移転後は、2018年度が114名、今年度はわずか22名の少人数授業となった。そのため、過去の評点とは一概に比較することはできないが、今年度は設問1-14の平均点が4.82、設問3-14の平均点は4.84と極めて高い評価が得られたことから、本授業の目的は十分に達成できたと見えよう。また、過去の設問3-14に相当する設問の平均値は、それぞれ4.23、4.01、4.48、4.30、4.62であったことから、少人数になるにつれて学生の満足度も高まることが確認された。自由記述欄には良かった点として「少人数のため発言の機会が多く設けられたこと」という記載があり、やはり一方的な講義形式ではなく、学生に考えさせる演習形式の授業形態が効果的であることも改めて確認することができた。本科目の授業時間帯には他にも多くの共通教育科目が開講されており、来年度以降も少人数科目となる可能性が高い。今年度は予想外に受講生が少なかったことからそれに対する準備が不十分な面があったが、来年度はそれを前提としてさらにディスカッションの機会を多く設けるなど、アクティブラーニングを積極的に取り入れた授業となるよう工夫したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際政治学B
 授業コード 44B48-001
 教員名 POTTER, David M.
 教員コード 100098
 登録人数 234
 回答数 61
 回答率 26.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

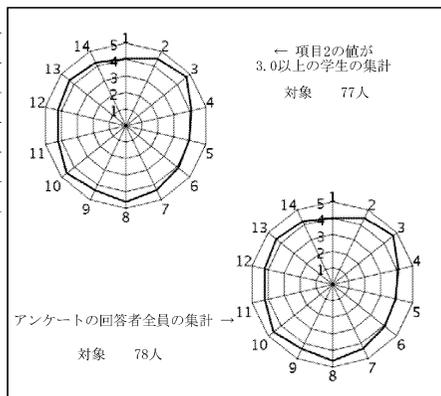


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is a general studies survey of international politics. It is the second of a two-quarter set and focuses on organizations, practices, and issues in international politics. The class had about 250 students this time, about one hundred fewer than last year but closer to the norm of previous years. In general the students were satisfied with the class. Not surprisingly, those who attended regularly showed somewhat more satisfaction. Who knew. The comments were few but generally positive. As for the future, that depends on the office of academic affairs and students. Class size affects classroom allocation, which in turn affects use of teaching methods. We will see.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計学
授業コード	46D01-001
教員名	水落 正明
教員コード	102745
登録人数	192
回答数	78
回答率	40.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

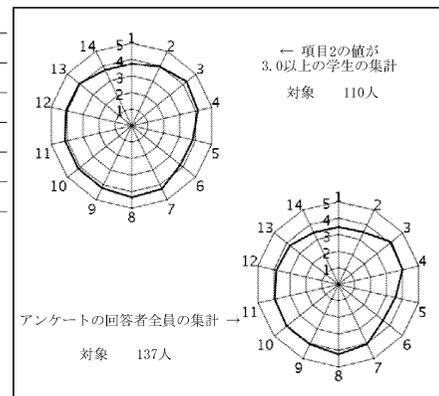


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業に対する総合的な満足度（設問14）が4.22と、総合政策学科平均4.15をやや上回る結果となった。また、全学の同規模の登録者数121~240名の平均4.21とほぼ同じ数値となっている。昨年度と同授業は、板書を中心に数式を理解し、実践として電卓等を使って確率の計算をする形式で行い、総合的な満足度は3.96であった。本年度の同授業は形式を変更し、学生が各自コンピュータを使いながら、身近な例を使った統計的分析を実践する内容にした。結果として満足度が上昇したものと考えられる。ただし、200名近い人数にTAなしにコンピュータの作業を指導するのはかなり困難で、十分なサポートが得られなかったと感じる学生もいたのではと推察する。ただ、自由回答にあったとおり実践的な内容にしたことで、途中で挫折することなく楽しく学んでもらえたと考えている。総合政策学科で平均値が公表されている14項目のうち、平均点を下回ったのは以下の3項目、毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか（設問4）、この授業の到達目標を理解することができましたか（設問5）、担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることはできましたか（設問7）であった。自由回答にもあったとおり、進度が早いと感じる学生もいたほか、サポート不足を感じたようである。中間レポートで理解を確認し、かなりペースを落として授業を行ったが、内容として文系の学生には困難な授業であるため、バランスを取るのには依然として難しい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域環境論
授業コード	46D15-001
教員名	前田 洋枝
教員コード	102264
登録人数	195
回答数	137
回答率	70.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

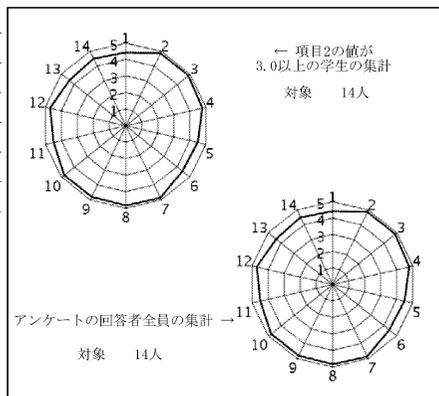


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに設定していた目標はほぼ達成できていたと思われる。自由記述ではこの授業で良かった点として、実習（演習）で学生同士のディスカッションをする機会があったこと（「主体的に参加できた」、「自分の意見を述べることで理解が深まった」）、情報提供が多かった点（「様々な物事と関連づけて話すのでとても分かり易かった」「今日本が抱えている環境問題を事細かに理解することができた。またどのような対処法があるのかも学べる」）、スライドが見やすく簡潔にまとめられていた点などが挙げられた。また、授業内容に関連した学外の催し（学生が参加できるワークショップなど）の情報提供を行なったことに対しても「モチベーションの向上につながった」と肯定的な意見が見られた。その一方で、「内容に統一性がない」「毎回内容が変わりすぎ」といった意見もあった。第1回で、15回全体の進行予定は説明しているが、各回の冒頭にも、当日の内容が15回全体のどこに位置づけられるのか明示するなどの学生の理解を助ける工夫は、改善点として挙げられる。また、話し方については、良かった点の自由記述で「聞き取りやすかった」「ゆっくりと話してくれたので聴きやすかった。」という意見の一方で、改善すべき点の自由記述で「テンポがゆっくりなところ」「たんと進みすぎ」と賛否が分かれた。引き続き改善していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	FIELDWORK METHODS<国際科目群>
授業コード	46E01-901
教員名	CROKER, Robert
教員コード	100082
登録人数	30
回答数	14
回答率	46.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class was to help students develop an ability to do research in English in the social sciences. As this class was an 'open course' for the Center for Japanese Studies, about one-third of the students were short-term international exchange students, principally from American universities. We did two projects — a personal topic (e.g. post-graduation life plans, part-time jobs) and a larger social topic (e.g. nuclear power, gender, declining birthrate). For both projects, students made small groups of three students, and each group researched about a different topic. Two main research skills were focused upon — interviewing and writing a questionnaire. Groups analyzed the collected data and then gave 10-minute presentations in their small groups. The students worked hard every week to complete this small research project within one quarter. The feedback from students indicated that they enjoyed the class and felt that it was very useful. They also felt that they learned useful research and language skills, which will help them in their third and fourth year seminar classes. Students enjoyed working with the short-term international exchange students, and felt that increased their understanding of other ways of looking and understanding the world. They also appreciated the help that these exchange students gave to the development of their language skills.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	INTERCULTURAL BUSINESS ANALYSIS<国際科目群>
授業コード	46E02-901
教員名	O'CONNELL, Sean
教員コード	100448
登録人数	5
回答数	3
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

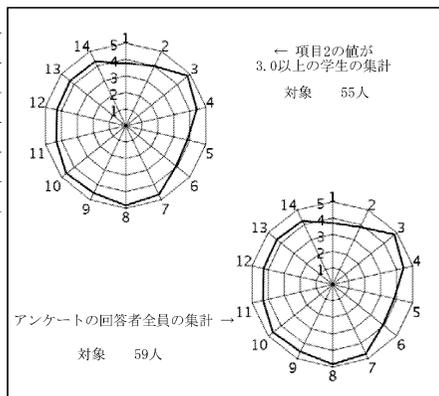
Unfortunately, due to the low number of students in the class (five students), and whilst giving the students time to do the evaluation at the end of class, there were not enough responses for them to be collated.

Saying that, however, my subjective view of the course overall was that it went extremely well despite the low number of students. As a kokusai kamoku-gun course, the all-English approach and the scheduling of the class may contributed to the low number of students. However, it meant that a lot of individual attention was given to each student to help them grasp the content. Attendance was close to 100% for each class and the students were able to achieve the course goals set out, including enhancing their intercultural business knowledge and understanding, broadening their worldview of multicultural workplace dynamics and enhancing their analytical skills regarding Japanese-Foreign worker relations.

In the future, hopefully more students will take this course so that collated results are available.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 公共政策と倫理
 授業コード 46J01-001
 教員名 中島 靖次
 教員コード 000246
 登録人数 97
 回答数 59
 回答率 60.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

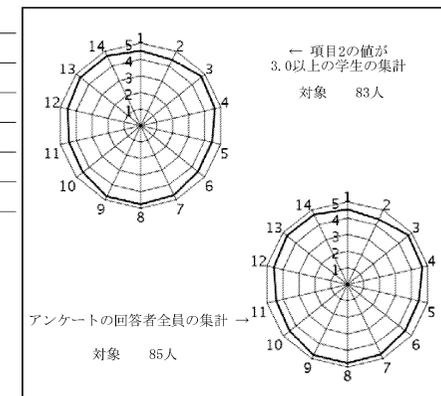


授業評価結果を踏まえた点検・評価

新カリキュラムになって3回目の講義で、これまでの反省点を修正しつつ、再構成してきた内容にしてきたつもりだったので、それなりに授業の手ごたえもあり、今回のアンケートの結果が楽しみであったが、それほどの内容となることができず、担当者としては非常に残念な結果であった。とりわけ、問5と6の平均値が4ポイントをしたまわってしまい、授業としては致命的といった結果となってしまった。倫理学の内容は、高校までの授業を受けている者といない者では、理解の度合いに相当の差があるために、毎回授業の冒頭で当回の理解の目標とポイントを提示しながら授業を進めてきたが、少なからぬ学生がその目標を達成しているという自覚に至っていないということになって、こちらがあらかじめ自覚的に取り組んだ点が功を奏していないのが大なる反省点である。自由記述には、「何度も説明があり分かりやすかった」、「論点の整理がしやすかった」、「授業内容に興味を持ち続けることができた」などの積極的な意見もあり、当初の狙いが全く達成されていなかったというわけではないが、今後は、ほとんどの学生にわかりやすく伝える工夫をさらにこらしていきたいと思っている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織行動論
 授業コード 46K05-001
 教員名 久村 恵子
 教員コード 100026
 登録人数 206
 回答数 85
 回答率 41.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

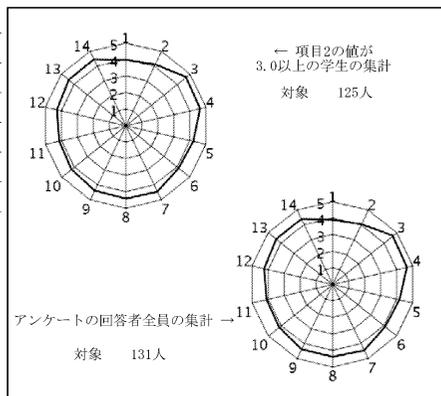
この授業では、組織とそこで働く人々の行動や態度、またその関係に関する理論や知見への理解を通じて、組織行動論から見る社会問題への興味や関心の向上を目標としている。そのため、モチベーション、ストレス、リーダーシップ、組織開発といった組織行動論の主要トピックスについて、社会問題や日常生活を事例として扱い学術的視点から理論を紹介することで、組織行動論への理解を深めてもらえるように努めた。

今回の授業評価の結果を見る限り、設問1～設問14の平均値が4.60（2018年度4.51）、設問3～設問14の平均値は4.63（2018年度4.56）であり、今年度も授業運営および全体として肯定的な評価が得られた。授業の到達目標の達成に関する設問についても平均値は4.4以上であり、ほぼ達成できたと判断できよう。自由記述では「資料や説明が分かりやすい」、「内容が面白い」、「復習や課題のタイミングが適切」など肯定的な評価が得られた。

また、主体的な学習に関する項目（設問2）は全体では最低値（4.38）であるが、トピックスごとの課題やWebClassでの教材提示が学生の自発的学習に繋がったといえよう。一方、授業の進行速度については「ちょうどよい」と「もう少し早くてもよい」という両意見があり、この点も含め次年度の履修生の反応などを見つつ、授業内容と構成、運営について検討し、さらに改善を図っていききたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際社会と法
 授業コード 46L05-001
 教員名 山田 哲也
 教員コード 100839
 登録人数 313
 回答数 131
 回答率 41.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

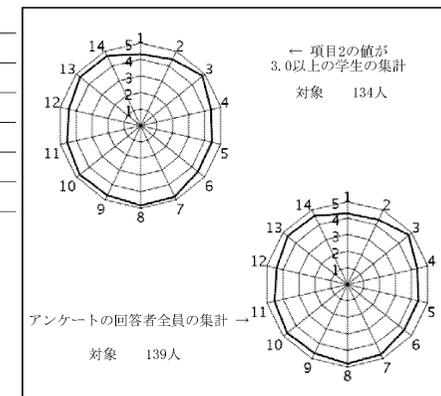


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初にwebclass上にアップロードしたレジュメを予定より早く終わることができたので、教科書を用いて、もう一章分追加で講義を行うことができた。学生は、比較的私語もなく、熱心に受講していたと思う。
- ②数値データおよび自由記述を見る限り、ほぼ想定通りの講義が行えたと思う。ただし、授業に対する評価の割に試験の成績が悪い（全て授業、教科書から出題し、復習のポイントも伝えたのに、ほとんどが60点台の点数しか取れていない）。敢えて出題を難しくしている訳ではなく、授業をきちんと受講していれば、8割は得点できるレベルの試験であったにもかかわらず、である。
- ③自由記述の中に一部、「ホワイトボードの字が小さい」というものが見受けられたので、これについては改善の余地あり。ただし、学生が積極的に前の方に座れば済む話でもある。また、授業時間の途中で小休憩を入れているが、これについては学生からは好評であったので、今後も続けていくつもりである。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済政策論
 授業コード 46M04-001
 教員名 鶴見 哲也
 教員コード 102265
 登録人数 265
 回答数 139
 回答率 52.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

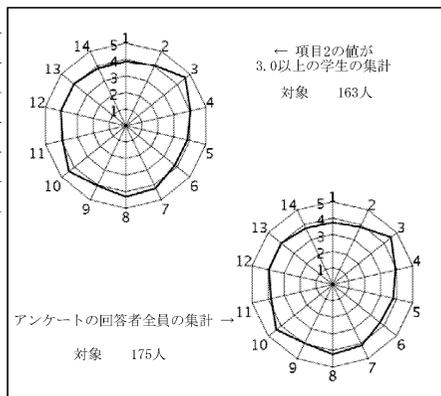


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3から項目14の平均が4.58であり、全学の同人数帯である241名以上の科目登録者数科目の平均4.26、総合政策学部の学部平均である4.28を超える評価を得ており、また、自由記述回答において多くの好意的なコメントを得ることができていることから、学生からは良好な評価を得ることができたと考えている。個別コメントにおいて講義内容の理解度について良好なコメントがあることから、開講当初に設定をした到達目標を達成することもできたと考えている。また、個別コメントにおいて講義内容に興味を持つことができたという声が多くみられたが、これは理論的な説明をできる限り事例や新聞記事そして書籍を通して説明したことが影響したと考えている。また、最新の研究も多く紹介したことについても興味を示す声があるため、今後も、多くの事例や新聞記事、書籍、研究に触れながら、経済政策を理解しやすく伝えていく努力を続けていきたいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際貿易論
授業コード 46N04-001
教員名 佐藤 創
教員コード 103882
登録人数 512
回答数 175
回答率 34.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

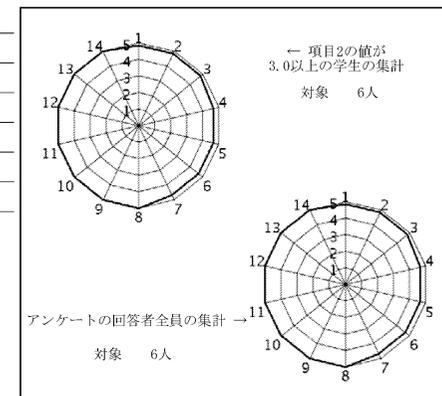


授業評価結果を踏まえた点検・評価

登録者数は500名を若干超えており、アンケート回答者数は175であった。やや回答数が少ない印象があるが、これは授業をすべて終えた後に聞くべき質問項目が多いと考え、カバーすべき授業内容をすべて講義し終えた後で、アンケートのアナウンスをしたためかと考えられる。開講当初に設定していた目標と到達については、アンケートの結果をみると、項目3から14の平均は4.02であり、開講主体別集計、また241名以上の登録数授業の平均よりも、0.2ポイントほど低いものの、テストの結果をみても、おおむね達成できたと思われる。パワーポイント資料の配布などいけば親切にしすぎて学生の自発性を低めている可能性があるという問題と、資料を事前配布しないと授業進度が落ちるという問題を天秤にかけ、今回の国際貿易論では、数学を扱う部分が若干あることもあり、事前に全資料をWebClassにアップする方法を試みた。この方法が、学生が自発的に学ぶことを促進したのか、あるいは抑止したのかは、やはりアンケート結果だけではよくわからない。200人を超えるようなマスプロ授業では、「当該授業の理解度」と「自発的な学びの促進」のバランスの取れた方法の解はなかなか見つからず、まだ模索せねばならないと考えている。今後のマスプロ授業では、また別なアプローチを試みる予定である。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境科学1
授業コード 46N24-001
教員名 大八木 英夫
教員コード 104123
登録人数 25
回答数 6
回答率 24.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

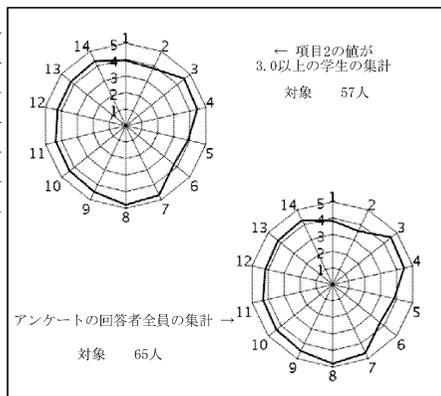


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、環境科学に関する各専門分野の知識を横断しながら、自然環境と人間社会との関わりを科学的に探究し、現代社会で生じている地球環境問題についての理解を修得させることを目的とし、多岐にわたる専門分野における情報（数値）がもたらす意味を基礎的事項として授業を展開させた。内容については、常に生じている時事ニュースや科学における最新情報を取り入れて、日本だけでなく世界各地の情報を提供しながら、学生の意欲を引き出すことに努めた。アンケート結果からは、進行速度や構成についてはやや評価されなかった部分があるが、概ね学生からの対応は良好であり、授業への展開については良好であったと考えられる。今後に向けては、特に、時事ニュースは、常に変化していくものであり、今後の授業においても古い知識にならないように気を付けながら、環境科学や地球科学、自然地理学等の複数の学問における様々な観点について授業を展開し、環境科学の基本論理の講義を介して、環境について自分で考える能力を身につけさせることを目標としたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報を読む1
授業コード	13E07-001
教員名	松田 眞一
教員コード	017566
登録人数	84
回答数	65
回答率	77.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

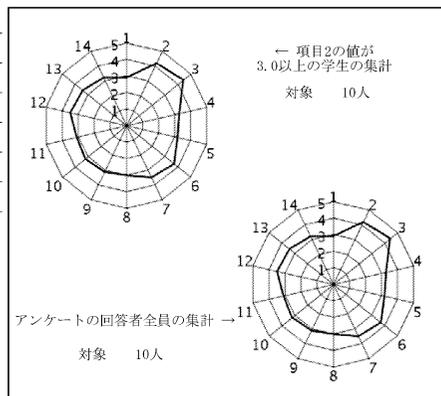
・授業目標と目標達成度
本授業の目標は身近な情報についてその見方を深め、情報に基づく考察ができる力を培うことである。その目標達成のため、全部で7回のカード実験を伴う演習のレポートを課した。また、その結果の確認はWebClassによる時間外の学習とした。単位を修得した学生はX, Sを除いた受講生81名中76名であり、合格率は例年より高い93%となった。X1名、S2名は例年より少ないためミスマッチは少なく合格率が上がった感じである。A+となった学生は13名で去年より大幅に増えた。

・授業評価
回答率は例年並みの8割程度であった。アンケートに答える時間は1回しか設けなかったが、授業の中間に設けたことが奏効した。設問3から14において全学平均を下回った項目は6つになり、昨年より増えた。主要因は2週目から参加した20人ほどの学生にあるだろう。差の大きい5つの設問を考察する。
設問3は実験が長引いて時間をオーバーしたことが2回ほどあったため影響があったと思われる。設問5, 6は到達目標に関する項目であるが、2週目からの参加者に向けて説明が不足していたと思われる。設問12, 13は昨年は上回っていた項目であるが、目標をしっかりと捉えていなかった学生で理解が進まなかったと思われる。ただし、せっかく準備しているWebClassへのアクセス数が少なかった。

・次年度に向けた改善点
WebClassの活用をさらに促す必要がある。単にもっと見るように指示しても全く増えなかった。試験前には見て試験対策はしているようであり、単位は取れているが、授業期間内での閲覧への誘導方法をさらに考える必要があるだろう。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	微積分学II および演習[SE]2
授業コード	50A04-005
教員名	小藤 俊幸
教員コード	101907
登録人数	36
回答数	10
回答率	27.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

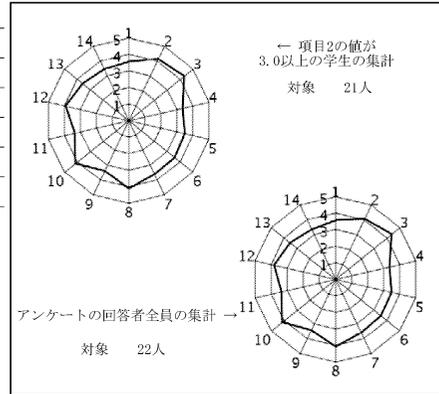


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第1クォーターの「微積分学Iおよび演習」に引き続き、解析学の初歩について学ぶ入門的な授業である。履修者が全体で受ける授業と30人から40人ほどの学科ごとのクラスに分かれて受ける演習からなる。授業も、おおむね1時間を講義に、残り30分を学生が演習問題を解く時間にあてていて、学生が自ら学ぶ姿勢を重視している。
微積分法に関しては、ニュートン法、逆三角関数、テイラー展開、積分法に関しては、微分方程式、広義積分、確率分布と統計学への応用（特に、正規分布）など、「微積分学I」とは異なり、高校では習わない内容が多い。「微積分学I」でFになった学生は、ほとんどいなかったのに対して、1割ほどがFになった。Fになった学生の定期試験の答案を詳しく調べて見ると、新しい内容が理解できなかったと言うより、高校までの基礎的な内容をきちんと理解していないことが分かる。そうした学生のことも考えて、「微積分学I」の多くを高校の復習にあてているのだが、思ったほどの効果は上げていないようである。通常の授業以外のリメディアル教育を検討する時期に来ているのかも知れない。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	多変量解析
授業コード	51B07-001
教員名	白石 高章
教員コード	102104
登録人数	172
回答数	22
回答率	12.8%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

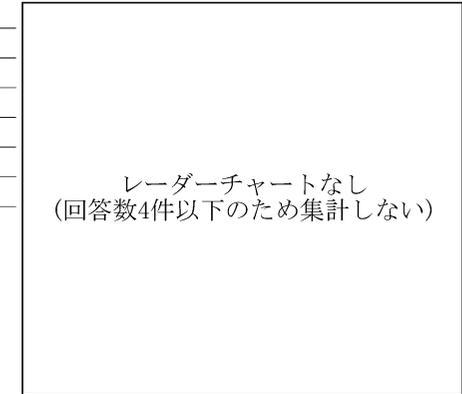


授業評価結果を踏まえた点検・評価

白石のテキストと講義ノートを使って講義した。講義の特長は以下の工夫がある。(1) 確率を理解させるために数理論理学(記号論理学)の初歩を説明することから始める。(2) 微分積分学と行列の知識が使われる直前に、高等学校数Ⅲからの微分積分学と行列の内容を説明する。(3) 通常の数理統計学の教科書よりも行間を埋める必要がないように証明や解説を詳しくしている。学生が、多変量解析の基礎が身に付くように講義を行った。具体的には、多次元確率ベクトル、多次元正規分布の性質、大数の法則と中心極限定理などの漸近理論、重回帰分析、主成分分析を説明した。授業で行ったテキストのページを白石のwebpageに公表した。レポートの内容は、高校の知識でできるもの以外は、問題の解答を講義中に行うか白石のウェブページからも見るようにした。大学の教育では、解法テクニックを覚えることが良いことではなく、自らが考え問題を解決する能力を身に付けさせることが重要である。評価の結果も配慮し今後の他の科目の教育にも役立てていきたいとは思っているが、ある学生の授業評価に「配布のプリントに誤りがあったが訂正されていない」との自由記入欄があったが、訂正はそのつど行っており、誤りも少なかったはずである。項目21の評価が低かったが、授業評価の時間に「〇〇」の部分アナウンスすることを忘却していたためである。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	PBL実践演習[SS]
授業コード	51B12-001
教員名	小市 俊悟
教員コード	101691
登録人数	33
回答数	2
回答率	6.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

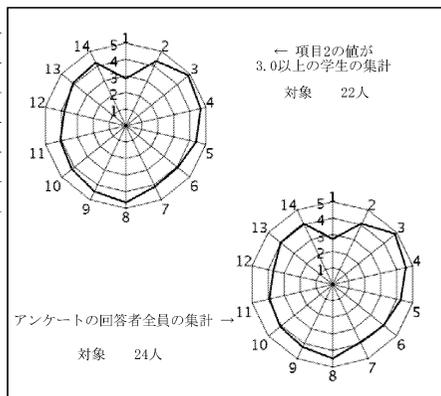


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
PBL実践演習という科目名のとおり、最終的には学生に何かしらのプロジェクトに取り組ませることで、(1) その経験から実践的に技術を修得してもらうこと、また、(2) グループワークも取り入れることで協動的に活動することの重要性を認識してもらうこと、さらに、(3) 自由度のある課題とすることでエンジニアリングデザイン能力などとも呼ばれる創造的な能力を涵養することの三つを主な目標とした。すべてのグループがプロジェクトを完遂できたわけではないが、自主的に学ぶ機会を与えることができたと思う。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
この科目は今年度はじめて開講される科目であり、有益なフィードバックをもらうために、学生には繰り返し回答をお願いしたが、数値データが得られないほどの低い回答率であったことは非常に残念である。自由記述として、自由課題に取り組む時間を長くしてほしいというものがあったが、最後5回を含む3週間弱あるので、妥当な長さではないかと思う。自由課題に取り組む前に前提として学ぶことの量を考えると、前倒して始めることは不可能であろう。同じく自由記述として、グループワークに関連して欠席を問題視するものがあったが、授業でも再三注意したので、欠席過多を適用することにした。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今回一通り授業を行ったことで、学生の課題に取り組む姿勢や知識、技術の修得速度等がおよそわかったので、それを踏まえた授業準備を行いたいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[B]3
授業コード	10C01-037
教員名	大月 英明
教員コード	047340
登録人数	35
回答数	24
回答率	68.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

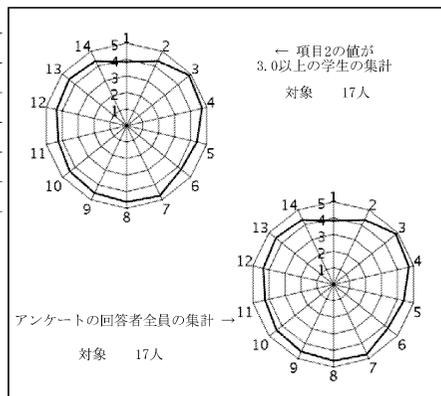


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目はグループディスカッションが主体であり、教員がそれにどれくらい関わるべきかをいつも難しく感じている。過去の評価ではしばしば「自由にディスカッションできるのが良かった」という意見がみられるので、今回は学生自身にディスカッションを任せる比率を高めてみた。そのためか評価数値では「情報提供」と「質問の機会」の評価に関して低い数値を付けた学生がいたようである。クラスによっては学生に任せた方が良い場合と、そうでない場合があるようだ。これは学部学科に依存するところはあるが、必ずしも今までの経験が当てはまらないことがあり、講義の早い時期にその見極めが必要かと思う。自由記述欄にネガティブな評価を書いた学生が一人もいないが、これは授業運営がますますうまく行ったということではないかと思う。学生の発表に関しては「発表内容のロジックが成り立っているかどうか」を重視している。簡単にいえば、結論が一見突飛に見える場合でも、根拠がちゃんとあればよい、ということである。3回のディスカッションと発表を経て「みんながこう言っているから、なんとなく結論はこうである」というレベルを脱却できれば良いと思っている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[S]3
授業コード	10C01-053
教員名	金山 知俊
教員コード	019455
登録人数	30
回答数	17
回答率	56.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

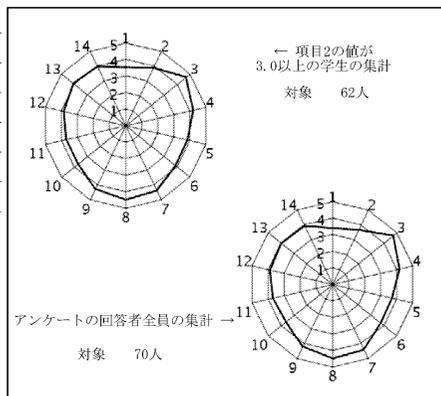


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目のシラバスに示された3つの到達目標はおおむね達成できたと思う。本科目の担当は今年度で3年目であり、授業の進め方については当初から大きな変更はないが、経験を重ねることで学生の授業参加促進やTAによるサポートの充実等、継続的な改善により順調に授業を進めることができた。
2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.44、項目3~14の平均が4.50であり、情報科目全体の集計結果より高評価であった。個別の項目の評価はほぼ4.2以上であるが、履修前の授業に対する興味を示す項目1が3.82と、他の項目に比べ低い値であった。自由記述欄にはグループで協力することでコミュニケーションやプレゼンテーション能力を向上させられたことや社会で役立つ授業であったという意見があり、本授業の進め方が受け入れられた結果だと考える。一方で、授業評価の回答数は登録人数の約半数であり、回答しなかった学生の中に授業に対する不満があった可能性もある。今後は授業評価に集中する時間を設けて回答率を上げ、より多くの意見を収集できるようにしたい。
3. 2017年度、2018年度に引き続きの担当であり、これまでの経験を踏まえて順調に授業を実施することができた。本クラスについては欠席過多や課題未提出など授業に参加しなくなる学生もいなかったが、他の担当クラスではそのような学生も数名ではあるが存在している。次クォータ以降はe-learningの実施状況や課題の提出状況をより詳細に確認し、実施率の低い学生については積極的に声掛けを行って授業への参加を促すように努めたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	論理と集合
授業コード	50A05-001
教員名	佐々木 克巳
教員コード	018051
登録人数	128
回答数	70
回答率	54.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

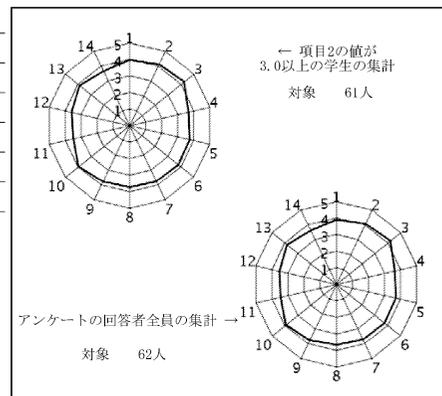
目標：この授業の目標は、数学で用いられている基礎的な概念に対し、(1) それらの数学的表現を正しく読み取ること、(2) それらの概念を数学的に正しく表現すること、(3) それらの概念の性質を理解すること、(4) その性質の論証を定義に基づいて行うことである。具体的に扱った概念は、「論理のことば」、「集合」、「写像」、「関係」である。運営面では、事前に講義資料を配布し、それに従った解説を主とした。練習問題の略解を含めた事前の講義資料の配布、中間試験の実施、説明が速くなりすぎないための板書のみで進める方式は昨年から継続している。

評価：結果の数値は平均3.97で、過去の推移(2015:3.94, 2016:4.39, 2017:3.80, 2018:4.11)と比べ、減少方向に転じてしまった。設問15からは、講義資料、板書・説明のわかりやすさなどの昨年と同様の評価を得た。今年度はさらに、内容の面白さや理解に関するコメントが3件あり、授業の本質の部分でも評価を得た。説明16では、話す速度や講義の単調性への指摘や出席率の悪さに関するコメントがあった。前半の指摘は、数値が減少したの要因と考えられる。他の科目との比較では、設問7(教員の誠実さ)、設問8(教員の声)、設問9(板書・配布資料・視聴覚教材など)でよい結果を得て、これは昨年と同様であり、授業の運営方針が反映されていると考える。

今後の計画：昨年度からの運営方法とその実施結果に対する評価は得ていると考えるので、基本的にはそれは継続したい。話す速度については、その場で気を付けるのはもちろんであるが1コマ単位の目標をよりきちんと定めることで改善できると考える。単調性については、問題を解く時間を設ける提案があり、検討したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アルゴリズムとデータ構造
授業コード	52A01-001
教員名	横森 励士
教員コード	101114
登録人数	240
回答数	62
回答率	25.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

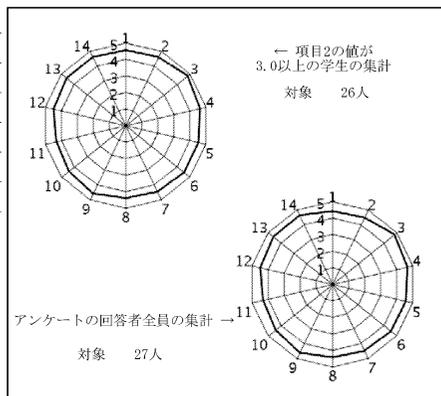
昨年度の反省をとり、以下のような点を重視して今年は講義を行った。
・ホワイトボードに必要なポイントを書き、それをノートにとり勉強してもらう
・試験を重視したバランス調整
・勉強しておいてほしい、重要なポイントはちゃんと告知

結果として、今年はこちらのやりたいことが一通りできたと思う結果になった。
。成績からも、昨年度の不合格率が23.3%であったのに対して15%程度まで低下し、勉強していない学生が単位をとれないという講義として当たり前の状態になった
ということを確認できた。
学生には、ちゃんと取り組んでくれたことに感謝したい。
その努力に対しては、いい成績をとったということで報いることができたと思う。

来年度についても、(問題の難易度、出題の大まかな方針などを含めた)本的な方針は変えずに進めたいと考えている。
各回ごとに、ある程度のまとまりだけ説明する必要がある以上、少し押しぎみの展開になった点は詫びたい。
資料公開のタイミングについては、どうするのがベストかをよく考えたい。
来年度も指摘いただいたポイントを自分なりに解釈して、講義の質の向上に努めたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報モデリング
授業コード 52B06-001
教員名 蜂巢 吉成
教員コード 019448
登録人数 227
回答数 27
回答率 11.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目はカリキュラム改正に伴い、今年度から開講した科目である。昨年度までのオブジェクト指向に加え、データモデリングについて講義した。原則として毎回、その日の授業内容についての演習課題(15点)を出題した。レポート課題(35点)を2回を出題し、定期試験(50点)を行った。

(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

授業は概ねシラバスに記載した通りに進み、7割弱の学生が到達目標に達して合格した。データモデリングについては3回ほど講義を行ったが、学生の理解は少し低いようだった。

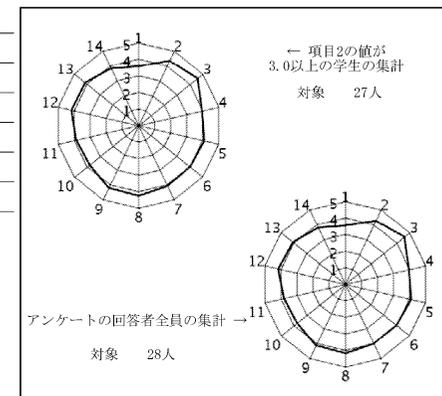
(2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての総合的な自己点検・評価

授業評価は各設問10で4点台であった。授業中にアンケートに回答する時間を設けたり、Webの講義資料にもアンケートを回答するように記述したが、回答率は10数%であり、かなり低かった。授業の出席率も高くなかった。自由記述欄の良かった点では「講義内容と各週課題内容が一貫しており、勉強しやすかった」「具体的な例があり、分かりやすい。講義資料があり、見返しやすい」「資料が非常に丁寧で素晴らしいと思った。」「資料が理解しやすく、復習の際に役立った点。」、改善すべき点では「多相性などの、分かりにくいものについてもう少し丁寧にやったほうが良いと思った。どう記述すればなるのかはわかるが、論理的に説明するのは難しい。」などがあった。

(3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
データモデリングの講義内容について、回数を増やすなど、改善していく。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[S1]
授業コード 10C01-051
教員名 杉原 桂太
教員コード 101115
登録人数 35
回答数 28
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



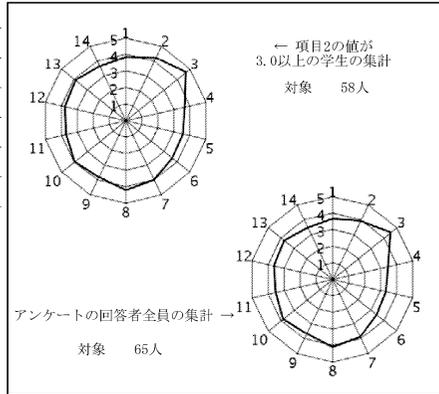
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、「アクティブラーニング」を採用し、「反転授業」を行うという共通方法が複数教員で行われた科目であった。そのため、そのような授業が問題なく展開し、受講者が情報倫理をより理解できるようになることが目標となった。項目(1-14)では4点台の評価も得られたが、以下の項目の評価は3点台であった。設問1(3.57)から、受講者はインターネット利用のルールや法について興味を持つ傾向がそれほど高くなかったことが分かる。項目4(3.96)より、下記項目16を踏まえる必要があることが分かる。項目6(3.96)から、目標を明示しその達成に近づいていることを実感してもらう必要があるといえる。項目10(3.75)から、受講者のコントロールを求める意見が見られることが分かった。項目11(3.82)より、学生が授業の内容についての情報提供を求めていることが分かる。項目14(3.79)から、受講者の満足度を高める方策を検討する必要があることが分かった。自由記述からは、設問15について、「発表が楽しい」、「グループワークでお互いの理解を深めることができたのでよかった」、などの評価がある一方で、項目16では、「他人のレポートの評価をする時間を増やして欲しいです」という記述があった。項目16については、授業実施時には授業の進行について好意的な反応が見られると認識していたが、同時に一方で、その場では声を上げることができない受講者が存在したことが分かった。

以上を踏まえ、諸所の改善点が必要であることが分かる。さらに、この科目では、「アクティブラーニング」、「反転授業」等を実施しているため、対面授業では、「アクティブラーニング」等について受講者の主体的・協力的姿勢をより引き出していく必要がある。次のクォーター以降のこの科目においても、「反転授業」等のこの科目の狙いがより効果的に実施できる授業を目指したい。学生による授業評価を含め、受講者からの指摘は、担当教員間でも共有したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 通信ネットワーク基礎1
授業コード 50A14-001
教員名 奥村 康行
教員コード 101219
登録人数 153
回答数 65
回答率 42.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

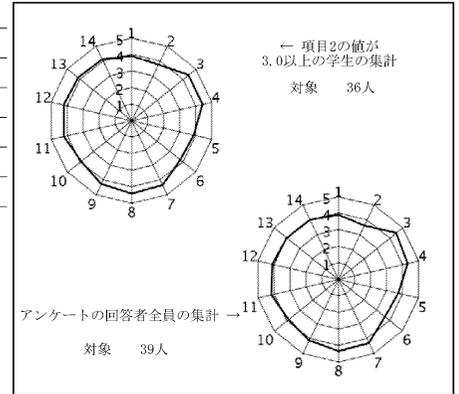


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定した授業目標： 通信システムの基礎知識を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2. 目標達成度： 期末試験結果より、約80%の受講者が目標を達成した。なお、定常的な出席率は80%であるので、講義に定常的に出席している学生のほとんどは目標を達成したものと考えている。
3. 担当科目についての授業評価： 評定値は学部科目平均と同等だった。自由記述のうち改善を希望された項目は、ホワイトボードの記述量が早く消すタイミングが早い(8)、進度が早い・わかりにくい(1)、私語をする学生がいた(2)、レポート提出締め切り時刻を誤って伝えた(1)、授業時間が長く集中力が続かない(1)、定期試験問題を教えてほしい(1)、であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として、演習の解説がわかりやすい(2)、講義のわかりやすさ(4)、講義全体の流れが理解できた(1)などがあり、これらは今後も継続する。
4. 次年度の改善方針： 口頭説明だけでは不十分と考え、説明のたびにホワイトボードに書き足したためノートをとる量は多かったかもしれない。次年度は内容の重点化を図り、進行速度を調整する。私語をする学生については、その都度指導したつもりであるが、完全になくすことはできなかったと思う。レポート提出締め切り時刻の誤りについては、締め切り日前に訂正したので、問題はなかったと考える。また、授業時間が90分を超えたことはなかったはずである。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 機械電子制御工学基礎
授業コード 53A01-001
教員名 藤井 勝之
教員コード 101244
登録人数 146
回答数 39
回答率 26.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

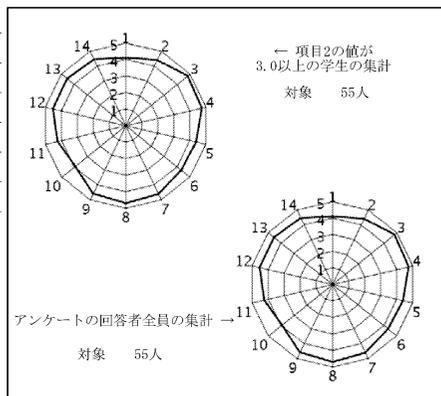
本講義では回路理論と電磁気学の基礎を修得させる事に主眼を置いて毎回臨んだ。何事も基礎は重要であることは言うまでもないが、興味を抱く前の初学者にとっては地味で退屈な訓練になりかねない。そこで、学んでいる内容が社会にどのように活かされているか、抽象と具象を常に意識して講義を行った。電気は目に見えないためイメージを掴みやすいように映像を見せたり、実験器具を受講者に手にとってもらったり工夫をした。いずれは名古屋大学の古橋武先生のように座学と電気・電子回路の製作演習から構成される魅力的な講義にしていきたいと考えている。（“電気工学通論をおもしろくする講義と製作演習—ブレッドボードによる電気・電子回路の製作演習—”，平成21年度工学・工業教育研究講演会講演論文集pp.364-365.）次年度へ向けての反省点としては、理解度を上げるためにペースを落として講義したため、三相交流を教える事ができなかった事を挙げたい。

自由記述欄

動画等を用いてわかりやすく解説していたこと（同様4件）、時間が守られていた。実験材料を手で触れるところ（同様2件）、現象のイメージが付きやすかった。2冊目のテキストの使い方が曖昧。ホワイトボードの板書がちよっと見にくい（同様2件）→前の方の席は沢山空いているので見えづらかったら移動して構わないと指導している。難しかった。空調もちょうどいい温度で設定されていた（同様1件）。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数値解析[S]
授業コード	53B03-001
教員名	杉浦 洋
教員コード	100769
登録人数	249
回答数	55
回答率	22.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・開講当初に設定した授業目標

数値計算法の基礎に関する授業である。一回一回の授業でしっかり理解を積み重ねてゆかないと、全く分からなくなる。授業前に、毎回授業の内容をまとめたプリントを配布する。講義の後に必ず演習を設ける。演習では、目標と技法をはっきり述べ、具体的な例題を多く取り上げる。また、中間試験を行い、習熟を促す。

・実践状況（目標達成度）

最終回を除き、毎回演習課題を与えレポートを提出させた。レポートは返却せず、その代わりに次回の授業の冒頭で解答を詳しく説明した。この方式は、おおむね好評であった。また私にとっても、毎回講義の理解度が分かり、次の講義にそれをすぐ反映できて有意義であった。

線形計算の感度解析の内容までで中間試験を行った。

・授業評価

250人授業になってしまった。しかし、アンケートによれば、授業に対する評価は低くなかった。しかし、受講生の理解度(19, 20)の平均値がやや低いの気がした。授業の内容や目標は、授業を最後まで聞いて定期試験を受けてようやく分かるのが普通である。しかし、もう少し自信を持って答えても良いと思う。

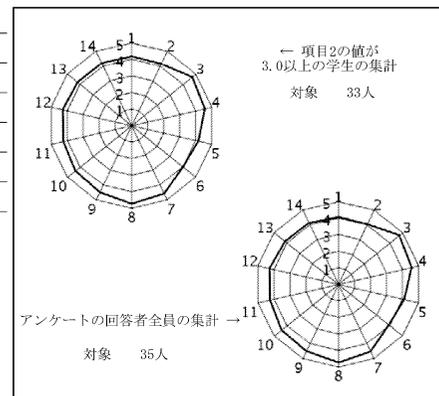
冷房が効きすぎて寒かった、という苦情があった。講義中の教員は寒さを感じないので、「寒い」と言って下さい。

・改善点抱負方針

これからも、要点を絞り込んだ解説とレイアウトに配慮した板書、充実した演習、適切な資料の配布に努めてゆきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	機械工学基礎
授業コード	53B06-001
教員名	中島 明
教員コード	103140
登録人数	103
回答数	35
回答率	34.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



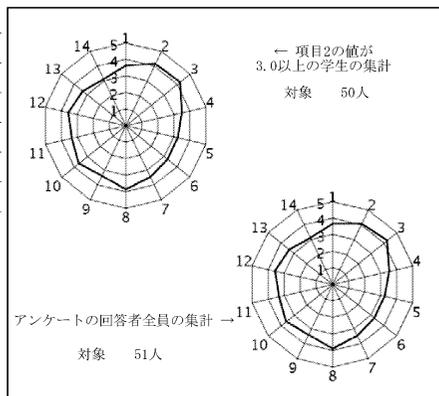
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年から本講義を担当することになり、前年度までの内容から大幅な変更を行った。これまではいわゆる機械四力（機械力学、材料力学、流体力学、熱力学）をオムニバスの網羅していた。しかしながら、本来これらはそれぞれが15回授業による学習を必要とするものである。また、理工学部では、それぞれの科目を学ぶために必要となる基礎科目（力学、線形代数、ベクトル解析、統計、など）の学習が絶対的に足りていない（該当する科目の授業内容が不十分、そもそも該当する授業がそんざいしない、など）。以上から、理工学部で学習が可能な内容として、機械力学（振動工学）に的を絞ることとした。まず、理解に必要な前提知識として、線形代数、微分方程式、力学について復習（+習っていない内容の補足）する回を設けた。それらを習熟した上で、振動工学の内容として、1自由度非減衰系の自由振動、1自由度減衰系の自由振動、1自由度減衰系の強制振動、2自由度非減衰系の自由振動を取り扱い、最低限必要な基礎的知識を身につけることを意識した構成とした。

学生アンケートの結果としては、各項目概ね良い評価を頂けたことは素直に嬉しく思う。また、自由回答においても、良い点、改善点いずれも建設的な意見があり、今後の授業改善につながるものと思われる。複数指摘を頂いた内容として、演習時間の希望があった。当初は演習を予定していたが、初年度ということもあり演習を準備する時間がとれず、復習と新規内容のいずれについても知識先行な授業となったことは反省したい。ただ、授業時間内に演習を設けることは講義時間を削るため難しい。演習を課題として設け提出してもらい、次の講義のときに解説を行うことなどが考えられる。しかしながら、学生というのは現金というか実利主義というか、別の授業でこの形態をとったところ、課題が最終的な評価（単位）につながらないため、ほとんど提出がなく、次の授業での解説をひな鳥の如く与えられるのを待つという体たらくであった。実施形態については改善の余地が大いにある。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データベース[S]
授業コード	53B09-001
教員名	河野 浩之
教員コード	048595
登録人数	223
回答数	51
回答率	22.9%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

シラバスにそって授業を進めており、授業目標は到達している。ここ数年、合格率が低下傾向にあるが、クォーター制により2Qで選択できる科目が少なくなっているため、レポート未提出、白紙回答も増えている。定期試験実施中にレポート提出期間の延長を告知した（かつ、教務課による掲示も行った）が、未提出者からの提出が増えることはなかった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

授業資料を提供しているWebclassからPORTAへのリンクを提供しているが、今回も回答率が低い結果となった（20%強）。
なお、自由記述からは、毎回の授業時に行っている予復習を兼ねたアンケート、スライド資料を電子的配布にしたことが評価されていると思われる。昨年度以前は、数週おきの紙媒体による小テスト、紙媒体によるスライド資料配布を行っていたが、自由記述のコメントを参考し、実施形態、配布形態を変更した。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

来学期以降は、2Qに他の選択可能な科目が増え、今年度までのように、ほぼ理工学部学生全員が登録した状況が改善される可能性がある。受講意欲の高い学生の受講を期待している。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	機械電子制御工学実習
授業コード	77375-001
教員名	陳 幹
教員コード	100770
登録人数	6
回答数	1
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	4 回

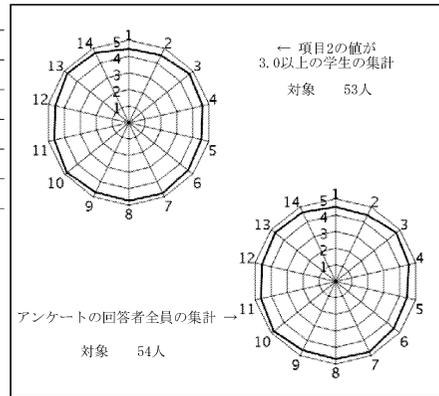
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標（実験12回）には到達できなかった。予定したペースで実験を進めることができなかったため、用意した実験12のうち、9しかできなかった。
2. 実験を円滑にすすめるために、毎回の実験開始前に、実験準備となるプレレポートを提出させたが、受講生の準備状況が、講義概要の【授業時間外の学習】に明記されているレベルに到達しておらず、プレレポートがほとんどできていなかった。内容を理解することなく、他の受講生のプレレポートやwebなどから安易にコピーしたプレレポートを提出していた学生もいたようである。それらの学生は、実験作業に対する無理解から、講義時間中に実験を開始できないことが多かった。ほぼ毎回9pmあたりまで延長を対応したが、これ（学生が十分に準備をしていなくても、最終的にできるまで待ってもらえる）が学生を増長させたようである。このため、回を重ねるたびにプレレポートの質が下がる学生がいた。安易な方向に「学生を救う」ような真似はすべきでなかった。
3. この実習で行う実験は「レポート課題などに形式的に解答すれば、本質的に理解していなくてもA+をもらえる」ことに慣れた学生には荷が重い。次年度は、1,2年次に本質的な努力を重ね、基礎科目の内容を本質的な意味で理解している学生でないと、実験はできないということを丁寧に説明する。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育・文化における人間の尊厳3
授業コード 10D07-003
教員名 VOLPE, Angelina
教員コード 000167
登録人数 102
回答数 54
回答率 52.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

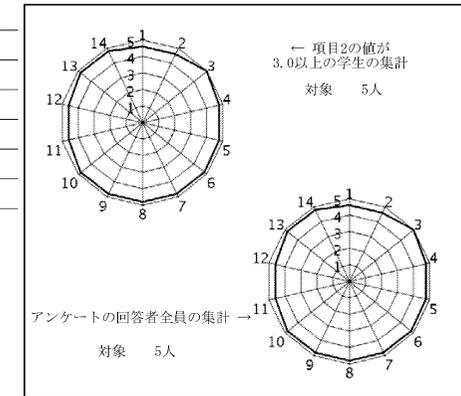
教育・文化における人間の尊厳3の目標（1. 溢れる情報の中で真偽を見分ける観察力と判断力を育てる。2. グローバリゼーションの真の意味を理解している。3. 様々な「争い」の原因を分析し、かけがえのない「平和」という価値観に関して考察を深めている）は到達されたと言えます。

1. に関しては、学生のほとんどが大事なことを理解しました。それはSNSまたはフェイスブック等のソーシャルメディアだけでは世の中の情勢、またその情報を得られないことです。つまり、溢れるほどの情報を見極め、他者を守るために命をかけるジャーナリストによる報告を優先し、ヘイトスピーチのような非人間的な情報を拒み、真実を追求する必要性を理解しました。
2. に関しては、真のグローバリゼーションとは、先進国の贅沢さのためではなく、より平等な世の中を建設するための道具であることを理解しました。
3. に関しては、戦争は国内・国際問題をこれまでに一度も解決したことはなく、むしろ人間、文化、環境、そして未来を破壊する悲劇であることを理解しました。

学生は大きく成長したと思います。自分のためだけではなく、同じ人間である他者にとっても良い未来の建設は自分にかかっている責任だと理解しました。最終レポートによる学生の研究レベルは非常に高く、その内容はすばらしかった。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民族問題と人間の尊厳3
授業コード 10D08-003
教員名 吉田 早悠里
教員コード 103066
登録人数 7
回答数 5
回答率 71.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は、民族問題に関する基礎的な知識を習得するとともに、自らが暮らす日本における民族問題を自分自身の問題として考える洞察力を身につけることである。

まず、民族問題を考えるうえで前提となる、民族や人種、国民、エスニック集団の概念を押さえた後、アイヌ、琉球、滞日・在日外国人、日系、同和問題というテーマを取り上げて授業を進めた。毎回の授業では、レジュメを配布するとともに、授業内容に関連する映像資料を用いて学生の理解が深まるように心がけた。

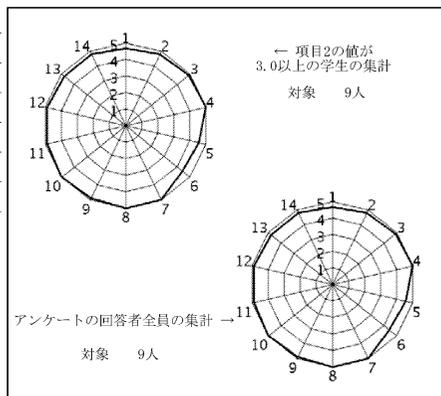
今年度の授業では授業内でのディスカッションをメインとしたアクティブラーニング形式を採用した。アクティブラーニング形式に不慣れな学生が敬遠したのか、履修生が少なかったが、結果としてアットホームかつカジュアルな雰囲気、学生たちが積極的にお互いに発言し合い、意見を共有しながら学びを深める授業をすることができた。学生の評価の平均値は設問(3)～(14)では

4.78(2017年度4.60)、(1)～(14)では4.76(2017年度4.41)であり、昨年度と比べて全体的に評価が上がった。自由記述回答では、「少人数でゼミ形式で受けられる授業はほんとに理解が深まりました」との回答を得ており、学生にとっても有意義な授業であったといえる。

次年度もアクティブラーニング形式の授業を行い、学生が自分自身の問題として人間の尊厳について具体的に考えて理解することができるように工夫を凝らし、さらなる向上に努めたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G1]
授業コード	11A02-032
教員名	DEACON, Bradley
教員コード	046920
登録人数	12
回答数	9
回答率	75.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

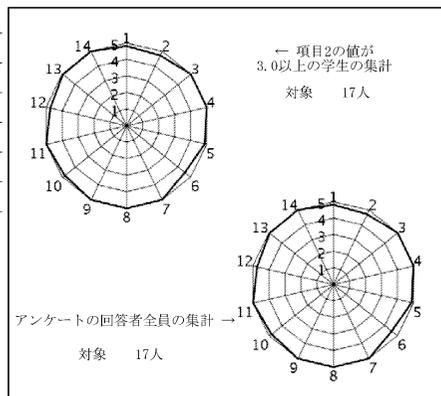
In general, the goals of the course are to facilitate the developments of students' oral and aural English abilities. Various activities are given to challenge students to develop both their spoken and listening fluency and accuracy. In addition, students develop strategies to help them to learn more effectively. Students also are encouraged to build rapport with one another for an effective classroom community.

From the data, it is clear that students found this course to be both informative and interesting. All areas were favorably evaluated and the comments demonstrated that students appreciated the opportunities that were given to them to develop their spoken and listening abilities in English.

This course was for the advanced level students in our Oral Communication program. These students typically demonstrate a high ability in English and need to be challenged as such. I will continue to find engaging and useful activities to push these students in the future. In addition, I will continue to offer guidance and support for their individual goals that these students express as English learners.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G15]
授業コード	11A02-036
教員名	MILES, Richard
教員コード	101363
登録人数	19
回答数	17
回答率	89.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

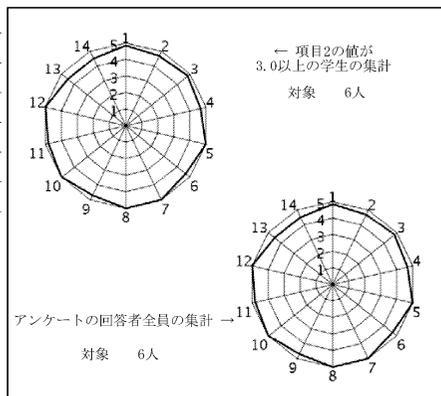
1. Overall, I am very satisfied with the evaluations and with how the course went. This was the first time to teach this course, so there was a certain degree of trial and error involved in teaching it. The students were very positive overall in terms of their comments and the scores they gave the course. The course was designed specifically to help students become more independent speakers, so that they can work autonomously when they have to discuss more academic subjects later in their studies at Nanzan and during their studies abroad next year. Students answered with a perfect score of 5.00 to question #14, indicating they felt they had achieved a lot and had improved their speaking and listening skills.

2. The written comments from the students were positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the classroom and the interaction between the teacher and students. Responses to question #4 indicate that the course had been taught at an appropriate level and pace for the students. This was especially pleasing, as there was a wide range, in terms of the students' abilities and English level. The students struggled early on with listening, so it was pleasing to see how many of them wrote positively about getting used to listening to my spoken English.

3. For next year, I intend to continue to concentrate on teaching oral communication skills, but to also try and find a more suitable textbook to use.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語I<G>
授業コード	11L01-002
教員名	北村 雅則
教員コード	100212
登録人数	6
回答数	6
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、「1. 日本に関係する短めの文章を読み、当該分野の理解に必要な中上級レベルの語彙を理解できる」、「2. 読解した文章に使用されている文法表現を理解できる」、「3. 読解した文章の内容を要約できる」、「4. 書き言葉のスタイルを理解し、適切な文章構成・語彙・文法を用いた小レポートを作成できる」、「5. 授業に参加する上で必要な表現を自然に使用できる」、「6. 日本に関わる様々な話題に対する調査、考察の結果をプレゼンテーションできる」の6点を到達目標としたが、受講生は概ね達成してくれたと考える。この達成度の高さは評価の数値がおしなべて高かったことと関連していると思われる。この授業は6名と少ない受講生であるが、日本語力に関しては中級から上級までの混合クラスである。しかし、受講生の意識は一様に高く、共通の教科書、授業資料を用いても、それぞれのレベルに合わせたアウトプット（発言、レポート）をしていた。また、授業内外で自分の日本語力を向上させようとする努力にあふれており、授業に臨む姿勢の高さは目を見張るものがあった。したがって、教員から授業を提供したというよりは受講生といっしょに作り上げた側面が強く、こうしたことが授業の満足度につながったのだろう。次のクォーターに向けても、受講生の日本語力向上のために、いっしょに授業を作り上げるという方針の掲げ、より一層充実した授業となるよう準備したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society D<国際科目群>1
授業コード	31C04-901
教員名	YARDLEY, Gabriel
教員コード	016998
登録人数	21
回答数	3
回答率	14.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

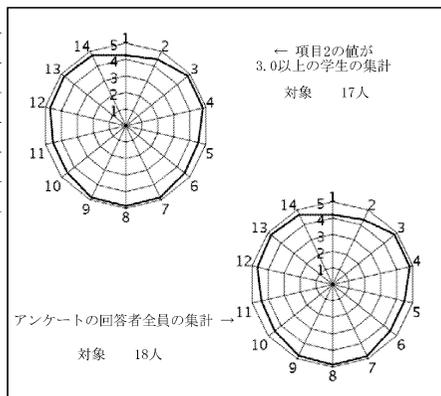
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

As in the previous year, most students did not take the online survey, despite being reminded to do so during the final two weeks of class. According to the data, the few students that did fill out the survey appeared to find the course motivating and of interest, and mirrors responses by all students to a fuller survey given as part of a final assignment. There appeared to be general satisfaction with the course in terms of adherence to the syllabus, knowledge acquired and updated materials and teaching methods used. The objectives for this subject as presented in the course outline were met in full. Students appeared to be satisfied with the assignments required of them and with the course methodology. In regard to anonymous comments and suggestions obtained from the additional survey, the instructor will again try to provide a satisfactory learning experience in Quarter 3, and will try to ensure that any online survey required is completed by the final class.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランスの外交
授業コード	33263-001
教員名	MUNSI, Roger Vanzila
教員コード	101925
登録人数	43
回答数	18
回答率	41.9%
休講回数	2回
補講回数	2回

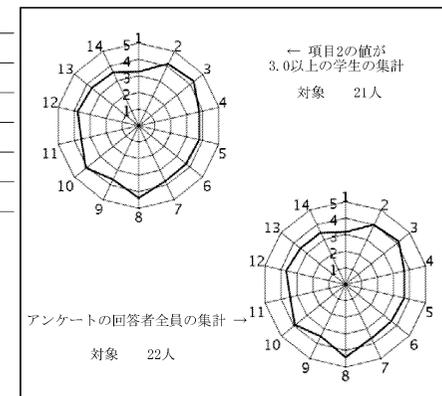


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course focused on French Diplomacy over the world with a particular emphasis put upon its political, economic, military and linguistic/cultural strategies within African countries. It was intended to have the students reflect on the French diplomatic approaches related to Franç africque, Eurafrique, Francophonie, etc. in its former and non former colonies. I particularly noticed that students were devoted to learn more about the critical diplomacy issues. Their feedback is candid. Some of their comments do reflect their reflection papers and questions in the class, but they generally focused upon how the class procedures have influenced them. Their evaluation assignment provides me with some interesting insights into students' thinking and reaction to my cooperative learning approaches. Not all the responses are positive, but this reflects the honest and personal nature of my relationship with the students that comes from my using cooperative learning techniques throughout the Quarter 2. To me developing this relationship with my students is as important if not more so than simply making sure students have covered the course content. I was happy to realize that most students comments are positive about the course and my techniques and I see this as a testimonial to the nature of cooperative learning which allows me to express myself and show the students my human and academic side. I will take into consideration all important remarks and shortcomings in order to make changes needed to help insure students' success in future course during Quarter 2.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ICTリテラシー1
授業コード	48A02-001
教員名	後藤 邦夫
教員コード	016428
登録人数	38
回答数	22
回答率	57.9%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

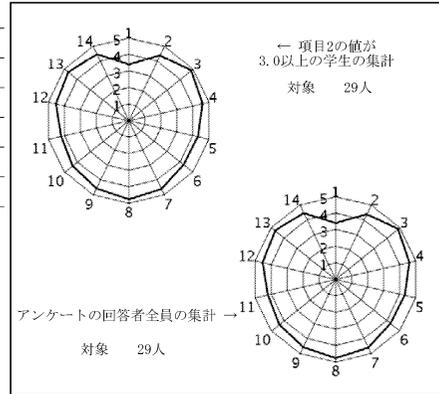
当初の目標は、受講者がシラバス記載の到達目標を達成して良い成績評価を得ること、昨年度悲惨だった授業評価のスコアをスコアを上げることの2点である。2名以外はすべてA以上の評価で1つめの目標は十分達成できた。スコアは平均は3.7(1から14)、3.72(3から14)と向上したが、まだ改善の余地は大きい。回答数は、PCを使う授業で十分時間をとったにも関わらず、当日出席者34名中22名と少ない。

平均値が低い設問は興味(1: 3.14)、理解度と教材(9: 3.5)、学習意欲(11: 3.45)、新しい知識(13: 3.5)、全体満足度(14: 3.5)である。予習復習は4.0で受講者は真面目に取り組んだと思われる。自由記述からは男子1名にひどく嫌われたようである。一方で態度が悪い学生が多い、厳しく対処せよという意見があった。他にはランダムなグループ分けでたまたま不真面目な学生が複数いてグループ課題の負担が自分に集中したという不満があった。

内容を厳選して、宿題を減らしたことはよかったが、表計算は初歩的なことしか教えられなかった。次年度は他の担当教員と相談の上、内容を受講者の水準に合わせて修正する。今年度は皮肉と受け取られそうな表現を避け、終始にこやかに話したところ、一部の態度の悪い学生になめられたので、そういった行為には厳しく対処することにする。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ICTリテラシー3
授業コード 48A02-003
教員名 吉田 敦
教員コード 101920
登録人数 36
回答数 29
回答率 80.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

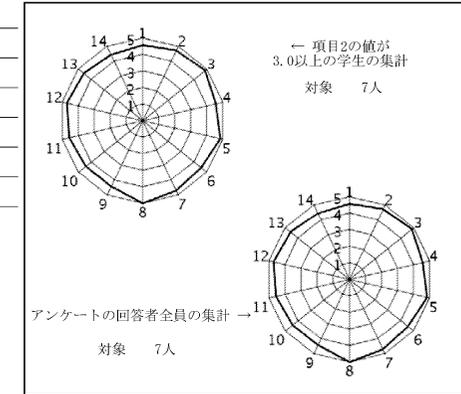


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は3年目であるが、これまでの2年間の経験から、講義資料を大幅に修正をした。Office の使い方については、学生の集中力が保てるよう、本質的な考えを理解する課題とそれに関わる機能のみに絞り、細かな機能は教えないようにした。ただし、レポート作成や発表を行うグループ課題を用意したことで、細かな機能についてはその課題を行う中で相互に教え合うことができ、自然と身につけていった。Office の使い方を学ぶ課題では、Word や PowerPoint では「スタイル」の概念を、また、Excel については「表計算」が理解できるものに絞った。特に、昨年度までは Excel は鬼門であり、どの参考書も「表」を作ることが中心の退屈な内容であったので、学生からは不評であった。今年は、計算式を書く意味がわかるように常に値が変化する乱数を用いた課題や、具体的なデータから意味のある分析を行う課題を独自に用意した。講義中は、課題を進めながら、わからなくなった学生をフォローしているが、昨年度と比べ、フォローが必要な学生が少なかったことから、理解しやすい内容になったと考えられる。また、フォローするために授業が止まる回数が減ったことで、授業の進行もスムーズになり、その結果として、学生の満足度も高めになっていると考えられる。来年度は、基本的には今年度の内容で進め、学生の理解が悪かった箇所を洗練するようにしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English III
授業コード 48A06-001
教員名 松永 隆
教員コード 015081
登録人数 12
回答数 7
回答率 58.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は講義および演習の形式で行なわれる。GLS Englishは、英語の4技能の能力を駆使して大学の日常の活動を行い、国際教養学部のコンテンツ科目を英語で学ぶ力を養う。また、海外留学においても十分に機能できる能力を養う。「GLS English I」の学習に引き続き、IIではさらなる実践能力を養い、英語で行われるEMI学科科目、および、海外留学に対応できるアカデミック学習スキルを学ぶ。また、TOEFL、IELTSなどの語学試験の対策も行う。

目標達成度

Active Learning をしっかりと実施することができ、目標は十分なレベルまで達成できたと思われる。

高く評価できる点

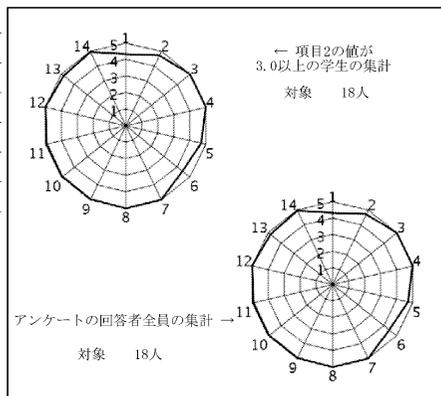
授業全体、授業運営、全体的評価に関してはすべて4.5ポイント以上平均値があり、まずまず満足のいく結果になったと思われる。「プレゼンテーションを通して、様々な背景知識を得ることができた」、「教員のレクチャーがとてもすばらしかった」などのコメントがあった。今後もこのような手法は継続し、さらに新たな試みも導入していきたい。

改善点

Active learningの活動をもっと多様なものにしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English II2
授業コード	48A06-002
教員名	鹿野 緑
教員コード	101092
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	3 回
補講回数	3 回

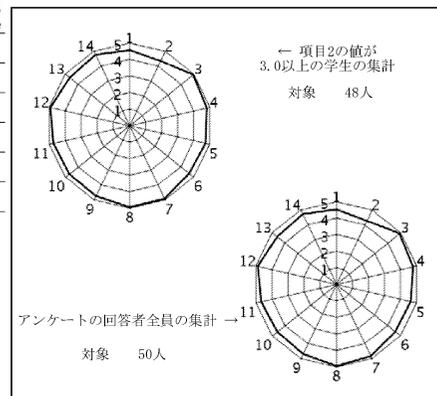


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 主なねらいは「学科のコンテンツ科目を英語で学ぶ力(特に読む力)を養う」「海外留学において機能できる能力を養う」である。具体的には、アカデミックな文脈での英文理解、専門分野の 이슈を英語でクリティカルに考える、意見の論理的構築などを目標とした。特にアカデミックな英文理解とそれを支えるサブスキル(方略、ノートテキング)はかなり伸びた。また、論文の図やグラフを英文で解釈・表現するなど強調したが、多くの学生が達成できた。意見構築においては概ね達成できたが、あと3割ほどは、今後の学問の深化とともに成長すると思われる。
- ② アンケートの項目1~14平均が4.85、項目3~14平均が4.90と、一定の成果は得られたと考える。設問1の「授業前にこの科目に興味があったか」は4.33と低かったのだが、GLS EnglishはIからIVまで異なる教員が引き継ぐ形式だが、次の授業への橋渡しや影響も考慮しなければならないと実感した。自由記述には、明確な指示・説明とサポート、授業へ一人ひとりが参加している実感、コンテンツ(ジェンダー)への興味深化などを指摘するコメントがあった。
- ③ 受講生のハードワークと積極参加に助けられ、授業運営が非常にスムーズであった。さらに次のステップとして「英語で抽象的な概念を捉える」など、第二言語で学問を深める段階の工夫が必要であろう。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステナビリティとエネルギー問題 / Sustainability and Energy Issue
授業コード	48G05-001
教員名	籠橋 一輝
教員コード	102569
登録人数	126
回答数	50
回答率	39.7%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
開講時に設定した目標は、(1)化石燃料に依存した経済システムの問題点を理解している、(2)再生可能エネルギーの内容について、具体的に説明することができる、(3)サステナビリティの観点から、今後のエネルギー政策のあり方について、自分の意見を説得的に述べるができる、の3点であった。(1)、(2)については授業の中で石油や原子力、再生可能エネルギーに関するトピックを重点的に取り上げ、最新の知見を提供することにより、目標は概ね達成された。(3)についても、ディスカッションの時間を取り入れるなどして、学生に主体的に考えさせる機会を設けたことで、概ね目標は達成されたものと考えられる。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
最もポイントが低かったのは項目2で平均値は4.26であった。復習に関してはWebClassを通じて資料を自由に閲覧できるようにしていたので、次年度は予習のポイントなども示し、学生の学習に対する動機づけを改善していきたい。自由記述の回答からは、多くの学生から授業の内容や進め方(パワーポイントの作り方、ディスカッションの回を取り入れる等)に関して肯定的な意見が寄せられた。今回の結果を踏まえ、次年度も同様の方法で授業を進めたいと思う。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
多くの学生からはポジティブな反応をもらったので、基本的な路線を踏襲しつつ、より学生の意欲を引き出すような授業を行っていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Sustainability Studies B(Environment and Development)
授業コード	48G08-901
教員名	神崎 宣次
教員コード	103280
登録人数	24
回答数	2
回答率	8.3%
休講回数	2 回
補講回数	1 回

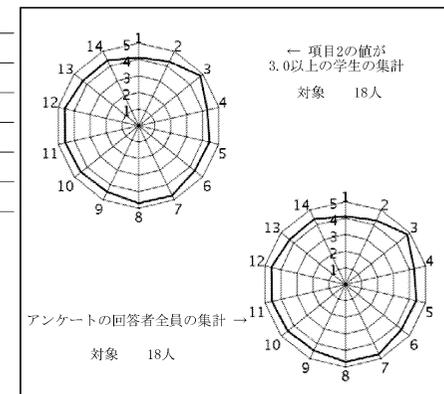
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
重要な論文や報告書の原典に当たってその内容を深く理解した上で、サマライズする能力を身につける訓練を行うという目標については、おおよそ達成できたと考える。報告を聞いた上でその内容についてディスカッションを行うという目標については、達成度が十分ではなかったと考える。
- 2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
週二回授業ということを考えると、読んで来なければならない資料の分量や内容のレベルが、学生にとって負担が大きすぎたかもしれない。
- 3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
上で述べた理由から、各回にアサインする資料の再検討は必須と考える。一人当たり20分の報告時間も長すぎたかもしれないので、この点についても再検討が必要と考える。これらの改善によって負担を多少軽減させるとともに、シラバスの内容を修正して、受講にはある程度の負担が要求される授業であることも明示するようにしたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[G]6
授業コード	11A06-037
教員名	中田 晶子
教員コード	055624
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

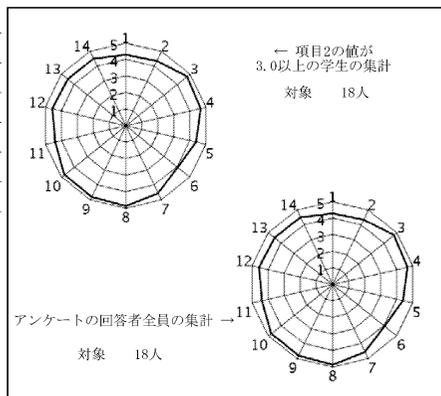


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業は必修の英語科目でQ1に実施された「英語IIリテラシー」に引き続き、readingとwritingの力をつけることを目的としている。
- 短期大学部英語科開講科目の受講生数が少ないため、昨年度の第2クォーターでも同一科目で評価を受けている。数値比較では、項目1から14の平均で0.13、項目3から14の平均で0.11、今年度が下回った。学部の平均との比較では、両項目とも全く同じ数値であった。
- 昨年度同様にwritingにより時間を割き、エッセイ課題はすべて添削の上返却し、書式に大きな問題のある場合には再提出を求めた。期末レポートを読むと、この授業で目標としたacademic writingの基礎は学習できたようである。
- 二種類あるTOEFLのwritingのうち、Independent Writingは数回練習を積むことができ、各自要領がわかったようであるが、リスニングとセットになることでより難度の高いIntegrated Writingは1回しかできず、どのような試験かを体験することで終わってしまった。
- 自由記述では、writingの説明がわかりやすいことをあげたものが多かった。
- readingの内容についてペアやグループで話し合ったことをクラスで発表する機会を増やしたことを評価したのもあった。その点での満足度は高かったようであるが、発表に時間を取られてTOEFLの準備が不十分になってしまった。次年度は時間配分を再考したい。
- 国際学会に出席するため2回の休講・補講をして学生には迷惑をかけたが、学習意欲が薄れることもなく、最後の補講にもほぼ全員が出席した。授業評価アンケートにも全員から回答があった。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[G]7
授業コード	11A06-038
教員名	丹羽 牧代
教員コード	055715
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

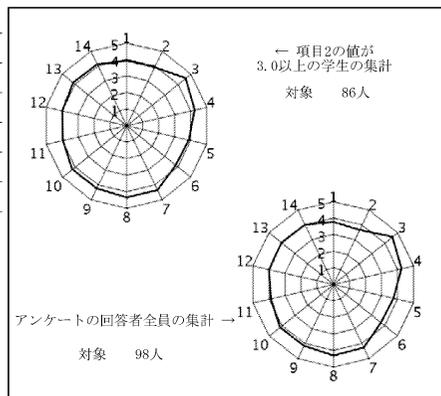


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 開講にあたっての目標は科目共通のものであり、Literacyにおける読解の精度をあげ、また英文エッセイの構造理解に基づいて何種類かの文を書き分けるというものであった。この目標の后者については最終的に提出された英文エッセイ（学生本人による最後の修正版）を見る限り、過去二年よりは達成度が高いように思われる。しかし前者の英文を読み込む力、すなわち表面的な理解だけにとどまらず分析的・批判的に読む力については、Qを通して行った様々な活動からはなかなか習熟の進捗が見られなかったようにも感じる。(2) 数値的には、学生本人の自己評価における「達成度」は決して低いとはいえないが、学生の学力に鑑みれば、想定されている達成レベルは決して難しくないの、むしろパーフェクトに達成したという数字がもっとあってもよいと思われる。英文として何かを表現する「型」は充分身に付いたものの、その基盤となる何を書くかというコンテンツ部分における批判的な考察を言語化する力がまだまだ弱いし、それを十分に自覚させ、延ばすための授業構成はまだまだ改良の余地があるということでもあろう。(3) このQでの同科目については、過去二年間の動向を踏まえてかなり改良してきたが、英文を書く「型」についてのわかりやすい教授についてはかなり良くなってきている手ごたえがある。そこで、もうひとつの課題である、受講者からどのように英文についての理解と考察を引き出してそれを英文表現につなげるかという点について、さらに工夫をしていくつもりである。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	憲法総論
授業コード	44A16-001
教員名	倉持 孝司
教員コード	045237
登録人数	312
回答数	98
回答率	31.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

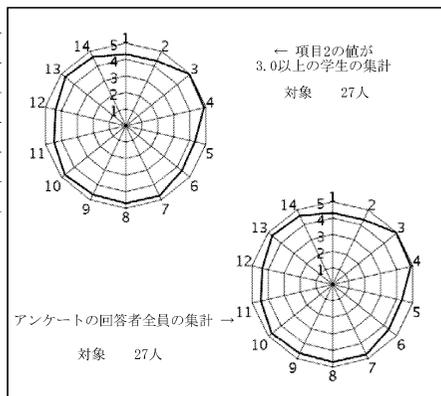


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義は、2019年度新設科目であり、従来、1年次配当の「憲法」授業で十分扱うことのできなかつた「基礎概念」、歴史、日本国憲法の基本原理などを取り出して、人権あるいは統治機構を扱う「憲法」授業を補完することを目的とする。到達目標は、1憲法の「基礎概念」が学べる、2憲法の歴史が学べる、3日本国憲法の基本原理が習得できるという3点であった。大学では、「憲法学」を学ぶのだということから、右1、2、3につき検討を行ったが、試験結果をみると、理解度は二極に分かれていた。②したがって、それが授業評価にも反映されていたようである。たとえば、説明がくどい（同じことを繰り返している）という評価もあったが、それは意識的に重要項目について角度・表現を変えて説明したことについての評価である。上記二極中の一極（約半数）については講義内容を大方把握できたといえよう。③「憲法学」としてみたと、本来、本講義で掲げた到達目標が1Q（8回）で達成されるとは思えない。それをQ毎に評価することにはいかなる意味があるのかは検討すべき課題であると思われる。したがって、Qに細分化された「憲法学」の検討対象の相互関連性に留意しつつ授業を展開する必要がある。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	少年法
授業コード	44B11-001
教員名	丸山 雅夫
教員コード	017517
登録人数	68
回答数	27
回答率	39.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

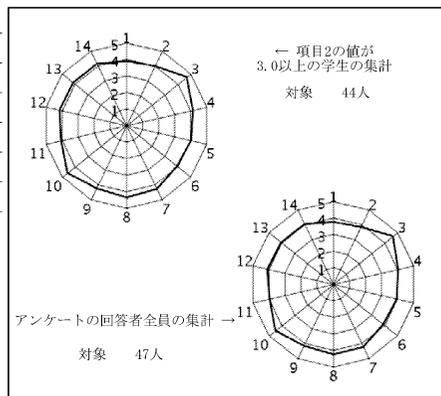


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目標は、成人犯罪に対する刑事的対応（刑法、刑事訴訟法）と質的に異なる非行少年に対する保護的対応について、両者の相違の根拠と内容、さらには少年法の歴史と具体的内容を理解してもらうことにあった。参加学生の評価を見る限りは、この目標は十分に達成できたものと考えている。このことは、特に、自由記述における「学生の視点からの授業展開であった」との指摘によく示されている。また、全体的評価も高く、予習・復習の4.33は、これまで3点台であったものが大きく改善されている。もっとも、回答者27人は、毎回の出席者とほぼ同数であることから、高い評価は当然の結果であるということもできる。他方、登録者が65人であることからすれば、毎回の出席者・解答者の数との乖離をどのように考えるかは、評価が分かれるところだと思われる。ただ、試験の採点結果（成績）とこれらの人数の分布は明らかに強く相関していることから、担当者としては、特に問題視すべきものとは考えていない。主体的に取り組む学生がよい成績を取れるのは当然である一方、主体的に取り組まない（授業にすら出席しない）者がよい成績になれないのも当然であり、いずれも「自己責任」と言わざるを得ないからである。担当者としては、シラバスをよく読んだうえで主体的に登録する学生だけを相手にすればよいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民事訴訟法B
授業コード	44B26-001
教員名	石田 秀博
教員コード	101939
登録人数	122
回答数	47
回答率	38.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

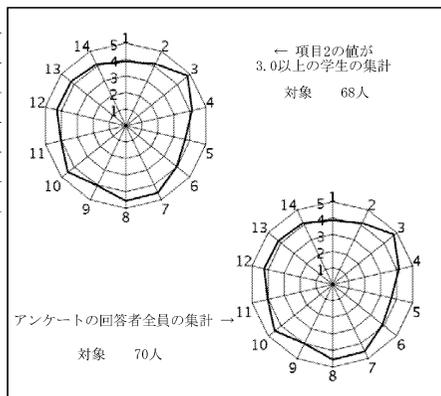
本講義の到達目標は、「①民事訴訟の基本的な流れを理解することができる。②民事訴訟法の基本構造や基本的理念を理解し、説明することができる。」であるが、項目1～14の平均値が4.11、項目3～14の平均値が4.16ということで、おおむね到達できたと考えている。

ただ、項目5、6、11の評価が3.98、3.89、3.98と相対的には低かった。この傾向は例年と同様で、民事訴訟法という科目の性質上、学生に如何に関心を持ち、主体的に取り組んでもらえるようにするか、より一層工夫を考えたい。現在でも、学習項目ごとに設例を用意して、事案に即した理解を目指しているが、そもそも、現代の民事裁判でどのような点が問題になっているのかについても、より分かりやすく説明していきたい。

自由記述の記載では、「設例が用意され理解を深めることができた」、「レジュメ・解説がわかりやすい」、「理解しやすい」という肯定的評価と並んで、改善点、指摘もあったのでコメントしておく。マイクの電源切れについては注意したい。私語をする学生への対応については、常に注意しているつもりであるが、今後も注意したい。「レジュメを読んでいるだけつまらない、レジュメもわかりづらい」という意見についても、今後留意したい。特に手続の説明においても具体的な説明を心掛けたい。最後に、「試験範囲を絞ってほしい」との意見があったが、講義の中で、設例、空欄補充、○×の各出題内容について、主題可能性の高い分野については指摘しており、講義に出れば出題範囲のポイントがわかるように心がけている。それを超えて、試験前に問題を示したりすることは今後も行うつもりはないので、いわゆる「楽単」科目ではないことを注意していただきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 担保法
授業コード 44B92-001
教員名 深川 裕佳
教員コード 104089
登録人数 125
回答数 70
回答率 56.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

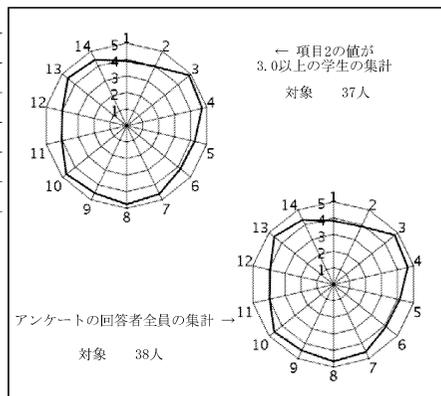
(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について：アンケートの回答を見る限りにおいて、確認問題および小テストの実施によって、受講生自身でこまめに到達度を確認することができたようです。確認問題および小テストの問題は、本授業のシラバスに示した本講義の目標に沿ったものとなっていますので、各自の学習に合わせて学習目標の修得が進んだものと思います。

(2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：ホワイトボードの文字が見つらいという意見が多かったので、授業内容への理解を深めるためには、板書を工夫する必要があるものと感じました。また、事例問題や設問の複雑なところが難しいという意見があり、担保法の事例問題を理解するにはほかの民法科目（特に債権法及び物権法）の知識が必要となるところが多いので、この点をもう少し補う必要があるものと感じました。

(3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針：上記(2)に示した問題点を改善するために、太いマーカーを使用したり、パワーポイントを使用したりして受講生が板書を見やすくなる工夫を検討したいと思います。また、事例問題の説明について、図示を増やしたり、補足を加えたりするなどの改善を加えたいと思います。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳9
授業コード 10D06-009
教員名 大塚 弥生
教員コード 000065
登録人数 43
回答数 38
回答率 88.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



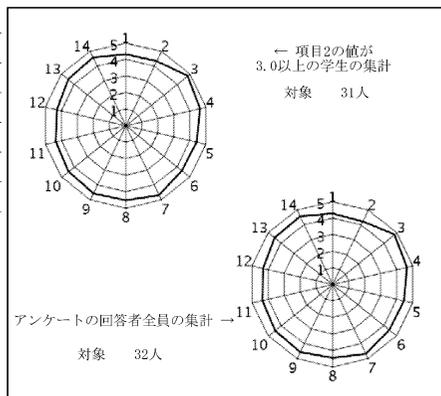
授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3から14の平均値が4.39であり、特に項目13（新しい知識の獲得と理解の深まり）の平均値が4.58であったことから、本講義の目標はほぼ達成できたものとする。本講義のテーマは、「児童虐待」「自殺」「高齢者介護」であり、多くの学生にとっては身近な問題ではなく、学ぶ必然性を感じにくいものである。そのため、学生にはこれらの問題を現状を知ってもらうために新聞報道やドキュメンタリーの映像など、資料を多く提示しているが、そのことによって「今自分が生きている社会の現状を知る事ができた。知らなかった事をたくさん知ることが出来た」等の反応を得ることができている。授業では毎回、授業を通して考えたことを記述する「ジャーナル」を書き、提出してもらっている。これらのジャーナルは内容をまとめ、次の授業時に配布をしているが、このことについても「ジャーナルを共有する時間が設けられていたので、自分とは違った視点の意見を聞くことができた」等、学生の考えを深めることに役立っていたと考える。

しかし一方で、少数ではあるが、受講生自身がこれらの問題の当事者となっている場合もある。自由記述の中に「当事者としては気分が悪い」という指摘があり、当事者を配慮しつつ現状を伝えていくことが、今後の課題と考える。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校教育心理学1
授業コード 15A05-001
教員名 宇田 光
教員コード 100494
登録人数 72
回答数 32
回答率 44.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



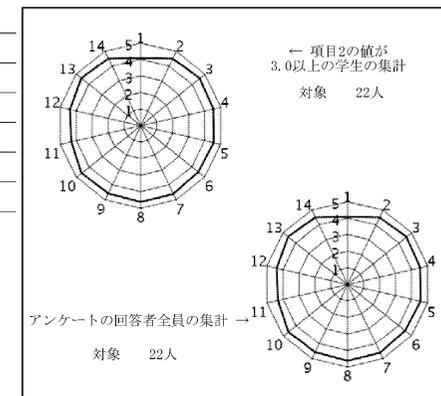
授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程の必修科目で、セメスター科目である。Q1では教室がやや狭く感じただため、Q2に入った時点で、M棟の一回り大きい部屋に変更した。主に3年生を対象としており、履修登録者数は72名、回答数は32名。BRD（当日ブリーフレポート方式）を多用した講義をしている。項目3から14の平均値は4.53、全体としての満足度を示す設問14の平均値は4.56となっていて、レーダーチャートでも大きな落ち込み部分はない。全体としては、まずまず満足であるという回答を得た。

個別の自由記述では（a）良かった点として「当日ブリーフレポートを用いたことで、授業の最初にその日に学ぶ内容を把握でき、その後の講義も関心をもって受けられたと感じる」「実習が多く眠くならなかった」「意見交換により理解を深めることができたこと」などがあつた。一方、（b）改善すべき点については、「教科書に記載されていない事項を取り扱うことが多かった」「第2クォーターで、M棟に教室がなった時から、先生の話す声が聞き取りにくく感じました」など。今後、改善していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 道徳教育指導論1
授業コード 15A07-001
教員名 笹尾 幸夫
教員コード 103858
登録人数 74
回答数 22
回答率 29.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

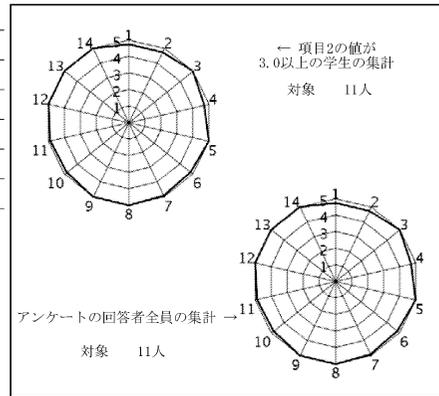


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講座は、新しい学習指導要領で「特別の教科」として取り入れられた「道徳」の目的、意義、指導法を理解させることをねらいとしているため、昨年度秋学期の講座から、学生の模擬授業を実施している。昨年の秋学期は受講者17名であったため、1班を4～5名とし4班で実施できたが、本講座の受講人数は74名のため、1班を6～7名とし12班で実施することにした。このため、授業計画を変更し、模擬授業を2回から3回に増やし、また、講義室をQ101教室に加えて、隣のQ102教室も使用した。模擬授業は2班同時に実施しなければならないが、2つの教室を往来して評価するとともに、学生による相互評価も参考とするなどの工夫をした。模擬授業は学生にとって概ね好評であり、また、模範授業のビデオを視聴させたり指導案を作成する練習をさせたりしたため、「実際教師になった時に使えそうだ」という意見もあつた。昨年4.08であった学生の評価（項目3から14の平均）が、本年は4.53とかなり上昇した。しかし、模擬授業を担当できる学生は1～2名に限られるため、指導案は班全員で考えさせるものの、授業担当者以外から不満の声もあつた。現状では物理的に難しいが、可能な限り1班の人数を減らし、少しでも多くの学生が模擬授業を担当できるように工夫していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校教育概論2
授業コード 15A18-002
教員名 五島 敦子
教員コード 101282
登録人数 27
回答数 11
回答率 40.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標の達成度・点検・評価

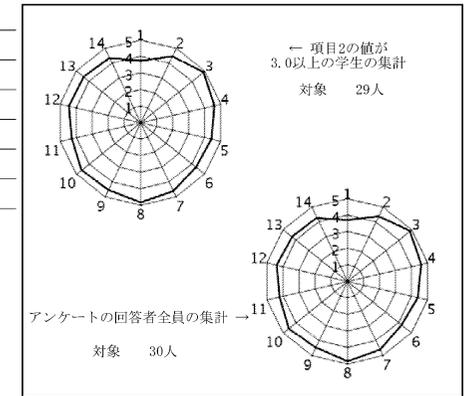
本科目は、教職課程における「教育の基礎に関する科目」のうち、「教育の理念並びに教育の歴史と思想」を理解し説明できることを目的としている。設問5、13、14の項目がいずれも平均値5.0であったことから、目標を十分に達成したと考えられる。また、設問8、9、12も平均値5.0であったことは、授業運営が機能的で、学生の理解度に十分に配慮して進められたことを示しているといえよう。自由記述では、良かった点として「リアクションペーパーに書いた要望をすぐに反映して取り入れてくれた」「視聴覚教材が多くて理解しやすかった」「グループワーク」「わかりやすく面白かった」「先生の熱意が伝わってきた」とあった。資格科目であるものの、やや難解な哲学的・歴史的内容が中心であるが、グループ・ディスカッションやパネル・ディスカッションを取り入れ、教師の立場になって教育問題に向き合う視点を重視したことがよい評価の要因と考えている。

2. 今後の改善点・抱負・方針

すべての評価が平均値4.7以上であることから、講義の内容や進め方については問題ないと考えられる。今後も、学生がアクティブに学べる工夫を重ねていきたい。ただし、自由記述の改善すべき点として「空調が途中で切れたときは付け直してほしい」「スライドを見せるときはもっと部屋を暗くしてほしい」という要望が挙げられていた。季節柄、気温の変化が激しかったこと、席によって空調の利き方が異なっていたこと、スクリーンの見え方が前席と後席で差が大きかったことなど、教室環境の問題が大きいが、今後は、逐次、学生の様子確かめながら講義をすすめたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[S]5
授業コード 10C01-055
教員名 栗原 寛明
教員コード 103522
登録人数 34
回答数 30
回答率 88.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



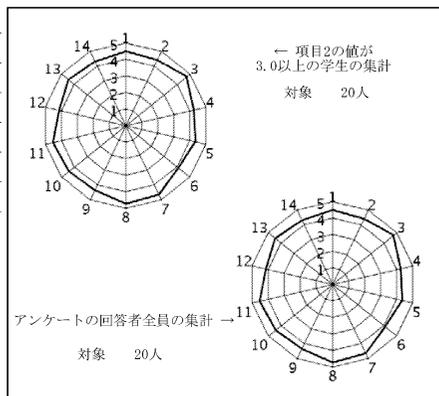
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、積極的に授業に取り組んだ受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなしてよい。特に、インターネットを用いた活動とプライバシーや著作権との関わりに対して理解を深められたと思われる。

授業はe-learningと対面授業の組み合わせであり、e-learningで学習した内容に関して対面授業でグループディスカッションや発表を行うことで理解を深めるようになっている。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、しっかり取り組んだ受講生は理解を深められたと思われる。ただし、e-learningにおいて教材の一部あるいは全部にアクセスした記録のない受講生が少なからず見受けられることは非常に残念である。教材は授業に参加する上での基礎となるものであるため、必ず読むあるいは視聴するようにしてほしい。対面授業については、授業の中心となるグループ活動に十分な時間を確保するように努めた結果、いずれのグループも十分にディスカッションや発表の準備を行うことができたと思われる。技術の進化や社会の変化などにより我々を取り巻く状況は刻々と移り変わるため、教材には含まれていない最新の話や出来事を継続的に取り上げていく必要がある。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[G
17
授業コード 11A02-038
教員名 KUMAI William N.
教員コード 000204
登録人数 20
回答数 20
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

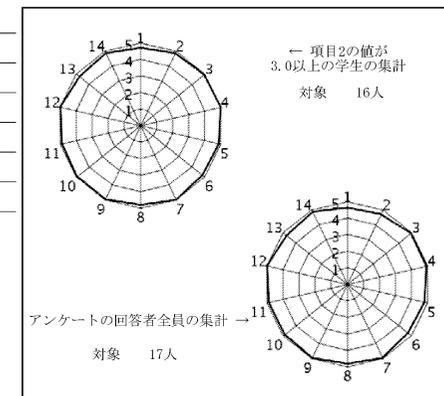


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The fundamental goal of the instruction targeted students forming a language community in which they are actively engaged in English communication. The underlying theoretical framework used was based on complexity theory whereby groups of students are treated as complex adaptive systems and conditions are established to facilitate the edge of chaos regime where the emergent behavior is L2 usage. Overall, this objective was achieved. However, as can be inferred from the comments, during the second quarter, students would lapse into Japanese to convey their thoughts when they could not easily generate the corresponding English. Accordingly, these students' evaluations were reduced. This fact could have been more clearly elucidated, but at the risk of interrupting the flow of the activities. Alternatively, students could be made to note down their Japanese usage and provide the English they should have used as homework, but such assignments would be seen as punishment and decrease motivation in the class. Next quarter will see a virtual repeat of the first quarter because pairs of classes are exchanging teachers, the major difference being a different textbook.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[P]1
授業コード 11A06-020
教員名 LOTT, Danielle
教員コード 103593
登録人数 18
回答数 17
回答率 94.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

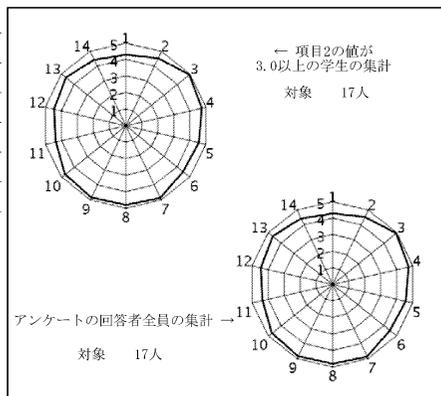


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) One goal was to develop students' literacy through exposure to authentic texts. For example, I had them use target literacy skills to assess the veracity of a famous person's tweets. I also wanted to create an atmosphere in which they would feel comfortable exchanging opinions with myself and each other. Finally, I wanted to provide more support for grammar and vocabulary, so I increased the frequency of feedback (correction of common grammar errors) and prepared a flashcard app for students to drill vocabulary. 2) Based on the numerical data and comments, I feel that from the students' point of view the course was a success. One student did report that they had not improved greatly (3, question 6) but the same student said that they did not do their best in the class (2, question 2). 3) For quarter 3 I'd like to help them write creatively. To that end I'll add short stories to their reading. I'll also have them try more extensive writing in their journals, and I'd like them to workshop their creative writing in groups. However, the students tend to get overwhelmed by new tasks, so I'll reduce other regular tasks (like book reports) and introduce any new ones gradually.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]2
授業コード 11A06-033
教員名 石崎 保明
教員コード 102444
登録人数 18
回答数 17
回答率 94.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



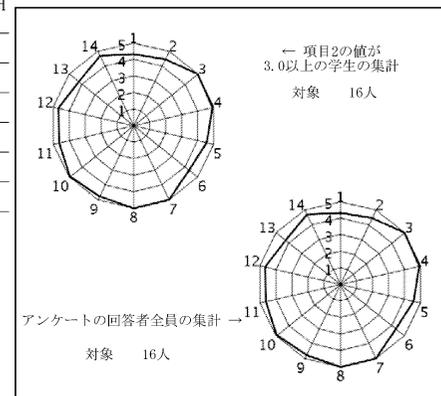
授業評価結果を踏まえた点検・評価

私が今回授業評価を受けた科目は、国際教養学科1年生に対する英語共通教育科目であり、同科目は昨年度同クォーターでも担当していました。その時の反省から、1回のライティング課題の分量を減らす代わりに課題の回数を増やすことにより、段階的にライティング能力の向上が実感できるような時間配分を計画しました。その結果、例えば導入部分の書き方については受講者のほぼ全員が効果的な書き方を理解し、パラグラフについても多くの学生がその構造を理解してエッセイが書けるようになったと思います。

今回の評価結果を昨年度同時期の同科目に対する評価を参考にみると、今回の結果は、設問9が0.05ポイント下がったことを除き、すべての項目で0.1-0.5ポイント程度、評価が改善されました。設問6と11については、複数の学生が3の評価をつけていますが、これらの項目は、前回のそれと比べると、それぞれ、0.47、0.22ポイント改善されており、十分とまでは言えないものの、試行錯誤の結果改善がみられている部分でもありと考えています。次のクォーターでは、エッセイの基本を学んだ受講生が、さらに説得力を伴う内容のエッセイを書くことができるよう、役立つ作文技術をわかりやすく伝えるのと同時に、受講生が英語によるコミュニケーションを取りやすい環境となるよう、クラス全体の雰囲気づくりにもより気を配っていきたくと考えています。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]1
授業コード 11A10-001
教員名 TAYLOR, Jamie
教員コード 104100
登録人数 17
回答数 16
回答率 94.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



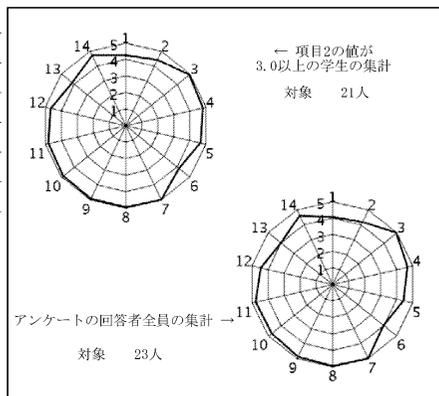
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This quarter we focused on: Asking follow-up questions for more detail; using conversation strategies; giving opinions and supporting them; giving a 3-5 minute presentation; maintaining conversations; summarizing 1-3 minute listening tasks; distinguishing fact from opinion, identifying main ideas and supporting details; making inferences; guessing the meaning of words; reading, understanding, and summarizing graded readers; reading an average of 4,000 words a week...

These goals were met fairly well by all students in this course; however, next term, I would like to focus on working in groups and carrying out group discussions; negotiating meaning in English; using a wider variety of conversation strategies; maintaining longer conversations without extensive preparation; understanding a wider variety of reading genres (such as emails and news articles), reading faster, and integrating knowledge from multiple sources (e.g., a newspaper article and a short video). In Q3 and Q4, we will focus on improving students' ability to communicate with less support and understanding a wider variety of listening and reading genres.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]2
授業コード 11A10-002
教員名 OTTOSON, Kevin
教員コード 103121
登録人数 23
回答数 23
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

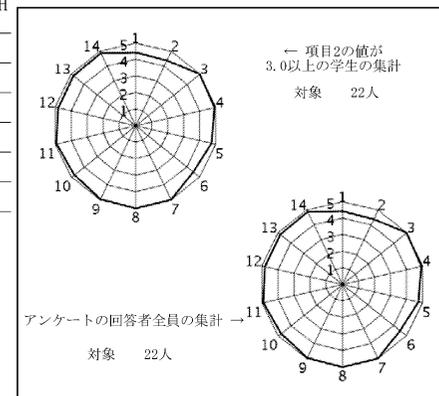


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) Based on many of the students' responses to a survey of class objectives, many of the students think that they are reaching or have reached the course objectives. We focused on the speaking and reading objectives, but I think we need to spend more time on listening objectives for this class. This level of the students in this class is quite higher than my class last year.
- 2) My lowest score was in terms of challenge of the class. (3.96) and (4.00). One or two students gave low ratings to these questions, so that brought the average down.
- 3) I know I need to provide more of a challenge for this class. I will bring in supplemental readings on the same topics to give more of a challenge to the students. I will also try to introduce more technical vocabulary related to the topics in this class. Furthermore, I will offer activities or suggestions for those who would like more a challenge and an opportunity to improve their English. I need to provide opportunities for more independent or autonomous learning in the class. I know that the level of this class needs to be increased, so I will work harder to add more of a challenge to the class.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]4
授業コード 11A10-004
教員名 FILER, Benjamin
教員コード 103850
登録人数 23
回答数 22
回答率 95.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

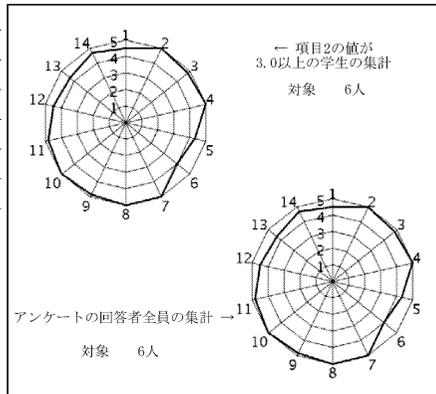
There are two main goals of this course. The first one is to provide opportunities for the students to communicate using English. The second goal is related to extensive reading and encouraging the students to read regularly at a level they feel comfortable with. I always made sure that each class had plenty of time allocated to speaking activities. The students in this class were initially quite shy, but after a few weeks of regular speaking activities in each class, they seemed to get used to it and started to enjoy it more. I was pleased to see that the students in this class completed book reports on time and maintained the expected amount of reading throughout Q1 and Q2.

I am happy to see the results and read the comments from the students. It gives me a sense of relief that they were seemingly satisfied with the course — sometimes it is hard to really know how students feel about your teaching without a questionnaire like this.

One change I made on this course from last year was bringing variety to the book reports. There are positive comments related to this in the feedback, therefore, I will continue thinking of new ways to update the class with each coming quarter.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]9
授業コード 11A10-009
教員名 HOWREY, John
教員コード 100371
登録人数 23
回答数 6
回答率 26.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is designed to improve students' overall English ability, particularly speaking, listening and reading skills.

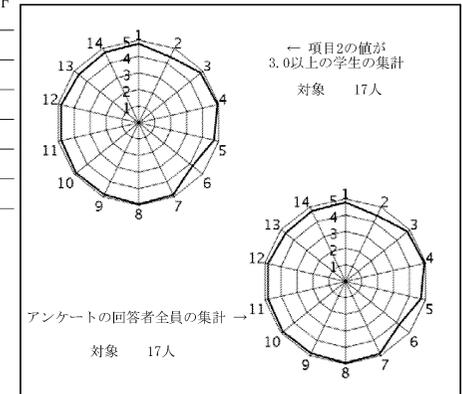
Unfortunately, I ran out of time for students to complete the survey in class, so the student response was quite low. Only six students responded to the survey. In the future I will not assign this as homework and I will do as the instructions specify and do this during class time.

Overall I was pleased with the results of the questionnaire. The scores were high in each category, though scores were lower for their understanding of the overall course goals than I would have liked. I suspect this is because of the low student response rate. There were two student comments. One said that the class was comfortable and that the instructions were clear even for those students who are not strong or confident in English. Another comment said the class was fun because it was easy to understand.

I have no plans to change the course in Q3 or Q4 except to remind students of the overall goals and to ensure that the survey is conducted during class time rather than as homework.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]1
授業コード 11A10-015
教員名 ELLIOTT, Darren
教員コード 101579
登録人数 20
回答数 17
回答率 85.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



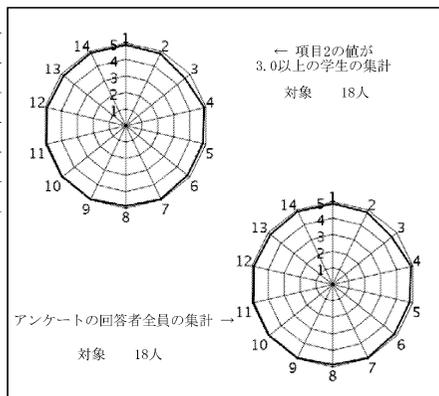
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The Communication Skills class focuses on reading, speaking and listening and the goals seem to be clear to these students. Although there are no specific negative comments from the respondents, and the overall scores are very high, I am personally not satisfied with my curriculum design. This year I have developed a course book to meet the course criteria and although I believe it does so, I think this particular class needs to be challenged. This group has quite a high level of language proficiency, and I am not sure I have struck the balance of activities perfectly. I think a particular task needs to be carried out enough times for learners to become familiar, but not so many times that they become bored. My feeling is that this class is not as engaged as it could be, and that feeling is borne out by the lower score for Q6, and the slight dip in grades suffered by a few of the students in the second quarter.

For Q3, I would like to pass the learners a little more responsibility and introduce a few new ways of practicing language to freshen up the mood.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]4
授業コード	11A10-019
教員名	都築 千絵
教員コード	103924
登録人数	20
回答数	18
回答率	90.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

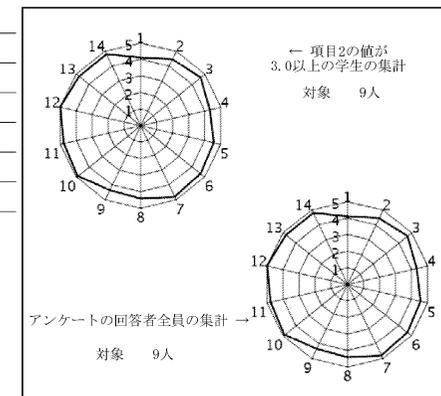
この授業は1年間を通して、英語で効果的に自信をもってコミュニケーションできるようになるために、英語を話す力、聞く力、読む力を伸ばすための細分化された目標がシラバス上で設定されている。学生は第1クォータで習得したスキルに加えて、第2クォータで新たなスキルを身に付け、年間目標の半分以上をすでに到達している。

アンケート結果は、全体の平均が4.87と高く、設問7, 9, 10, 11は1人の学生が4を選んだ以外、全員が5を選んでくれたことをとても嬉しく思う。特に、授業では協同学習の手法を多く取り入れるように努めているので、設問11の「積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」を認識してくれていることは嬉しい。一番低い値(4.61)であった設問3は、授業の開始終了時間に関する設問であった。このクラスは2限目で、ランチ時間に少しはみ出してしまうことがあったと反省している。コメント欄では「楽しい」という言葉が2人からあった。学生達自身がクラスの良い雰囲気作りに貢献してくれており、教員の私も楽しいクラスである。

今回の授業評価の結果を踏まえ、宿題や小テストも多く、授業中も忙しいクラスではあるが、終了時間を超えないように、楽しい雰囲気を保ちながら指導をしていきたいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIディスカッション<全>1
授業コード	11A20-005
教員名	TIDMARSH, Andrew
教員コード	104101
登録人数	19
回答数	9
回答率	47.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

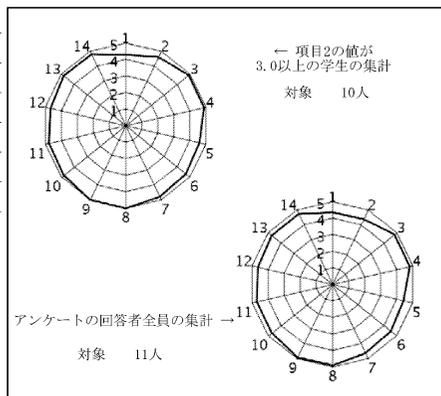
In this class, the main goal was to allow students more time to develop their ideas and facility with expressing them. Compared to Q1, there were fewer topics but we explored them for longer and more closely. Students benefited from this approach and were able to take part in high quality discussions.

It was difficult to decide the correct level of sophistication and difficulty of students' arguments. Some students found a few topics too difficult at first and that was concerning. In the final assessment, it became clear that the mix of easier and more difficult topics was appropriate. Some students were able to engage with the materials to a surprisingly high level, therefore I am satisfied that the pitch was correct.

The next time I run this course I will take on student feedback I received in class. This indicated that more emphasis on developing ideas and having more time to get comfortable talking about a topic was better. Students also indicated to me that it was better to focus on learning new expressions for use in discussion, rather than spending time on body language and gestures. In short, I will be incorporating these suggestions into my plans for next year's course.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全>5
授業コード 11A24-007
教員名 BROADBY, Deborah
教員コード 103594
登録人数 24
回答数 11
回答率 45.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

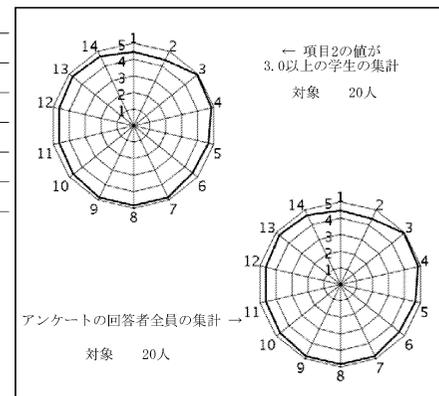
The goals that were set for this class at the beginning of the course were achieved to a relatively high standard. The level of the students in this class were very different, their personalities and characters varied widely as they all came from different departments. I found this hard, especially when trying to encourage pair work and group work. This was also a challenge at times. That being said, we were able to move through the syllabus smoothly and complete the intended units of the textbook.

Taking into account the numerical data that was provided by the students, I was disappointed that only 10 students completed the survey. I told them and provided 10 mins at the end of class for them to complete it. Never the less, the 10 students that did complete the survey, provided very positive and encouraging remarks for me. Whilst the numerical data was positive, I still believe that there is plenty of room for improvement.

Thinking ahead to quarter three and four, I plan to change some of the activities and the way that I introduce some of the topics of the textbook. Because there is a variety of levels in the class, I would like to pay more attention to trying to help the lower level students to understand and enjoy reading.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<HA, HP, HJ>3
授業コード 11A26-003
教員名 GOTOH, Mie
教員コード 100186
登録人数 23
回答数 20
回答率 87.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

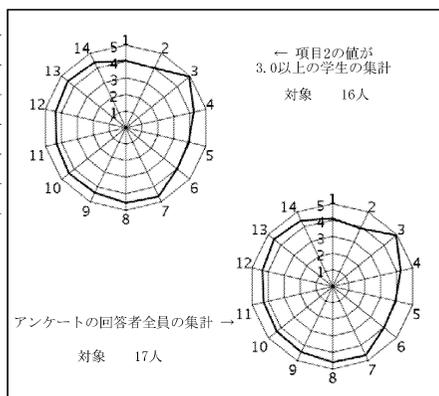


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義はリスニングのため、英語特有の発音や、音のつながりを紹介し、理解を深めることを目標としました。そして個々の生徒の英語力の差と、英語に対する興味の差を考慮しながら進めるよう工夫しました。毎回授業ではグループワークやペアワークを取り入れました。そして生徒が自宅でリスニングや発音練習をすることができる教材を用意し、教室外での学習が可能になるよう工夫をしました。生徒のコメントには、「リスニングだけでなく発音のスキルも身につく」「発音の仕方を1から丁寧に教えてもらった」などの内容が多かったです。クウォーターという短期間で生徒に自分のリスニング力が向上していると感じてもらうことは困難だと思いますが、今後も生徒が自分の英語力が着実に向上していることを実感してもらえるように工夫できたらと思います。これからも、一人でも多くの生徒に英語の楽しさ・おもしろさを伝えられるような授業作りに努めたいと思います。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語II<J・P>1
 授業コード 11B02-010
 教員名 OLIVERO, Regis
 教員コード 104119
 登録人数 19
 回答数 17
 回答率 89.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

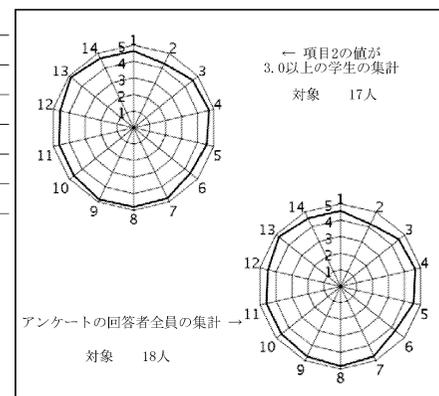


授業評価結果を踏まえた点検・評価

In my second quarter I tried to reach a balance between oral expressions and preparation for the exams, also asking for more homework. Quarter test results have been good overall and the students seem to be familiar with the classroom environment, methods and progression. I believe first year students need that kind of set up routine in order to achieve their goals. Moving towards more autonomy will be the focus of the coming quarter and improvement in individual and group production should be the target. If time allows it, I would like to introduce extra activities on top of using classroom materials. The students may gradually get the skills to work on longer projects (presentations, role plays) and produce more individual contents. Beforehand, the manual and other documents will provide the base upon which their production will grow. As for me, I will make sure that those targets are clearly identified and the instructions well understood. Thereafter students will be able to interact and develop their own skills.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語III[FG]2
 授業コード 11C03-005
 教員名 梶浦 直子
 教員コード 102557
 登録人数 20
 回答数 18
 回答率 90.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

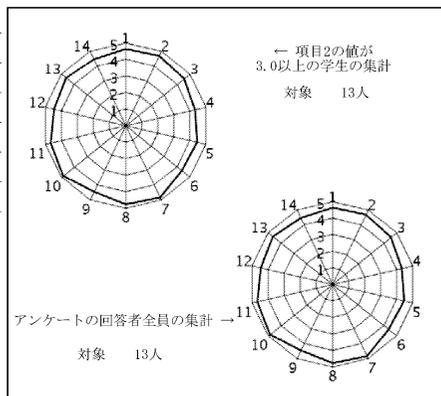


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標は、コミュニケーションに必要なドイツ語力を習得することにある。授業では多くのグループワークを取り入れ、学生は積極的に参加することが求められた。Q1と比較して、学生はその意味で十分に課題に取り組んでいたといえる。その結果は、筆記、口頭試験、プレゼンにおいて表れていると感じる。また、学習者自身も学習の効果を感じていることは、設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」(4.78)に対する評価が、比較的高いことからうかがえる。しかし一方で、問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」(4.28)に対する評価は、それほど高いとは言えない。その要因として考えられるのは、グループワークを中心とした学習に慣れ、積極的に学ぶことができるようになってきているが、学んだことを定着させるための授業外学習に十分に取り組めていないことが考えられる。問2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」(4.17)に対する評価は、ほかの項目と比較して非常に低い。授業の形態上、予習を求めているが、復習は非常に重要である。今後はこの点に留意し、授業外学習をより促進していきたい。また、学習方法に対する質問がある場合は、設けている学習相談の機会を利用してもらえるように努めたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語III[FS]2
授業コード	11D03-006
教員名	LANDEROS NERI, Sergio Gustavo
教員コード	103688
登録人数	13
回答数	13
回答率	100.0%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

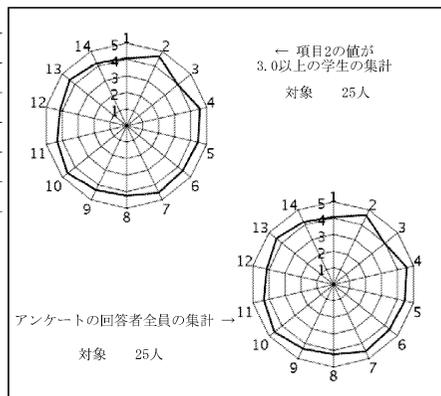
We were specially working on developing a communicative competence that allows students to:

- To be able to do some shopping in Spanish.
- In order to achieve that students learned to:
 - Describe and evaluate objects, more specifically, merchandise.
 - Ask for prices and let others know the price of a merchandise.
 - To use the numbers including hundreds, thousands and millions, which is useful in the case of conversion of currencies from the Spanish speaking countries into Japanese yen.
 - To express obligation or need.
 - Uses of indeterminate articles.
 - Uses of pronouns of direct and indirect objects.
 - Demonstrative adjectives and pronouns.
- Students also learned to describe their daily habits in relation to health.
- To ask for and give advice about physical activity and proper nutrition.
- In order to achieve that, we learned how to use the present tense of regular and some irregular verbs with special attention to reflexive verbs in contrast to their non-reflexive counterpart.

As for the results of the survey, as it can be interpreted in the graph, the answers of the students were positive compared to the media. Still there is more work to do in the next two quarters of this academic year.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語II<E・B>2
授業コード	11F02-007
教員名	真 萍
教員コード	101432
登録人数	30
回答数	25
回答率	83.3%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

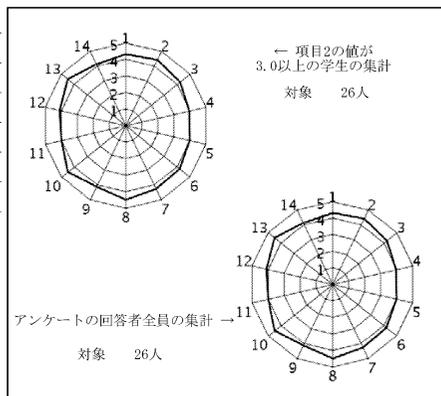
今期も学生から高い評価を得ています。設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に対して、以下のような称賛するコメントをいただきました。「教科書に書かれていない内容、教科書では分かりづらい内容をわかりやすく説明していた。」「発音がしっかり学べた。」「しっかり自分たちの復習する時間を作ってくれた。」「細かく説明してもらえた。」「授業は厳しいが真面目に授業に取り組めば実力がつく点。」「説明が細かくて分かりやすかった。教科書に書いている内容よりも詳しく説明してくれたので、理解が深まった。」「先生がとても熱心な人だった。」「しっかり予習復習をしないとついていけない授業のため、予習復習をする習慣がついた！」

本来ならばQ1に身につけるべき予習復習の習慣ではありますが、私の指導の元で、Q2でやっと身につけることができよかったです。語学の勉強は予習復習を行うことが大切です。学生にはぜひこのことを早めにわからせることが大事です。

今後も学生と力を合わせて、楽しくて且つ充実した授業ができるように模索したいと思います。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語II<E・B>
授業コード	11G02-004
教員名	陸 心芬
教員コード	101225
登録人数	30
回答数	26
回答率	86.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q2では授業の目標にしていた基礎文法の習得や基礎会話ができることについて、おおむね達成したといえる。学生による授業の評価をみると設問項目の平均値4を超えており、評価にそれが表れていると思われる。

学生の自由記述欄の良かった点としては、「説明を繰り返して伝えてくださるので、理解ができる」「習ったことの無い韓国語を学べた」「韓国語を少しずつ理解できるようになった」「プリントが読みやすい」「先生が親しみやすいので質問とか疑問点が聞きやすい」「褒めてくれるところ」「韓国人の先生に学べること」があった。

改善すべき点としては、色々な意見があった。「携帯を触っている人は、減点すべき」「進むスピードが日によって差がある」「チャイムがなったらすぐ終わって欲しい」「小テストが多すぎ」「欠席2回目から減点はきつい」「プリント作業だけでなく、K-POPのMVを見て韓国語を聞き取る授業とか、韓国のドラマや映画を見て、生の韓国語を聞く授業とかあるともっと耳に入りやすく、韓国語を勉強しやすくなると思う」「授業開始時間よりも前に授業を始めるのがいやなのできちんと時間通りに始めてほしい。また、ポディータッチがいや」があった。これらの意見のなかですぐに改善できる点については次回から早速実行していくつもりである。韓国の映像を使ってほしい意見についてはQ3に取り入れたい部分ある。ただ、小テストに関しては小テストが多いことで勉強になった意見もあり、現在の体制を守りたい。これからも使える韓国朝鮮語がなるように受講生のニーズに合わせながら工夫を続けるつもりである。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語I(運用)1
授業コード	11L07-001
教員名	佐々木 陽子
教員コード	019695
登録人数	14
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	3 回
補講回数	4 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度

最終授業までにほぼ全員の到達目標の達成が見られた。授業ごとの自習課題や復習項目を着実に提出して、ほぼ欠席もない学生に関しては、著しい向上があり、授業実施と課題との連携が有効であったことが伺えた。ただし欠席過多の評価を受けた学生およびその同国出身学生らの成績が、授業参加による相互交流的な運用経験を十分に得ることができなかったことにより、到達目標への達成に困難をおぼえていることが確認できた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

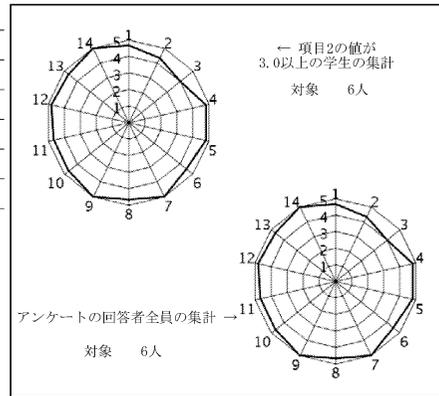
学生数回答が基準値以下によりチャートが表示されていないため数値データが確認できないが、個別に届いた回答では良い授業であった、表現力の向上が実感できたというものが多かった。学生の能力にばらつきが見られたため、その点で個別の目標と、教室全体の目標とには必ずしも一致させられない部分があったが、それについては個別の目標を教室全体の目標の他に設定させ、高い目標が可能な学生には個別指導（追加補講はそのため）を取ったことで、対応が出来たと思われる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

学生の意欲動機能力にばらつきがあるため、教室全体の進捗が難しくなっているのが現状であるが、学期ごとの学生の現実に照準を合わせ、学生間でも気持ちの良い意見交換を行いながら、互いに切磋琢磨できる環境の構築に特に留意して指導にあたりたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語ワークショップA<全>2
授業コード	14A01-002
教員名	KLUGE David E.
教員コード	100398
登録人数	12
回答数	6
回答率	50.0%
休講回数	1回
補講回数	1回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class about intercultural understanding was a Live Action Role-Playing Game where the students play the role of ethnographers viewing a culture through movies and make observation which they write up in a report.

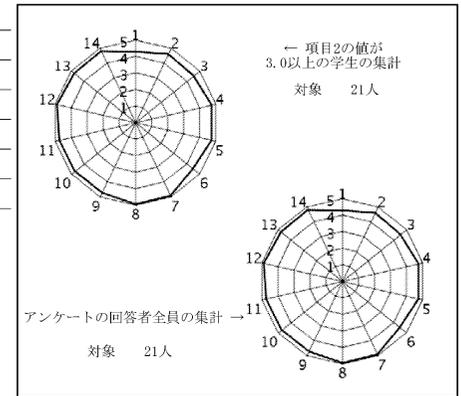
The course evaluation results were very good; the average score for questions 1-14 was 4.69 and for questions 3-14 was 4.72.

I was happy with the three scores of 5.00 for Question #7 on the teacher's sincerity and earnestness, #9 on level-appropriate lessons and use of teaching materials, and especially #14 on overall satisfaction. The two student comments were excellent: "I love all the materials and the movies and how the professor gives us time to evaluate" and "I really enjoyed watching movies! And I could learn about foreign cultures through these movies. Also I enjoyed the music you spun before and after the classes."

There were three low scores that need explanation and improvement. The score for Question #2 about student preparation was 4.33. I think this is because the students were experiencing this unusual class format for the first time. The score for Question #3 about start/end times was 4.00. The class always started on time but the end time was sometimes later sometimes as the students had to finish their project and we could not hear the end-of-class buzzer. The score for Question #6 about getting better at course goals was 4.50. This course was run in an unusual format so it is natural for the students not to feel complete confidence.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	実践英語IIA<全>試験対策TOEIC3
授業コード	14A12-003
教員名	BAILDON, MARTIN
教員コード	102326
登録人数	24
回答数	21
回答率	87.5%
休講回数	0回
補講回数	0回

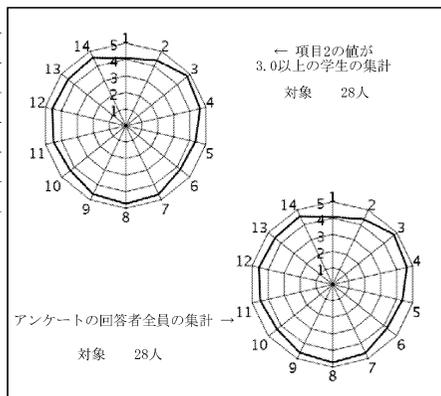


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was satisfied that the majority of the students improved their knowledge of the TOEIC test format, understood strategies for improving scores, improved overall skills for listening and reading in English, and gained a greater knowledge of English vocabulary and grammar. I am satisfied with this evaluation especially since students gave high scores and positive comments for questions relating to attitude of the instructor (Q7&8) and sufficient time to discuss and review questions (Q12). Fifteen comments referred to the benefits of the course including enjoyment of the class and usefulness of various activities. Eight comments referred to improvements for the course. These included excessive homework and making of personal vocabulary lists. Required homework could be completed within 90 minutes for each lesson and this was recorded through the ALC learning system. There were opportunities to study further if students desired so but very few students devoted more than 90 minutes per lesson to homework activities. Therefore, I am happy with the amount of homework set. It is hoped that students are aware of the correlation between study time and vocabulary, and improved scores on proficiency tests. I will enforce this point in future lessons. Several students still feel less confident about reaching higher scores on TOEIC perhaps accounting for a lower score on Q6. I will remind students about personal goals and what goals are realistic for the individual.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ科学演習A
授業コード 12D10-001
教員名 中路 恭平
教員コード 015255
登録人数 34
回答数 28
回答率 82.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

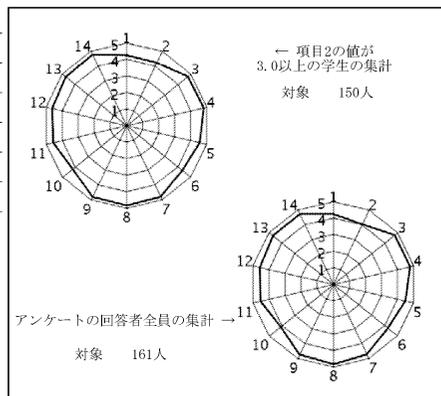


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当授業ではスポーツマネジメントの基礎知識を得てもらい、人々がスポーツに関わるように仕向けるためのスポーツイベントづくりの実践力を養ってもらうことを意図した。過去の傾向から、学生たちは計画を実行する上での想定外の問題に対して事前に十分な検討が不足していると感じていたため、今年度は計画の策定から実行に至る間に細部を詰める時間を一コマ増やした。それにもかかわらず実際の実行段階で様々な問題が表出したことで、予測の甘さを再認識することができたと思われる。結果として、目標の到達度および学生の評価は従来より概ね向上したと思われる。それは問4や問9の高さに表れている。また、自由記述においてはグループワークにおけるコミュニケーションの重要性を認識していることがうかがえた。ただ、学生たちはグループワーク等で自分の意見をまとめて人に伝えるということは、あまり得意でないように思われる。グループで話し合うときの役割を与えるなどの工夫が必要かもしれないと感じた。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と環境3
授業コード 13D02-003
教員名 加藤 孝基
教員コード 104117
登録人数 295
回答数 161
回答率 54.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

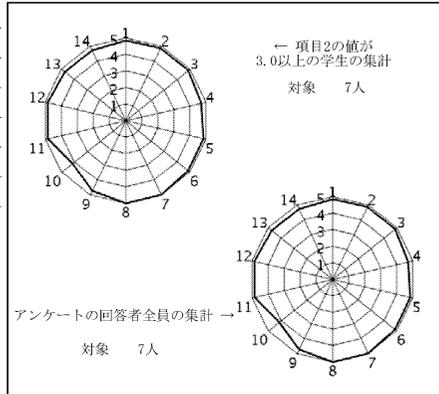


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「人間と環境」は、学際科目として幅広い知識を身につける場と位置付け、講義を展開した。15回の講義を通して、ヒトに関する様々な知識を一方向的に教授するだけでなく、各々学生が興味を持てるような授業展開を行った。例えば、学生が主体的に考える時間を設け、また自らの人体を用いて授業内で実験を行うなど、飽きさせない工夫を施した。授業内で疑問が生じた内容は、毎回リアクションペーパーを通し、次回講義内にほぼ全ての質問に対して回答を行うといった形式を用いた。それに対するアンケート結果として、設問7, 9, 11等にて反映されていると感じた。このような結果を考慮し、次回以降も同様の取り組みを行っていききたい。また、改善点として、「私語が多い」との回答が何点が挙げられていた。こちらの注意が行き届かない点があったことを反省し、次回以降は、受講態度の良い学生の妨げとならないよう、改善したい。また、予習や復習等を積極的に促すことをしなかったため、より学習を定着させるためにも次回以降は改善していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(個人スポーツ)ダンス
授業コード	14E01-001
教員名	飯田 祥明
教員コード	103610
登録人数	7
回答数	7
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

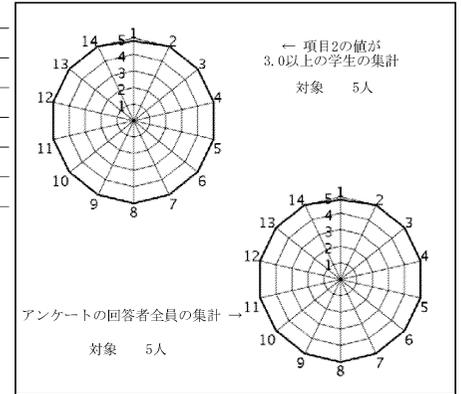
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本科目の到達目標は、ストリートダンスのジャンルとリズムの概念について理解できる、リズムにのってダンスを楽しめるようになる、ダンスルーティンを作れるようになるの3つであった。初回の授業にてジャンルの解説とリズムについての科学的な説明をおこない、ただ感覚的に踊るという内容から1歩進んだ授業を展開できたと考えられる。また、リズムにのれるようになるという点に関しては受講生7名全員が達成できていた。ダンスルーティンを作るという点に関しても、1人が全てを作るのではなく、分担してルーティンを作成するように促すことができた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
概ね全ての評価が4.5を超えており、満足度が高い授業を展開できたと考えられる。唯一4.1であった設問11は携帯電話の使用に関するもので、スマートフォンを活用した本科目の特性を考慮すると、本質的な問題ではないと考察される。また、自由記述の2に「4回休んだ学生をFにすべき」という指摘があるが、この点は厳正に処理している。欠席過多になった受講生にはその旨を伝えたと、それでも出席していた学生がいたことに起因するだろう。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
満足度と作品の完成度が非常に高い授業が展開できたものの、学生への質の高い授業の提供という点では、開講曜日時限の再検討など受講人数をさらに増やす努力が必要である。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(生涯スポーツ)バドミントン
授業コード	14E05-001
教員名	笹川 慶
教員コード	103190
登録人数	14
回答数	5
回答率	35.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

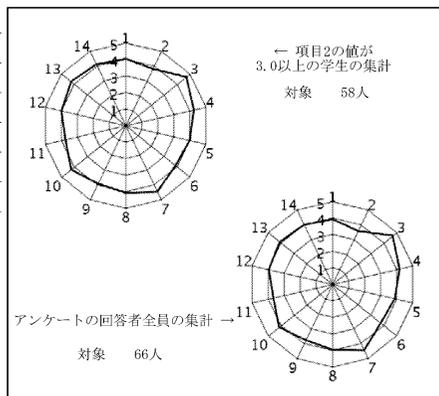
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
到達目標1. について、本講義では生涯にわたって学生がバドミントンを楽しむために最も重要となる基礎的なルールと技術の習得に重点を置いて実施した。本アンケートの結果(項目1-14の平均値4.99点)と学生からの回答からおおむね到達できたと考えられる。到達目標2. について、本講義ではマナーやルールなどの試合の運営方法について説明後、毎時間行われる試合の運営は学生内で行った。試合は滞りなく実施され、学生は歓声をあげながら楽しそうにプレーしていた。以上のことから、2と3の到達目標についてもおおむね到達できたとと思われる。到達目標4. について、パフォーマンスの向上に多くの時間を費やしたことから、4. のための時間を十分に確保できず、障害・事故の対処方法まで実技指導することができなかった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価について
項目1-14の平均値が4.99点、項目3-14の平均値が5.00点、および学生からの回答から、本講義の内容は学生にとって適当であったと考えられる。受講者数は少なかったものの、授業態度については授業後半、主体的に行動する学生が増え素晴らしかった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについて
学生にとってバドミントンが生涯スポーツのひとつになるよう、基礎技術の指導方法を更に深める。スポーツ実施による外傷の対処方法について、より深く指導する。アンケートの回答率が(35.7%)低かったため、実施方法を改善する。受講者数の減少は体育教科全般における課題であるため、受講者数増加のために議論を進めていく。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 医学概説(人体の構造と機能及び疾病)
授業コード 23C77-001
教員名 笹井 冠奈
教員コード 103985
登録人数 124
回答数 66
回答率 53.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

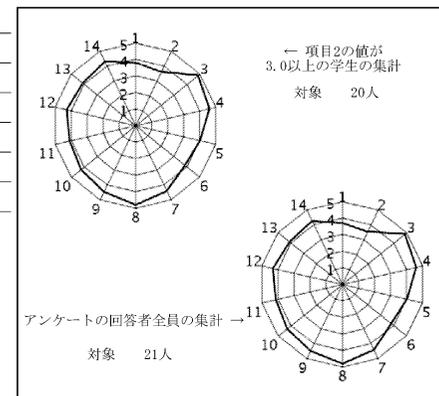


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①講義内容としては、疾患全体を講義しきれなく、9割程度にとどまりました。
- ②自由記述からは、講義内容としては高い評価をいただきました。良い評価の反面、講義に対しての資料提供については配慮が足りなかったようです。受講生の理解度に合わせて資料を作成する形になったため、講義前にスライドをWebClassへアップすることができず、予習復習が滞ったり、講義中の理解度へ影響がありました。人体の構造と疾病について学んでいただくことを第一目標に掲げていましたので、総合的な評価としてはAです。
- ③次の講義の予定はありませんが、講義を行う機会に恵まれたら、1.スライド枚数を減らす、2.事前資料としてWebClassアップしてライドを利用する、3.出席の確認のため、テストを行いました、理解度の評価を再考する、4.席順・配置について問題点を挙げられており、席と席の間を2席にして余裕を持った配置にしていきたい、と思います。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳6
授業コード 10D01-006
教員名 斎藤 喬
教員コード 103192
登録人数 28
回答数 21
回答率 75.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

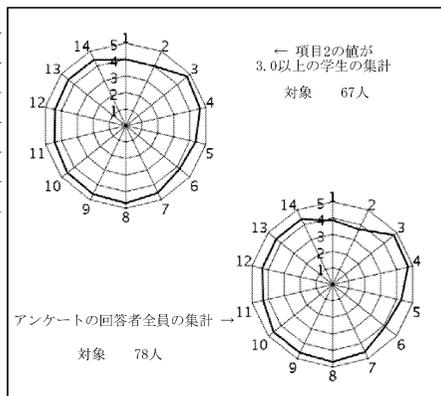


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①シラバスにおいて「世界の諸宗教の教典と現代まで受け継がれる信仰生活の特色を、複眼的に検証することができる」ことを到達目標として設定していたが、設問5の結果が3.81と全体平均4.15よりも著しく低いことから受講者の多くがこの目標に到達できていないと実感していたことが推察できる。
- ②担当科目のアンケート結果を見ると、設問1が3.71で設問2が3.52であり、全体平均の4.09及び4.05に比べて極端に低いことがわかる。このことから、受講者の多くは履修前からシラバスに記載されている内容にあまり興味がなく、その上で主体的に授業に参加しようとする意欲を持ち合わせなかったことがわかる。つまりシラバスに沿った授業内容だけでは好意的な授業評価を得られない前提があるところから、授業中にそれを挽回するようにさらなる工夫・努力が講師の側に求められていたと言える。
- ③今後は、履修前の段階で授業内容を適切に説明し受講予定者の参加意欲を掻き立てるとともに、映像資料などを利用して説明がより具体的になるように改善していく必要があるだろう。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民族問題と人間の尊厳6
授業コード 10D08-006
教員名 宮脇 千絵
教員コード 152580
登録人数 188
回答数 78
回答率 41.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

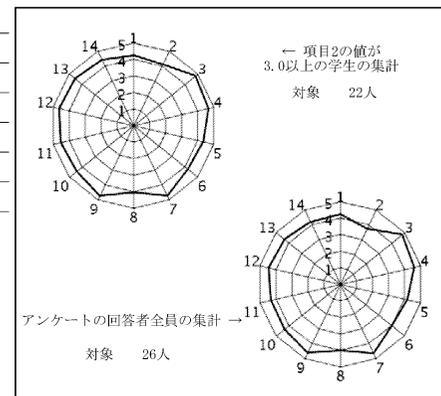


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、ほぼ達成されたと考える。
- ②数値データの高いものとしては、3、4、7、8、9が挙げられ、授業の進め方等は問題なかったといえる。実際に、私語や途中退席などが少ないクラスだったこともあり授業は進めやすかった。数値データの低いものとしては、1、2が挙げられ、授業の内容に興味あまりなく、主体性をもって参加していなかった人が少なからずいたと考えられる。大人数の講義形式の授業のため、受講する側のやる気をどこまで引き出せるかは課題である。一方で自由記述では、「説明が丁寧」「分かりやすい」「興味を持てた」などの評価があり、改善すべき点では「特がない」との評価がいくつかあった。また内容に関しては、「民族問題を装いの観点からみていくのが新鮮」「民族衣装だけで時代背景などたくさん読み取れた」等の評価があり、身近な衣の問題から人間の尊厳を考えるという授業の意図が伝わったと考える。
- ③毎回出席率は良く、授業評価の入力も3回呼びかけたが、回答数は約半分にとどまった。大人数の授業ゆえ、クラス全体に目配りすることが難しい。毎回リアクションペーパーの提出を義務付けているが、出欠、レポートの提出方法など成績評価をより公平におこなえるようにさらなる工夫をしたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人権をめぐって<国際科目群>1
授業コード 13C05-901
教員名 MERE, Winibaldus Stefanus
教員コード 101180
登録人数 42
回答数 26
回答率 61.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

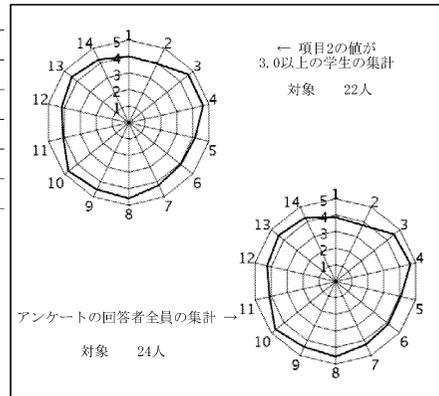


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) In general, the course could be said to have achieved its goals as set out in the syllabus that has been introduced to the student in the university website and in the beginning of of the course. All the topics provided in the syllabus were covered as planned. Only some subtopics had to be omitted due to the lack of time.
- 2) Over all the course went through quite well and can be said to have met the expectation of most students (not all). This has been confirmed in the high percentage of satisfaction as appeared in the students evaluation and comment about the course. Although not all students could speak english fluently, they were always very active and did their best in expressing their opinions or raise questions during the class.
- 3) The course needs further improvement in terms of the content and the way it is carried. There were suggestions to let students more active by providing them with some creative activities during the class, such as group works and discussions, which I highly agree and welcome for the next quarter. To accommodate the need of the students who have only limited english, there is a need to slow down the speed of the talk during the class.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地誌概論1
授業コード 12B11-001
教員名 岡本 耕平
教員コード 049502
登録人数 136
回答数 24
回答率 17.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

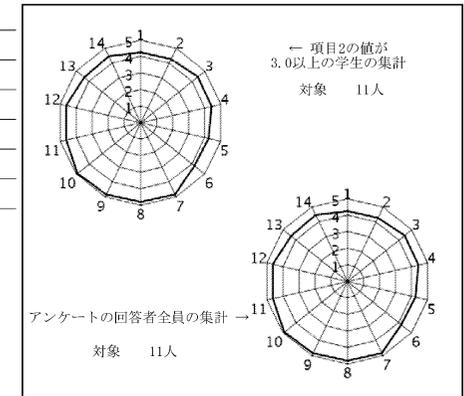


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①シラバスの到達目標は、1. 自分たちが生活する名古屋大都市圏について、多面的に考察できるようになる、2. 自然地理学および人文地理学の基礎的知識と考え方を習得している、3. 学術論文を読み、その内容に対する自身の考えを文章として適切に表現できる、の3点であった。これらのうち、1と2については、授業評価の設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力が付いてきていると思いますか。」と設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」の評価値が、開講主体別の平均値の全体平均の値を上回ったので、学生にとってある程度の達成感は得られたと思われる。3に関しては、クォーター制になってから、レポートの提出回数を2回から1回に減らしたので、しっかり論文を読む機会は減った。この点については工夫が必要である。
- ②今回の授業評価は、全体的に芳しくなく、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」の値が全体平均値を下回った。昨年度この授業を担当せず、大人数の授業を久しぶりに担当したことが影響しているものと思われる。毎回、体力的にひどく疲れた印象を持っている。授業評価の自由記入としては、項目15（評価できる点）として、「身近な内容で面白かった」という回答が3件あった。一方、項目16（改善点）として、1件「スクリーンに資料を掲載する際、もう少し手際よく画面表示をして頂きたいです。」という回答があった。
- ③本務校での役職を離れ、授業に専念できる立場になったので、授業になるべく新しい内容を組み込み、より魅力的な授業となるようにしたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と機械4
授業コード 13E04-004
教員名 久保田 進一
教員コード 104075
登録人数 25
回答数 11
回答率 44.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

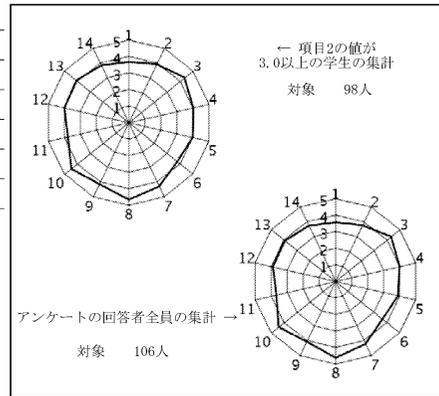


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、試験の採点の結果から判断して、概ね達成できたのではないと思われる。この授業では人間と機械を対比させることによって、「人間とは何か」という問いを深めることを目標としており、その目標は達成されたと思われる。
- ②数値データおよび自由記述等に関して、学生からは概ね高評価を頂いた。また、自由記述についても、板書とプリントを使い、学生に質問を振りながらの授業が良かったのだと思う。なるべく学生には、飽きさせないように質問をしながら考えさせる授業を行ったのが良かったのだと思われる。映像資料については、難しい映画であったため、内容を理解してもらうためにフルで見ることになってしまったが、もう少し適切に使えれば良かったと思われる。また、コメントシートを使ったことによって、学生の質問や誤解している部分や理解不足の点も次の授業で、対応できたのも良かったのだと思われる。総合的に見て、学生の満足度も高かったし、内容もよく理解してもらえたと思うので、この授業に関しては成功したと言えるだろう。
- ③今後の授業の改善点としては、もう少し適切に映像資料を使いたいと思う。また、今後もより一層、学生との対話を通じて、学生に自ら考えてもらう授業を行っていきたいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代の文化人類学
授業コード	22C10-002
教員名	菅沼 文乃
教員コード	150333
登録人数	211
回答数	106
回答率	50.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

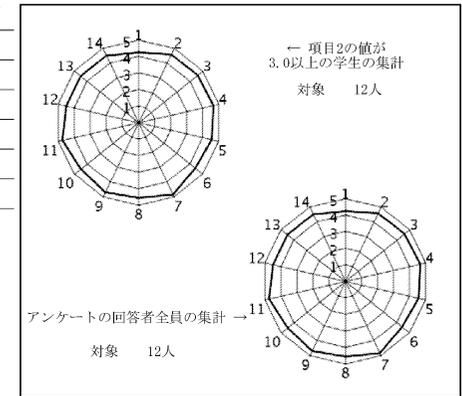


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初に設定していた到達目標は、(1) 社会における老い・高齢化にまつわる諸問題、(2) それらの諸問題に文化人類学が果たす役割、について受講生の関心を深めさせることであった。
これについて、文化人類学に関する基礎的な知識をもった学生向けの授業を想定していたが、人類文化学科以外の学生が多く受講したこともあり、とくに(2) が不十分であった。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
①で述べたように、到達目標とその過程についての補足が不十分であったことが感じられる(授業評価アンケート設問項目(5)(6)(11)など)。また学生の関心を高めるための課題・資料提示、情報提供について改善の余地がある。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
到達目標と目標達成までの過程について、毎回の授業構成および講義全体の構成を見直し、適切な課題・資料を用いることでより明確・具体的に提示する。また、講義での学生からの質問内容やリアクションペーパーの内容、また定期試験レポートの結果をふまえて、学生がより身近に感じている情報・話題を積極的に講義に取り入れることにより、学生の授業への関心を高める。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(アジアの社会人類学)1
授業コード	22C70-001
教員名	東 賢太朗
教員コード	102883
登録人数	31
回答数	12
回答率	38.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

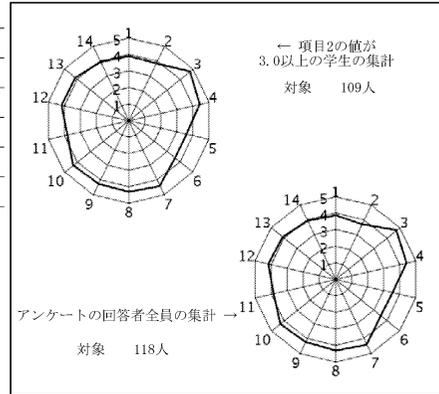


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①すべての項目について評価は平均値を上回っており、担当教員はシラバスに示した授業の目的・内容に沿って授業を進め、受講生はおおむね内容を理解し目的を達成し、そのための方法は十分に適当なものであったと考えられる。担当教員の現在の研究内容についての講義や、受講生に主体的な参加を求めるためのプレゼンテーションの導入など、オリジナルな試みも自由記述欄を見る限りおおむね前向きに取り組まれている。
非常勤講師として本授業を担当するのは3年度目である。毎年度、受講者の人数や専門分野がやや異なっており、それに応じて受講生の積極性や参加度、出欠席数なども変化している。次年度以降は、授業の初めにシラバスの内容を再確認し、それぞれの受講生がそれぞれの目的や関心に応じてより積極的に参加できるような工夫を行いたい。具体的には、担当教員の専門である文化人類学をどの程度中心に置くか、あるいは東アジアという地域への関心に添わせるか、より検討したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語学概論
授業コード	24C04-001
教員名	丸山 徹
教員コード	015917
登録人数	145
回答数	118
回答率	81.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

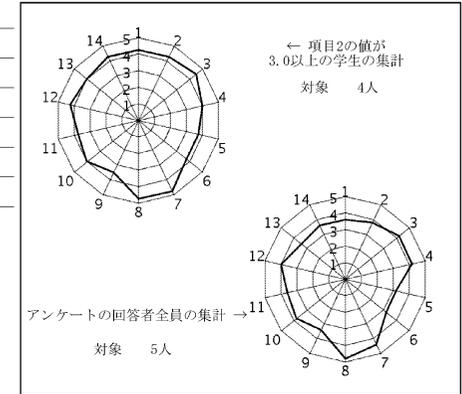
「現代日本語の音声・音韻、文字、文法、語彙・意味、文章表現法について概説し、共に考える。また日本の諸方言、日本語の歴史的変遷にも言及する」という内容のもだったが、当初設定していた下記のような目標はほぼ達成したと考える。

1. 現代日本語の音声・音韻について理解している
2. 現代日本語の文法について理解している
3. 現代日本語の文字、語彙・意味について理解している
4. 限られた時間で与えられた課題について自分の言葉で表現することを習得する

学生のコメントは「時間がしっかり守られていたよかった」「多くの例を出しながらの説明がわかりやすかった」「難しいことを教わっているけど、先生の話し方がわかりやすかった」「リアクションペーパーで自分の課題を提出するのがよかった」「意味論について考える機会が得られたこと」など肯定的評価が多かった。否定的評価としては「おならを大きな音でしている学生がいたのに注意しなかった」「前の方で話している学生に注意しなかった」など。（教務上の事情もあって）本年度までは、定年退職後の私が「非常勤」として教えることを依頼されたようだが、来年度からは常勤の立派な先生がお教えることになるので、これまでよりずっとよい授業になると思う。本年度まででご不満の諸点はどうかご容赦いただきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	からだことばII
授業コード	24C07-001
教員名	土谷 薫
教員コード	064352
登録人数	34
回答数	5
回答率	14.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

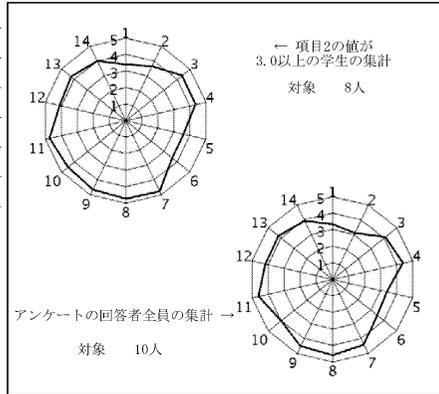


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①「学生による授業評価」によると、第2クオーターになって、各講義のねらいがわかりにくくなっていったことが伺われた。
第1クオーターの時には丁寧に行っていた、毎時間の「ふりかえり」から考えを深めていく話し合いの時間が少なくなっていたと思われる。
第2クオーターでは芝居の上演を行うにあたり、個人や演目毎の稽古になるため、授業への取り組み方もかなり個人の意識に任せられてしまうところがあった。
- ②第2クオーターでは後半、時間が足りず稽古日程が十分とれなかったこと、配役決めも丁寧に行えなかったことが心残りであったが、当日の本舞台では、思った以上の成果が表れていた。
本舞台後の授業では、欠席者もほとんどなく合評会を行うことができた。各自がこの授業にどう取り組んできたのか・その結果として、本舞台を受け止めていたようであった。
- ③学生と共に作り上げていく授業ゆえに、毎回難しさを感じる。
各学生の授業へのモチベーションの影響が大きい。
そのためにはやはり初めに丁寧な説明が必要であろう。
ことば・からだ・表現・人とそして自分と向き合う・というテーマを、今の時代に生きる学生たちにどう伝えていくか
それが私自身の課題でもあり、学生と共に模索していきたいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本美術史
授業コード	24C27-001
教員名	四辻 秀紀
教員コード	100351
登録人数	67
回答数	10
回答率	14.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標については、授業の進行が後半やや押し気味になってしまったが、おおその目標には到達できたかと思う。

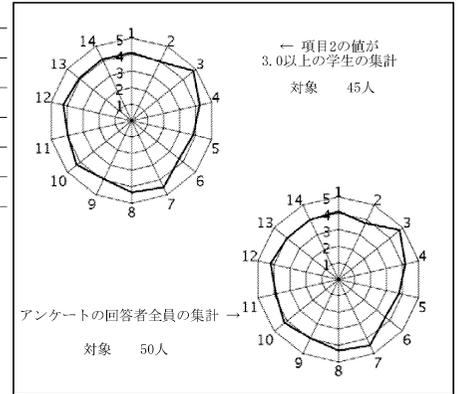
美術史にくわえ文化史的な側面を加えた講義内容とした。国宝や重要文化財級の作品から直接撮影した貴重なスライドが多く、部分拡大写真など出版されている図版などからは得られない情報が豊富であるため、今後ともスライドを多用しつつ、文献資料とあわせて、日本も美術や文化に興味と親しみをもって接し、理解を深めてもらえるような授業運営を心がけたい。また配付資料をさらに充実させていくことにしたい。

学外授業（美術館見学）については、長い歴史の中で生み出され伝えられてきたさまざまな文化財の本物に触れ、受講生諸氏が日本の文化や美術に関心が持てるように、さらに充実した内容となるように善処したい。

折角メンバーシップで、徳川美術館が無料で入館できるようになっているので、最大限に利用してもらいたい。今後とも日本の文化歴史の知識と理解が深まるよう、受講生諸氏とともに授業運営を推進していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	和歌文学研究
授業コード	24C28-001
教員名	伊藤 伸江
教員コード	103266
登録人数	103
回答数	50
回答率	48.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



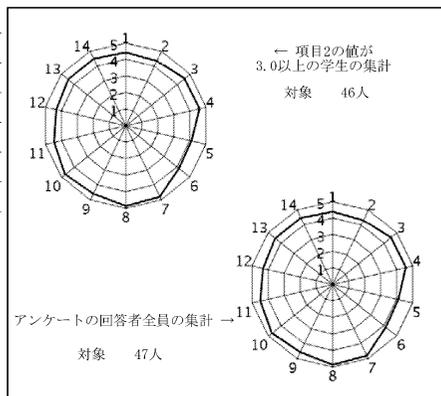
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、多くの学生が高校までで親しんでいる百人一首を題材として、そこに入る奈良時代から鎌倉時代の和歌を通して和歌技法の変遷と和歌史を理解することを目標とした。回数の関係上、多くの和歌を選べないが、時代ごとの和歌技法を示し、和歌表現の持つ可能性に関して講義することができたかと思う。

毎回の授業では、古文の資料を活用したが、さらに深い内容は白板記述とし、参加し考えてもらう時間を作ろうとつとめた。加えて、毎回リアクションペーパーを書いてもらい、それを教員が読むことで、授業のどこで理解できない部分がでたかを把握し、そこに書かれた疑問に関しては、次の回で答えるようにした。また、意欲的な学生から、授業後などに、日本文化学科や他の学科の、本授業と内容の関連がある様々な講義に関して教えてもらう機会があったので、学生が講義の関連からより興味を得られるように、講義中の話題としていろいろな作品、トピックスに広く触れるようにつとめた。実際に他の講義で知識を一部得ている事柄に関しては、学生の興味もより強く、真剣に講義を聞き、別方向からの問題設定に関しても相乗効果があり、講義内容が「よくわかる」という喜びがリアクションペーパーにも多く書かれていた。それゆえ、韻文を扱う本授業の独自性を堅持しつつも、南山の学生の総合的な学びの中での本授業の立ち位置を知り、本務の先生方からのご希望をいただきつつ、連携していくことの重要性を感じた。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 女性と近現代文学
授業コード 24C38-001
教員名 酒井 敏
教員コード 101869
登録人数 73
回答数 47
回答率 64.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

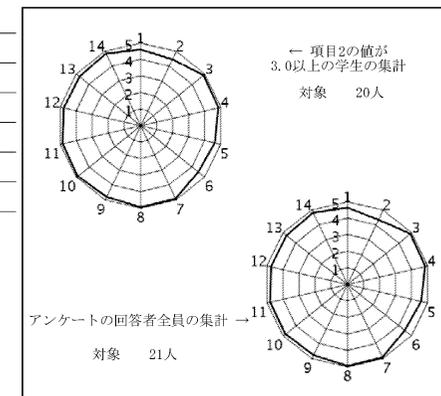
自分としては開講当初に設定していた内容をほぼ伝えられたと思う。熱心に受講してもらえたという印象もある（試験結果も良好だった）のだけれど、項目5と6の評価が全項目の中で目立って低いのが残念である。

ただ、評価は全体として高く、自由記述欄でも「良かった点、評価できること」に記述が多く、「豊富な知識を身に付けられた」「沢山知識を仕入れてやろうと思った」「おもしろく、勉強になった」など、知的好奇心を刺激でき、意欲的に勉強に取り組む姿勢を支援できたと判断できる記述が多く、充実感を感じている。テキストを読む方法の面でも参考にももらえたようなので、さらに嬉しい。全体として目標とした成果を収められたと思う。

次回以降もこうした評価を維持できるよう、自らも研鑽を積み、授業方法などもさらに工夫したい。そう大きく遅刻したことはないはずだが、講師室から近いと思って油断したからか、「授業が遅れて始まった」と改善点を指摘された。今後は具体的な注意点として心して取り組みたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語分析B
授業コード 24C51-001
教員名 宮地 朝子
教員コード 102059
登録人数 42
回答数 21
回答率 50.0%
休講回数 2 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

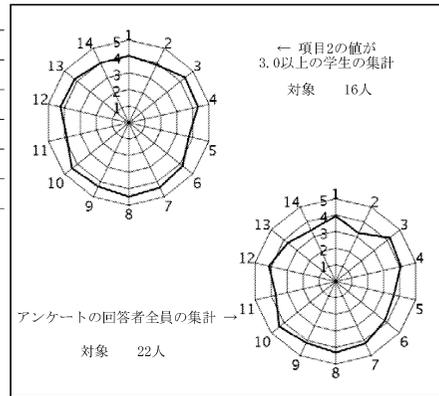
評価の平均値は(1)-(14)が4.74、(4)-(14)が4.78であり、いずれも全体の平均を上回った。担当者自身としてもこれまでで最も高い値であった。40名強というクラスサイズも、対応等が行き届きやすくこの結果に影響しているかと思う。継続して評価が得られるように工夫したい。

自由記述の項目(15)「良かった点」においては「練習問題を家でゆっくり考える時間を与えられていたこと。」「毎回パワーポイントのレジュメを作成してくださり、メモがしやすかった」といったコメントがあった。日本語について相対化し、具体的実践的に練習問題に取り組む中で、言語現象としての分析課題とおもしろさを見いだすという授業目標について、おおむね達成できたと考える。

改善点について、項目(16)ではマイクの音量に関する要望（聞こえるようにとの配慮だとは思いますが、大きすぎる。声を通るので使わなくてもよいのでは）、項目(17)では「毎回冷房が効きすぎて寒かった」といった具体的な指摘があった。留意して改善を心掛けたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語研究史
授業コード 24C57-001
教員名 永澤 濟
教員コード 103687
登録人数 43
回答数 22
回答率 51.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業中の課題・テストから判断すると「開講当初に設定していた目標と到達の程度」は満たしていたと思われる。理解が不十分と思われる点について全体や個別のコメントを通して再考を促し、一定の進歩がみられた。

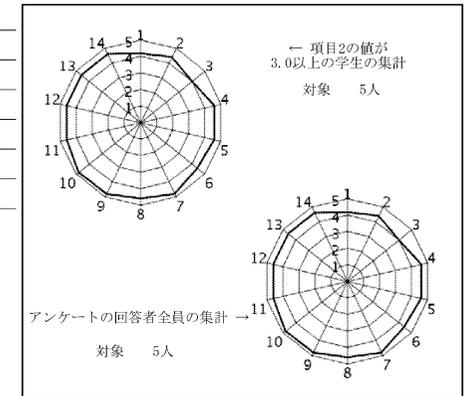
ただ一方で、アンケートの数値データおよび自由記述等によれば、学生からみた到達度・意欲・理解等に関する項目の評価が相対的に低く、満足度は高くないことがわかった。学生が自ら理解の深まりを自覚できるよう、メリハリのきいた授業を心がけたい。

改善法として、授業のテーマや到達点をクリアに伝えるとともに、授業の進行もそれに沿ったシンプルな構成にしたい。たとえば、初回の授業で日本語の概観から徐に始めるのではなく、早い段階でテーマに直結した資料の読解を取り入れ、関心や新たな気づきが得られるようにする等、の改善が考えられる。

本講義は、テーマの特性上一定の知識を得るという性質のものではなく、事例を通じての多角的な見方の養成を第一の目標に設定しているが、その点がメリハリのなさにつながらないよう工夫したい。「眠くなる」「面白くない」とのコメントについて、内容的に改善が必要かもしれないが、授業の構成上も、1時限目は解説、2時限目は資料講読等、工夫したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教授法
授業コード 24C58-001
教員名 鹿島 央
教員コード 044164
登録人数 30
回答数 5
回答率 16.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

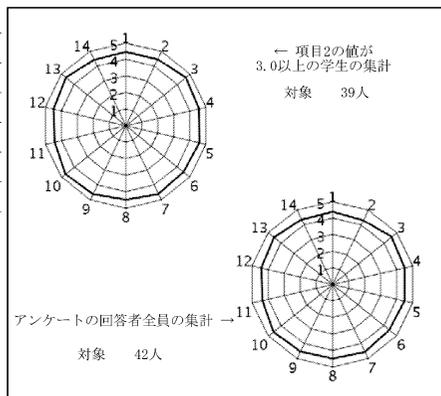
①教授法に関連するカリキュラムデザインなどの基本的な知識や歴史的な考え方の変化などを説明した上で、実践力を付けるための教科書分析、教案の作り方などを経験することはある程度できたと考えられる。しかしながら、実際に「話す、聞く、読む、書く」に関する模擬授業を行うところまではできていない。

②今期は、30名程度であったので、授業運営がやりやすかった。受講生も非常にまじめで、授業内の課題にも熱心に取り組んでいたことと、出席カードのコメントもこちらの気が付かない点もあり、勉強になることが多かった。

③本学での日本語教員養成プログラムを実効性のあるものにするために、「日本語教授法」の授業は、「実習」との関係で非常に重要なものとなってくると考えられる。しかしながら、上述したように、実践するところまではできていないので、今後はより実践に近づけた授業形態にする必要があると思っている。そのために、シラバスの再構築を検討する予定である。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イギリスの社会
授業コード 31E07-001
教員名 松波 京子
教員コード 103864
登録人数 158
回答数 42
回答率 26.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

「イギリスの社会について、その社会的・歴史的背景を理解しつつ、現在いかなる問題を抱えているかを知り、その問題について自らの意見を考え、またそれを主張することができる」との問題設定であったが、ほとんどの学生が目標については到達できたと感じています。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

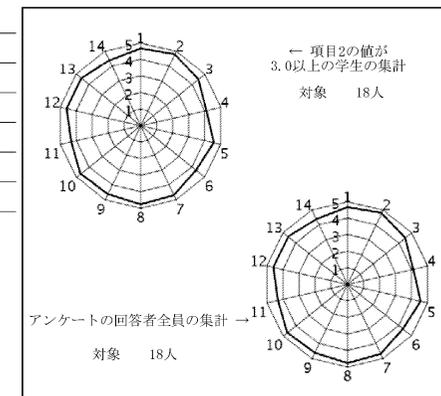
本講義は欠席及び遅刻について、出席票などを用いて対応しました。この点に関しては、「ちゃんと出欠・遅刻を把握してもらえてうれしい」との意見を別途講義最終段階で回収した講義感想コメントで少なからずいただきました。なお、ウェブの授業評価では出欠・遅刻の取り扱いに対し、友人から聞いた情報で減点されると批判している学生がおりましたが、出欠・遅刻で授業評価の減点は全く行っておりません。出欠・遅刻は規定されている出席日数を満たしているか、つまり授業評価の対象であるかを確認するために利用しております。この点は講義内でも説明しております。疑問に感じた点は自己判断せず、講義期間中に積極的に確認して欲しいと願います。なお講義の内容については、イギリスのことをいろいろ知りたいという学生の要望には概ね応えられたかと考えています。今回も意欲的に講義に参加してくれる学生が非常に多く、担当者も非常に刺激を受けました。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

講義内容の方向性については維持しつつ、今後も学生とのディスカッションの時間を少しでも多くしていきたいと考えています。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語翻訳法1
授業コード 31E23-001
教員名 クマイ 恭子
教員コード 101131
登録人数 23
回答数 18
回答率 78.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目的は基礎的な翻訳能力を身につけることと、翻訳の際に必要な基礎的英語力を身につけることである。また、翻訳の難しさを知ってもらうことも目的の1つである。学生の回答を見ると、大体の目的は達成されたように思う。

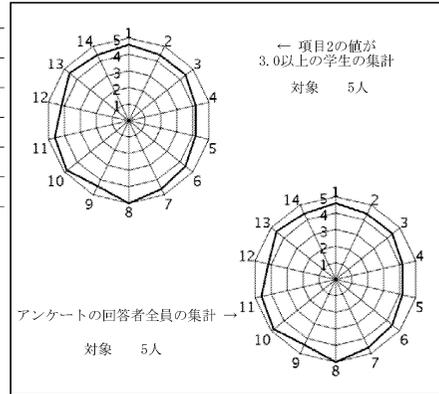
幅広いジャンルの翻訳を取り入れつつ、やはり英語を読む・理解すること・想像力を働かせて翻訳することに重点を置きたいため、小説の割合を多くしている。クラス運営は毎回のクラスワークはペアで相談しながら、宿題は個人で行うようにした。

自由記述の中に「同じような回答でも丸の人とバツの人がいた」というものがあつたが、これはコンテキストも含めて見ているため、実際にそうだったのかどうかはここでは即答しかねる。むしろそのような疑問がわいた場合には、個人的に相談して欲しかったと思う。こちらの見落としもあるかもしれないし、コンテキストで異なる採点結果となった場合は説明できるからである。全く同じコンテキストで異なる採点をしないよう、私自身も注意したいと思う。

総じてクラスの目標は達成できたと思う。筆記レポートに関しては、これまでも同じように行ってきたものだが、一週間前という発表の期日が短かったようである。今後はシラバスに記すなどしておきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語III[FS]1
 授業コード 11D03-005
 教員名 HOPKINS Mariella
 教員コード 103653
 登録人数 15
 回答数 5
 回答率 33.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) Por los resultados mostrados de acuerdo a la encuesta realizada podemos afirmar que los alumnos han adquirido el conocimiento necesario en este segundo trimestre, los alumnos de igual forma han comprendido el uso de los materiales que nos permiten alcanzar los objetivos por ejemplo el uso de la syllabus (material que han aprendido a utilizar en este segundo periodo)

(2) Los objetivos señalados para este segundo trimestre fueron alcanzados en su totalidad, habiendo desarrollado diferentes actividades para mantener la debida atención de los alumnos en las clases de conversación. Estimamos por conveniente vincular a las clases actividades que estén provistas de mucha interacción, para que los alumnos pueden seguir automotivándose y puedan alcanzar los objetivos trazados individualmente y grupalmente.

(3) En este nuevo trimestre que empezaremos pondremos énfasis en actividades para que los alumnos puedan comprender cómo se adquiere una nueva lengua y que ellos mismos puedan reflexionar sobre las actividades que están más cercanas a su vida cotidiana y puedan emprender todo lo que sea necesario para llegar a un buen desarrollo de esta nueva lengua que están estudiando. Y cómo es normal desarrollaremos actividades para que los alumnos siempre tenga en claro los objetivos del curso.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語ワークショップB
 授業コード 33B03-001
 教員名 HERGOTT, Florian
 教員コード 101725
 登録人数 18
 回答数 4
 回答率 22.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

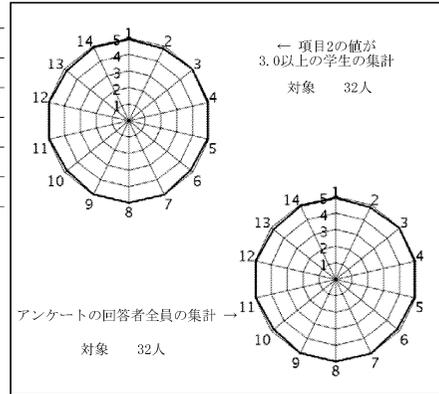
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The comments and criticism of the students concerning the course of the second trimester being positive, next year I think to keep the same base.
 If some modifications allow, I would like to dedicate a little more time to the conversation and spontaneous oral production.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コミュニケーション特論A
授業コード 33C01-001
教員名 LAUTIER Fabien
教員コード 104047
登録人数 44
回答数 32
回答率 72.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

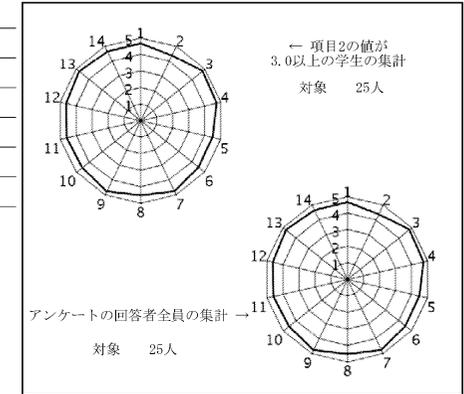
After watching the results of the enquiry that has been done in my class, i have been glad to read that the students enjoyed the way i taught them french and they could progress a bit along the second quarter. For me, it has been a bit difficult at the begining because of the amount of students in the class. As it's a communcation class, i thought the number of students would have been inferior, it was a challenge for me.

The students might have needed more writing productions. That's why i am planning to change a bit the structure of my class so that i will focus a bit more on the writting too. Moreover, i could notice that games were really effective with this students. Therefore, i'll orginize more games for the next semester.

In conclusion, i think the students enjoyed the way i taught them french and how i tried to help them. However, even if the students seem to enjoyed the class, there are some points i need to improve like giving more time to the writting productions and trying to insert games.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ歴史研究
授業コード 34D10-001
教員名 SZIPPL, Richard
教員コード 017582
登録人数 56
回答数 25
回答率 44.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) 目標と到達度
目標は20世紀ドイツ史の主な動きと特徴と全体の流れを理解し、現代ドイツ事情を理解し興味をもっていることとしているが、設問5「この授業の到達目標を理解することができたか」と設問6「この授業の到達目標に向けて力がついてきている」という項目への評価はどちらも4.52点であり、「この授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったと感じたか」という項目への評価が4.76点で、大学全体と学科両方の平均値を上回っているから概ね到達できたと思う。

2) 自己点検・評価
この授業は、一作年度から外国語学部全学科と国際教養学部の学生が履修できるように、一作去年度の評価が大学全体と学科の科目と比べるとほとんど下回っていた。今回の評価では、去年度と同様に、設問8（教員の声や音声機器の音の聞き取り）と設問10（私語、携帯電話、遅刻等に対する適切な対処）以外は、すべて大学全体と学科目の平均値を上回っているため、大分改善してきたと言える。今年度も受講者の異なるバックグラウンドを考慮し内容をより理解やすくしようと続け、自由記述欄に「様々な資料を使って論理的に説明していた」や「細かく教えてくださってよかった」という指摘があった。

3) 今後の改善に向けて
上述の設問8（4.52点）と設問10（4.56点）」についての評価はそれほど低くないが、改善の余地があるから、改善の工夫をしたいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語III会話2
授業コード	35C05-002
教員名	趙 晴
教員コード	100960
登録人数	6
回答数	2
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

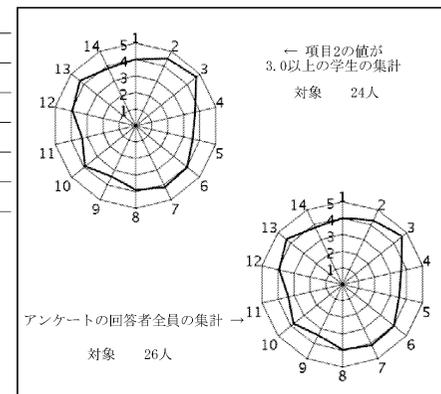
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

少人数だったので、一人一人の学生に合わせて授業を進むことが出来ましたし、学生の個性やそれぞれの良さも一層分かるようになりました。毎回基本会話を復習しながら、新しい文型や言い方を楽しく覚えてもらいました。テーマを決めて、個人発表も何回もありましたが、みんなよくできました。発音も良かったし、発表する内容も面白くて、知らない単語や言い方もお互いに学ぶことが出来ました。アンケートの統計はできなかったが、当初設定した授業の目標にほぼ達成したと思います。学生たちはみんな学習態度が良く、真面目で明るく、勉強する雰囲気がとても良かったです。私にとってもたいへん楽しい授業でした。学生の皆さん、ありがとうね！
これからもなるべく学生のことをよく見て、学習状況をよく把握して、授業のやり方を調整しながら行っていきたいと思います。学生の皆さんは更に興味を持って学んでいけるように、もっと工夫をしていきたいと考えています。
教え側と学ぶ側、共に頑張りましょう！
謝謝！一起努力！

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門1
授業コード	40B03-001
教員名	近藤 仁
教員コード	014431
登録人数	36
回答数	26
回答率	72.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

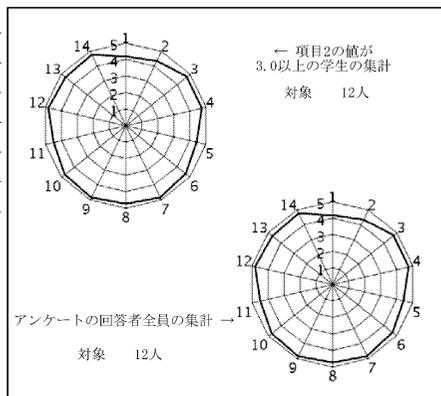


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、学生が、データの処理手法や統計解析手法を、理論的かつPCによる実践を通して、習得することを目的としている。この目的はほぼ達成されていると思う。これは、知識や技能の習得という項目13の評価が4.35、到達目標に向けての力の向上という項目6が4.04、であることから理解できる。
学生の理解度への配慮や学習意欲の引き出しへの努力という項目の評価が、3.5を幾分下回っている。レポートを採点して返却、誤りや注意点を説明して、再提出をさせ、理解の向上に努めているが、他のクラスと比較して、厳しすぎるというコメントがある。しかし、非常に役に立つ講義であるとの評価もある。
本講義の内容は、社会人として最低限必要な知識、技量であるので、学生が十分理解できるような講義にしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門5
授業コード	40B03-005
教員名	西 一夫
教員コード	103655
登録人数	35
回答数	12
回答率	34.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

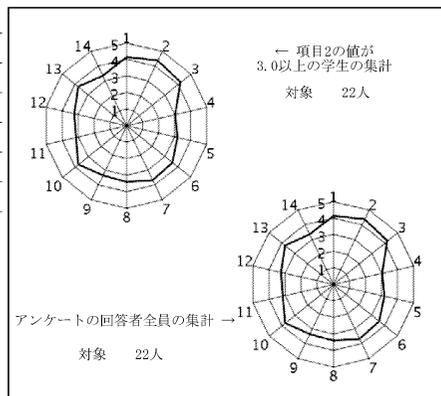


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回も回答学生の人数が少ないため、参考データとして評価報告を行う。
データ処理入門の到達目標として下記の点を掲げた。
『ワードとエクセルの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける。』
この目標に対しては、授業評価項目番号5（この授業の到達目標を理解することができましたか。）においては4.42であり、これまでの平均値より低い値となった。
原因としては、高校時代にあまり表計算やワープロソフトを使ってこなかった学生が存在したこと。回答学生が少ない中で評価3が2人存在したことなどが考えられる。
また、6（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。）は4.67の評価となっているため、概ね達成できたと思われる。
昨年度と同じ教室で、設備も視覚・音響的にも学生に分かりやすい環境であったため、声の聞き取りなどの評価も良い値となった。
座席も自由席であるためなかなか学生の氏名も覚え辛いが、今後もなるべく学生の特徴を掴んで楽しい授業を心掛けたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済統計入門1
授業コード	40D05-001
教員名	荒深 美和子
教員コード	049353
登録人数	42
回答数	22
回答率	52.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

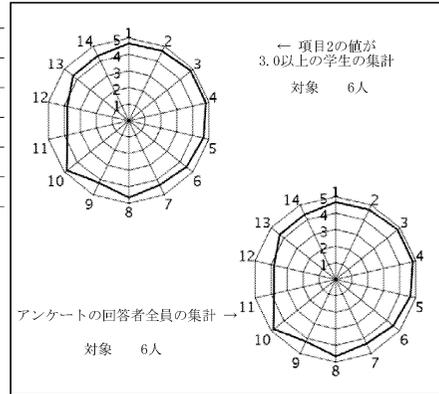


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は「統計学」をパソコンのExcel上で学んでいく入門科目である。今回、履修者42名中のうち実質履修者は39名であった。出席者35名の授業中にアンケートを実施したが、回答したのは20名であり、その後回答した2名を加えた22名（回答率56%）による結果で授業評価を行う。「授業についていけなくなった時点で、いつでも授業を止めるように」と最初の講義の際に授業の進め方を説明し、單元ごとに確認しながら授業を進めているが、実際に学生からの質問等による中断はなかった。しかし、設問4で40.9%の学生は進行速度が適切な進捗ではなかったと回答していた。非常勤であることから、質問や相談の機会を授業時間以外にとることができないが、毎回、授業時間内にできるだけ全員が理解できたかどうかのチェックをしたい。学生のサインを見逃さないTAによる授業補助があるとよいと考える。学生に示すスクリーンが小さく、見え難い点にも問題があるように思う。配布プリントの内容に復習しやすいように操作手順なども盛り込み、授業中に使っている教員のファイルをネット上に置いておくことで、自主的な学習の機会をさらに促進し、それぞれの知識が本当に身につく授業を目指したい。設問13の「新しい知識を得て理解が深まった」では68.2%の学生がそう思うとの結果から、さらに学生が授業へ積極的に参加できる授業構成にしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	時事英語A2
授業コード	40E06-002
教員名	森川 信子
教員コード	100136
登録人数	9
回答数	6
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

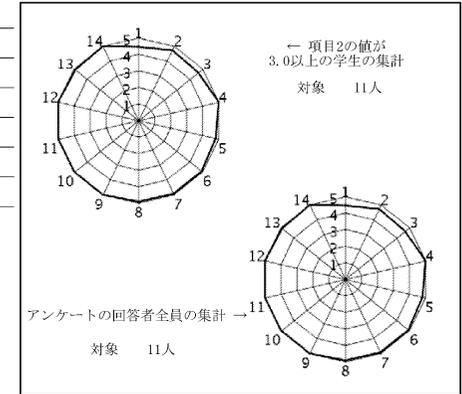


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目では、The Japan Timesなど国内外の新聞社が発行する英字新聞の記事および通信社等の記事を収録したテキストを使用し、社会問題や環境、科学技術、ビジネス・政治など身近なトピックを中心とした記事のリーディングを通して、英文記事に慣れながら読解力と語彙力を養うことを目的とした授業を行った。使用したテキストに解説と語彙語法等の練習問題が充実しており、それに沿う形で毎回進んだのは、テキストの特徴を生かし、受講者も勉強しやすいという点を重視してのことであったが、その反面、単調になりがちではあった。少人数のクラスで、受講者はみな真面目に取り組むことができおり、試験結果もまずまずであったことから、開講当初に設定していた目標はおおむね達成できたといえ、大きな問題はなかったと考えているが、次の学期では、テキスト以外の記事も読む時間を作り、授業終了後の自主的な学習への橋渡しになるようなことができたらよいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営学総論B
授業コード	40F02-001
教員名	太田 幸治
教員コード	103267
登録人数	21
回答数	11
回答率	52.4%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

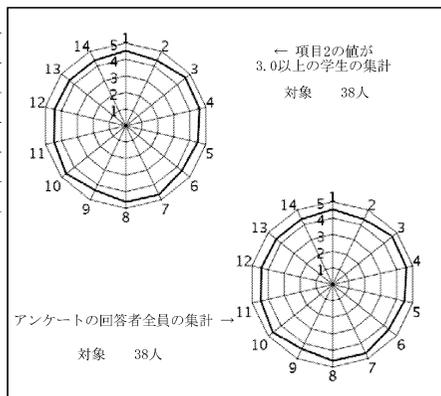


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本講座の目標は、経営戦略およびマーケティングの考え方を理解することであったが、実際の講義では経営戦略の基本思想に時間を割いてしまい、マーケティングの考え方は一部しか講義できなかった。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
今期も学生諸君から大変高い評価を頂いた。履修生が少ない科目だったゆえ、学生と対話しながら講義を進めることができた。小生の講義の主題およびそれに派生する概念、理論等の解説に学生諸君は身を乗り出して聞いてくれていた。小生も毎週学生と対話することが楽しく、小生にとっても有意義な講義の時間だった。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
毎回学生諸君から高い評価を頂いているが、履修生が増えることがないのが、本講座の最大の問題点である。履修者が少ない講義ゆえ、学生と対話しながら講義ができ、出席者の満足度が高いわけだが、そもそも講義で教員や学生同士の対話を求めない学生が多くいるようだ。かような学生が増えてくれるとありがたいのだが。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人事管理論A
授業コード	42C27-001
教員名	余合 淳
教員コード	103585
登録人数	119
回答数	38
回答率	31.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

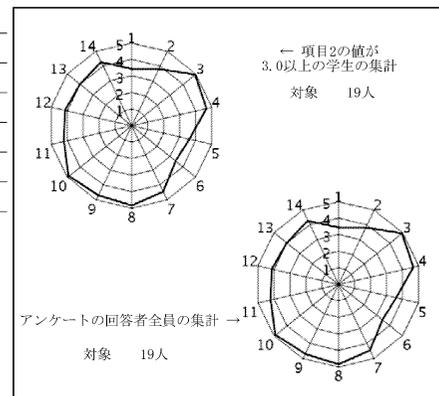
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
人事管理に関する基礎的な知識を踏まえ、企業に代表される組織と人のかかり方、特に組織側の視点に立ち、組織内の人々をどのようにマネジメントすべきかについて、特に理論と実践の関係性について理解することにあつた。講義では、通常消費者、あるいは労働者として接する機会の多い企業のマネジメントを対象に、特に人材マネジメントの観点から、企人事や労働を学習した。レポート及び期末試験の結果からは、概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データ全体の平均値は、経営学科平均値より最低でも0.1~0.2程度は高く良好である。満足度を問う問14に関しても、平均値より0.3程度高い。特に項目8については高く、適切な声量で講義を行うことを心がけている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
最も数値の低いものが予習復習と到達目標の理解であつた。講義の中で到達目標を具体的に明示するような形をとっているが、その到達目標を達成しているかを学生がより確認しやすい形をとるような仕組みを検討する。
講義内では、一部で私語や動画閲覧など、講義の円滑な運営上問題ある行動が少数だが散見されたため、口頭注意以外の方法も随時検討する。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	内部監査論
授業コード	42C38-001
教員名	岡田 昌也
教員コード	101623
登録人数	34
回答数	19
回答率	55.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

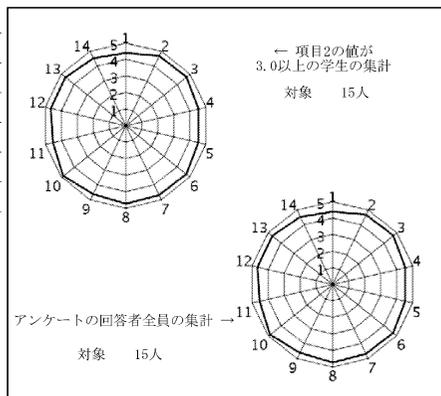


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達については①内部統制の概念を理解している、②コーポレートガバナンスにおける内部統制の必要性を理解している、③内部監査の仕組みを理解している、④J-soxの概要を理解している、としているが、回答平均値3.63であり、概ね達成できたものを考える。
内部監査という科目の性質上、実務を経験していないと最終的な到達目標を見出しにくいと、自由論述回答において1名が、要点が分かりづらいという意見があり、率直な意見であると思う。とはいえ、可能な限り実例を織り交ぜて解説したため、最終的な事業満足度としては4.26となっており、授業全体としては目標達成できたものとする。
設問1の“この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか”が3.42であり、さらに回答1が3人もいるため、科目自体の魅力がないのかもしれないが、実際の会社においては内部監査というのは重要であり、最終的な満足度はそれよりは高くなっているため、その点では当該科目は重要だと思う。
設問10の“私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていきましたか”は4.89であり、毎回出欠確認をしたためであろうが、近年の学生がこれほど当該項目を重視するとは想定外であったため、次回においても毎回出欠確認をする必要があると感じた。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報基礎1
授業コード 42D01-001
教員名 小澤 和弘
教員コード 103586
登録人数 50
回答数 15
回答率 30.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

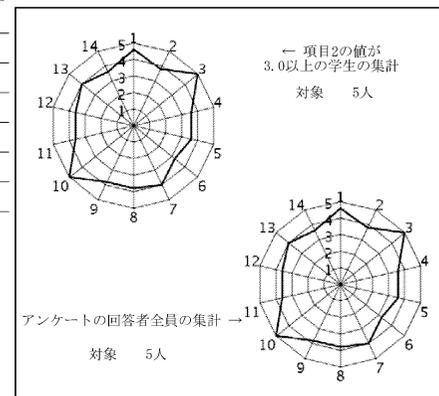
本授業は、情報処理機器の基本的な操作方法、文書作成、表計算処理の基本技術の習得を主な目標とし、コンピュータによるMicrosoft WordやExcelの演習を中心に授業を実施した。

学生による授業評価は、概ね高評価であり、授業目標もほぼ達成できたようである。自由記述には、「ワードやエクセルの使い方知らないことをたくさん知れたのでとても便利になりました」「パソコンの使い方がはじめはまったくわからず、授業についていけないか不安だったが、ゆっくりわかりやすかったため、力がついてきたと感じた」「パソコンの色々な知識が身についた」「分からないところを丁寧に教えてくれた」などのコメントがみられ、知識や技術を効果的に習得できていたようである。

次年度においても、本年度の授業内容を踏襲しつつ、主体的にコンピュータ操作の特徴や利点をより深く理解し、実用的な技術が身につけられる授業を展開できるよう努力していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IIオーラル・コミュニケーション3
授業コード 42G03-003
教員名 IVANCHENKO, Andriy
教員コード 102754
登録人数 6
回答数 5
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The learning objectives as set out in the course description seem to be fully achieved. Those students who regularly attended the class have fulfilled the course requirements with regard to oral presentation, class participation and homework assignments. The students' coursework was of satisfactory quality, showing attention to the class contents.

Judging from the answers, most students seem quite satisfied with the course in general, as well as the class management, including effective use of equipment and materials. Most students seem to have improved their skills and knowledge through the course, the classroom environment being mostly conducive to learning and participation.

I shall continue working on my performance, aiming to stimulate everyone's interest in the course and to help students acquire new knowledge, techniques and abilities. I shall keep up my efforts in all of the areas mentioned above, aiming to increase my students' overall satisfaction with my course.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法社会学
授業コード	44B33-001
教員名	藤本 亮
教員コード	047829
登録人数	47
回答数	4
回答率	8.5%
休講回数	4 回
補講回数	4 回

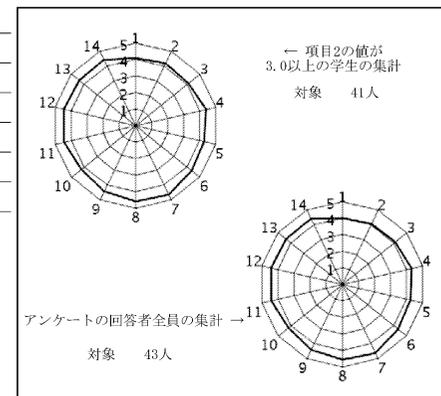
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価アンケートの回答者が50人中4人と少なく、同アンケートについての統計的な分析はできない。最終課題未提出者（履修放棄者）は13人（26%）であった。授業内容の到達目標に対しては、最終課題提出者37人のうち素点ベースで60%以上の者が27人（27.0%）と少なかったが、同50%以上の者は36人（97%）であった。授業方法や内容については例年と同じように実施した。クォーター制を考慮して、課題についても量的に軽減し、一つの書評レポートを手順を追って作成する一連の課題（対象論文のワークシートを使用しての批判的読了、関連研究論文の検索、書評レポート構成案、書評レポート提出）とした。Webclassへの会議室感想記入では論文の読み方やレポートの書き方がはじめてわかったという感想が多くみられたので今後も継続したい。ただし、ひとつのレポートを作成していくという複数課題間の流れを十分理解していない受講生がみられたので重ねて説明をするようにしたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学原論B
授業コード	44B41-001
教員名	荒木 隆人
教員コード	103862
登録人数	247
回答数	43
回答率	17.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

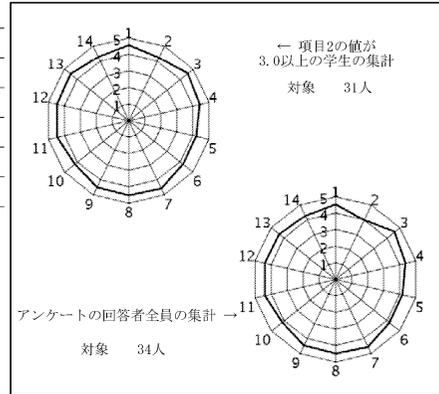


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本講義の到達目標としては、現代の政治学の主要な課題である一国家内の多文化共存についての方策を学ぶことであり、具体的にはカナダ、オーストラリア、イギリスの多文化主義やカナダ・ケベック州での間文化主義について、それぞれの理念と政策を理解できるようになることであったが、受講者の定期試験の採点結果から判断すれば、おおむね上記の目標を達成できていると言える。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
授業全体についての平均値は4.40であり、自由記述では多文化主義や間文化主義についての理解が深まったとの回答があり、受講生はおおむね本講義に満足を感じているように思われる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針
本講義では、授業量が少なく感じられたとの自由記述による回答もあったので、次回はその点を特に改善していきたいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法各論B
授業コード 44C10-001
教員名 尋木 真也
教員コード 104091
登録人数 325
回答数 34
回答率 10.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

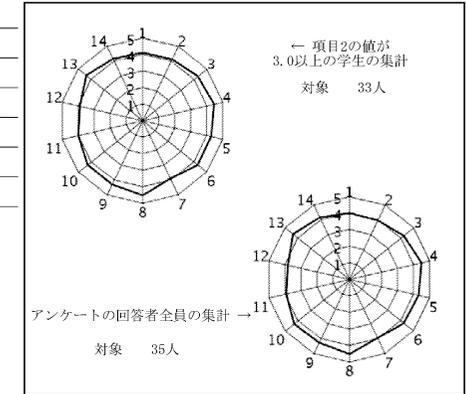
学生のみなさんの授業アンケートへのご協力に感謝申し上げます。本講義では、日本が直面している国際問題について、国際法の観点から考える能力を育むことを主たる目的としていました。現在進行形の問題を多く扱ったため、長い時間をかけたテーマと、短い時間で終わらせたテーマがありました。こうした時間配分は、今後の反省点として改善を図ってまいります。他方で、授業後に質問に来てくれた学生が多くいたことは、大変うれしく思います。

授業評価については、おおむねよい評価をいただくことができました。自由コメント欄では、パワーポイントの内容について肯定的なコメントをいただいた一方で、余計な効果が多いとの否定的な評価もいただきました。また、私語に対する対応が不十分との指摘もいただきました。

アンケート結果を踏まえ、今後より見やすいパワーポイントのスライドの作成を心がけてまいります。また、今回ははじめての授業内容であったため、次年度以降全体的に改善を図るとともに、タイムリーな問題を扱えるようアップデートしていきます。私語への対応については、気づいたときは注意しますが、大教室のため、後ろの方についてはわからないことがあります。私語が気になる人は、前の方に着席してもらえればと思います。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 消費者法
授業コード 44C14-001
教員名 上杉 めぐみ
教員コード 103096
登録人数 101
回答数 35
回答率 34.7%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

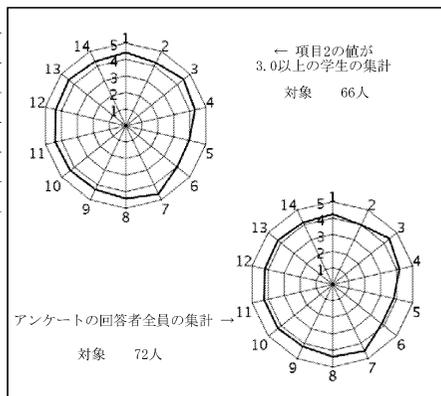


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期はひどいつわりのため、100%のパフォーマンスを提供することができず、当初予定していた目標にはほど遠い結果となった。そうした状況でも、出席していた受講生は真摯に講義を聴くなど協力的な姿勢で講義に臨んでくれたことで、講義を進行しやすかった。消費者法は、非常に法律の改正等が多く、教科書に記されていないことが多々出てくる分野なので、次回講義を担当する際も、最新の情報を取り入れ、正確な情報と受講者の関心を掻き立てられるような努力を行いたいと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会学概論
授業コード	46D07-001
教員名	松戸 武彦
教員コード	100357
登録人数	159
回答数	72
回答率	45.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

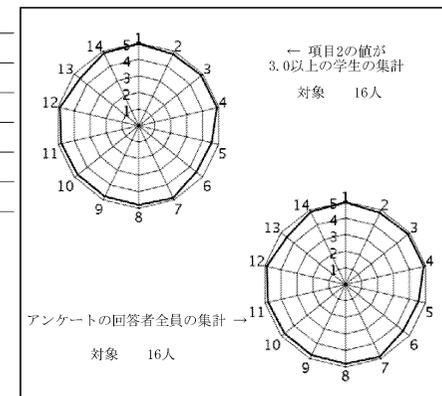


授業評価結果を踏まえた点検・評価

おおむね授業目標は達成されたと考えられる。今年度は学生の積極的授業参加が例年より良かったという印象をもった。もちろんかならずしも社会学に興味を持ってない学生はいつでも見受けられるが、今年度はそのような学生は少なく、少なくとも授業に出席している学生たちは内容に真剣な関心を示しているように見える。授業後の質問も例年より多くの、その大半が内容のある、質問する意義のあるものであった。また、毎授業任意でリアクションペーパーを出してもらっているが、今年はその点でも授業に積極的、かつ真剣に参加していることがわかるものが多かった。個別の評価項目については、これは例年みられることだが、上下に二極分化する傾向が今年も若干見られた。科目の本質から言って、具体的な社会現象に細かく言及することが多々出てくるが、この点でそもそも社会現象に興味を持たない学生にとっては興味を持たない可能性があると思われる。また、ポスト・モダン現象に正面から取り組む形で展開したので、自分たちのあり方を見ざるを得ないことになり、このことに対する否定的な感覚が若干の学生にあったことも考えられる。しかし、このことは、社会現象を問題化するとは、単に出題された問いを解くというようなことではないことを彼らに見せることになり、それなりに意義があったと私は考えている。とにかく授業にでて聞いてくれないと始まらないので、この点を大切にしていきたいと思っている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語IV[FF]3
授業コード	11B04-006
教員名	NISHINO, Aurelie
教員コード	103640
登録人数	16
回答数	16
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

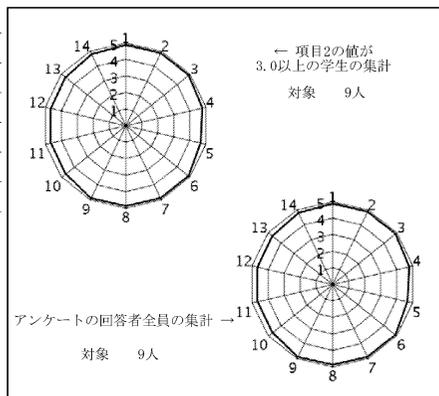


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. At the beginning of the quarter, we got a new class of French major students. They only have been studying French for 2 months. Our main objective was to bring them to a level A1 by the end of the second quarter. I think they manage to reach that level because of their capabilities and good levels. Also we managed to finish our book and they will be ready for a new book in the third semester.
2. As we advance in the program and the book, everything starts to look complicated for the students. As they are improving, the level is increasing. However, I try as much as possible to show our students that it might seem complicated but in fact it is not that much. Also I tried to reassure them and answer every questions in order to avoid the lack of motivations and the lost of interest.
3. The next quarter, I will try to make them practice more their speaking skills by doing some theater exercices and presentations.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語II<全>1
授業コード 11F02-028
教員名 李 香善
教員コード 103871
登録人数 40
回答数 9
回答率 22.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

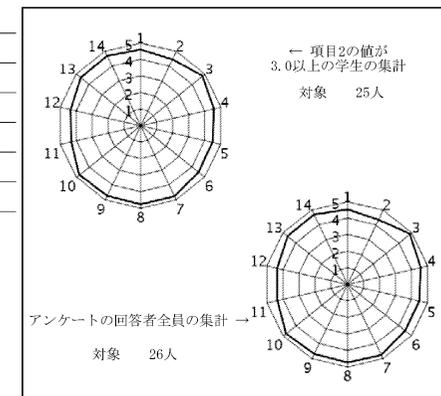


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第5時限の授業で、40人が履修をしています。
再履修の学生が多いのを構えて、まず、出席する事、しっかり集中して受講する事、授業に興味を持つ事、学習意欲を高める事を学生に求めながら、学生が楽しく、分かりやすく受講できるように、授業の構成や進行に工夫し、講義を行いました。朗読やペア会話練習や筆記練習など、できるだけ沢山声に出すように、ノートに書くように指導をします。結果、興味を持って達成感を覚えながら楽しく受講する学生がいれば、ただ単位の為に出席する学生もいます。今後改善すべきところと言えば、ただ単位の為に受講に来ている学生を、いかに授業に興味を持たせ、学習意欲を引き起こすかだと思います。よりいい授業が出来るよう、担当教員として努力したいと思います。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語II発音・聴力I
授業コード 35A02-001
教員名 周 先民
教員コード 100112
登録人数 27
回答数 26
回答率 96.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

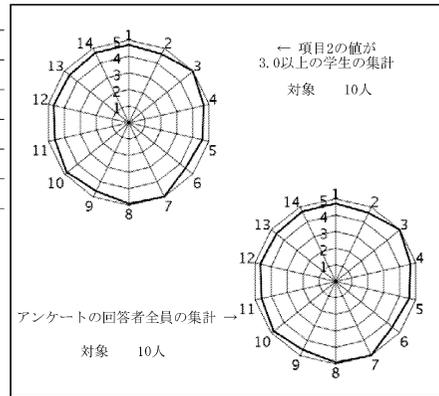


授業評価結果を踏まえた点検・評価

『学生による授業評価』の アンケートの結果を見て、授業に関する問題点、学生のご要望、授業の状況など、いろいろと分かってきました。項目1から14までの平均値4.60で、授業目標はおおむね達成していると思います。具体的に分析して見れば、14問の中に、4.80以上評価されたのは1問、4.70~4.79は3問、4.60~4.69は3問、4.50~4.59は4問、4.30~4.39は13問です。つまり、全体として、学生さんはこの授業に満足度がかなり高いと考えられます。「中国語だけでなく、中国についても知れたこと。」、「発音を分かりやすく教えてくれた。」、「先生が発音を正確に直してくれるところ。」、「先生の解説がわかりやすかった。」などコメントも書いてくれました。特にいつも課題になっている学生の予習や、復習や、自習の指導などに関するものは、前より改善したのです。でもこれは先生の指導力だけではなく、学生によるものです。これからもいいことを続けてやっていくつもりです。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語III会話1
授業コード 35C05-001
教員名 張 静萱
教員コード 048047
登録人数 27
回答数 10
回答率 37.0%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

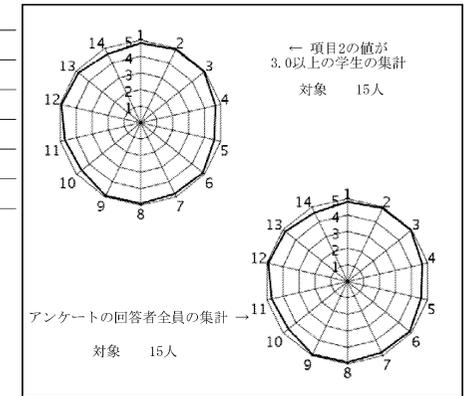
この授業は、中級中国語会話ということで、会話を中心に受講生のみなさんの話す力を伸ばそうと工夫すると同時に、中国語や中国語の背後にある中国に関する広い知識も上達し、身につけるようと授業を進めてきました。授業評価を見れば、皆さんからけっこう満点に近い高い評価をいただいております。開講当初に設定された授業の目標には達したと思われま

す。例年では、受講生の何人かは、一年間中国に留学に行き帰ってきた方がいましたが、今年はあまりそういう学生がいないので、会話の時間をできる限り設けるようにしました。アンケートの評価できるコメント欄に「教科書の学習だけでなく、会話の時間も与えてくださったこと。普通このような機会は、自分一人で作ることができないので、大変有難かった。」といただいております。

今後、評価されたところを引き続き努力し、とりわけ受講生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すようさらに工夫を凝らし、学生に合う更なる授業の改善策を考え、取り込んでいきたいと思

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(読解)1
授業コード 11L09-001
教員名 鈴木 照
教員コード 103293
登録人数 22
回答数 15
回答率 68.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

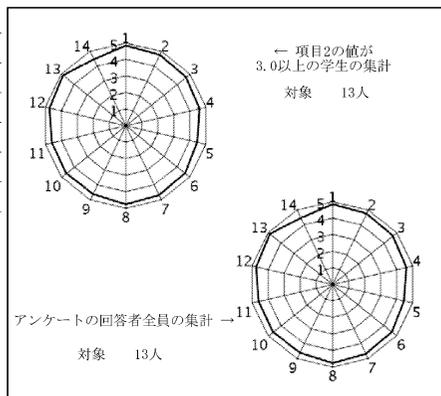
この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材や新聞、グラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。また、理解を深めるためにグループでの話し合いも取り入れた。

コース開始時には、初級の授業とは異なる日本語学習の授業形態への対応に苦慮している様子も見られたが、コース終了時には学習した文法や語句、表現を概ね正確に使用し、理解した内容を自分の言葉でまとめ直すこともできるようになり、目標は概ね達成できたものと思われる。設問6が平均値4.87、設問13が4.80であったことから、学生自身も日本語が上達したことを実感しているようである。しかし、設問4、5で1と回答した学生もおり、授業についてこられず、授業運営に対する不満を持った学生もいるようであった。個々の学生の様子に更に気を配る必要があると思われる。

これらを踏まえ、次学期は、今学期の授業内容を中心に、学生がより興味を持てるような内容を組み込み、学生の理解度や様子に配慮しながら、授業を運営していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術A)1
授業コード 11L10-001
教員名 蒔田 雅子
教員コード 102042
登録人数 23
回答数 13
回答率 56.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

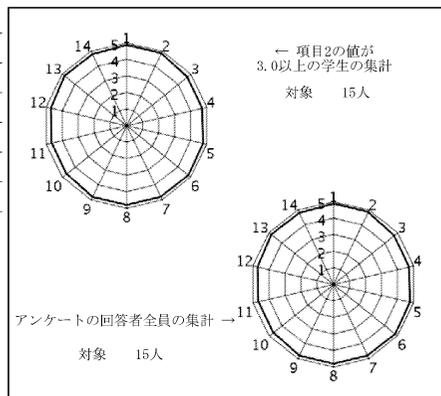


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は留学生のための口頭表現の授業であり、社会的な問題をテーマに、適切なデータを選択してわかるように説明し、ディスカッションを行うことを目標としている。学生は日常会話ができる程度の日本語力であるため、テーマに関しての資料を読んで理解することも容易ではないと思われるが、評価項目(Q13)では4.85と高評価であり、自由記述でも「発表をするための資料を調べるやグラフを説明する能力があがった」「発表のやり方がわかるようになった」という記述が見られたことはよかった。しかし一方で、授業の到達目標を理解し、力がついてきていると思うかという項目(Q5, 6)の評価は4.46、4.62と評価が低かった。回を重ねると遅刻者や調べが進まない学生が出るようになったのは、達成感が感じられなかった部分もあるのではないかと。自由記述の改善点で述べられている「講義の問題点の対策は政府が採用できる、でも先生は対策を利用できなかった。今まで理解できない。」という点については「既存の対策について調べた後自分の考えを述べるように」と説明していた点と関連のある記述であると思われるが、授業目標を十分に理解できていなかったのではないかと。日本語力に加えて思考力も必要とされることから、社会的な問題についてどう考えればよいか戸惑う学生も多く、開講時や授業中に到達目標を重ねて丁寧に説明していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術B)1
授業コード 11L11-001
教員名 三輪 志保
教員コード 103665
登録人数 22
回答数 15
回答率 68.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

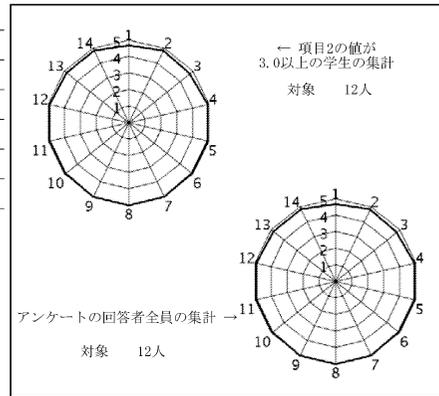


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① この科目では、作文の基礎知識を理解し、表現したいことを正しい文で書けるようになること、また、研究計画書の作成に必要な表現や形式が身につくことを目標としていた。最終的な到達目標は、習得した基本的な表現を使用して、研究計画書を書くことだった。ほとんどの学生が、作文の基礎知識を理解し、書きことば表現で作文を書くことができるようになった。また、最終課題である研究計画書の作成においては、必要な表現や形式の習得には学生の能力に差があったものの、その課題に対し努力する姿勢は全員に見受けられ、当初の目標はほぼ達成できていると感じられた。ただ、研究計画書の作成に必要な表現の実質的な運用や内容に関しては、個人差が顕著に表れた。
- ② 学生からの授業評価平均値を見ても、全てにおいて4ポイント台後半であり、また、コメントでも、「楽しい」「わかりやすい」「よかった」など、学生にとって理解しやすかったということで、授業内容に関しては評価できると言っていると思われる。
- ③ 今学期は学生間に能力差があり、7名もの不合格者が出た。来学期は、運用能力の個人差を極力減少させるために、全体フィードバックにかかる時間を毎回確保したいと考えている。さらに、補習授業担当の先生とも連携し、補習授業時間を活用して、基礎力が不足している学生に対して基礎力の向上をお願いしたいとも考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)1
授業コード 11L15-001
教員名 牧野 由美
教員コード 100727
登録人数 14
回答数 12
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

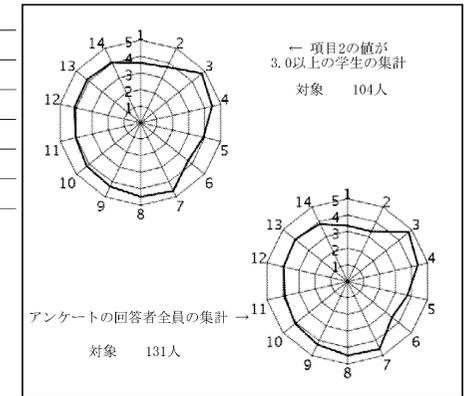


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得であった。文型・表現の練習と多くの作文課題を通して、個々の学生の文章力は向上した。文法的な正しさや資料の使い方の面ではさらに学習が必要ではあるが、ほとんどの学生が基本的なレポートの形式・表現・文型等を用いてレポートを仕上げることができるようになったという点で、目標は達成されたと考えている。
- ② 授業を通して、文法・表現の適切さに注意しながら書くことと、書いた文章の不適切さに気づいて直すことを学生自身が行えることを目指して指導してきた。また、課題は丁寧に添削することを心がけた。数値データを見ると、概ねよい評価となっており、学生たちも自身の文章力の向上を実感していることがうかがえる。自由記述でも課題の添削に対する学生の満足度がうかがえる。
- ③ 引き続き、より学生の実力向上につながるような授業となるよう、内容の見直しを行って次学期に臨みたい。総合的に書く力を身につけられるような指導方法の工夫を続けていく。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[HA・HP]2
授業コード 10A01-003
教員名 大庭 貴宣
教員コード 103877
登録人数 149
回答数 131
回答率 87.9%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

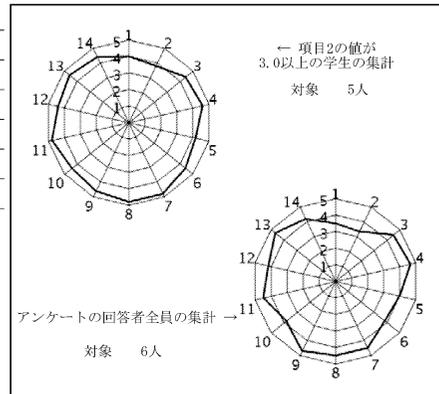


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標として、日本の宗教、そして外国の宗教について幅広く知識を得ることがあった。また各宗教の教えだけではなく、「悪の概念」「愛の概念」ということや、様々な国の宗教教育を通して、それらの問題がどのように捉えられているかを考えるということがあった。講義では準備していたことをすべて教えることができ、講義内容については達成した。けれども数値データを見ると、到達目標については学生に十分に伝えきれていなかったことがわかった。次回は、講義の到達目標をより繰り返し伝えたい。教科書がないため、配布資料を多くしている。学生の意見では「良い」というものもあれば「多い」というものもある。そのため、毎回の講義で配布するのではなく、はじめからまとまった資料として配ることができればと考える。また「説明がわかりやすい」との意見もあれば「わかりにくい」との意見もある。150人規模の講義のためすべての学生にとって「わかりやすい」となることは難しいかもしれないが、より「わかりやすい」講義をすることが今後の目標である。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳4
授業コード 10D01-004
教員名 浅野 幸治
教員コード 100779
登録人数 15
回答数 6
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

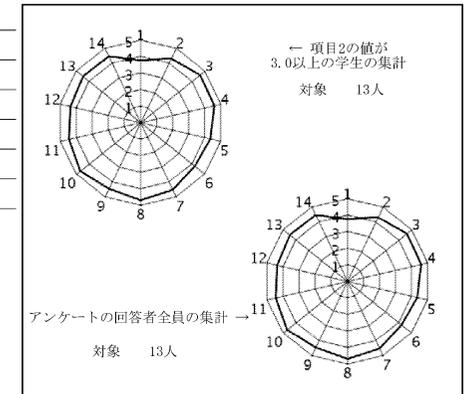
今回は学生数が少なかったからか、授業評価の数字は比較的良かったと思う。その意味では、授業の目標は達成できたのではないかと思う。ただし1つだけ、昨年後期よりも点数が下がったのが、「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」という設問項目である。この点、学生への問いかけや、レポート課題の事前説明に、次回からもっと時間をかけるようにする。

特に学期初めに、授業を受ける上での心得や準備を丁寧に説明する。そうすることで2つの問題点を改善する。第1に、授業中の私語や退室を抑制する。第2に、学生はレポートを書くのに必要な課題図書を学期初めに購入しておかないと、学期末に購入しようとしても店頭になく通販でも在庫がなく困ることになる。そういう事態を避けるために、学生が学期初めに課題図書を購入するように指導する。

もう1つ気になる点は、「新しい知識を得たり。理解が深まったと感じますか」という設問への回答平均値は高いのに、「この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という設問への回答平均値は低い。これは、おそらく「この授業の到達目標を理解することができましたか」という設問への回答平均値がそれほど高くないことと関係していると思われるので、授業の到達目標をより明確に示す。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法と人間の尊厳3
授業コード 10D05-003
教員名 土井 崇弘
教員コード 102440
登録人数 26
回答数 13
回答率 50.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

1. 授業概要

この授業は、講義形式で行われる。講義では、「個人の自由は無制限か?」「個人の自由はどこまで認められるべきか?」といった問題に対して、生命倫理の具体的事例とその背景にある理論の双方を取り上げながら検討を加える。なお講義の際には、レジュメの内容に沿って口頭で授業を進める。

2. 到達目標

(1) 法と密接に関係する現代社会の根源的問題を検討するために必要とされる基本的知識を理解する

(2) そのような問題に対して哲学的・理論的に考察するための基礎的素養と背景の視野を獲得する

3. 授業時間外の学習(準備学習等)

(1) 講義で使用するレジュメに目を通しておくこと

(2) 講義で取り上げるテーマについて日頃から問題意識を持つておくこと

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

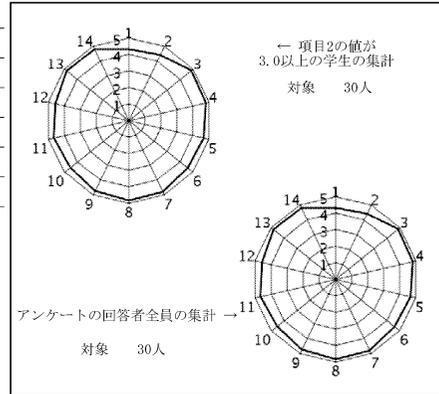
全体的には、担当教員が開講時に想定したとおりの評価を、学生諸君からいただくことができた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

担当教員が非常に多忙なため、次年度以降は、残念ながら、当該科目の開講が不可能になると強く予想される。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳4
授業コード 10D06-004
教員名 三谷 竜彦
教員コード 102441
登録人数 79
回答数 30
回答率 38.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

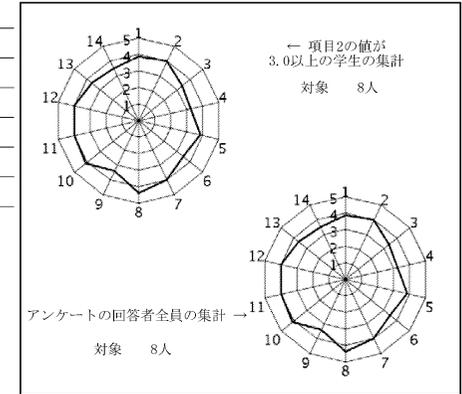


授業評価結果を踏まえた点検・評価

②受講生数は79名、回答者数は30名（回答率38%）でした。毎回のことながら回答率の低さが少し気になることはありませんが、今学期も全体的に好意的な評価をいただいたようで、ほっとしています。設問3～14の平均値は4.73で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.54）を上回りました。いつも最も重要視している設問13（「…新しい知識…」）および設問14（「全体として…」）の数字は、いずれも4.80で、いずれも「人間の尊厳」科目全体の平均（設問13が4.53、設問14が4.49）を上回りました。また設問10（「私語…」）をのぞくすべての設問において、「人間の尊厳」科目全体の平均を上回りました（設問10に関しては、同平均より0.01ポイント下回りました）。これらのことから、①開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって③今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していった方がいいのだろうと思っています。もちろん細かい点での改善など（具体的には、配布プリントやプレゼン資料の内容面・形式面のいっそうの充実化、発声のいっそうの明瞭化など）には、今後ともたえず取り組んでいきたいと思っています。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学B2
授業コード 12A02-002
教員名 星 揚一郎
教員コード 100986
登録人数 38
回答数 8
回答率 21.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



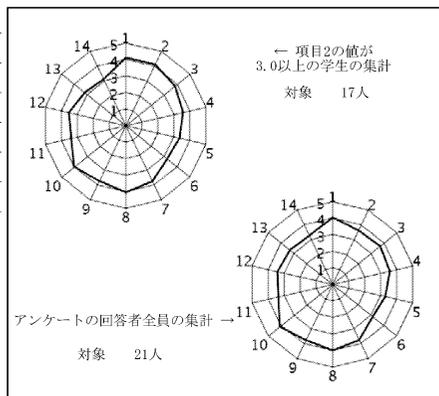
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスにしたがって、現代の哲学者の思想を概観しながら、受講者の問題意識とリンクさせて、最終的に自ら哲学することができました。つまり、9割以上の学生が、レポート作成のルールを把握し、自ら問題を立てて根拠をもって主張をすることができました。そのプロセスで、各自の専門にも繋がりを、現代哲学の専門書を読むことができるようになっていきます。授業中、授業後、質問に対しては丁寧に対応したつもりです。

ただ、少数ですが、シラバスに明記されており、授業で繰り返し確認している主旨を理解できなかった学生がいました。今後は、そうした学生に興味をもってもらえるように、声をかけるなど、コミュニケーションを工夫していこうと思います。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文学A1
授業コード	12A03-001
教員名	細谷 博
教員コード	015768
登録人数	49
回答数	21
回答率	42.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

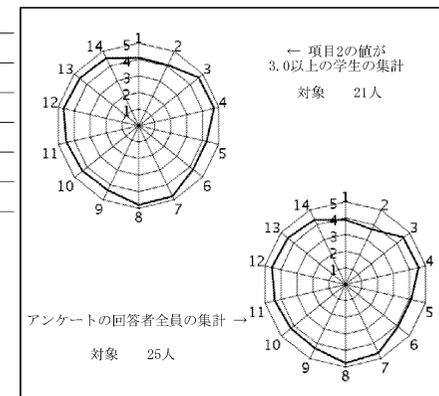


授業評価結果を踏まえた点検・評価

内外の近代文学の名作を比較しつつ、着実な読解力と解釈力を養うことを目的としたが、何度か書かせた意見の内容や定期試験の結果を見ると、一定の成果があったと認められる。数値データの結果と肯定的意見と否定的意見の両者は十分考慮すべきであると考え、参加者各々が自ら読解を深めた上で、自己の解釈を他の意見と比べながら点検し直すことを経験させ、さらに論理的に表現することの大切さと、書くことの喜びに気づかせることはできたのではないかと考える。多くの作品を次々に読解し、各々のモチーフと表現の各部分を比較しながら話を進めたので、中には十分に理解の及ばない受講者もいたことと思われる。しかしながら、多くの受講者の反応を考慮しつつも、より意欲的で積極的な学生に対してもしっかりと対応していくことが重要であろうと考える。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人文地理学2
授業コード	12B09-002
教員名	長島 雄毅
教員コード	104099
登録人数	41
回答数	25
回答率	61.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

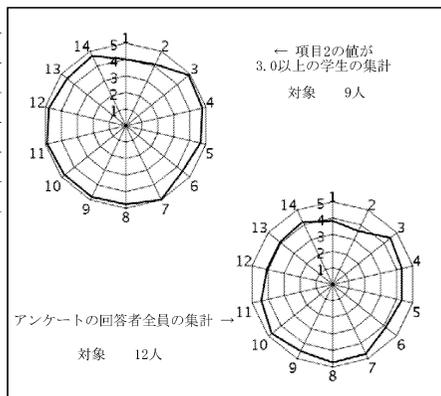
本講義では「人文地理学の諸概念や思考方法を理解できる」「人間社会の中で起こるさまざまな現象を人文地理学的な視点から考えることができる」の2点を目標として設定した。毎回のリアクションペーパーや小レポート、定期試験をみても、多くの学生が講義で得た知識を自分自身の問題意識に引き付けながら活用している様子がうかがえ、目標に到達できているのではないかと考えている。

「授業評価」については、知識・理解（設問13）や満足度（設問14）など、多くの項目で平均値以上の評価が付けられていた。今回が本学での初めての授業担当であったため、リアクションペーパーによって質問に回答するなど丁寧に進めるようにしたが、その点についても好意的に受け止められているようである。一方で、授業内容への興味（設問1）や主体的な参加と努力（設問2）については評価が低めであった。前者に対してはシラバスの内容の見直し、後者に対しては開講期間中の課題などを通じて積極的な参加を促すことなどが必要かもしれない。

本年度は次クォーター以降の授業担当はないが、次年度以降に再び担当することになった場合には内容を適宜見直しつつ、より充実した授業を構成したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地誌概論2
授業コード 12B11-002
教員名 佐藤 久美
教員コード 102924
登録人数 62
回答数 12
回答率 19.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

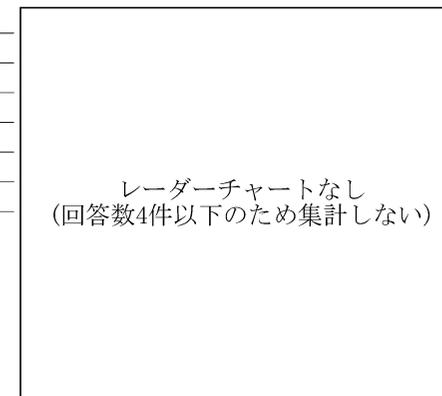


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1（この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか）、および2（受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか）に対する回答が点数が他に比べて低い結果となっていた。授業内で翌週の授業内容について周知し、予習を促すことによって、授業の理解を深めるような仕組みを取り入れたい。自由解答欄に「世界の様々な国の歴史や経済状況などを知ることが出来て良かった。また、外国人には日本という国がどのように見えているのかということも学べてよかった」という記述があった。授業内ではPPT資料の提示と解説だけでなく、学生たちに理解しやすいように映像なども駆使していることが、このような評価を得たと考える。受講生が多いとなかなかQ & Aの時間をうまく作れないことがあり、工夫が必要であると感じている。授業内でリアクションペーパーを配布して学生たちの感想などや疑問などを次の授業時に紹介、回答しているが今後もこのような取り組みを継続して行いたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命科学
授業コード 12D04-001
教員名 成田 靖子
教員コード 100250
登録人数 22
回答数 3
回答率 13.6%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

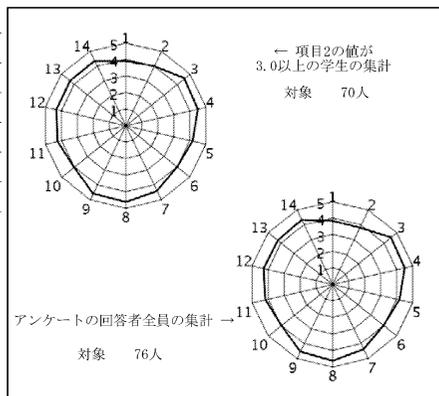


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当科目「生命科学」は小学校～高校までに学んだ生物（生命）に関する学習の集大成になると考え進めた。
当科目の受講生は22人であった。シラバスには成績評価基準として試験100%と記した。出席は取らなかったが、毎回出席は10人前後であった。この科目が授業評価の対象である事は授業中に学生に伝えた。しかし、アンケートに答えたのは4人以下と言うことで、データとしては表示しないことを知った。
学生の意見はわからないが、担当者としてのコメントを記す。定期試験出席は19人であった。授業中に大切なことを繰り返し説明したこと、宿題というかたちになったが、授業内容をまとめることを2回課した。そのためか、成績は非常に良かった。共通科目であり、就職は実生活に直接関係の無い科目であったであろうが、生物（生命）に関わる基本は頭のどこかに組み込まれたと考える。その知識がこれからの生き方にある程度の影響を与えるであろう事を祈る。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学B2
授業コード 12D07-002
教員名 金森 大成
教員コード 103294
登録人数 180
回答数 76
回答率 42.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



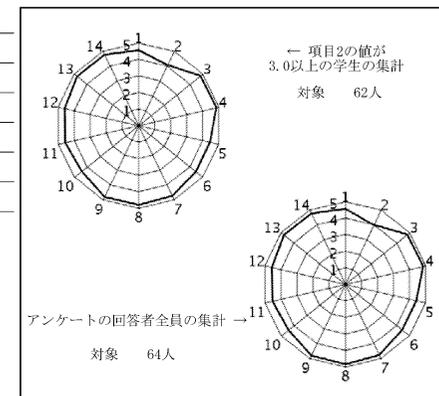
授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 講義を通して、当初予定していた講義内容を全て終了することができた。したがって設定していた目標を達成できたと考えている。

2, 3. 学生アンケートの自由記述欄には教室内の室温についての記述が複数あった。今回使用した教室は広い講義室であったこともあり、適切な室内温度の管理が難しかった。今後は室内温度をより気にかけるように心がけるつもりである。また、受講態度の悪い学生や私語等が受講の妨げになったとのアンケート記述も見られた。教室が広く、受講学生数が多いこともあり、講義に集中していると気が付かないことがあったのかと思われる、今後は学生の受講態度に注意を払い、適切な指導を心がけるつもりである。また、本講義の受講学生数に制限をかけることも検討する。本講義では講義に使用するスライドの一部を授業資料として配布し、資料として配布していないスライドについては適宜、要点をノートするようにしており、そのことを初回講義中に説明を行っていた。しかし、アンケートでは全てのスライドが資料として配布されていないとの記述がみられた。つまり、初回に参加していない学生のアンケート記述だと考えられるが、今後は配布資料についての説明を複数回行うなど、講義方針についての理解を徹底するつもりである。最後に教室内に設置されているプロジェクターについての記述も見られたが、機器の不具合等を見つけた場合は速やかに報告を行うようにしたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較1
授業コード 13A01-001
教員名 山田 幸代
教員コード 101367
登録人数 107
回答数 64
回答率 59.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

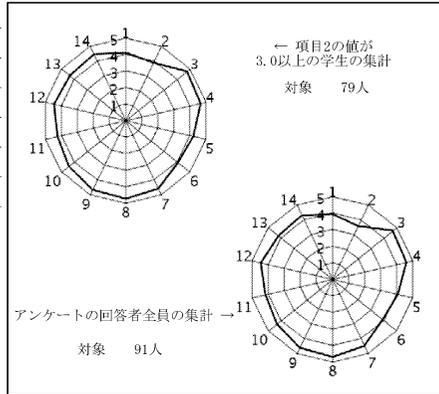
「ケルトの文化圏およびアイルランドの歴史と文化について知識を得ることでアイルランドに対する興味を引き出す」という授業目標は、達成できたと思われる。自由記述欄にも「全く知らなかったアイルランドについてとても興味が湧きました」というコメントがあった。

映画・ドキュメンタリ映像・音楽などオーディオ・ビジュアル教材を視聴することには好意的な感想が寄せられていた。「映画などつつきやすいものを含めていたので理解がしやすかった」「ケルトに関する映画や音楽を実際に見たり聴いたりしたので、よく雰囲気がつかめた」というコメントがあった。

「改善すべき点」については「スクリーンが暗くて見えづらい」という意見があった。灯りにも配慮しながら、できる限り対応したい。スライドをウェブで公開することについては、「スライドを後から見直せる場所もよかった」との意見があったので今後も続ける予定である。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	芸術をめぐって3
授業コード	13A04-003
教員名	小沢 優子
教員コード	101168
登録人数	132
回答数	91
回答率	68.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

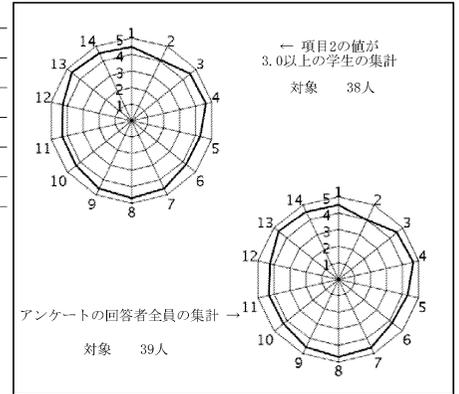
授業はおおむねシラバスどおりに進化した。また、毎回コメントや質問を書いてくれる学生も多く、諸芸術の歴史的潮流を踏まえながら音楽様式の変遷をたどるというテーマに対する興味や関心は高かったのではないかと思う。

今回のアンケートでは設問1～14の平均が4.29、設問3～14の平均が4.38。学際科目の平均とだいたい同じであるが、これまでのアンケートに比べると少し低い。授業のやり方を変えているわけではないのになぜ数値が下がるのだろうか、と思うのだが、学期ごとに異なる学生が受講しているのだから、経験だけに依るのではなく、その都度反応を見て微修正をしながらの授業でなければならないと感じている。

自由記述を見ると、楽譜、図、写真なども載せた資料によってわかりやすかったこと、たくさんの視聴覚教材を用いて実際に曲を聴けたこと、質問への回答が充実していたこと、などが授業の良かった点として挙げられており、このやり方はこれからも続けていくつもりである。一方、設問6と設問11の数値から、授業の到達目標に対する自覚と達成感、さらに自主的な学習意欲をどのように高めていくのかが今後の課題であると認識している。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ヨーロッパとの出会い3
授業コード	13B04-003
教員名	土屋 勝彦
教員コード	103268
登録人数	68
回答数	39
回答率	57.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

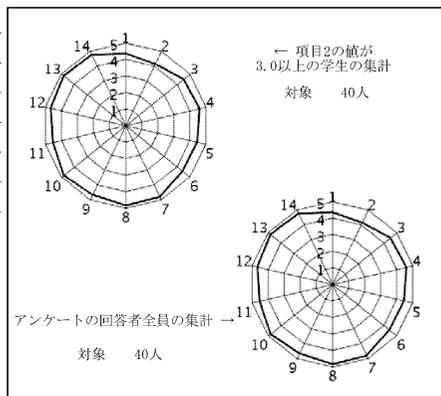
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。ヨーロッパ現代史において大きな犠牲者と破滅をもたらしたナチズム、そしてその中核を担ったアドルフ・ヒトラーを表象文化論的に考察する。ナチズムとヒトラーをめぐる言説・イメージを検証し、ファシズム体制がどのように構築されていったのか、ヒトラーがどのような人物であり、どのような行動を示したのか、戦後の非ナチ化と過去の克服はどのようになされていったのか、映像作品をもとに考える。これは現代ヨーロッパの右傾化および排外主義を考える場合にも重要な示唆を与えてくれるだろう。21世紀に生きていく私たちにとって、そこからどのような知恵を読み取り、平和論を構築できるのか、討議する。【到達目標】としては、ファシズムとヒトラーに関する知見を深めること、20世紀ヨーロッパの歴史文化と社会に関わる諸問題への興味や関心を深めることの2点である。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。総合的な満足度が4.54であったので、ある程度上記の目標が達成されたと思う。コメントでは、映像論的な説明や歴史的な説明をさらに求める意見もあり今後積極的に取り入れたい。またファシズムへの反省と平和論的な見解を述べたため、リベラル左派だと思った受講生もいたようだが、あくまで右左関係なく、現実を複眼的に見て、自分の意見を持つべきだという見解は伝わっただろう。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。多忙のため、来学期からは本校では講義担当できないが、今後も映像を使ったヨーロッパの歴史・文化・社会を講義する予定である。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会の諸相2
授業コード	13C04-002
教員名	山口 佐和子
教員コード	103067
登録人数	71
回答数	40
回答率	56.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

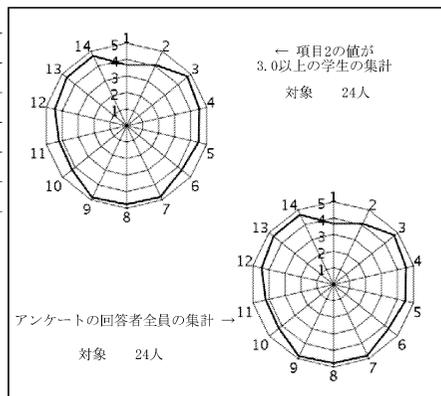


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開設当初設定していた目標と到達の程度については、＜授業目標を理解することができた＞のポイントが4.48(全体平均4.15)、＜授業の到達目標に向けて力がついた＞が4.43(全体平均4.07)、＜授業で新しい知識を得、理解が深まったまた＞が4.80(全体平均4.56)であり、自由記述においても「これまでと違う視点を持てるようになった」、「社会問題の関連性を学べた」、「幅広い観点を身につけることができた」というコメントがあり、これらのことから大よそ達成できたと考える。②数値データ・自由記述を概観すると、数値データにおいては、項目1～14の平均が4.60(全体平均4.32)、項目3～14の平均が4.66(全体平均4.37)であり、約0.3ポイント全体平均を上回ることができた。とくに、ポイントが高かったのは＜教員の声や音声機器の聞き取りやすさ＞(4.85)と＜私語・携帯・遅刻に対する適切な対処＞(4.83)であった。学生に適切な学習環境を提供できたと考える。自由記述では、「新聞を使うことで、学習内容を身近に感じた」、「教員の経験や考えを聞くのが毎回楽しみだった」、「教員の話し方に好感を持った」、「教員が熱心であった」、「質問時間を設けてくれて良かった」、「ゲストスピーカーを招待したり、教材ビデオの使い方が良かった」、「Q1のアンケート結果を踏まえて授業の改善をしっかりとくれた教員の誠実さが良かった」等のコメントがあった。今後も学生の声に耳を傾けながら、クオリティの高い授業を提供していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会の諸相6
授業コード	13C04-006
教員名	山口 亮太
教員コード	103824
登録人数	84
回答数	24
回答率	28.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

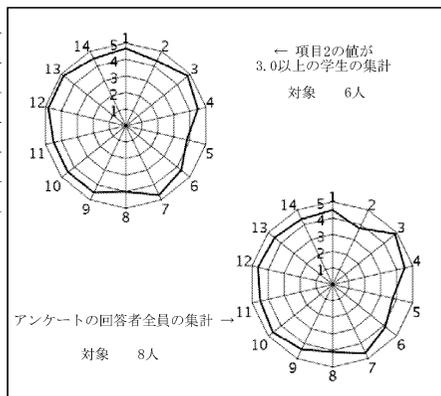


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初の目標と到達の程度
本講義は、アフリカ熱帯林における生物多様性保全活動と地域社会について学ぶものであり、以下の2点を目標として掲げていた。
A. 保全の歴史的展開について理解している
B. アフリカ熱帯林が置かれている現状に関心を持ち、そこで展開される保全プロジェクトが地域社会に及ぼす影響について多角的視点から考えることができる
授業内で実施しているコメント課題や、期末レポート課題を見る限り、この二つの目標は概ね達成したものと判断している。
②自己点検・評価
アフリカにおける生物多様性保全というテーマは、履修決定の時点では学生の興味をそれほどそそらなかったようである。これは、学生による授業評価だけでなく、コメント課題でも同様の記述が散見された。しかし、最終的には設問13、14のように、このテーマに関して学生自身の理解の深まりや満足感を引き出すことができたようである。また、これまでに担当した別の講義では、コメント課題を行う時間が短いという意見が散見されたが、今回の授業では課題のための時間を20分程度設けるようにしており、この点についての不満はほぼ無かった。
③改善点、抱負など
今回は、アフリカの事例の紹介に重点をおいて授業を行い、学生からの反応も上々であった。しかし、あまりにも日本人の普通の生活から乖離しており、イメージが掴みづらいという声も一部に見られた。このため次回以降は、日本における身近な事例の紹介も行うように努力する。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 自然環境と生物
授業コード 13D04-001
教員名 藤原 慎一
教員コード 102878
登録人数 33
回答数 8
回答率 24.2%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

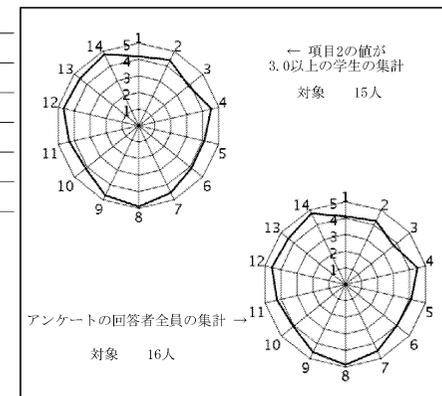


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本講義の到達目標は、「地球上の生命の進化史と多様化の過程を理解すること」、「動物のかたちの多様性についての知識を深めること」、「動物のかたちの持つ意味を理解し、環境への適応との関係を理解すること」の3点である。授業毎に行うアンケートで、多くの学生が、本講義の内容に興味を抱き、新しい知識や動植物を見るとき観点を養ってくれたことは実感している。ただし、授業から学んだという実感の程度は、学生のやる気や関心によってまちまちであったことも同時に伺えた。
- ②数値データは概ね高評価であった。ただ、アンケート実施の周知を徹底できていなかったためか、回答者数が受講者の数に比べて著しく少なかったため、全体の評価を反映した数字だとは言いがたい。アンケート実施期間前後の授業で、アンケートについて周知を何度もしたが、アンケート実施期間の週に休講を挟んだことが影響したのかもしれない。授業では、学生の興味を惹くような課題を与えたり、資料を回覧したりといった工夫をしていたが、これらの工夫は総じて本講義の理解を助けることになり、学生から高い評価を得ることができた。
- ③次クォーターでは、私は本講義を担当しない。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは2
授業コード 13E02-002
教員名 成瀬 翔
教員コード 103262
登録人数 48
回答数 16
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
到達目標としては、以下の2点を設定した。

(1) 19世紀末から現代にいたる哲学者たちが議論してきた言語についての哲学的議論の内容を理解することができる。
(2) 人間の言語活動の多様性に対する興味関心を深めることができる。

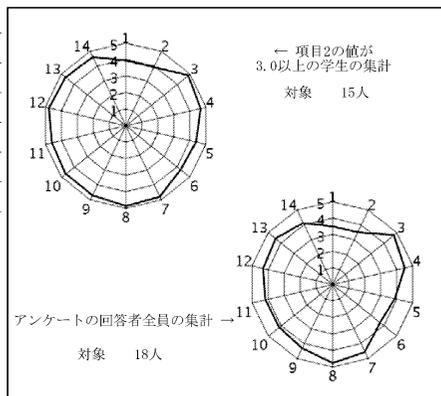
(1)については、フレーゲやラッセルなどの言語哲学の黎明期の議論を通じて、おおむね達成できたと思われる。また、(2)については、フィクション作品の分析などの言語哲学の応用的な側面を強調することによって、達成しえたと考えている。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」という項目が4.75という点数であることは、授業運営が一定の成功を収めた結果だと思われる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

事前・事後学習の課題を充実させ、より学生の主体的な学習を促していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報1
授業コード 13E05-001
教員名 堀田 慎一郎
教員コード 104095
登録人数 29
回答数 18
回答率 62.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

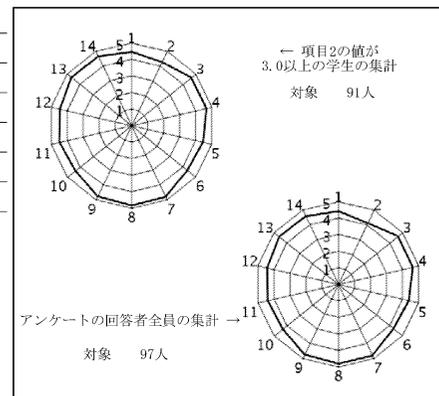


授業評価結果を踏まえた点検・評価

自己評価としては、受講生はおおむね目標に到達できたと考えている。しかし、設問5及び設問6の評価が低いということは、受講生の目標到達の自覚が低めであることを示している。また、設問2の評価が高い学生ほど、設問5及び6を含めて全般的な評価値が高い傾向があるということは、講義以外の自主的学習の機会を意識的に設ける必要を示している。ただ、設問1の評価が低いことから分かるように、当初から受講生はアーカイブズ学に関する関心や意識が低いので、これを引き上げつつ目標に到達させることの難しさを実感した。また自由記述から、2か所のアーカイブズ施設を見学する機会を設けたことが受講生に好評であるとともに、目標への到達に寄与したことを確認できた。次の第4クォーターでは、受講生に自主的な学習を促すようにすること、受講生のアーカイブズ学へのモチベーションを引き上げる工夫をすること、目標に到達したことを自覚できるような措置を取ること、などを考えたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報社会の構造1
授業コード 13E06-001
教員名 井上 寛雄
教員コード 102683
登録人数 248
回答数 97
回答率 39.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

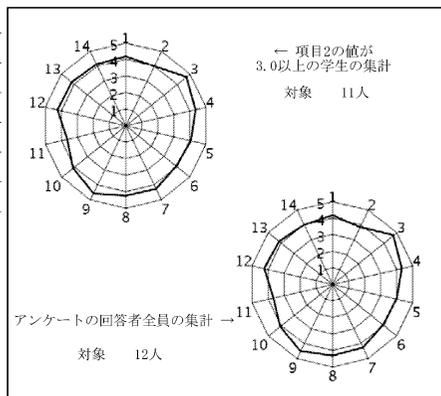


授業評価結果を踏まえた点検・評価

総じて学生からの評価は高く、実感としても満足のいく授業をすることができた。とりわけ、この授業に対する熱意が学生に伝わり、結果として満足してもらえたことは、今後の励みとして、来年度へつなげて行きたい。プレゼン資料に関しても、識字や音声上の問題もなく、授業を円滑に進めるのに役立っていたようである。課題としては、前年度からも続いている問題ではあるが、大教室での授業であることに起因する、学生の主体的な授業参加という面に弱さは否めない。また、予習・復習に対する取り組みも十分なものとは言えない。毎回授業終わりに次回の講義までに、押さえておいて欲しい部分や、準備しておくべき内容を伝えることで、学生に予習・復習するにあたっての具体的な指針を与えるようする。そのことで毎回の講義が全体の中でどのように位置付けられるのか、学生にイメージを持ってもらうようになり、それが授業に対する積極性につながるようにしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	科学の諸相2
授業コード	13E08-002
教員名	大野 波矢登
教員コード	100625
登録人数	40
回答数	12
回答率	30.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

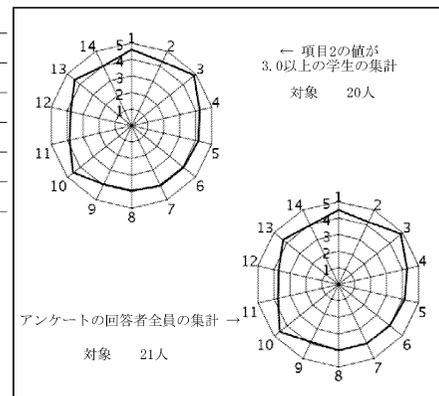


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業の目標は、西欧科学革命期の世界観・人間観、科学と宗教の関係、科学知識と科学者の活動の特徴、科学技術が社会に及ぼした影響等を知り、近代科学の成立とその思想的背景について理解を深めることであった。目標達成度は、授業時に実施した2回の小テストおよび定期試験の合計の平均が77.5点であったことから、80%程度であると思われる。
- ②アンケート結果については、項目番号1、2、3、9以外のすべての設問の値が学際科目の平均値と比較して低く、全体的に改善が必要であることが分かる。特に、設問7が4.25、設問11が3.67、設問14が4.00となっており、教員の授業への取組みの誠実さ・真剣さ、学生の積極的な授業参加や自主的な学習を促すための指導・情報提供といった点に、問題があったことが分かる。また、学生による自由記述で、改善すべき点として、「プリントと前のパワーポイントがどこがどう対応しているのかが分かりづらかった点」というのがあった。
- ③今後の改善点として、第一に、授業の到達目標、授業時間内および時間外に行うべきことを明確に示し、適切な指導と情報提供を行うことによって、学生が学習意欲を持ち、自主的に学習できるようにすること、そして第二に、授業での話し方や配布物の作り方を工夫することによって学生が理解しやすい授業を行うことを心がけていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	博物館学B
授業コード	15M02-001
教員名	鯨井 秀伸
教員コード	103690
登録人数	43
回答数	21
回答率	48.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

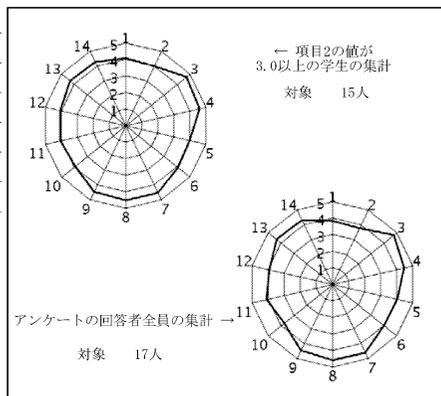


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初設定の学習目標と到達の度合いについては、計画通り達成できたと考えている。各週の授業内容も計画に沿ってすすめることができた。また、内容についても学生の反応を見ながら進められたと思う。
2. 3. 授業における数値評価を見ると、学生の授業参加や自主的な学習を促すための工夫に不足する部分があったと思われる。授業計画、資料の配すなどできるだけ学生の便宜を図った取り組みに心がけたが、授業への参加姿勢や自主的取組を促す工夫も考えながら、次の学期にむけて対応を図っていきたいと考えている。学生からの質問や相談の機会を授業中に設けられるよう、授業の配分を工夫したいが、全ての時間に渡って設けることは、授業計画において内容と時間を配分して計画しているため困難な部分があるが、15回の中で特定の時間に質問や相談の時間を設けられるよう配慮したいと考えている。学生の満足度を高められるような授業構成を図っていききたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生涯学習論
授業コード 15P08-001
教員名 辻 浩
教員コード 104094
登録人数 103
回答数 17
回答率 16.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

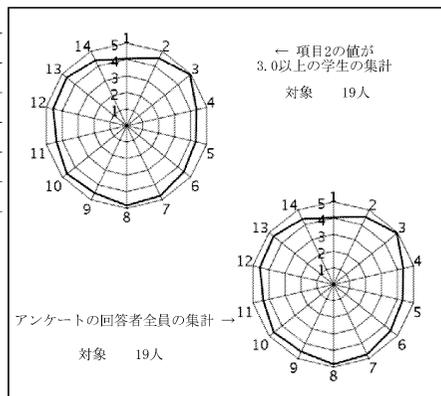
授業の到達目標の理解（5項目）が4.06、授業の到達目標に関する力量形成（6項目）が4.00と比較的高い評価になったので、授業の到達目標はほぼ達成されたのではないかと考える。

予習や復習の取り組み（2項目）が3.76とやや低かったのは、予習や復習が必要な指示を出さず、授業の中だけで完結させていたからだと思われる。また、私語・携帯・遅刻への注意（10項目）が3.75とやや低かったのは、授業の最後にコメントペーパーを提出して出席確認をしたため、遅刻者が比較的多かったにもかかわらず、注意をしなかったことが反映しているものと思われる。さらに、質問や相談の機会（12項目）が3.94とやや低かったのは、全体に質問があるかと問いかけることなく授業を終えたことへの不満なのかもしれない。個別の意見では、板書を消すのが早いという意見があった。

予習・復習をする仕掛け、遅刻者への注意、質問の受け付け、板書を消すタイミングについて、今回いただいた評価をふまえて、授業改善を行ってきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報資源組織演習II2
授業コード 15P11-002
教員名 木幡 智子
教員コード 103854
登録人数 25
回答数 19
回答率 76.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

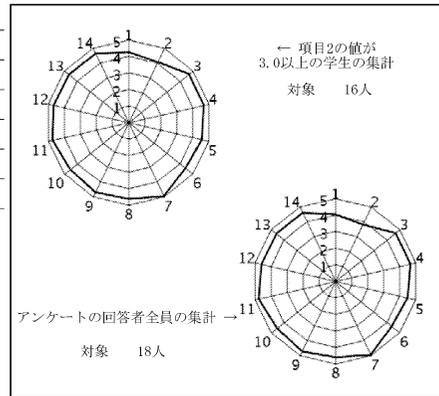
説明の後、個別に演習を進め、時間を区切って解説を行うという形式で講義を進めていきましたので、学生の進度に講義の進度が左右されますが、必要な演習については全体的に終わることが出来ました。学生により進度にばらつきがあるため、宿題として調節出来れば良いのですが、授業前30分程度しか、図書館の講習室を開けて課題作業が出来る状況を作れず、積極的に課題に取り組んでももらうことが難しかったです。

自由記述から、グループでの学びがしにくい雰囲気だった事や、間違いの指摘が高圧的に感じられた事が指摘されていましたので、振り返り、学びやすい対応を心がけたいと思いました。また、作業場所をより快適にできるよう、工夫をしていきたいと思います。

今回のアンケート結果では、内容については満足されている学生の声がある一方で、方法について改善の必要が指摘されており、大変参考になりました。今後は、学生の興味関心を高めながら、学び合う雰囲気を作り、間違ふことからも学べるようにしていきたいと思っています。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教芸術B(典礼音楽)II
授業コード 21C10-001
教員名 吉田 文
教員コード 102447
登録人数 32
回答数 18
回答率 56.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①

到達目標は、以下の様に設定した。

1. キリスト教典礼音楽への理解が深まっている。
2. 歌唱を通して発声の基礎と斉唱、合唱の経験が深まっている。

設問5と6ではやや低めの平均値の結果が出たが、設問13、14に於いては比較的良好な結果となっていることから考察すると、学生による評価の結果は、おおむね授業に対して肯定的なものであると思われる。

授業ごとに行っている振り返り用紙の記入事項からも、学生の授業への理解度と経験値は深まっていると考える。

②

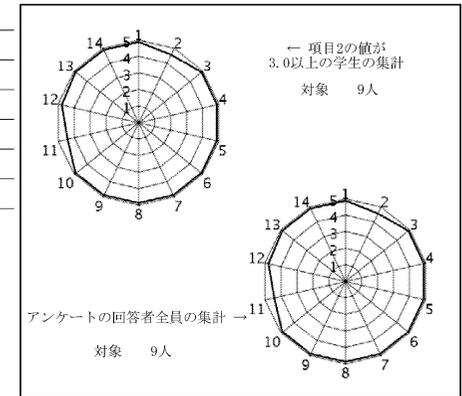
評価の中で比較的低い2の項目に関しては、シラバスに記載されているように、常に講義の内容は各自で予習復習し、また演習する作品とその他の作品も積極的に親しむようにすることとしている。特に決まった予習・復習の課題は与えていないが、常に発声練習の基となるストレッチや自己表現の方法について考察する等示唆はしている。今後は授業内でもさらに意識的に積極性を促していきたい。

③

受講した学生の大半が、これまでの知識や経験とは異なる分野に触れ、大変多くのことを吸収してきたことは、振り返り用紙やレポートからも読み取ることができる。今後の課題としては、学生自身が新しい知見を得たことを自分自身で理解する経験の機会を与えることと考える。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(健康スポーツ)卓球
授業コード 14E04-003
教員名 福田 和夫
教員コード 043950
登録人数 10
回答数 9
回答率 90.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

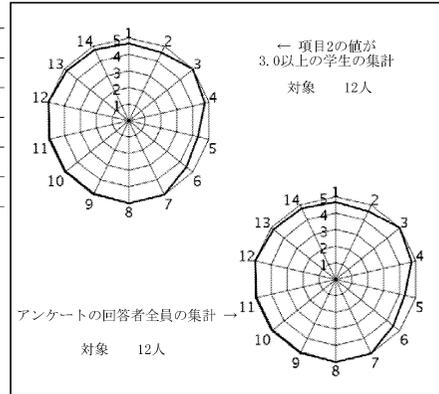


授業評価結果を踏まえた点検・評価

男子5名、女子5名、計10名のクラスであった。高校での卓球部所属者が1名（男子）であった。自由記述の「この授業の良かった点、評価できることは何ですか」の項目に対する回答は次のようであった。①「毎回違った練習法を紹介してもらえたこと。」②「先生が練習を工夫してくださって、わかりやすかったし楽しかったです。」③「先生が優しく教えてくれて、上達できた。」④「先生の授業がとても分かりやすかったです！」⑤「またとりたいです！」などであった。シングルスに比べてダブルスは、ややルールを覚えるのが大変であるが、このクラスの学生たちはスムーズに理解できたように思う。ルールの理解、基本技術のレベルアップも認められ、概ね授業目標は達成できたと思われる。男女が各5名ずつであり、混合ダブルスがとても盛り上がった。ダブルスの試合を多く実施できたことも良かったと思う。次クォーターに向けて思うことは、サーブの練習にもう少し時間を割きたいという点である。サーブがレベルアップすることで、より高いレベルの試合ができるようになると思われる。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国・朝鮮の言語と文化IV
 授業コード 35C29-001
 教員名 金 由那
 教員コード 101171
 登録人数 33
 回答数 12
 回答率 36.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



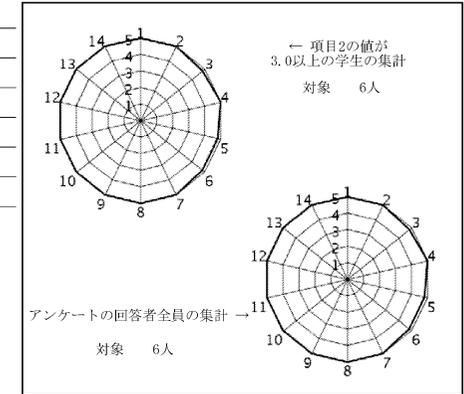
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バランスよく朝鮮・韓国語を学べるように、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なった。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「朝鮮・韓国語に触れる」ことを目標に講義を展開した。

その結果、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、「声に出して練習する機会が多かったため、覚えやすく、発音も理解できた。」「韓国の歌を歌うのが楽しかったです。また、言語だけでなく文化にもたくさんの時間を使ってくださったことです。特に軍隊のことを詳しく知れてよかったです。」「全体的に生徒のレベルが高めで、勉強になった。」「生徒の興味関心に合う授業（文化と言語など）をしていたこと。」「雰囲気が良い」などのコメントがあった。しかし、「既に持っている学生の実力の差が大きい。レベルでクラス分けしてほしい。」との改善点も出た。これから授業方法を踏襲してもっといい授業ができるように努力を続けていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会・地歴科指導法A1
 授業コード 15B45-001
 教員名 成田 健之介
 教員コード 101555
 登録人数 8
 回答数 6
 回答率 75.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



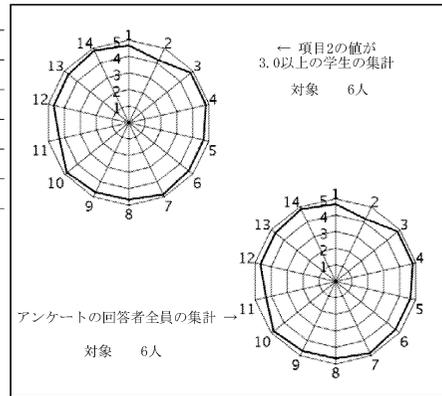
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、講義や演習、模擬授業等を通して、中学校社会科地歴分野と高等学校地歴科の授業に必要な授業実践力の基礎を養うことを目標にしている。前半は、講義と演習によって、新学習指導要領改訂の経緯をふまえた「主体的・対話的で深い学び」の理解を中心とした理論編とDVDによる学校教育現場での授業の実際を学修した。後半は、3～4名のグループでの模擬授業に取り組みさせた。授業構想、学習指導案作成、模擬授業を通して体験的に学修させた。

数値データからは、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」の5.00を始め、14項目中11項目が5.00であり、他の3項目も4.83と高い評価だった。この要因は、3限の「社会・地歴科指導法A2」に受講生が偏ったために、本授業2限「社会・地歴科指導法A2」の受講者が少人数となった点が多い。自由記述からも、「模擬授業の振り返りをする時間が十分にあった」「先生が学生のことをよく見て、うまく学生を使って授業をすすめていた」「少人数で、発言しやすく授業の雰囲気を作ってくれていた」「少人数だったので発言しやすく、コミュニケーションがよく取れた」という記述から、少人数による学修の質の高さを挙げる意見が目立ち、少人数による模擬授業や演習的な授業の効果が高いと考える。受講生が多くなると、全員に満足な模擬授業をさせることが難しくなるが、今後も可能な限りアクティブラーニングを意識し、模擬授業やインタラクティブ・ティーチングを取り入れた授業運営これまでの授業の流れを継続したい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国語科指導法A
授業コード	15B53-001
教員名	上野 裕章
教員コード	103859
登録人数	17
回答数	6
回答率	35.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

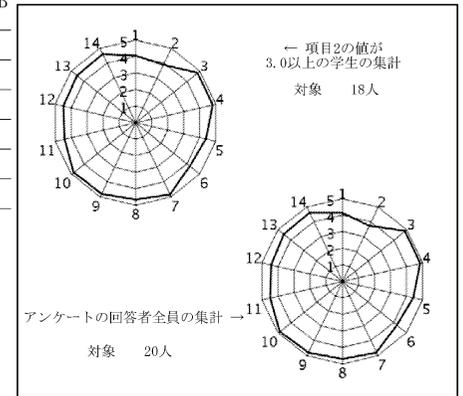


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①学習指導要領の目標と内容を理解し、国語教育の現状を踏まえ、授業実施の基礎・基本を身に付けることを目標とした。多くの受講生が、真面目に授業を受け、国語教育に興味と関心を持つことができたと思う。今後、新学習指導要領へのさらなる理解が必要である。
- ②項目1から14の平均値が4.67、項目3から14の平均値が4.71であった。自由記述には、「国語の先生になりたいと思えるような授業だった。ここまで意欲が出たのは初めてだった。先生のような国語の先生になりたいと思った」という意見がある一方で、「指導する側として、私たちが授業を行う上での注意点をもう少し話してもらえるとありがたかった」というような意見があった。これは、後期の国語科指導法Bで、学生による模擬授業を行いながら、しっかりと行っていきたい。
- ③国語科指導法Aは、講師主導の授業であった。国語科指導法Bでは、模擬授業を中心とした学生主体の授業を実施する。その中で、国語科授業の在り方、基礎・基本をしっかりと身につけさせていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B 12]
授業コード	11A02-009
教員名	岩城 奈巳
教員コード	049601
登録人数	22
回答数	20
回答率	90.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

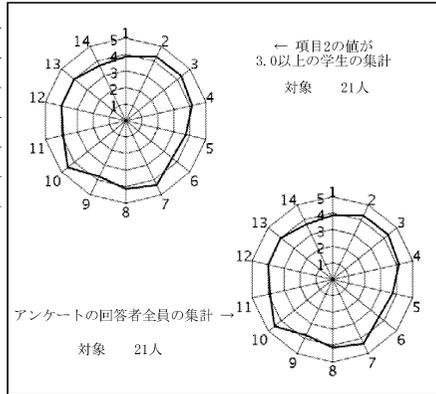


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義での目標は（シラバスに記載）概ね達成できたと思う。授業は「全員参加」であることを第一クォーターから常に意識させ、開始直後は頻りに声がけを含め参加を促していたこともあり、第二クォーターでは特に指示が無くても全員がペアワーク、内容確認、情報共有などを自発的におこなうことができるようになった。全体を通しての高い評価は、上記の工夫、さらに、学生一人一人の興味が持続するよう、教科書以外のプラスの教材を用いて授業を実施していたことも大きいと感じる。また、理解度の確認のため、毎回授業の冒頭に、前回の復習及び確認、その日のテーマと目標の設定をし、授業終了時には目標の達成度の振り返りをさせた。週1回のペースで実施しているミニクイズも学生の力になったと感じる。自由記述欄では、「教科書とプリントを交互にやり、歌なども取り入れ楽しく授業ができた」「幅広く英語に触れることができる」「ビデオ、早口言葉など中高ではあまりやらなかったことをしているので楽しく学習できた」などの好意的なコメントを見ることができ嬉しく思う。引き続き、第三、第四クォーターも学びの多い講義にしていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[B]
13
授業コード 11A02-010
教員名 HERSCHLER, Brian
教員コード 100552
登録人数 22
回答数 21
回答率 95.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The quarter was a success in terms of student opinions. Students were expected to be able to hold 3-5 minutes conversations and to give 2 minute presentations. These goals were largely met and most students put in the required effort. Students seem to be very satisfied with the class on all counts. Moving into the next quarter, I expect to see more student improvement and I hope to see a greater amount of effort put into the assigned tasks by students.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[B]
14
授業コード 11A02-011
教員名 VEGEL, Anton
教員コード 103503
登録人数 22
回答数 2
回答率 9.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

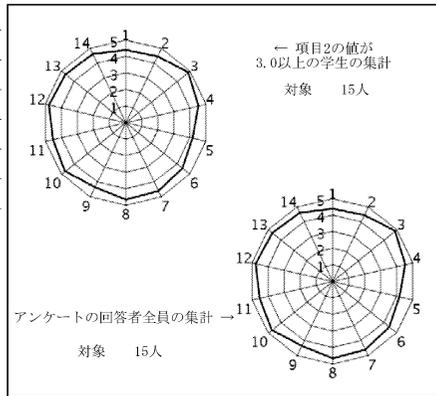
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals I wanted to achieve this quarter concerned mostly a continuation of a moderated approach. To do this, I utilized handouts that encouraged learners to reflect on their own performance while evaluating and comparing other learners' performance as well.
2. I believe overall this approach continues to serve its basic purpose. It directs learners to target forms, makes reflection more prominent, and makes performance time more productive for learners who are not being formally evaluated. However, without a radar view of the data, it is difficult to evaluate the outcomes based on the survey. Based on the learners' comments, it seems that they appreciate and value the group work and performance time although it was also mentioned by one learner that continuing with the same groups reduces natural tension related to communication.
3. Next quarter, there are some bigger changes that I hope to implement. Most pointedly, I hope to increase the amount engagement and washback related to the reflection tasks that are currently implemented. To do this, I plan to add utterance-based transcription to the in-class work. This involves learners recording and listening to their practice performances which they have already been practicing. The new addition will be having learners compete a reflection and transcription session after ever performance session. This involves learners in a group to listen to their performance and identify target linguistic aspects that they used while also identifying errors.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B 112
授業コード	11A02-019
教員名	MEJCHAR Benny
教員コード	100666
登録人数	22
回答数	15
回答率	68.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

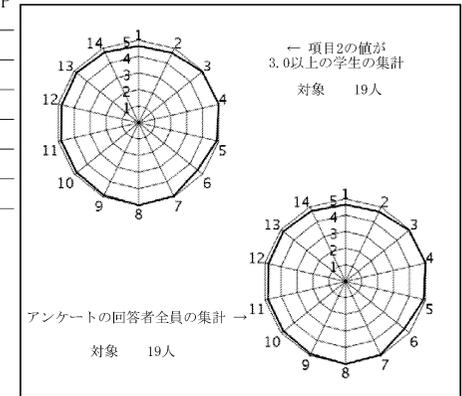


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The second quarter class assessment was more positive than quarter one. It was surprising because I felt that I was somewhat “losing the students”. As this is a class that meets twice a week and continues for the year keeping the student’s interest is a challenge. Thus this instructor was quite surprised. Until the writing of this assessment I had always focused on comparing my scores with the Language major teachers assessments. Then, I dawned on me that this is probably a high bar as those classes are of the student’s choice of major. On the other hand this instructor’s students are not the highest assessed of the NEEC classes. So, to have an even higher assessment in quarter two was satisfying. Question pertaining to pacing of the class scored the highest. That should not come as a surprise as the group has now been together for some time. “We have gotten to know each other and the class system”. With the relatively good assessment in general in mind, I think that an area of improvement could from being more strict in all areas but particularly in demands in class in oral communication work, as well with the student’s on going notebook. I will focus and getting troublesome grammar problems improved. We will use targeted copied grammar textbook material and apply it to both oral communication skills and to some degree to writing.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[P 110
授業コード	11A02-029
教員名	BINFORD, Paul
教員コード	046037
登録人数	20
回答数	19
回答率	95.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

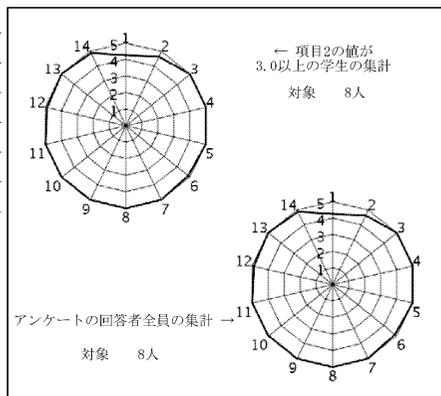


授業評価結果を踏まえた点検・評価

From looking at the radar chart it seems that there was a high level of satisfaction on the part of the students in Quarter Two. The curriculum was textbook based and included a final presentation and written report. The students, although their level of speaking English was not so high, made a great effort and in general were very cooperative and diligent. One of the comments on the report implied that the class should be more challenging. I focused on basic conversation skills, because it is an Oral Communication class. In the fall quarters, the curriculum will be based more on content, with a higher level of ability will be required. Although expressing ones opinion was not part of the Spring term, I would like to have more discussion about the content-based lessons in Q3 and Q4. The lessons in Q2 were structured to tailor to the immediate needs of the students, and hopefully the lessons prepared them to give opinions on general topics or ones related to their major, which is Policy Studies. There was a strong listening component in Q2, in the fall there will also be a considerable video component, as well as topics of more international subjects.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G16]
授業コード	11A02-037
教員名	DAVANZO, Christopher
教員コード	101653
登録人数	19
回答数	8
回答率	42.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

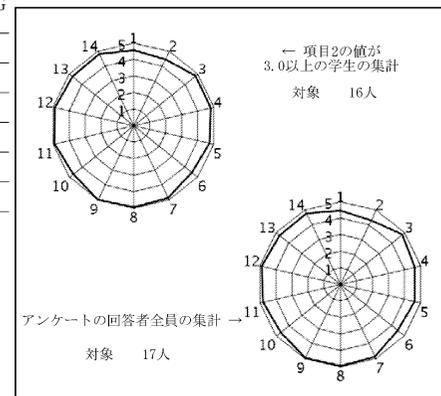


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Based on the results of the evaluations, the students expressed satisfaction with both the course and the instructor. The main goals of the class were that students communicate with one another using English only to the greatest possible extent, actively learn and study new vocabulary, develop the ability to naturally start, maintain, and finish conversations, and increase their confidence and motivation, as well as build listening and presentation skills. The class evaluations show that students for the most part were satisfied with both the class content and the instructor's style of teaching. Many of the students indicated that they enjoyed speaking English with their classmates. Next quarter I will keep the basic framework of the class in tact, and slowly and incrementally introduce new task based activities and topics related to their major.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G18]
授業コード	11A02-039
教員名	CAPITIN-PRINCIPE, Abigail
教員コード	102955
登録人数	19
回答数	17
回答率	89.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

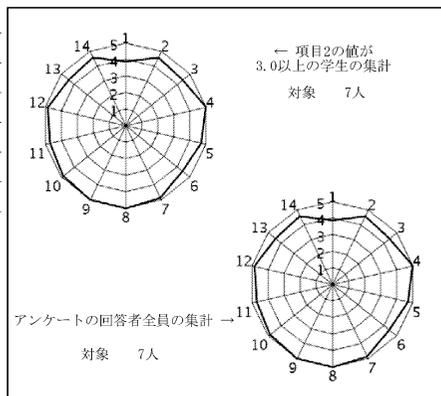


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class goals were met in the course of the quarter. Students understood the aims of the class and participated in class speaking activities. Students were able to conduct presentations on academic topics and use academic language in discussions. Students also learned the use of non-verbal cues, like gestures and facial expressions, which have had a positive effect on their presentation style. Encouraging students to manage their own discussions, while stressing the importance of using the target language, was effective in making them feel comfortable with using English. Thinking ahead towards the next quarter, more student-engaging activities are planned with emphasis on target language development.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション<再>1
授業コード	11A02-040
教員名	ADRIANOWICZ, Zbigniew
教員コード	103868
登録人数	15
回答数	7
回答率	46.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

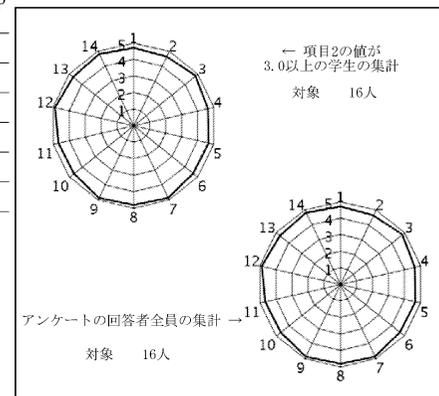


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This has been a very difficult class for me, since the number of the students was very fluctuating. Some students were coming very regularly, some never showed up. Also, the difference in the English level of the students was very wide, so it was difficult to choose which level is the primary target. As a result, I hope everybody had a chance to learn something, but I also think everybody had some parts of the classes which were either too difficult or too easy. However, I was quite surprised with the relatively high evaluation. I was worried the students would have more complaints, but the evaluation results show that they were relatively satisfied with the content and the speed of the class. Originally I was planning to have more pair or group activities, but since the class participation was so various, I decided that all presentations would be individual. As a result, the class content was quite different from the syllabus I gave the students at the beginning. Having said this, the next quarter is also going to be very unclear in regard to the class size and participation. Therefore, I can't really make any specific plans until I see the class list.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[P]113
授業コード	11A02-042
教員名	佐藤 ゆかり
教員コード	047605
登録人数	20
回答数	16
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

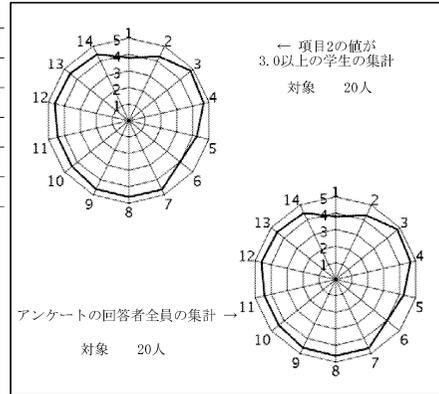


授業評価結果を踏まえた点検・評価

2クォーター連続、同じクラスのアンケートとなり、第1クォーターと比較でき、有意義でした。全体として、数字評価が上昇しており、安堵した。今年は、初めて一番したのレベルのクラスを任されたこともあり、どのあたりの指導内容、トピック、手法が一番彼らにとって、理解可能であり、かつチャレンジに学びのある授業なのかを、探りながらのスタートとなったのが、第1クォーターでしたが、第2クォーターになり、それらを引き続き微調整しながら、毎回進めた。ただ、第2クォーターは、学生が学校生活に慣れてくる時期であること、また、雨のけだるい日々がつづいたことで、途中、とてもだれた雰囲気になり、毎回のパンプアップに苦慮した。第1、2クォーターでは、低い英語力を考慮し、語彙を増やすこと、身近な話題についてたくさん友達と話す短いエクササイズを入れること。また、必ずしっかり話して記録としてまとめて、教師に提出する仕組みにしたことで、学習の経過が本人らにも解るようにした。第3クォーター以降は、これまででつけてきた、基礎力を土台に、より長いもの、プレゼンテーションに取り組みさせる。これらも、スモールステップで、小さな実習をくりかえし、友達の前で、みんながオープンに頑張れるように、いいクラスの雰囲気を引き続き維持していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]3
授業コード 11A06-010
教員名 NICKSICK, Thomas
教員コード 102113
登録人数 22
回答数 20
回答率 90.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

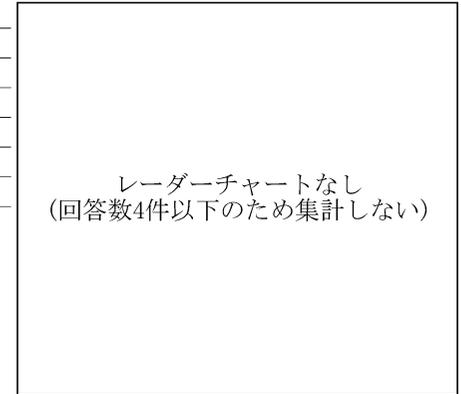
The purpose of this class is to improve students' reading and writing skills. Students will learn various reading strategies to improve reading proficiency. Activities include extensive and intensive reading tasks. Students will also learn how to write clearly and effectively. To accomplish this, students will develop skills in planning, organizing, and developing ideas.

The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the classes were structured in an appropriate manner and delivered at an appropriate pace, the rating was 4.70. When asked if the instructor displayed sincerity and determination in teaching the course, the rating was 4.60. When asked if the instructor took into account the degree of understanding of the students, the rating was 4.60. Regarding enough opportunities for questions or to consult the instructor, the rating was 4.60.

However, the instructor must improve other aspects of the class. When asked if the students acquired new knowledge and deepened their understanding through the course, the rating was 4.55. Regarding students making solid progress towards achieving the course attainment target, the rating was 4.00.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]9
授業コード 11A06-016
教員名 BONDORC, Jeffree
教員コード 103469
登録人数 22
回答数 2
回答率 9.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



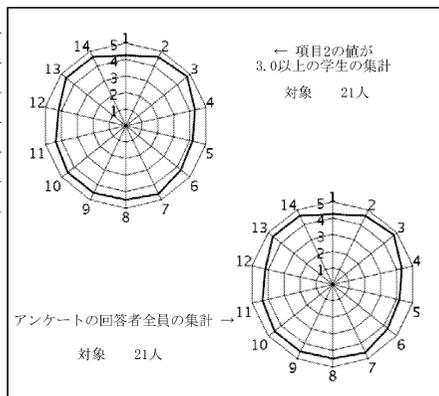
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set out for the writing and reading component were largely met. The students were able to practice writing paragraphs and short essays. They understood introductions, body, and conclusion. With the reading, students improved their reading comprehension and vocabulary.

Also, students enjoyed the classes and we developed a much better rapport throughout the quarter. There are still improvements to be made. This quarter I made too much material for the writing component. This needs to be modified as some parts were glossed over and some left out. This may confuse students and impede achieving lesson goals.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[P]7
授業コード 11A06-026
教員名 JONES William M.
教員コード 100263
登録人数 21
回答数 21
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

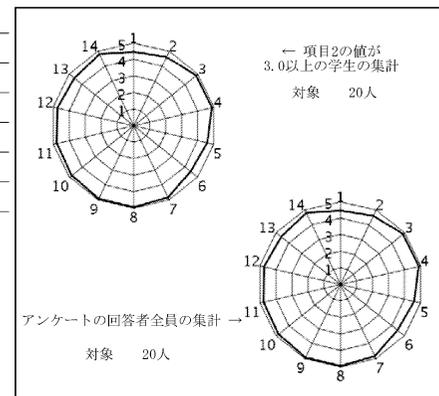
Instructor was once again blessed to have a mixed group of the same major which consisted of significant variations in abilities and aptitudes, and also motivational levels and attitudes. Instructor is pleased with the results in Q2 and the goals set regarding reading and writing were achieved.

The fact that all students participated in the questionnaire gives a much more accurate quantitative analysis. A new textbook is being used this semester and it is much more level-appropriate and interesting compared to prior textbooks. The students writing progress has been simply spectacular compared to Q1. Much more importantly than the students' academic improvement, is their character and personality development in line with the Nanzan motto of human dignity. Instructor is already working diligently to improve the course and as always, the 1st year of anything is often experimentation through trial and error of different methods and techniques. In particular, the instructor sees little room for progress in writing development, so will now focus on students' reading ability and how to improve the implementation of the textbook so that it is more effective for all.

The most challenging part for the instructor is that some students prefer reading, and others prefer writing.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[P]11
授業コード 11A06-030
教員名 鈴木 愛
教員コード 103596
登録人数 20
回答数 20
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

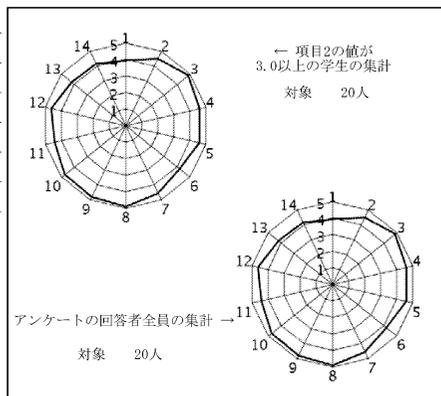
Reading goals: Students will be able to read the main idea of a reading. Writing goal was to be able to write a paragraph on their personal topics. For reading goals, I do feel that most students were able to achieve this goal. For writing goals, I also think that most students were able to achieve this goal. It was their 1st time in their life to write a 150-word-paragraph in English. I am sure that they put a lot of effort in it.

Reflecting on the student evaluation, I am satisfied by their evaluation and comments. It seems that most students were able to learn a lot of new things in this quarter especially on writing. I feel comfortable to say that students have gained skills to write a good paragraph and what a good English paragraph looks like. Although they need improvements in grammar, their writing in overall has improved.

For next quarter, since they got used to writing a paragraph in English, I would like to extend it to an essay with three paragraphs. I would like to focus on essay coherence with each paragraph with a topic sentence and supporting sentences. I would like to use many pair and group works so that students will be able to learn from each other.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[P]12
授業コード 11A06-031
教員名 平出 優子
教員コード 102521
登録人数 20
回答数 20
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

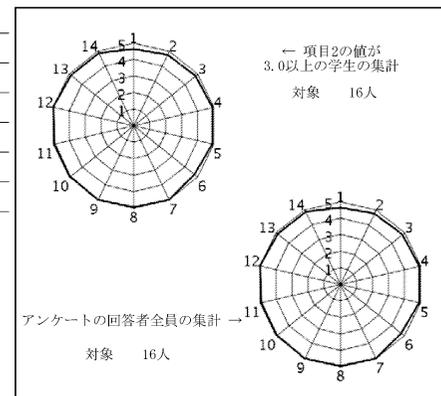
英語IIリテラシーの授業はライティングとリーディングから構成される。Q2のライティングの目標は、書くための準備としてmind mapの技術を使えるようになること、自分に関する内容についてパラグラフの構造を理解したうえで150語以上の首尾一貫したパラグラフが書けるようになること、基本的なエッセイのフォーマットが使えるようになることの3点であった。自由時間の過ごし方と自分自身の典型的な一日という2つのトピックについてライティングの作品を仕上げるよう指導した。パラグラフの構成を理解した上で各ドラフトを書くよう繰り返し説明した結果、上記3つのゴールについて全員が到達できた。Q3では人物描写と場所の描写という2つのトピックでさらにライティングの幅を広げていくつもりである。

Q2のリーディングの目標は、流暢に英文を読むための様々な読解方略を効果的に使えるようになること、Extensive Readingにおいて目標語数に到達し、ブックレポートを提出することの2点であった。Q1に続きリーディングテストの結果と提出されたブックレポートの出来が非常に良かったため、目標は十分に到達できたと考えられる。

Q3では難易度を上げ、更なるadvanced skillが身につくよう指導したいと考えている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]3
授業コード 11A06-034
教員名 水野 真紀
教員コード 101981
登録人数 17
回答数 16
回答率 94.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

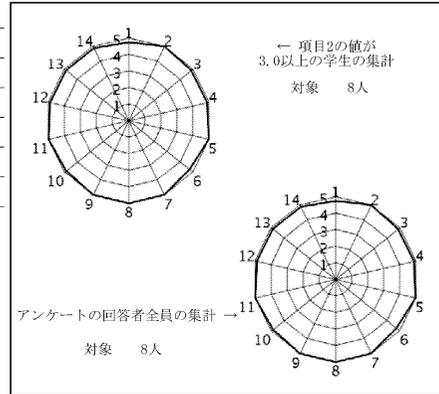


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 目標は概ね達成できた。リーディングとライティングを同一テーマでコンテンツと言語の両面から指導することができた。リーディングでインプットした内容と言語・表現をもとに、フリーライティング、ドラフト、ファイナルと何度もリライトするプロセスを経て、様々なエッセイを正しい構成で書けるようになった。教員やクラスメートのフィードバックから、コミュニケーション手段としてのプロセスライティングを意識して書けるようになった。
- ② 数値データからも、当初は履修内容に興味を持てなかったが、次第に理解し、積極的に取り組んだことがうかがえる。目標到達に向けて力がついたかとの問いの数値が多少低いのは、自分の意見を英語で表現できない、Q1で学んだフォーマットや句読法が身につかないことに原因があると考えられる。英語力の向上と慣れとともに解決されていくと考える。自由記述にも、英文を楽しくたくさん書けるようになった、よく理解できたとある。引き続き懇切丁寧な指導を心がけたい。
- ③ 一方で、リーディングとライティングの抱き合わせ授業を週2回で計画、実施する負担は大きい。特に添削は時間と労力がかかる。個別の学生と良好な関係を築くうえで大いに有用ではあるが、効率よいコレクションとフィードバックが依然として大きな課題である。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]4
授業コード 11A06-035
教員名 MORRISH, Jaime
教員コード 103479
登録人数 18
回答数 8
回答率 44.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course objectives were completed by all of the students. The students' attendance was excellent only one or two students missed more than 2 classes, with none missing 3 or more. The overall motivation and attitude was excellent. I aim to give the students as many opportunities as possible to produce English, whether it be speaking or writing, the students seemed to appreciate it this as it was reflected well in the student feedback I received. The students appear very happy and engaged with the class, especially with the changing of seats every class and my warmup activities so I aim to continue keeping this positive atmosphere while making a few minor changes. There were no negative points brought up in the feedback, however I have noticed that the students do not enjoy the extensive reading as much as other parts of the class so I will endeavor to address this in my future classes. Overall, this class is very enjoyable and rewarding to teach. I hope that with the small alterations for this quarter I can improve on what is already a good class. I feel that by varying the in-class activities and changing partners and group members regularly contributes to a lively classroom atmosphere. Also, by keeping the students' on a continuous assessment process keeps their motivation and attention throughout the whole quarter.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]13
授業コード 11A06-043
教員名 島 禎子
教員コード 045559
登録人数 18
回答数 0
回答率 0.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

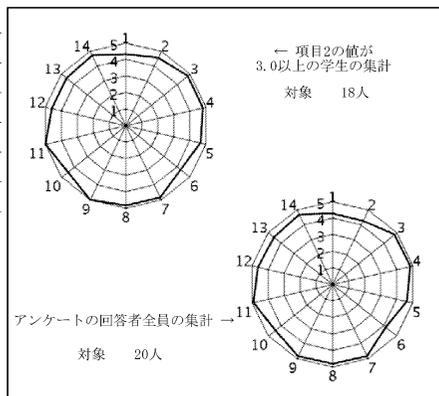


授業評価結果を踏まえた点検・評価

readingはintensive/extensiveの両面から読解力の向上を、writingはparagraphの3つの要素を実際のparagraph writingに反映させることを目標としたが、全体の達成度は50%程の結果となった。学習態度が比較的きちんとしているグループとそうではないグループとの差が益々広がった感は否めない。全体的に欠席は最大2回と授業には出席するのだが、受講態度は一部の学生の除いてよくない。提出すべき課題があるwritingの時間は完成させるまでは、比較的まじめに取り組む学生が多いが。readingの時間は寝ていて授業に参加しない、writingだったら自分の課題が終わるとすぐ騒ぎ出す等の問題がある。writingなどあれだけ時間があるならきちんと見直せば、1回目のやり直しの評価は免れると思うのだが、そのあと1歩が難しいようだ。スマホでpassageの写真を撮れば瞬時に和訳がでたり翻訳ソフトを使えばある意味簡単に英訳できる昨今、PCやスマホに頼れば何とかなるとの安易な考えから脱却させることが急務だ。AIがどんなに発達してもそれを使うのは人間であり、オーダーが違っていれば完成された良いparagraphは出てこない。Q3では単純な単語のテストやmultiple choiceやT/Fだけの単純な形式の定期試験は一部やめ、思考力を必要とする問題を入れる予定である。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]6
授業コード 11A10-006
教員名 SCRUGGS, Edward
教員コード 101864
登録人数 23
回答数 20
回答率 87.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

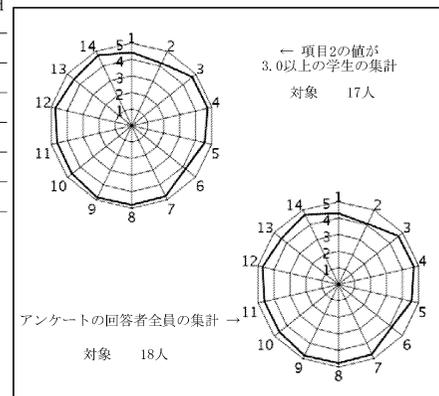


授業評価結果を踏まえた点検・評価

First of all I want to thank all my students for their very positive and helpful comments. I am happy to see that students seemed basically quite pleased with our class. Most of our original goals set out in the beginning of the term were met. The area that needs a bit more of my attention seems to be related to the statement of learning goals and how they will be implemented in the class. I will be most happy to focus more on these next term. I believe that there are two approaches to this. The first will be to spend more of the initial class in student discussion of the provided syllabus to insure a better understanding. Secondly, a follow-up session around the mid-term could also help clarify any points that might be needful of explanation. I shall certainly be pleased to do these. The only point of any discussion at all seemed to be related to stimulating outside interest in the class material. I plan to create a list of related on-line sources, which might be used by any students wishing for extension type activities. This will also be a pleasure to do. Again, thank you all for being such an attentive class.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]12
授業コード 11A10-012
教員名 山田 秀子
教員コード 103595
登録人数 21
回答数 18
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

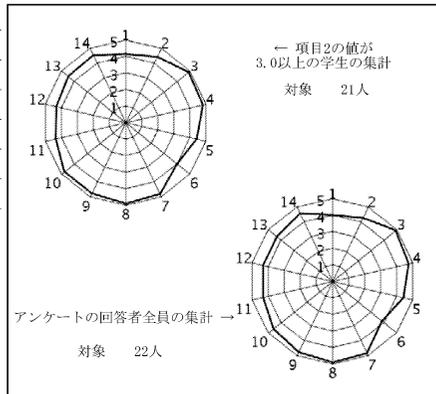


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思う。また、予定していた学習内容・範囲の90%以上を終えることができた。
アンケートでは、授業に対する興味(項目1)や到達目標の理解(項目5)に関する平均値が前学期よりも少し高くなったことが良い点として挙げられる。一方、予習・復習を含めた主体的な授業参加(項目2)の平均値が少し下がった。これは、授業内の取り組み姿勢からすると意外な結果であった。この授業では前学期に引き続き、個々に取り組み時間を取りつつ、ペアやグループ単位で協同学習を行う時間を多く設けており、学生は前学期よりも積極的に話して学び合っているように見受けられた。自由記述の回答からも、学習者同士の会話や意見交換を楽しんでいることがうかがえる。ただ、プレゼンテーション後の振り返りにおいて、前学期に比べて準備にかかる時間や労力が少なくなったことを反省点として挙げる学生が何名かいた。これらのことから、項目2の値の低下は予習・復習の面での取り組みに起因するのではないかと考える。今後はプレゼンテーションの方法を少し変更するなどして改善を図りたい。今学期は、英語での会話や発表に対する苦手意識を低減することを目的として、言語形式よりもタスクに重点を置いたスピーキング活動を行った。その成果が少しずつ現れており、今後もこの活動を続けて行きたいと考える。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[H A, HP, HJ]13
授業コード	11A10-013
教員名	今川 奈美
教員コード	104146
登録人数	22
回答数	22
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

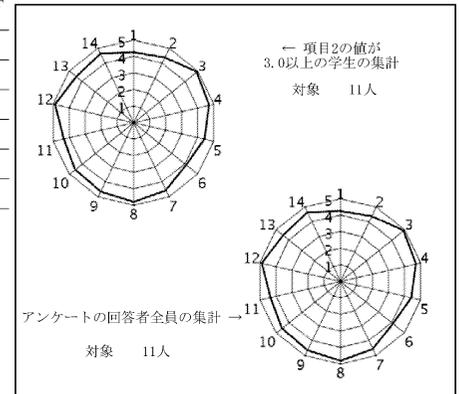
1、スピーキングについては、授業内外で会話の機会を多くもうけることで、英語を話すことへの抵抗感が減り、5分間止まらずに会話をするという目標を達成できた。リスニングは授業で取り扱う機会が少なかったため、あまり能力の向上が見られなかった。リーディングの多読では、すべての学生が指定の文字数以上読むことができ、本の内容についての話し合いも積極的に行うことができた。一方で、教科書を使用して読解のスキルを学んだが、それが直接読解力の向上につながっているかどうかは判断が難しい。語彙テストを行うことにより、教科書に出てきた語彙については習得ができた。

2、全体的には高評価だったように思うが、「この授業の到達目標に向けて力がついているか」に対する回答が最も低かった。自由記述においては、説明が丁寧でわかりやすい点や、グループワークで学生同士の交流ができたことが高評価だったため、今後も続けていきたいと思う。

3、授業内で到達目標に何度かふれて、学生一人一人が授業の到達目標を把握しながら授業に取り組めるような工夫をしたい。目標達成に向けてしっかりと力がつくよう、学生一人一人に向き合ってサポートしていきたいと思う。次クォーターはリスニング能力の向上に焦点をしぼって取り組みたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]10
授業コード	11A10-016
教員名	SIMMONDS Brent
教員コード	103050
登録人数	18
回答数	11
回答率	61.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



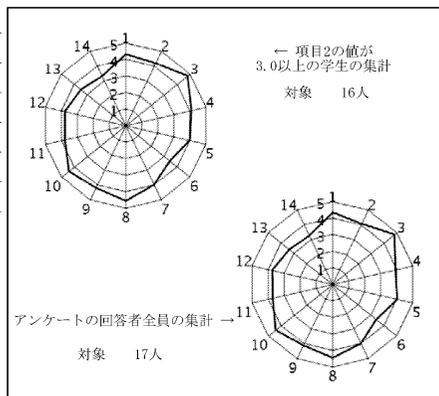
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall I was pleased with the student evaluation but need to review and reassess a couple of areas. The students said that they would like more speaking practice but enjoyed short writing exercises each week. The students enjoyed the presentations and learning a little about global issues but I need to provide more material in this area. I strive to encourage independent study in the following quarter whilst paying attention to the students' needs.

We will strive to include knowledge from studying other languages into the class content and study a movie and global issues during the following semester.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]9
授業コード 11A10-024
教員名 DRYDEN, Laurence
教員コード 101482
登録人数 18
回答数 17
回答率 94.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was Quarter 2 of the instructor's third iteration of basic English speaking and reading for students majoring in other languages and cultures.

Students' responses to the anketo in Quarter 2 were respectably positive, close to 4.0 in both statistical categories, representing a maintenance of the numbers in the first quarter. In their responses, most students indicated about the same satisfaction as before regarding course activities in reading and speaking in English.

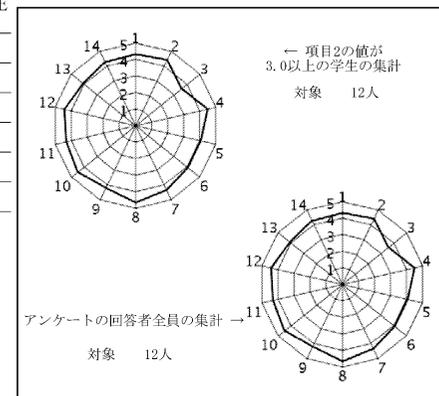
There were several positive written comments by students, indicating that the teacher is listening to students and is providing more opportunities for them to speak. There were also a number of negative comments concerning the textbooks and conversation partners, which shows that despite the teacher's best efforts, there is no pleasing some people.

In Quarter 2, the instructor and the students came closer to covering more of the textbooks, becoming more comfortable with the formats of both textbooks.

In the second semester, the instructor will aim to cover more of both textbooks and will add some supplemental activities to observe the holiday seasons.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[E
1]
授業コード 11A10-025
教員名 LENTHAN John
教員コード 045070
登録人数 15
回答数 12
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this class were the basically the same as those of the first quarter: engage in extensive reading, improve reading strategies, develop basic vocabulary, everyday idioms and similes and to improve basic oral communication skills.

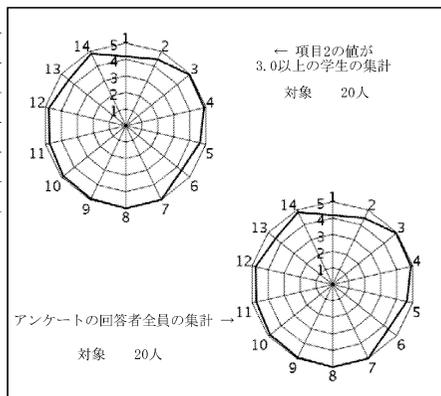
Once again, the extensive reading exercises were supplemented with many original materials and short plays for listening comprehension and group listening practice. Generally the results of the evaluation were positive and encouraging. And once again, the student level was fairly mixed so there was a gulf between the ability of the highest and the lowest students. The same can be said for the motivation levels of the class as a whole. The students who participated the most and appreciated the variety of activities showed the most progress during the first quarter.

During the second quarter we did not have daily quizzes on Latin and Greek prefixes, suffixes and roots as we did in the first quarter. In the place of the quizzes we read laminated sheets on one prefix, suffix or roots. They said these were helpful. However, the end of quarter test showed that next quarter we will need to revisit the daily quizzes. Though it is true that they are learning the value of such study, I believe the quizzes are necessary.

I thoroughly enjoyed teaching this class and enjoy seeing their improvement.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[E]
15
授業コード 11A10-029
教員名 LANGER Daniel
教員コード 101438
登録人数 20
回答数 20
回答率 100.0%
休講回数 0回
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

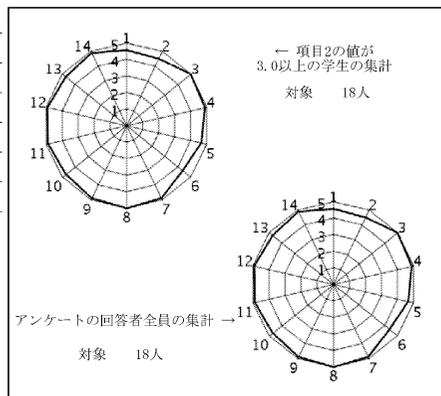
We have continued in much the same way as the previous quarter. Students have been required to give reading reports. I have encouraged them (very gently), to read outside the class. I would like the students to use Mreader more, but I am not pushing this issue very hard.

The students were easy to work with. I am glad that the scores are high, and the comments are positive. The only criticism offered was minor, but I will still keep it in mind.

For the remainder of the year, we will maintain the same pace in the textbooks. For presentations and reports, I will try to think of a way to encourage creativity and detail in content delivery. I will also be looking for ways to increase reading outside the classroom, but I will probably not risk being a pest.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[E]
11
授業コード 11A10-035
教員名 大竹 万里
教員コード 047084
登録人数 18
回答数 18
回答率 100.0%
休講回数 0回
補講回数 0回



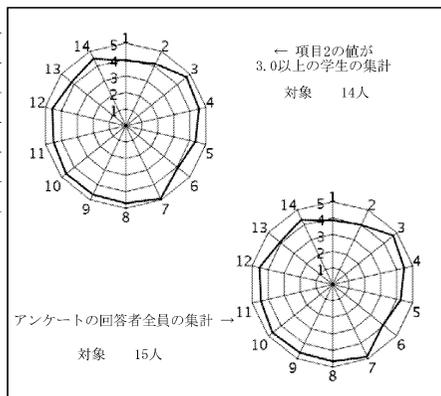
授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタビュー、モノローグを聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とし、ペア、またはグループで発話練習をした。また、金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、テキストに沿って、内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。第1、第2クォーターを通して学習を記録する小冊子 (Class Book) を配布し、図書館のグレーディッドリーダーを利用した多読を目的とする自主学習の記録、グループでディスカッション内容を記録することを課題とした。グループ発表の機会も設けた。到達目標はほぼ達成できたと考える。

授業評価の設問3から14の平均数値データが4.82、学生の授業に対する全体的な満足度については4.89であった。週2回の授業をシラバス通りにおこなうことができ、学生の満足度も得られたように思う。記述欄のコメントに、「英語の使える知識が増えた」「一つ一つの解説が丁寧で分かりやすかった」「授業を緩やかに進めてくれたのでちょうど良かった」とあり、分かりやすく、実用的な授業が評価された。第3クォーターでは、題材、課題、練習問題など、よりチャレンジングな内容を取り上げ、学生の積極的な授業参加を促すことのできる、インターアクティブな授業を心がけていきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[E]
112
授業コード 11A10-036
教員名 内川 元
教員コード 101922
登録人数 18
回答数 15
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はオールコミュニケーションとリーディングの授業なので、授業時間と家庭学習時間の両方を活用してインプット量を確保すること、また日本人学習者の多くが持つ「英語を話すことへの壁」を壊すことに重点を置いて行っています。

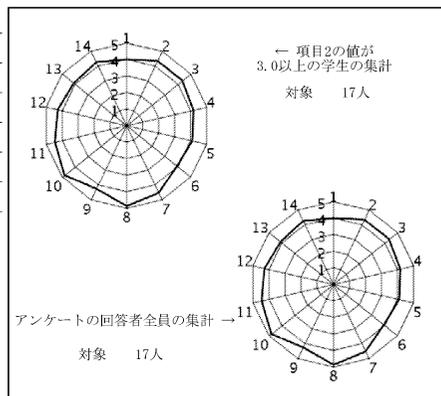
生徒の授業態度と学習姿勢は良好で、小テストなど成績評価項目の出来映えもまずまずでしたので、授業目標は概ね達成出来ているものと思います。ごく少数ではありますが多読の学期目標を達成出来ない生徒がいますので、次学期で取り戻すように指導したいと思います。

授業評価の数値データも目立って低いものもなく、おおよそ良好な結果と受け取りますが、今後も工夫を凝らし改善できる部分は改善を施したいと思います。

自由記述欄には、終了時間ギリギリまで授業をすることをあらため欲しいというコメントが複数見られました。毎回のように早く終わらせることには問題があると思いますが、次の授業が体育の生徒もいるようで、次の授業に遅れたくないという事情もあるようですので、何らかの対応を検討したいと思います。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[J]
12
授業コード 11A10-038
教員名 PALISADA Eloisa
教員コード 055830
登録人数 18
回答数 17
回答率 94.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

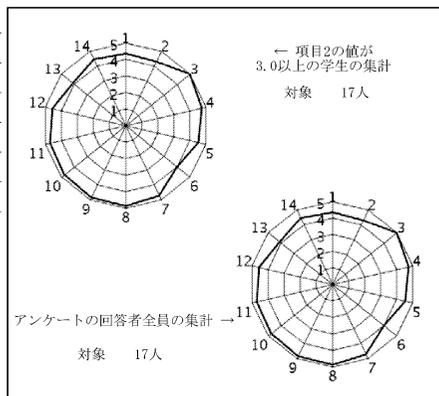


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of English II Communication Skills is to help students improve their ability in using English for communication and reading fluency. The highlights of this survey point to class management where students highly value teacher's appropriate action regarding their behavior (96%) and audibility of voice. Moreover, they appreciate her approach to teaching the course (91%), guidance and encouragement to participate actively in the learning process (89%). Although the overall evaluation is just average and they think they have not fully acquired and deepened their understanding of the course (83%), their personal comments are very encouraging and positive. Most of them find the class interesting; they used the term "fun" especially when doing pair work. They are grateful and value the fact that they had to speak English almost all the time and had the chance to think in English. Some have expressed that they have improved their reading skills. Some have commented that there is a lot of homework and demand more time to answer the questions. Although it happened only once, students asked to observe the dismissal time strictly. It is rewarding to see students improve in their confidence in using the language and as their teacher it is a call for me to sustain their motivation, especially to read more and to make English work for them.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[J] 13
授業コード	11A10-039
教員名	伊藤 実里
教員コード	045542
登録人数	18
回答数	17
回答率	94.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



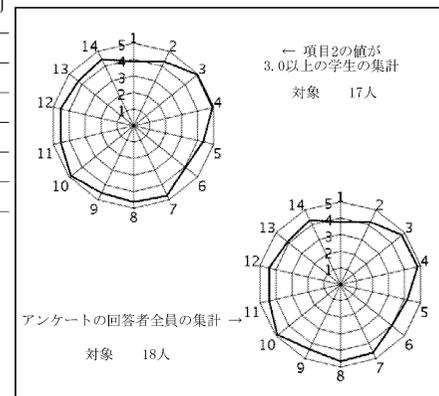
授業評価結果を踏まえた点検・評価

実際の日常会話で典型的に使われ、誰とのどんな会話にも応用することのできる基本的な英語表現の習得を目標としている。一年間を経てマスターしてもらいたい表現なので、第2クォーター終了時における評価で、まだ目標に到達していないと感じている人たちがいるのは当然である。第4クォーターを終えるときにはさらなる積み上げを実感することができるよう十分な説明と練習を繰り返していく予定である。コミュニケーションの練習はアクティブラーニングそのものであり、ペア練習が多いこと、ペアの顔ぶれが替わることについては好反応が得られた。またQ2から始めたWorld Plazaでの会話は、課題としてやらなければならないということへの反発よりも、楽しい、学ぶ機会になるという反応が見られた。自由記述回答からは実際に役立つ表現や知識だと実感できている様子がうかがえるので、継続していきたい。

リーディングについては教科書の内容に関連したものをもっと読む時間を増やす工夫をしていきたい。大人として知っていて損はない現実社会の話題についての知識を深め、自分の意見はどうなのかと考える機会としてもらいたい。英語での意見発表という課題にもよく考えて取り組んでいる人たちが多く、今後さらに期待している。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[J] 14
授業コード	11A10-040
教員名	柴田 直哉
教員コード	102751
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	3 回
補講回数	3 回

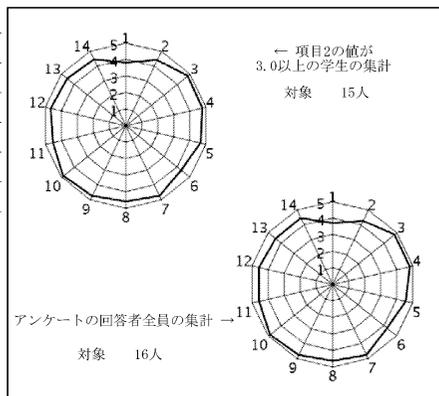


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第2クォーターにおける学生からの評価において懸念するべきであると考えた項目は<学習内容で扱っているトピックに対しての興味関心>と<授業を通しての理解の深まり>であるだろう。第1クォーター同様、テーマ型内容中心教授法を行ったが、今回理解の深まりに貢献できていなかったことが統計的には出た。次のクォーター以降はこれらにも注目してテーマを選んでいく必要があるだろう。また、学生からの改善点における主張に関して席移動の多さと課題の内容及び量に関しての指摘があったが、英語力向上のために必要であると理論的にも述べられている活動とそれらに対する学習者たちの印象との差を理解するきっかけになった。理論と現場との差を埋めるように努める事が自身の教育力向上に通ずると考えられるため、その差を埋めることができるように学生たちのモチベーション等に注意をして取り組んでいきたい。加えて、1名ではあるが、社会問題に関してのレポートを書きたいという意見があったことは学習者の自律性が向上してきている事を示すことにつながると考えられるため考慮していきたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[H A, HP, HJ]15
授業コード	11A10-062
教員名	ウエストビィ 三奈
教員コード	102952
登録人数	21
回答数	16
回答率	76.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、文法の基礎知識を伸ばすこと、「Childhood Memories」「Dreams and Plans」というトピックについて書いたり話したりできるということを目指とした。英語そのものに苦手意識を持つ学生が多い中、ライティングとスピーキングの両方で正確さと流暢さを追求し、ペアやグループでの活動を通して学びあいの意識を育て、学習意欲を上げることを目指した。また、多読を通じて自身の興味のある本を読み、その内容について述べるというインプットアウトプットの作業も加えた。

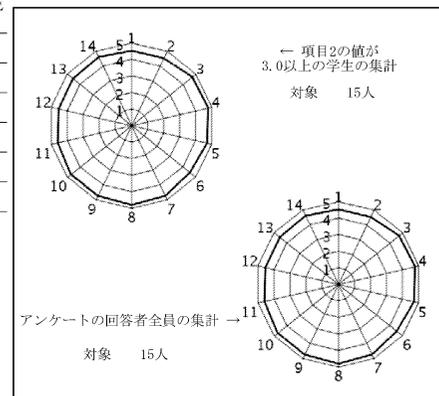
週二回の授業だったこともあり、学生同士や教員とも親しい関係を築くことができ、発言が多く活動しやすい雰囲気が築けたと思う。多読に関しては、求められる読書量が多いことと、本の内容を要約する事が難しいのではとの危惧があったものの、各学生が真面目に取り組み、期待以上の成果が出たように感じる。

2回目のペアスピーキングテストでは、他のクラスの学生とペアを組んで行ったが、授業内での度重なる練習の成果も出て、テスト当日に決定された相手と上手く会話を成り立たせることができたと思う。

学生授業評価の結果、おおむねは当初の授業目的を達成できたと感じるが、学生自身の授業参加において、自主的な学習に結び付いていない者も何人か見受けられるため、各学生の学習意欲がより上がるよう、さらなる授業内容の工夫、改善につなげたい。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[E 113]
授業コード	11A10-063
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	16
回答数	15
回答率	93.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

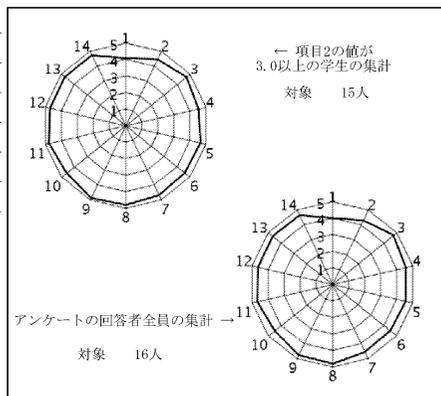
①The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling.

②At first glance, the results are great. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out, and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.

③Nanzan could do some specific things to make teaching easier. For example, open the AV cabinets in all classrooms. Many other schools have open systems and I have never heard of any trouble with the equipment being stolen or damaged. The system at Nanzan discourages teachers from using the technical resources that are available. Also, eliminate the time wasting "internet security" quiz when teachers need computer help. It is frustrating for teachers and an extra burden for the computer system staff.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[S]2
授業コード	11A14-008
教員名	JARRELL, Douglas
教員コード	104102
登録人数	22
回答数	16
回答率	72.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

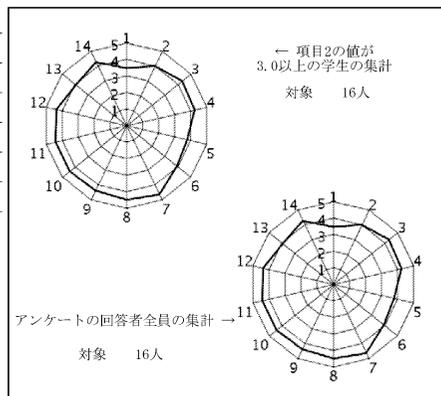


授業評価結果を踏まえた点検・評価

In this course, I want the students to improve their overall English skills using the reading textbook. The students are developing their ability to scan for information without reading the entire text, but they still need to work on their skimming abilities. Reading aloud activities require students to learn more than just the spelling. They must learn how to pronounce the meaning and spelling of new words. Biweekly cloze quizzes also encourage them to learn the words in context. In the speaking part of the class, grammar and fluency are both targets, but discussion is the main focus. Students are developing the ability to keep a discussion going at least 5 minutes, using questions and statements of their own opinions. Based on the survey results, students seem very satisfied with the course. In the 3rd quarter, I would like to fine-tune the speaking activities so that students rely less on their notes and more on memory when talking.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[S]6
授業コード	11A14-014
教員名	高野 洋子
教員コード	104147
登録人数	22
回答数	16
回答率	72.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①Q2では reading speedを自分が持つ記録をぬりかえる目標意識を繰り返し伝えた。結果、ただ読むのではなく、速読&理解度のバランスを意識できる学生もでてきた。(全員ではない。なぜならば、意識が低い学生は依然、速読に努力することをあまり、好まず、速度も変わっていないため。

また、OUTPUTをする力を評価したので(会話テスト、プレゼンテーションテスト)、英語を使い自分の意思を相手に伝える事が好きになる、自信もてる、興味もてるように22名全員が努力するようになった。(1名は途中から授業に参加しなくなったのが残念な結果)
多読は1週間4000文字を読む学生が18人、2週間に4000文字を読む学生が3人、とINPUTが大事だと考えるようになったことは評価した。

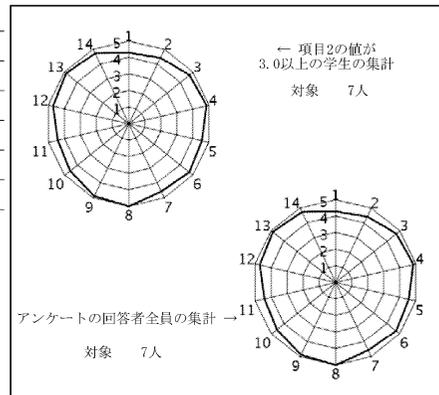
②自由記述は学生の素直な意見なので真摯のうけとめたい。とくに1名が授業スピードが速いとコメントしていたので、毎回疑問、質問を聞いて、生徒が納得してから 次のステップに進む過程を さらに丁寧に もれがないように授業を行いたい。

肯定的な意見が多いのは授業中眠る、さぼる、手を抜く学生がでないように、役に立つ授業展開をしている良い結果だと受け止めている。今後も学生の英語能力を伸ばす授業で彼らの成長を見届けたい。

③Q3はさらに CRITICAL THINKINGのチカラをつけ、1分の英語プレゼンテーションをBODY LANGUAGEを使い発表する能力を身につけれるように指導する。英語がはなせるようになって、今まで英語嫌いだった生徒が英語好きになっているので、結果が楽しみである。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ
全>1
授業コード 11A14-017
教員名 FOX, Aaron
教員コード 103869
登録人数 23
回答数 7
回答率 30.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

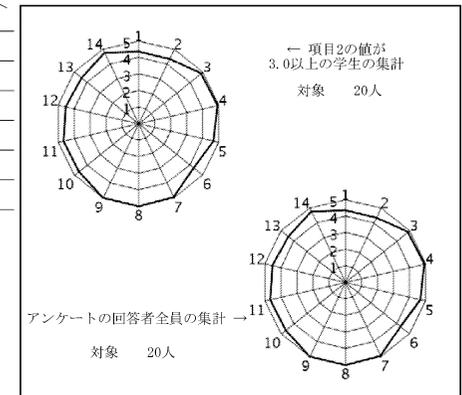


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1.
The goals of this course were in line with those as laid out in detail in the FLEC-EED handbook for Communication skills in English V-I [E]. In so far as they were achieved, I would say that most were. Reading goals set for the in the handbook were achieved universally in the class.
2.
In terms of my own reflection on the course, I would say that reaching the reading goals was quite satisfactory and that based on the outcomes of the students won test scores and apparent application of the skills covered in regards to reading I am stratified with the results.
3.
For the next quarter, my primary goal is it increases the progress toward the speaking goals as stated in the FLEC-EED handbook. It is clear to me that the balance of the course needs to be re-calibrated to better encompass both reading and speaking in equal measure. I will incorporate more discussion oriented activities alongside the reading skills and practice. In this past quarter, I divided both skills into discrete classes focused solely on either reading or speaking.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ
全>3
授業コード 11A14-019
教員名 LANDSBERRY, Lauren
教員コード 103626
登録人数 24
回答数 20
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This year my course has been designated to an open course that students of all grades and majors are able to take. Frankly, I think this has led to the level of the students increasing. In fact, compared to my previous years of teaching at Nanzan, I feel that the students have a much better attitude overall to learning English.

Whilst I previously had found having a larger classroom to be a distraction to the students, I have not felt this way this quarter. It has been nice to have the larger room and space for presentations, pair work and group activities.

I felt that all of the goals that were set at the beginning of the quarter were achieved in this class. I also felt that the students were motivated and interested in learning and improving their English. I used some online activities with their smartphones to keep their motivation up. The students seemed to enjoy the class while using English and I hope that they found the course worthwhile. I look forward to the remaining quarters in the Fall.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[S110]
授業コード	11A14-026
教員名	MOORE, Douglas
教員コード	100954
登録人数	21
回答数	4
回答率	19.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

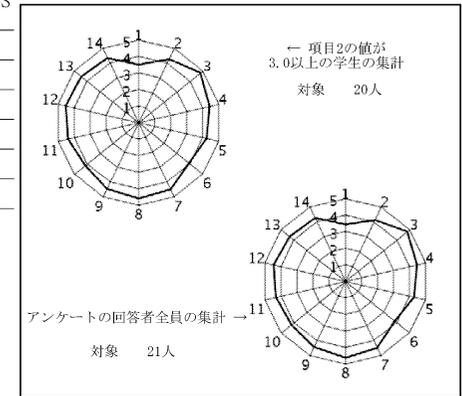
First, the students noticed and appreciated the fact that the lessons were organized and delivered in a professional manner from the official beginning time until the ending time. This includes, class time, teacher attitude, dealing with disruptive students and clear course objectives.

However, it is equally clear that there were problems with course from the student's point of view. I will discuss the most problematical of these below.

Students, on the whole, did not feel that the course was sufficiently stimulating in an intellectual sense, and that they did not gain as much of a stronger understanding of the course material as they would have liked. This is the main area of improvement that this instructor must focus on.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[S111]
授業コード	11A14-027
教員名	加藤 普由子
教員コード	101654
登録人数	21
回答数	21
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

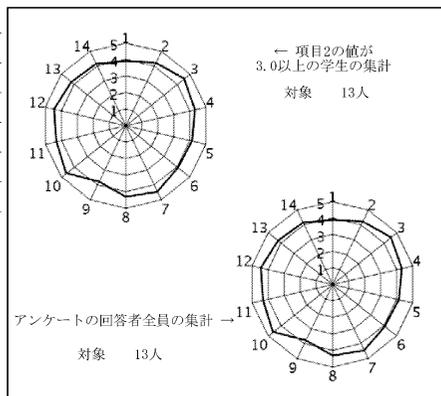
全員から回答を得ている。Q1とQ2を通して際立った印象としては、活気のある授業である。ただし、それが過剰になりすぎると授業が予定通りに進まない事態を引き起こし、自由記述にも改善を求める声は複数ある。半期を通して悩み続けてきたが、決定的な対策がなかった。次期はこれまでと同様に学生の理解状況を観察しつつ、授業の速度を上げたい。

各項目の回答5と4について、70%以上の学生が主体的に参加し、内容理解に努めたと回答している。約90%の学生が到達目標を理解しながらも、目標に向けて力がついてきていると回答したものは約66%。30%ほどになんらかの不満足感があるようだ。他方で、教員に対する評価では、理解度への配慮、学習意欲向上と授業参加等への指導、質問の機会、新しい知識や能力の獲得に関する項目において、おおむねが5と4を選択している（それぞれ約90%、80%、90%、85%）。全体への満足度では、約80%が5と4、15%弱が3、残念なことに1名が評価2であった。

自由記述をみると、リスニングや発音へのコメントが多くを占め、リーディングにおける語彙や文法について具体的なコメントはない。一般的にコミュニケーションという言葉から第一に思い浮かべるのが会話であるならば、コメントの多さは予想できる。その一方で発音に特化している授業が好評価を得ていることが興味深い。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<全>1
授業コード 11A18-009
教員名 HAYES, Mary
教員コード 103625
登録人数 24
回答数 13
回答率 54.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

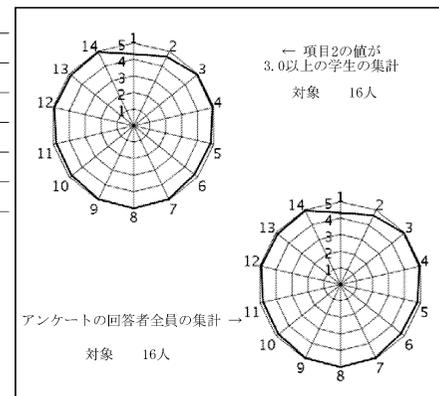


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) For this English Writing II class, the goals were to further improve students level of writing skills, with special emphasis on writing longer essays for academic purposes. The essays were to include a well-written concluding paragraph and an interesting introduction paragraph. Another aim was to build fluency of expression by timed free-writing in class. An easy topic was assigned with five minutes to prepare, and 10 minutes to write 100 to 200 words without a dictionary.
- 2) Out of a class of 21 members, only 13 took the time to respond to the feedback questionnaire. The results were fairly satisfactory in general. The level of the students was lower than expected and few had taken Writing I. For that reason, I had to adjust the material and assignments to suit the class. However, progress was satisfactory in almost all cases.
- 3) In the coming semester, I plan to use a different textbook in the hope that students will find more stimulating themes to write about, leading to a more positive outcome with better progress and satisfaction.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全>3
授業コード 11A24-005
教員名 酒井 美納江
教員コード 046060
登録人数 24
回答数 16
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

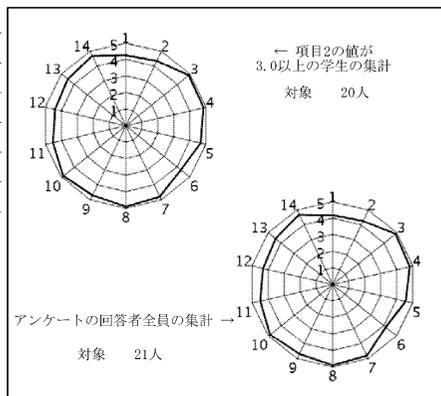


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1で学生に受講の動機や目標をアンケートで尋ねたところ、リーディングだけでなく、スピーキングやリスニングの力もつけたいと希望する声が多かった。これを踏まえ、Q2においてもテキストを使った学習については、内容理解をもとに自分の意見を伝えたり、発展的な内容について調べグループごとに発表する課題を頻繁に行うよう心掛けた。評価も、通常の小テストに加え英語での個別インタビューを用い運用能力を意識したものにしたため、学生は授業でのスピーキングの課題に緊張感をもって臨めたように思う。選択科目ということもあり、学習に対する真摯な姿勢を持った学生が大半で、発展的な課題も行いやすかった。自由記述のコメントを見る限りではあるが、授業運営については私同様学生にもひとまずの満足を得てもらえたようである。ただ、使用したテキストが通年用のもので、Quarterでは半分しか使えず、高い代金を払って購入した学生にとっては不満を感じる点であった様なので、教材についての工夫が必要だと感じている。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<HA, HP, HJ>1
 授業コード 11A26-001
 教員名 VIADO Cora
 教員コード 100553
 登録人数 24
 回答数 21
 回答率 87.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

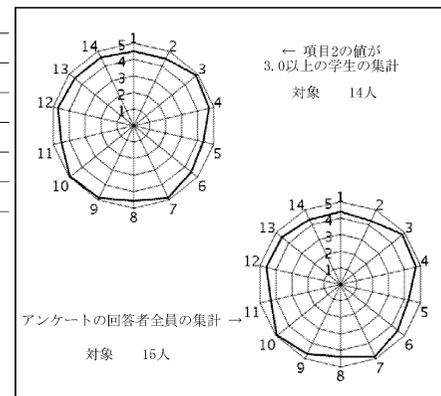


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class was delivered using practical and collaborative teaching styles. The purpose of this course is to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. This course provided students with a variety of listening strategies such as recognizing intonation, rhythm, and stress to improve English listening comprehension. Listening texts included audio items, conversations, or songs to promote student interest, and to broaden students' exposure to English. Activities included listening for key points, inferring the speaker's intentions, and understanding phrases and general content. Students were given opportunities to talk to other classmates, share ideas, report on what they heard, and exercise the use of listening strategies. The overall positive results of the students' evaluation indicate their satisfaction with the content and dynamics used in the class. Students pointed out the clarity of speech of the teacher and also reiterated the importance of the relaxed and friendly atmosphere in the classroom that created a comfortable space for them to learn and interact with others.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング2
 授業コード 11A26-006
 教員名 木田 パルビン
 教員コード 102322
 登録人数 15
 回答数 15
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

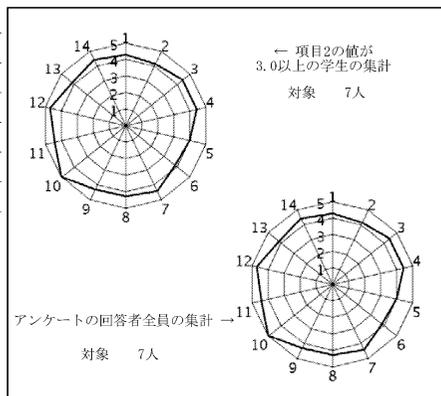


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The listening course was a task-based approach to develop listening skills, and strategies necessary for effective communication in English. The topics in the textbook included a variety of real-life situations such as following directions, listening to telephone messages, understanding announcements. The situations included shopping, food, and overseas travel. The lessons were taught and practiced through the following steps, starting with the presentation of new vocabulary, and then listening for an overview and again for details, followed by practice with pronunciation, listening and responding, and finally, a short dictation and fill-in the gap exercise. Students were given opportunities to practice what they had learned in class through pair and group work. In addition to two vocabulary tests, writing homework on the topics studied in class were assigned to enable the students to use the vocabulary and expressions as well as the information learned.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<J>3
授業コード 11A26-011
教員名 KHONDAKER, Taslima
教員コード 103598
登録人数 7
回答数 7
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

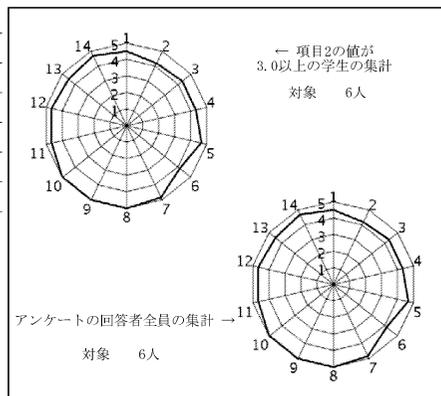


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the full syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.35 and 4.41 the scores of this course was 4.29 and 4.14. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.74, 4.66, 4.48, 4.32, and 4.75 the scores for this course was 4.33, 4.43, 4.00, 3.86, and 4.43. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.77, 4.68, 4.70, 4.59, and 4.61 the scores of this course was 4.29, 4.29, 5.00, 4.43, and 4.71. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.53 and 4.55 for all courses, the scores of this course were 4.14 and 4.43. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), to Q15 the students were satisfied with group work however, Q16, students were displeased with my handling of CD player and the syllabus. The complaint was that the level of the text book I used and other out of textbook materials were not satisfactory. I plan to improve my teaching materials and method of instruction to get better feedback.

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<J>4
授業コード 11A26-012
教員名 加藤 尚子
教員コード 103630
登録人数 7
回答数 6
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

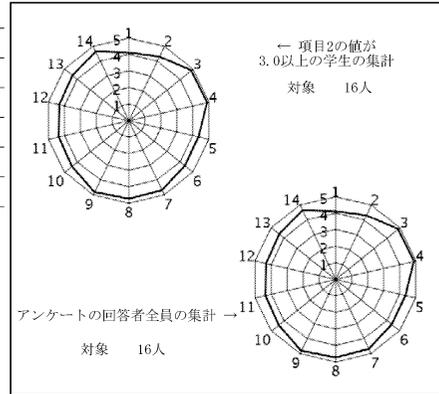


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初に設定していた目標は学生のやる気が向上するような講義をすることでしたが、一部の生徒ではやる気の向上があった一方やはりまだ全員の向上心をも上げることができなかつたと見受けられます。特に予習、復習をするという自主的に授業に参加しようという動きがみられませんでした。その一方与えられた作業を真摯に対応していたのが見受けられました。中には授業ご質問をするという学生も現れました。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
上記で述べたように学生の向上心を高めるような講義に対して力不足と感じます。受動的ではなく自主的に学ぶという姿勢を起こさせるアクティビティを増やしてはいますが、アクティビティの更なる改善が不可欠だと実感しております。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次クォーターにはリスニングのクラスはありませんが、生徒が自主的に学びたいと思う講義になるのを重視して改善していきます。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<全>5
授業コード 11A26-017
教員名 松見 誌野
教員コード 104166
登録人数 23
回答数 16
回答率 69.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

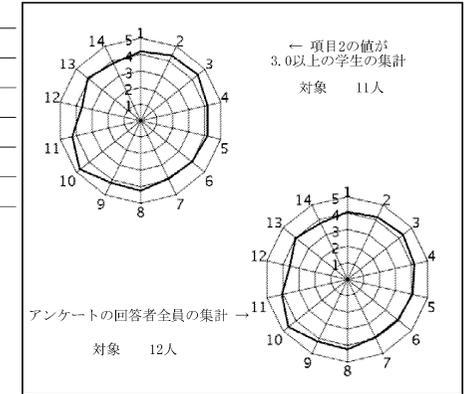


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標が具体性に欠けていたのか、項目5の「この授業の到達目標を理解できましたか」の問いに対する平均値が4.38と他項目に比べて低めの数値だった。しかしながら設定していた目標の到達程度については、大半の受講生が達成できたと思う。
- ②項目14の授業満足度については、平均値が4.63と比較的高い数値であった。自由記述欄に、「楽しかった」「TOEICのアドバイスもあってよかった」との意見があり、今後も学生の興味関心のあるリスニング動画等を授業に取り入れる一方で、TOEICリスニングセクションの問題傾向や対策等も紹介していきたいと思う。
- ③次クォーターに向けての改善点としては、開講当初に設定する目標をより具体的なものとし、TOEICリスニングセクションの問題傾向や対策等をこれまで以上に時間を割いて紹介していきたいと思う。学生からの質問を受ける時間があまり設けられていなかったため、意識的に設けていこうと思う。

2019年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B1
授業コード 40E05-001
教員名 MOORE, Jonathan
教員コード 101410
登録人数 27
回答数 12
回答率 44.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The overall scoring of the set of questions was very positive. Attendance was excellent. Students were engaged in the lessons. Students said they were self motivated in preparing for classes and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. Each lesson began and ended on time. Students felt the pace of each lesson was appropriate. Students were given a syllabus on the first teaching day, and the course goals and grading were explained. Students could hear me and the audio equipment. PowerPoint made lectures for the non-English majors easier to understand. The class was adjusted to the student's needs and level. There were no behavior problems in the class. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students were encouraged to participate in class. Students seemed very interested in communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.